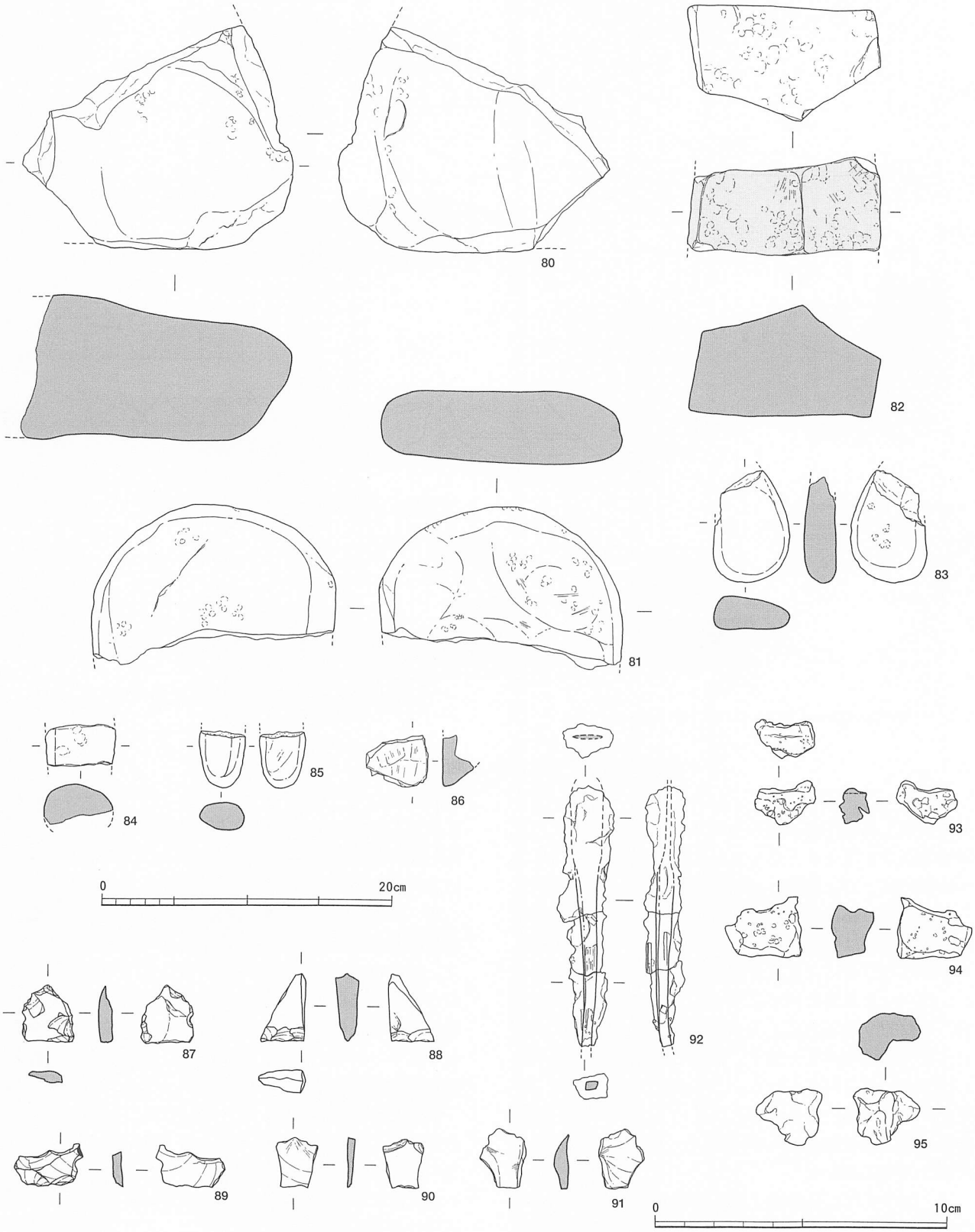


図71　SD-１出土遺物実測図(4)（縮尺１/４、１/２）

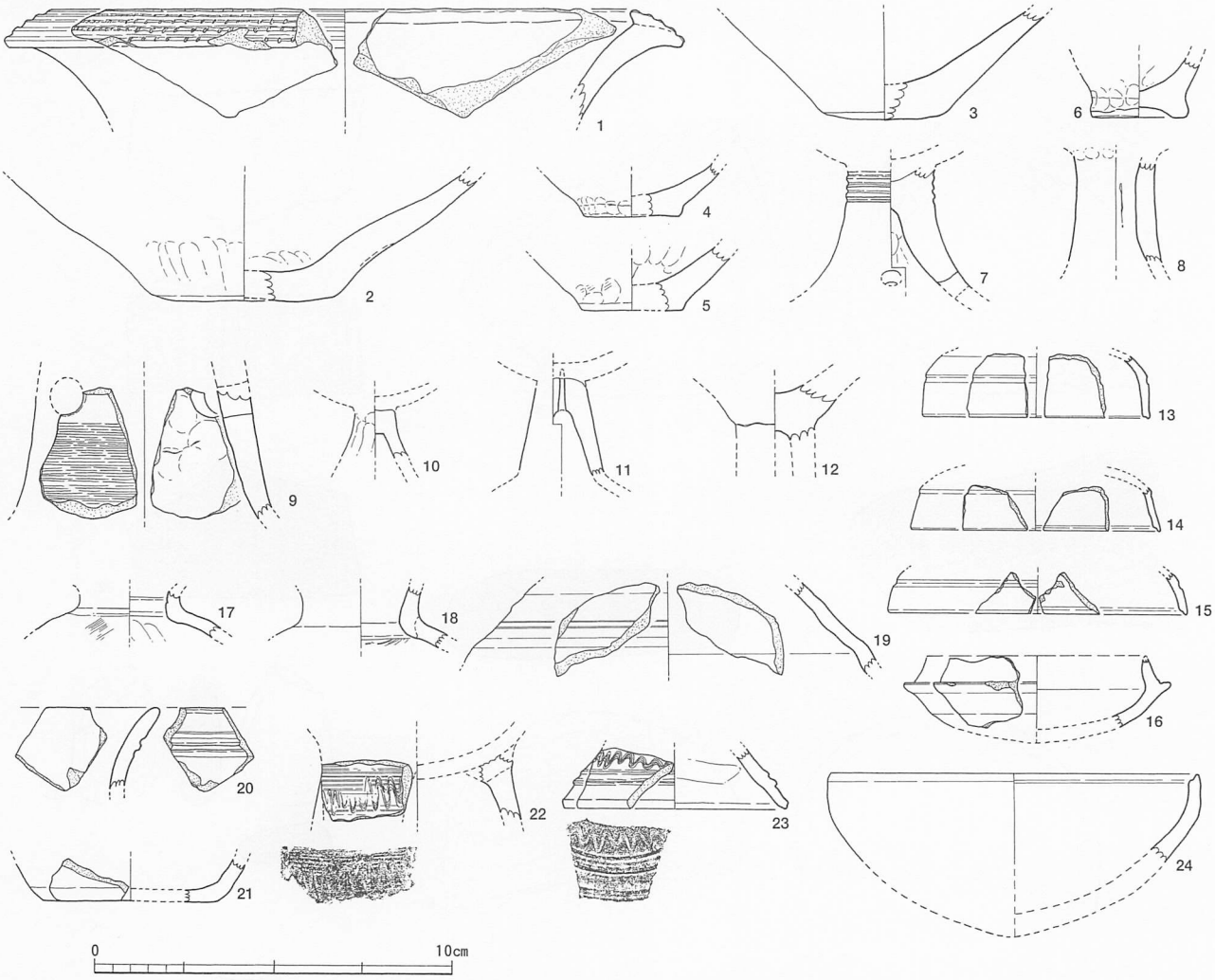


図72　SD－2出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）

から後葉。16は坏身。立ち上がりは比較的高いが、口縁端部は丸く収まると見られ、6世紀中葉。17・18は横瓶頸部。17は体部外面にハケ目が見られ、内面は丁寧なナデ。18は内面に青海波文が残る。19は短頸壺の肩部か。20は甕の口縁部。口縁端部は丸く収め、若干下がった位置に、上下を凹線風に画することによって、低平な方形突帯状としている。21は古代の坏底部で、比較的厚みがある。22は高坏形器台の脚部で、カキメ後クシ描波状文を施す。坏部と脚部の接合面には一部溝状の刻みが見られる。5世紀代。23は脚部。裾近くに2条の細い突帯を有し、その上方にクシ描波状文を施す。24は鉄鉢形の鉢である。口縁部は内湾し、端部は内側に面をもつ。

25～58は土師器供膳具。25～35は坏口縁部。25～31は体部が内湾し端部を丸く収め、32～35は直線的な体部で、端部が尖り気味である。35の口縁は片口状もしくは輪花状を呈する。36～47は坏底部。36～41・47には回転糸切り痕が残り、36・37・40には板目状圧痕も見える。48～54は小皿。48～50は回転糸切り痕が残る。55～58は椀の底部。55は低平な断面方形の貼付高台、他は角の丸い断面三角形状の高台である。

59～70は瓦器。59～64は椀口縁部。65～68は椀底部である。65・66は比較的高い断面三角形高台を貼り付け、65は内面に斜格子状の暗文風ミガキを施す。67の高台は非常に扁平で径も小さい。68も径の小さく低い断面三角形状の高台である。なお、炭素の吸着がほとんど認められない。69・70は小皿。69の内面には暗文風ミガキが見られる。

71～89は土師質土器。71～73は鍋の口縁部。73は器壁が薄く、粗い砂粒をほとんど含まない胎土。74は羽釜の口縁部で、胴部が緩やかに内湾し、口縁から下がった位置に鍔状の高い突帯を貼り付ける。75～88は三足付の羽釜。75～79は口縁部で、いずれも端部に接して突帯を貼り付ける。80は口縁部から体部の全形が窺え、胴部外面は煤の付着が顕著。口縁端部は内側にもやや突出する。81～84は下胴部と脚部の接合部、85～

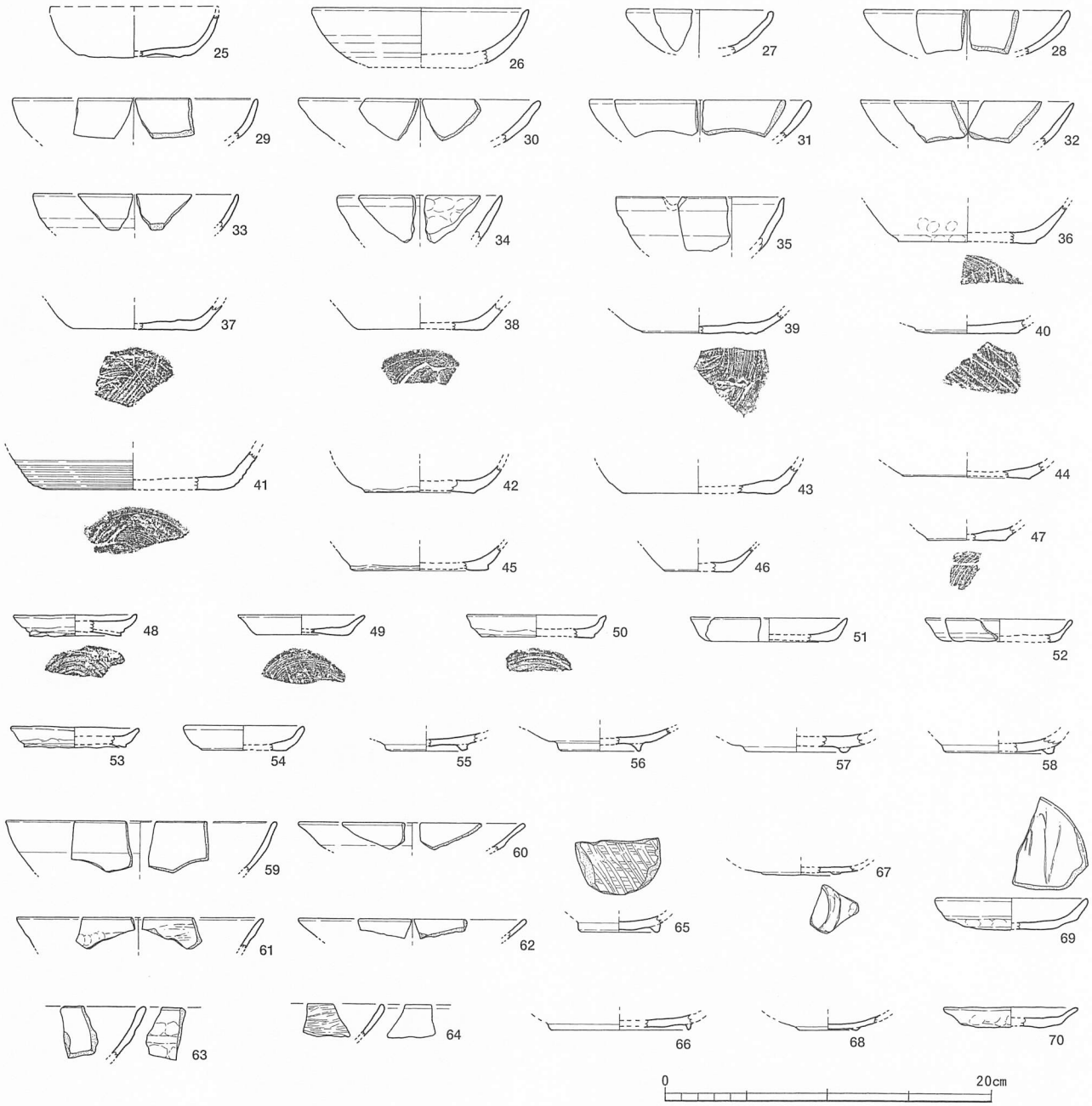


図73　SD－２出土遺物実測図(2)（縮尺１/４）

88は脚部である。89は器種不明の把手。焼成堅緻で、陶器に近い。

90～96は瓦質土器。90・91は鍋口縁部である。90は内面に２孔１対の吊孔部を貼り付けている。92・93は羽釜口縁部である。ともに口縁端部よりやや下方に突帯を貼り付ける。92は断面方形状の突帯、93は突出が高く鍔状。94は坏底部。95は片口鉢口縁部で、96はその底部の可能性がある。

97～116須恵質陶器。97～99は東播系須恵器のこね鉢口縁部。98は片口部を残す。いずれも端部を若干上下に拡張し、12世紀末～13世紀初頭。100～108は備前焼。100～102は擂鉢口縁部で、いずれも端部を上下に拡張する。100・101は14世紀中頃～16世紀中頃。102は拡張した端部に凹線をもち、16世紀末～17世紀初頭。103・104は擂鉢底部。ともによく使い込まれ、擂目も浅くなり、一部では消えかかっている。105は備前焼の甕口縁部。口縁部は直立し、端部は玉縁状を呈する。14世紀中頃～16世紀中頃。106～108は擂目がなく、甕底部とした。109は椀底部で、高台は３方向に三角形状の刳り込みを有する。焼きは備前焼に近い。110は甕の口縁部と考えられ、水平方向に屈曲したのち端部を上下に肥厚させる。焼きは備前焼に近似する。111

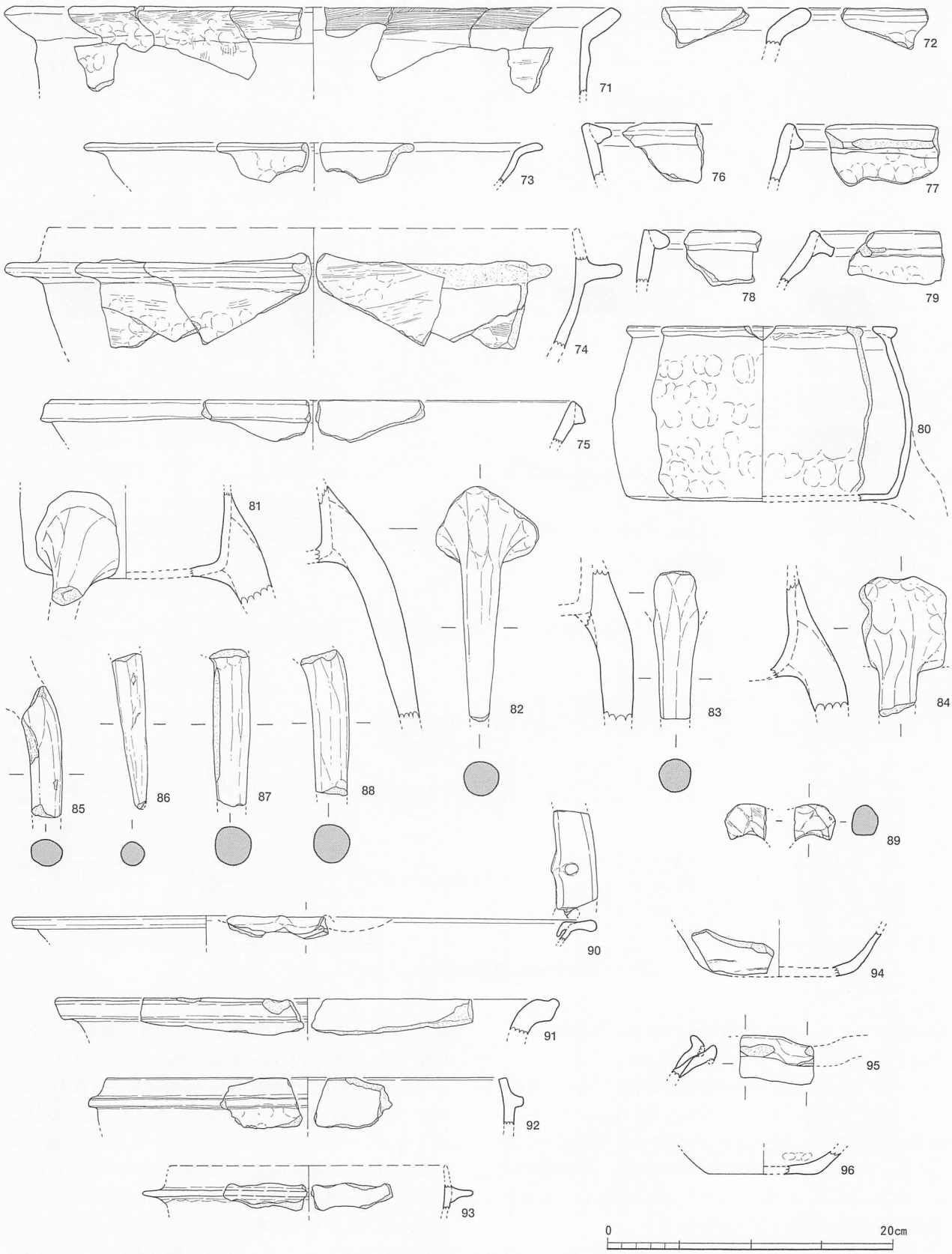


図74　SD－２出土遺物実測図(3)（縮尺１/４）

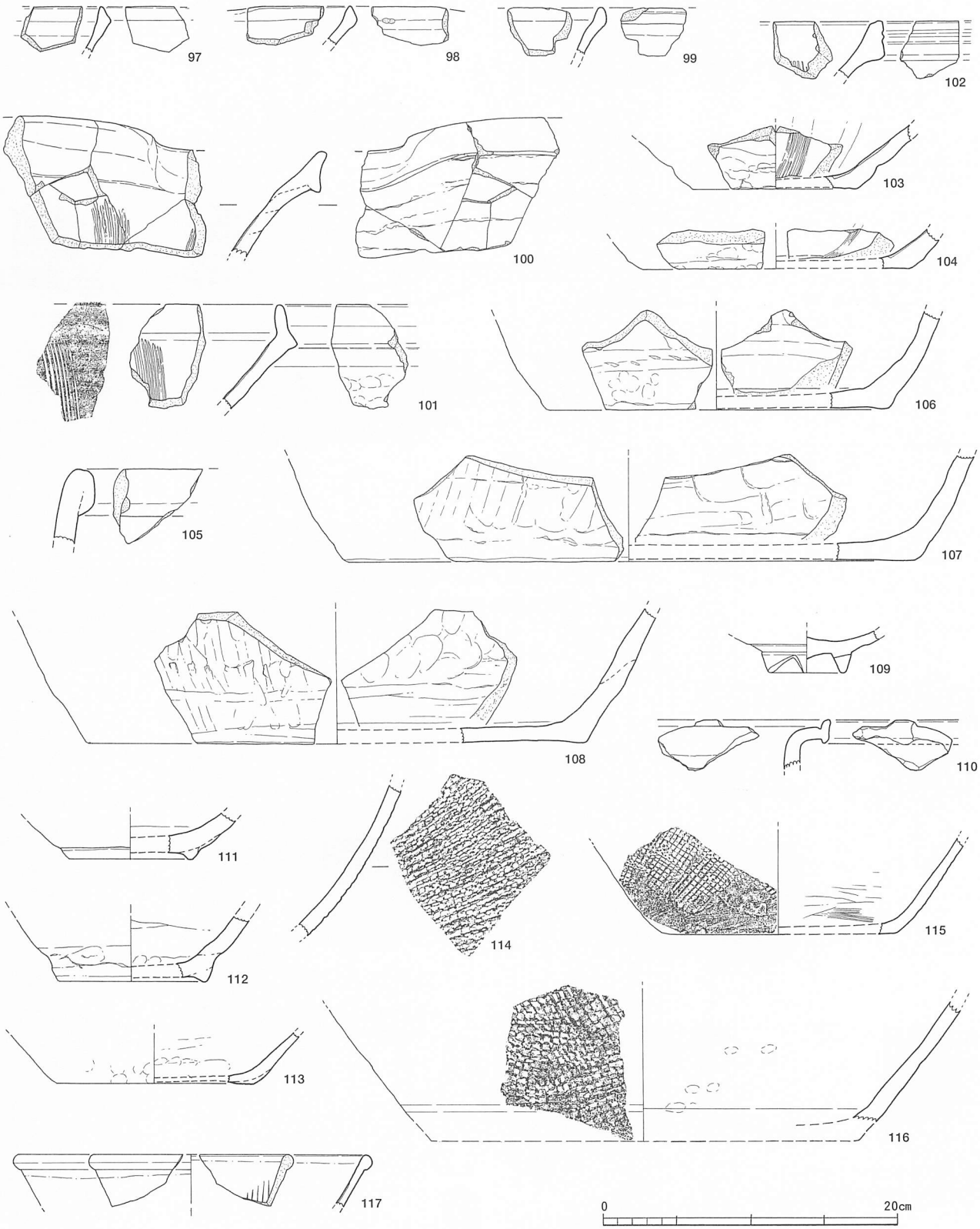


図75　SD－２出土遺物実測図(4)（縮尺１/４）

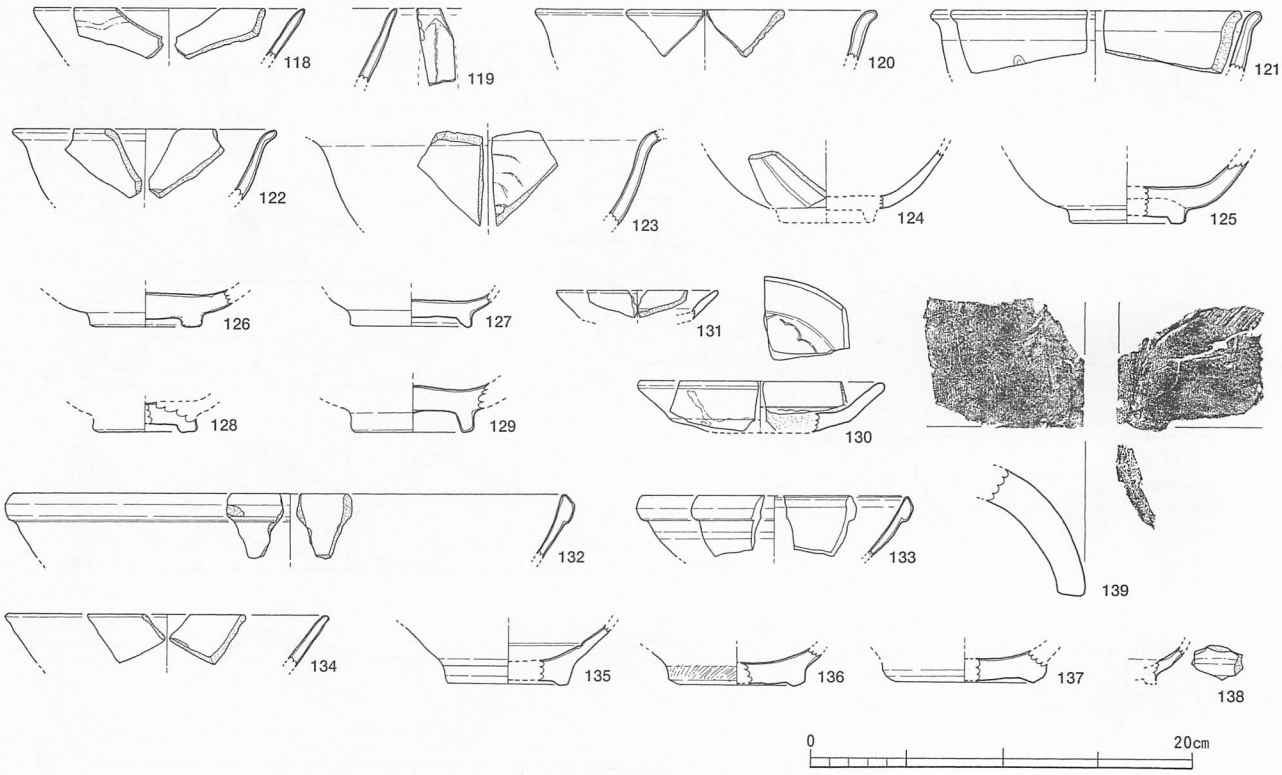


図76　SD－２出土遺物実測図(5)（縮尺１/４）

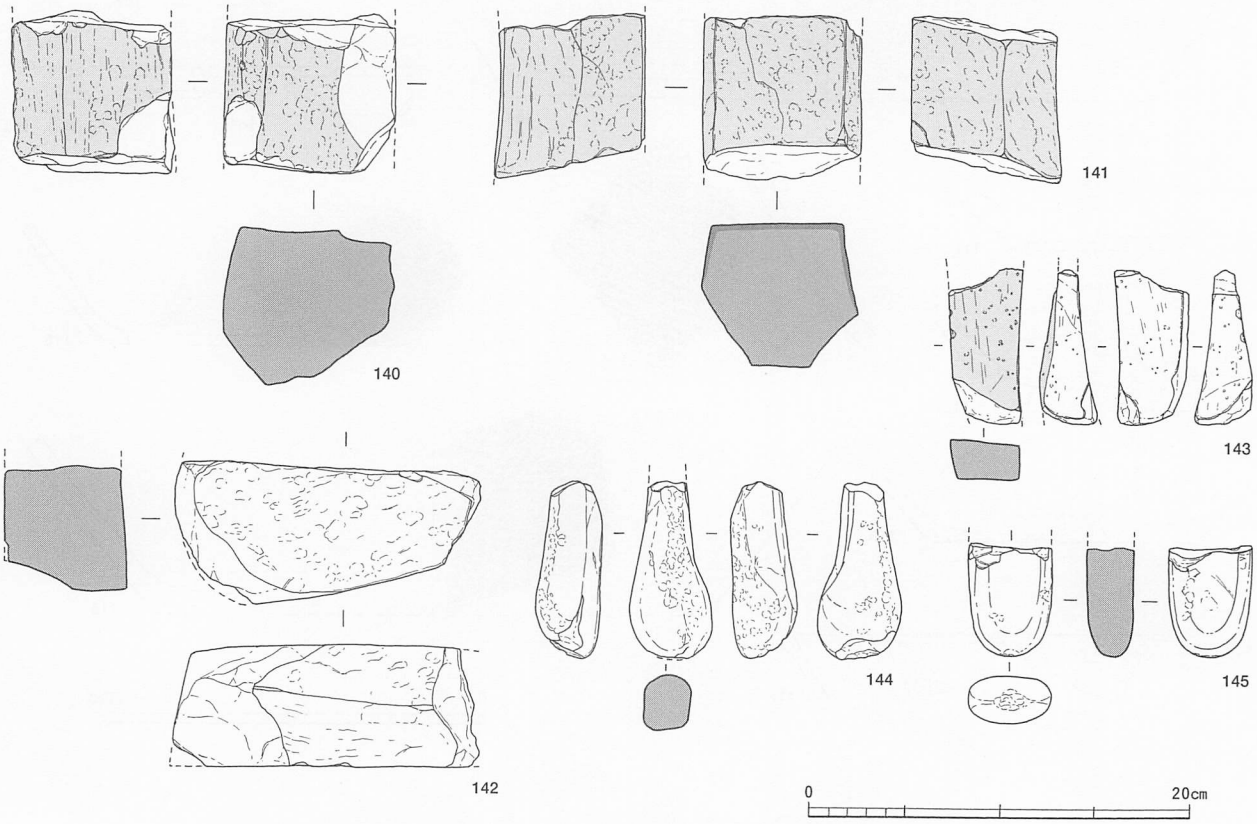


図77　SD－２出土遺物実測図(6)（縮尺１/４）

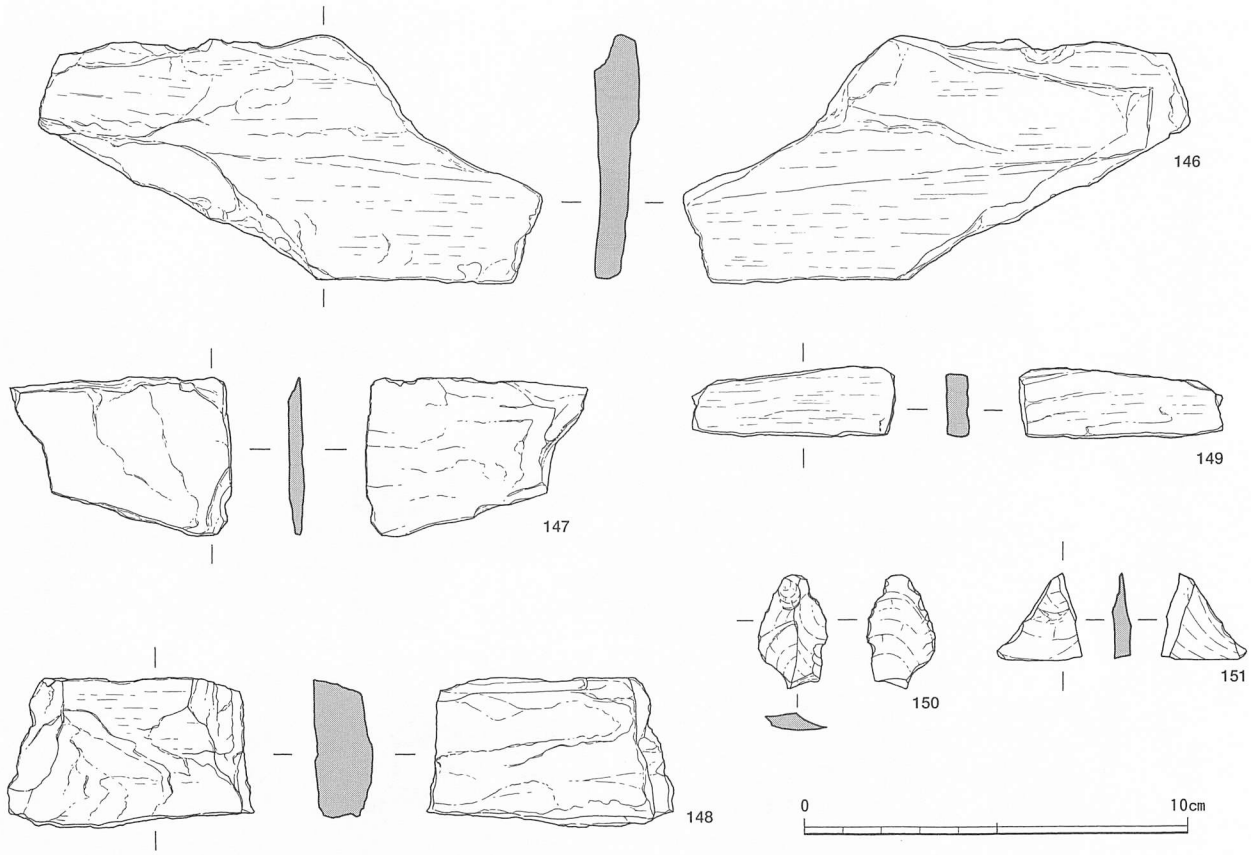


図78　SD－２出土遺物実測図(7)（縮尺１/２）

～113は壺の底部か、いずれも焼きは須恵器に近い。111・112は低平な三角形高台を貼り付け、111は底部内面が平滑で、こね鉢の可能性もある。114は格子目タタキの甕胴部。焼成はやや軟質。115は格子目タタキの甕底部。焼成は須恵器に近い。116は亀山焼の甕底部。体部外面に格子目タタキ。117は鉄釉を施す擂鉢。口縁端部は玉縁状を呈する。近世段階。

118～138は磁器。118～129は青磁碗で、118～122が口縁部。118・119は端部を丸く収め、120～122は緩やかに外反する。119には蓮弁文が見られる。123・124は体部で、123の内面に草花文、124は外面に文様が見られる。125～129は底部で、いずれも削り出しの高台を有する。ただし、125は凸状に貼り付けた底部を改めて削り出している。130・131は青磁小皿。130は内面見込みに文様を施す。132～138は白磁。132・133は玉縁状の口縁部、134は口縁端部に面をもち、わずかに外側に突出する。135～138は底部で、いずれも削り出し高台。

139は丸瓦、角部が残る。須恵質で、凸面は丁寧なミガキ仕上げがなされ、凹面は粘土板糸切り痕が残り、端面近くはケズリ状にナデ調整する。

140～151は石器。140～142は同じ安山岩質の台石。敲打成形により面を作り、一部研磨が及ぶ。143は方柱状の砥石で、各面をかなり使い込んでいる。１面は被熱黒変。144は敲石。端部無整形だが、他は断面方形とし、敲打痕が顕著に残り、一部磨面としても用いられている。145は磨石。断面扁円形で全面平滑に仕上げられ、端部に敲打痕がある。146～151は石器素材とみられ、146～149が結晶片岩、150・151はサヌカイトである。146は大型の素材。147は一端に抉りが認められ、石庖丁未製品とみられる。148は厚みがあり、扁平片刃石斧の素材である可能性がある。150は片面に大きく剝離面を残し、もう１面も両側から大きく剝離したのみ。打製石鏃未成品と考えられる。

152は鉄鏃か。断面方形の茎部が認められるが、刃部は詳細不明。153～160は鉄滓。153は、片面に平滑な曲面を有し、156は砂粒が滓状に熔融付着している。

161～164は青銅製品。161は、CV11区南壁沿いの下層の灰白色砂礫から出土した青銅鏡。面径10.6cmで、雲文が見られる。文様端部の鋳上がりは良くなく、かなりの踏み返しを重ねたものと推定される。近世の小型柄鏡と見られる。162・163は銭貨。162は「開元通宝」と読みとれる。164は銅滓。現重量4.9ｇで、表面の凹凸が鉄滓同様顕著である。　［吉田・濱田］

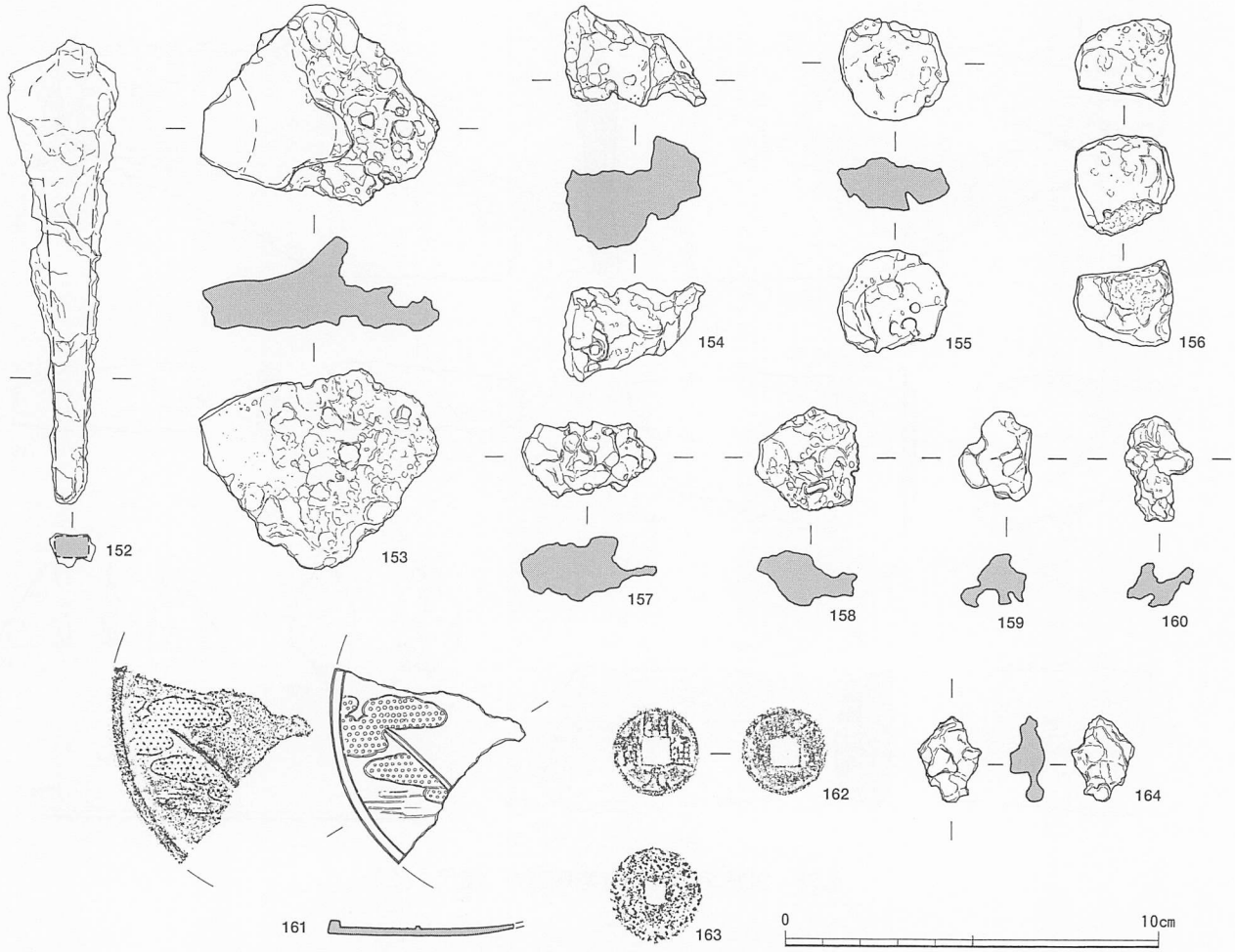


図79　SD－２出土遺物実測図(8)（縮尺１/２）

③　**SD－３**（図66・67・80～84、図版27－１～28－２）

SD－３は、先記したSD－１とSD－２に切られ、その間で確認した。東はやはり調査区端から、西は攪乱で不明となる、およそY＝-67174辺りまでの長さ約26mを確認できる。上部を建物基礎による攪乱、そしてSD－１・２に切られているため、遺存状況は決してよくないが、底幅１m弱で、深さ20cm前後を残す逆台形の溝として確認できる。底には水流に伴うと凹凸が多く、底のレベルは、東端で約28.25m、西端で27.75mと、SD－１・２より傾斜がかなりきつい。13次調査SD－３の⑫～⑭層が、20次調査SD－３に相当するとみられる。

SD－３埋土は、上下に２分でき、遺物の取り上げもこれに拠った。ただし、各層間の接合関係がかなりある。上層は、褐灰色から暗灰黄色の砂質土。細かく均質な砂粒からなり、わずかに粘性がある。下層は、３mm未満の砂礫層をベースにした砂礫層。しまりは弱い。

SD－３からは、コンテナ約３箱分の遺物が出土し、その中から74点を図化した。

１は弥生土器の壺底部。２は土師器壺の口頸部。口縁は短く外反し、体部内面は指頭圧痕。３～８は須恵器。３は坏身。立ち上がり部はやや高いが、口縁端部は丸く収め、残存範囲で回転ヘラケズリは認められない。６世紀中頃。４は高坏脚部と坏部との接合部。脚径は細く、長脚２段高坏と推定される。５は高坏脚端部か。内端部がやや突出する。６は鉢の口縁部か。口縁は直口で丸く収め、内面に凹線を巡らせる。７は甕頸部。外面上方にクシ描波状文、下方に２条の凹線文を施す。８は甕胴部片。外面格子目タタキ、内面ナデ。９は須恵質陶器甕の胴部片。外面格子目タタキ、内面ナデである。

10～42は土師器供膳具。10～24は坏口縁部である。おおむね内外面とも横ナデ調整で、口縁端部を丸く収めるもの（10～17）と、強い横ナデにより口縁端部外面に窪みを有するもの（18～24）がある。10・11は底部まで残る。17は若干硬質。25～34は坏底部で、磨滅で確認できないものもあるが、基本的に底部は回転糸切り痕を残す。25は外面に炭素を吸着させる。34はやや円盤状高台気味。35～37は椀底部。35はやや高めの

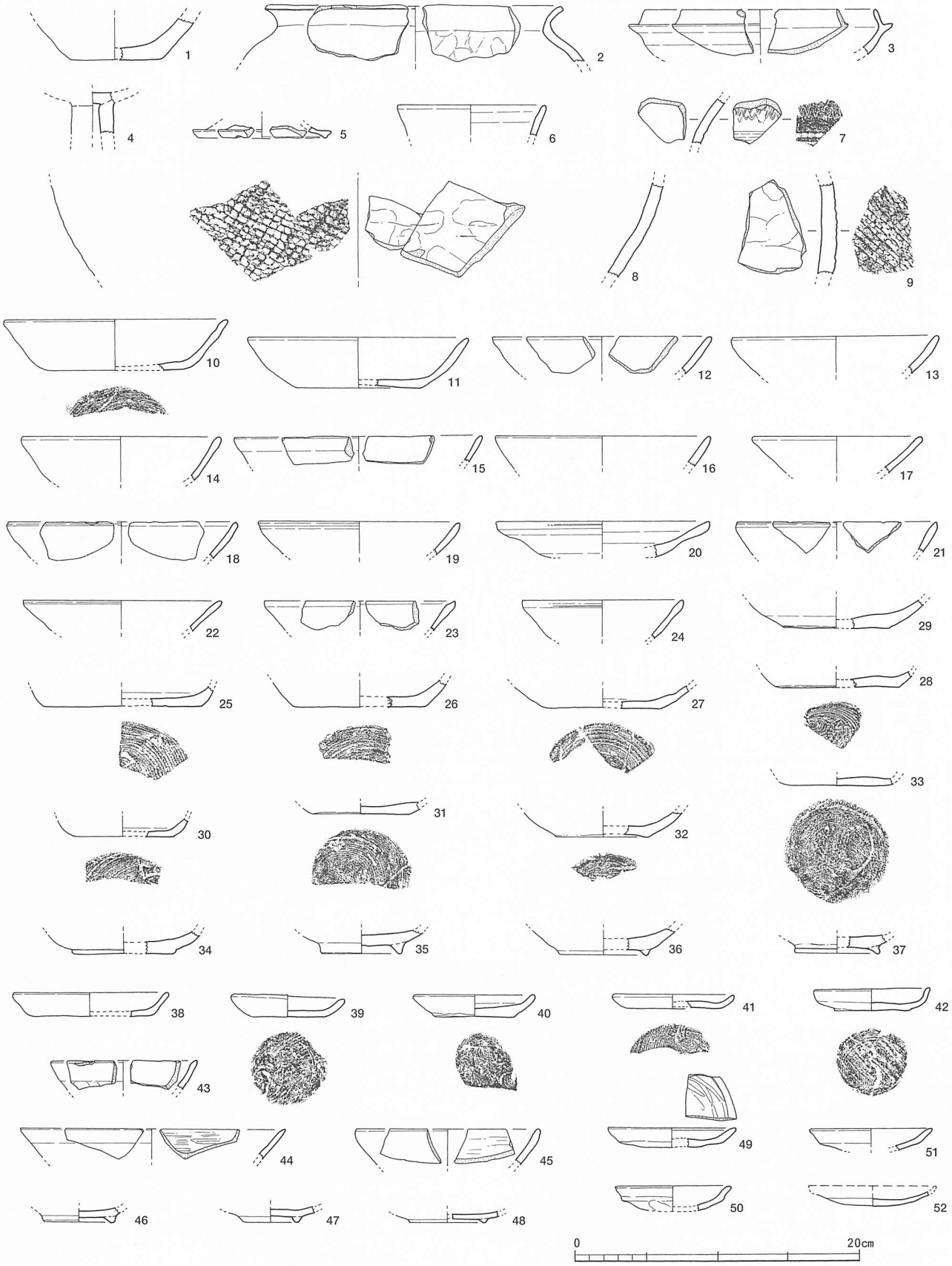


図80　SD－３出土遺物実測図(1)（縮尺１/４）

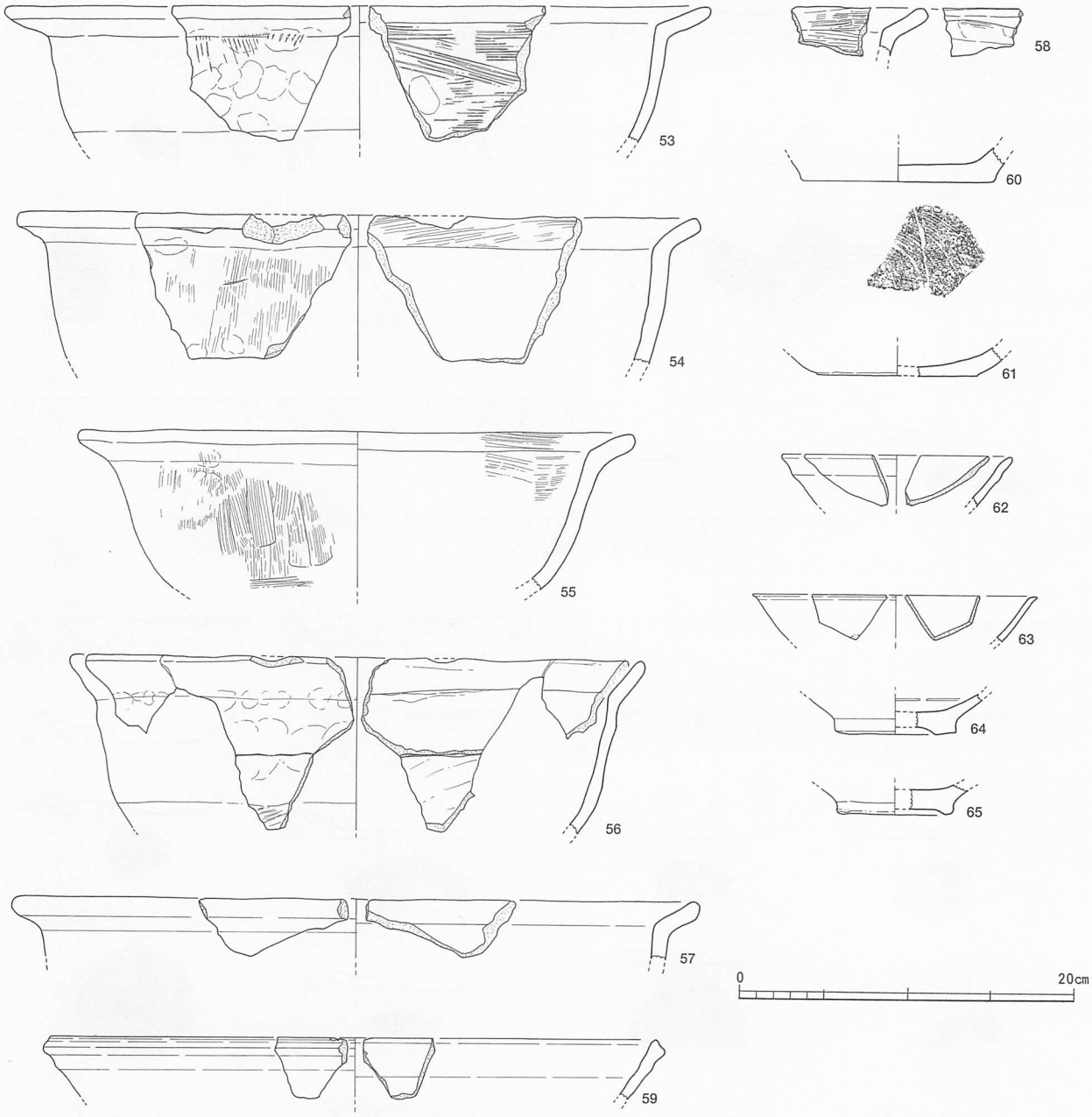


図81　SD－3出土遺物実測図(2)（縮尺1/4）

三角形状の貼付高台。36は逆台形状の貼付高台で、内面にミガキを施す。37は外に踏ん張った三角形状の貼付高台である。38は皿で、39～42は小皿。いずれも底部に回転糸切り痕を残す。39・42の口縁端部には煤が付着し、灯明皿として使用されたことが窺える。

43～52は瓦器。43～45は椀口縁部。いずれも口縁端部を丸く収め、口縁部外面を横ナデ、内面にミガキを施す。43はやや小型。46～48は椀底部。46・47は断面逆台形状、48は三角形状の貼付高台。47の内面には散発的なミガキが認められる。49～52は小皿で、口縁部外面横ナデ、体部外面指頭圧痕。49は焼成堅緻で、内面に丁寧なミガキを施し、光沢がある。

53～58は土師質土器鍋の口縁部から体部上半。基本的に、口縁部内外面横ナデ、体部外面縦ハケ目・指頭圧痕、内面横ハケ目・ナデである。また、外面には口縁部を中心に煤が付着する。

59～61は須恵質陶器である。59は東播系須恵器のこね鉢口縁部。口縁端部は横ナデにより窪んだ面をもつ。60・61は底部。60は回転糸切り痕を残す。61はやや軟質で、砂粒を多く含む。

62は灰釉陶器碗の口縁部。口縁部外面は強い回転ナデのため若干窪み、釉は内面に点々と残る。

図82　SD－３出土遺物実測図(3)（縮尺１/４）

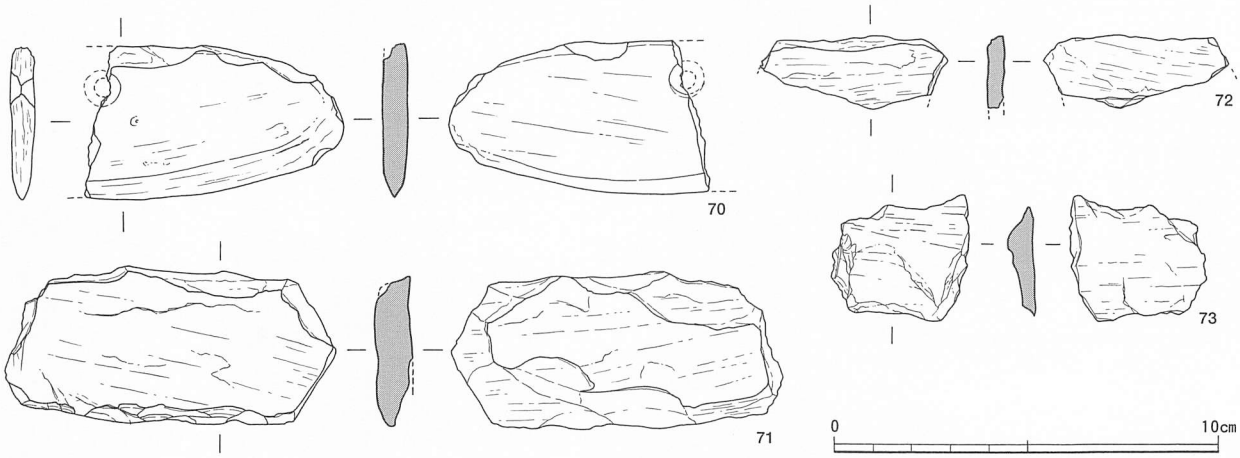


図83　SD－３出土遺物実測図(4)（縮尺１/２）

63～65は白磁。63は碗口縁部で、口縁端部付近で短く外反する。外面下端のごく一部に露胎部分が残る。64・65は碗の底部である。いずれも施釉は内面のみで、外面施釉部分は残らない。64は幅広の削り出し高台で、見込みに圏線が巡る。65は64より幅の狭い削り出し高台。

66～73は石器。66～69は台石である。66（R19）・69（R18）はCW11区の下層から、底に貼り付くような形で出土した。66は安山岩質で、平らな上面と3側面を磨面として使用している。67・68はいずれも砂岩製。67は表裏に平滑な面をもち、凹面をなす上面には敲打による窪みがさらに2箇所形成されている。68は、平らな1面に比較的多くの敲打痕が見られる。69は花崗岩製。平らな1面に、敲打の集中が4箇所の窪みとして認められる。また、端面が平滑で、磨面としても使用されている。70は結晶片岩製の石庖丁。半身を欠損するが、やや横長の杏仁形に復元できる。残存部最大幅は4.0cm。全体的に丁寧な研磨を施し、刃部は偏両刃。孔は両面穿孔で、片面には穿孔を中止した痕跡が残る。71は結晶片岩の剥片。自然面を広く残すが、長辺の一方向に連続した剥離を施し、石庖丁の荒割段階の未製品と見なせる。72・73は結晶片岩の剥片。

74は鉄鏃茎部分。断面は下方で正方形に近いが、上方では扁平な長方形となる。

なお、SD-3からも獣歯の小片若干が出土しており、一部は同定分析を依頼し、ウマ臼歯との結果を得ている（詳細はⅡ-5-D参照）。　［吉田・濱田］

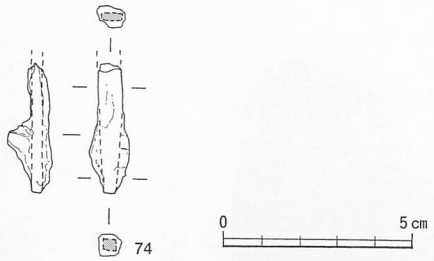


図84　SD-3出土遺物実測図(5)（縮尺1/2）

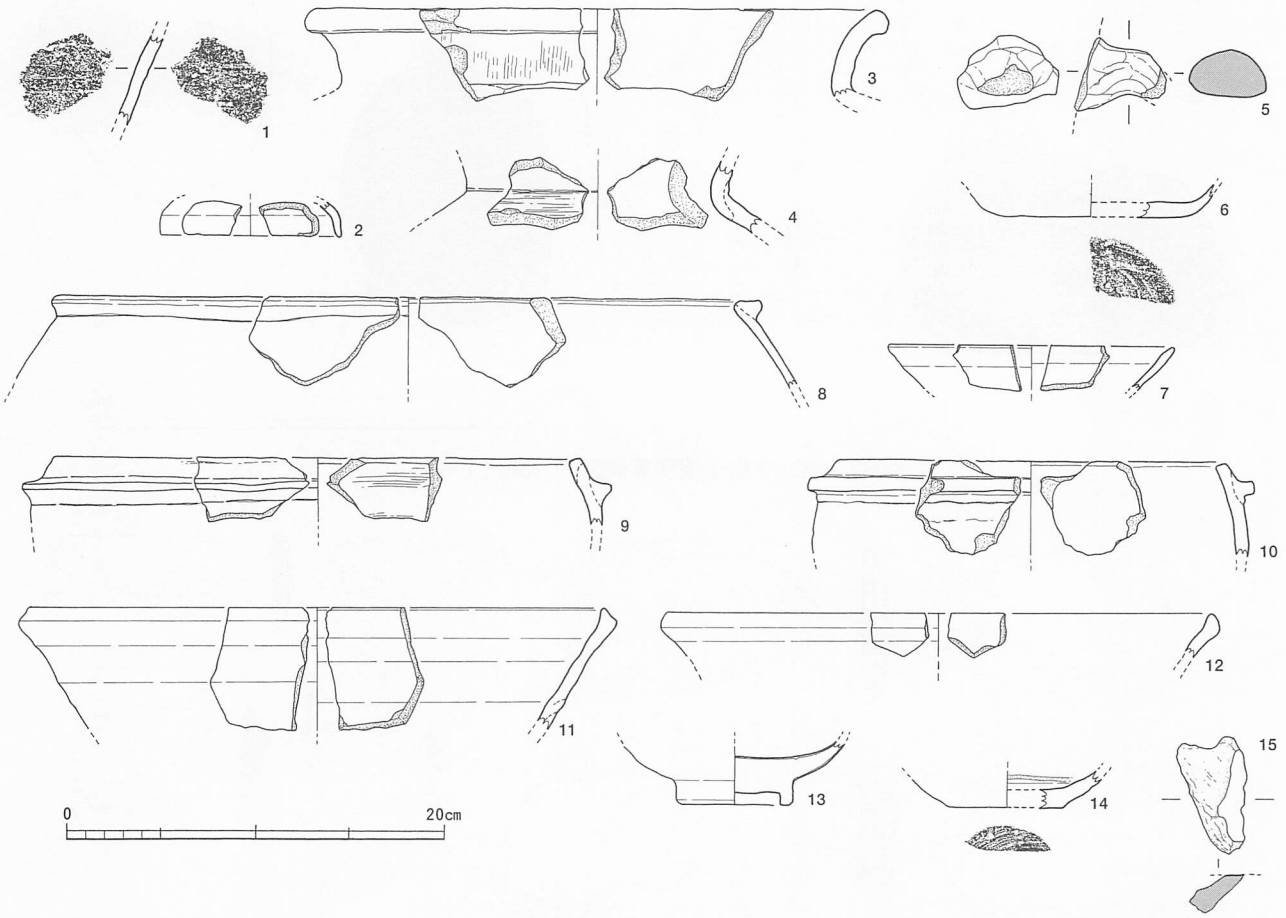


図85　SD-1～3断割出土遺物実測図（縮尺1/4）

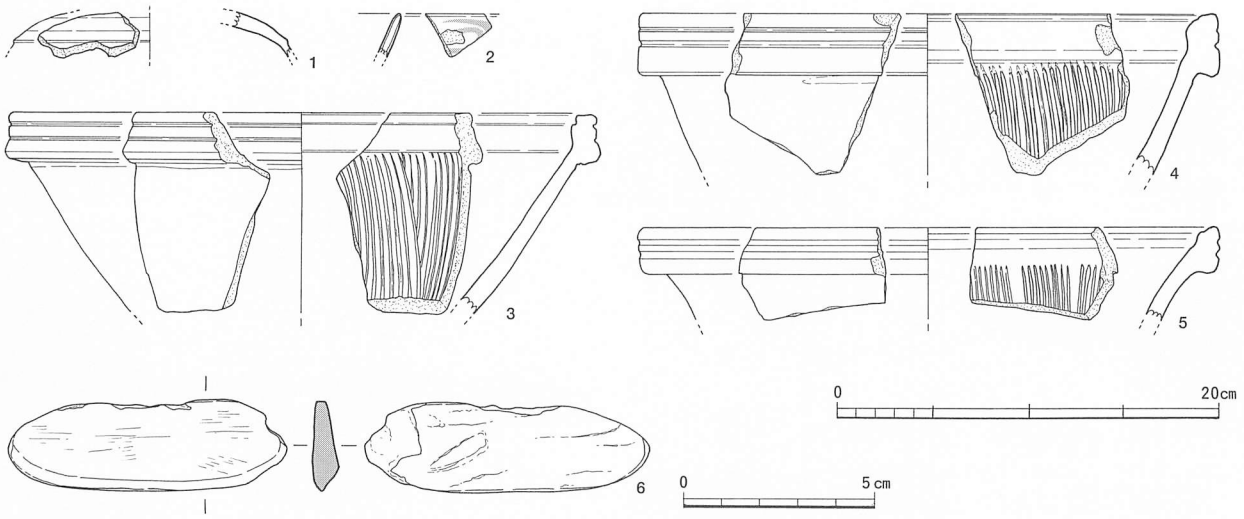


図86　SD-64出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

④　**SD-1～3断割出土遺物**（図85）

最初幅広の流路帯として検出された堆積を、遺構単位に確定するために行った断割で出土した遺物である。本来、先記したSD-1～3のいずれかに帰属する。

1は縄文土器深鉢の胴部片。外面にわずかに条痕が残る。2～4は須恵器である。2は小型で、短頸壺の蓋と考えられる。口縁端部内面は段をもたず、丸く収める。3は甕の口縁部。4は甕の頸部で、肩部にカキメを施す。5・6は土師器。5は甕または甑の把手。6は坏の底部。底面に糸切りと思われる痕跡がわずかに残る。7は瓦器椀口縁部。口縁部内外面回転ナデで、外面体部は指頭圧痕が残る。炭素の吸着は口縁端部のわずかのみ。8・9は土師質土器羽釜の口縁部。8は端部に接して、9は端部より若干下がった位置に断面三角形の突帯を貼り付ける。10は瓦質土器の羽釜。口縁端部より若干下がった位置に、断面方形の高い突帯を巡らす。11・12は東播系須恵器こね鉢の口縁部。いずれも内外面回転ナデ。13は青磁碗底部。削り出し高台の内面を除く全面に薄く施釉。素地は灰白色でやや粗い。14は天目碗か。内面のみ褐灰色の薄い施釉で、重ね焼きの痕跡が見られる。底部は回転糸切り痕が残る。15は砥石。砥面が辛うじて残る。砂岩製。

［吉田・濱田］

⑤　**SD-71**（図107）

当初SD-1に一括していたが、CV12区の土層断面図において抽出した。SD-1の下に位置し、また下にはSX-26がある。南端はSD-1によって大きく切り込まれており、残存幅は約1.3m。埋土には、ラミナ状堆積や砂礫・砂質土が見られることから、流水を伴った溝である。平面プランは確認できていないが、SD-1西部では北側岸へ薄い堆積が広がっており、これに対応する可能性が高い。出土遺物はない。SD-1に先行することから、14世紀以前の溝と位置づけられる。なお、SD-71想定部の北への広がりは、西側13次調査SD-3の北岸と一致し、13次調査SD-3の⑦・⑧層が、20次調査SD-71に相当するとみられる。　［三吉］

⑥　**SD-64**（図12・86、図版11-1・28-3・4）

SD-64は、南区で検出したSC-65埋土上部を完全に覆う灰白色砂礫層。検出範囲の南北を攪乱により切られ、遺構本体の形状は不明である。北側に展開するSD-2と同様の性格をもつ溝の可能性が高い。

溝の埋土中から約150点の陶磁器や瓦などが出土している。図化したのは以下の6点。1は須恵器坏蓋の体部片。稜が残っており、6世紀前葉から中葉。2は青花碗の口縁部片。内外面に薄い施釉。3～5は備前焼擂鉢。3・5の擂目は9条1単位、4は8条1単位である。6は石器の未製品。研磨痕や刃部の形成など、加工した痕跡が認められる。結晶片岩製。出土遺物は、18～19世紀前後に位置づけられる陶磁器や瓦が主体であり、溝もこの時期に埋没したと考えられる。なお、ほぼ同時期の遺物を含む東西方向の溝が、東側の文京遺跡27次調査でも、SD-1として確認されている。

［三吉・山田］

⑦　**SD-4**（図87・88、図版28-5）

SD-4は、SD-1東部の北側、CS12～CU12区に及ぶ東西方向の、深さ10cm前後の浅い溝。埋土は、5mm大までの褐灰色砂礫が主体をなす。当初、北側の長さ約6m、幅40cm前後の範囲のみを想定していたが、一連の埋土が南側に接して、幅30cm前後・長さ3.5m前後に及んでおり、これも含めてSD-4とした。東端は、次第に深さを減じて消滅するが、SD-6との合流部と

A－A'
SD-6
①：にぶい黄橙（10YR6/4）砂礫層。2～5㎜大の砂礫を含む。粘性はほとんどない。②層より少ないが、砂礫を多く含む。
②：にぶい黄褐（10YR3/3）砂礫層。流路底と思われ、2～20㎜大の砂礫を多く含む。
③：暗褐（10YR3/4）砂礫層。①層と同様に砂礫を多く含み、1㎝大のものが多い。粘性なし。
④：暗褐（10YR3/4）砂質シルト。2～3㎜大の砂礫を含むが、①・③層より砂礫の割合は少ない。上層部分に4㎜大の炭化物が含まれる。わずかに粘性あり。

B－B'
SD-4
①：にぶい黄褐（10YR4/3）砂質土。5㎜大までの砂礫を多く含む。Ⅲ層をラミナ状に嵌入。しまりあり。
②：褐灰（10YR6/1）砂礫層。3㎜大までの砂礫からなる。しまりあり。遺物含む。
③：にぶい黄褐（10YR5/3）砂質土。5㎜大までの砂礫を多く含む。SD-1上層がブロック状ではなく均質に混在。しまりあり。
SD-5
褐灰（10YR5/1）砂礫層。2㎜未満の砂粒を含む。砂質はやや少なく、しまりやや弱い。

C－C'
①：褐灰（10YR4/2）砂質土。SD-1上層に近いが、3㎜前後の砂礫を多く含む。
②：褐灰（10YR4/1）砂質土。3㎜前後の砂礫からなる。しまり強い。遺物片あり。

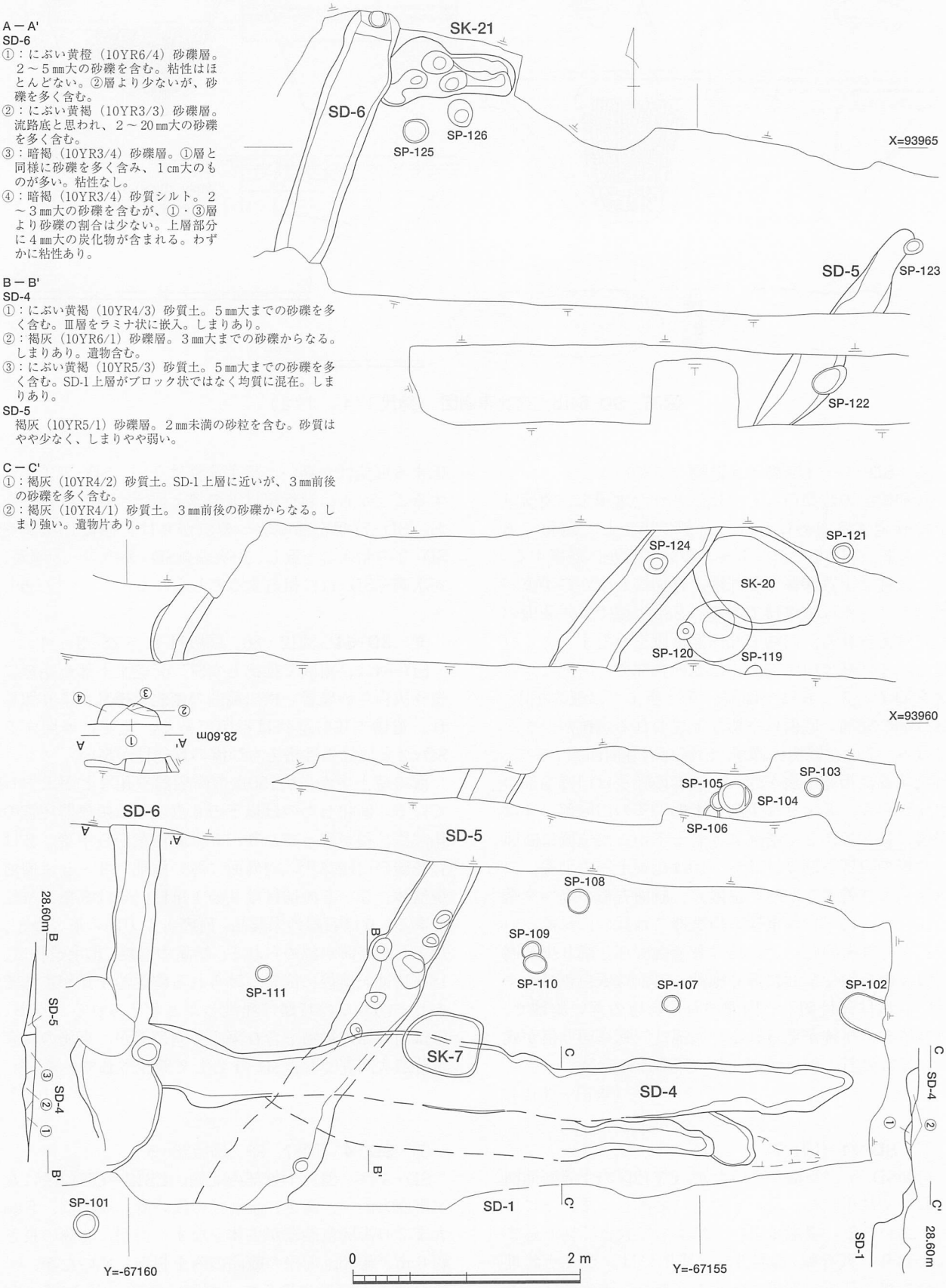


図87　SD－4～6・SK－7遺構実測図（縮尺1/50）

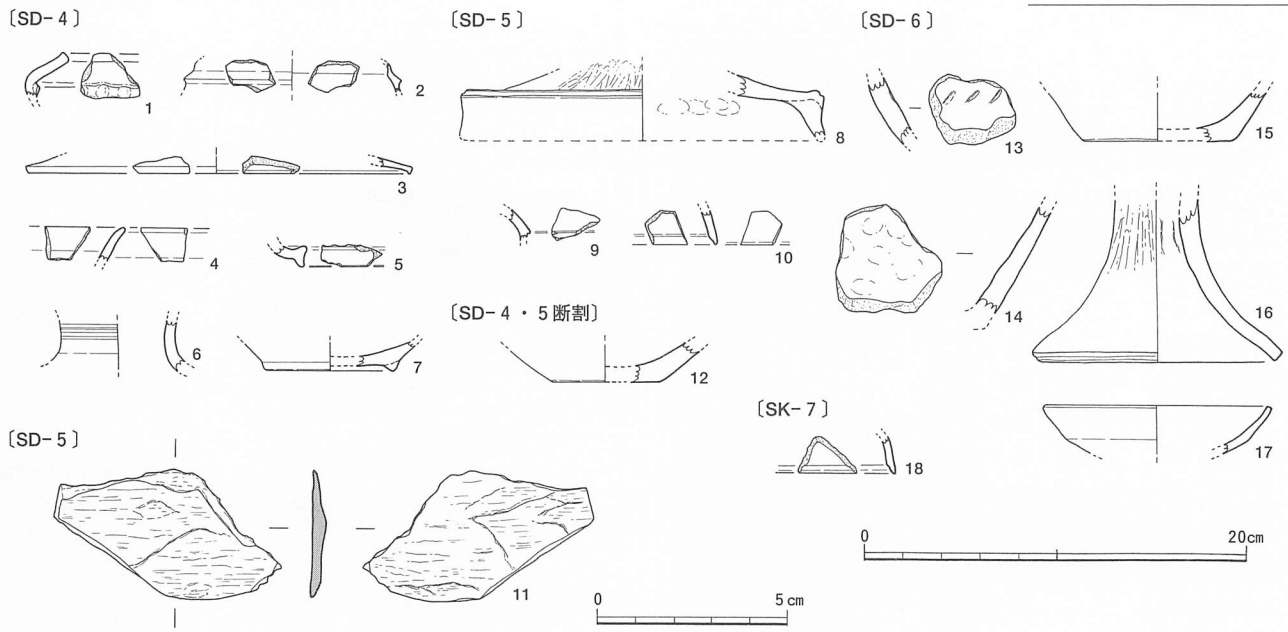


図88　SD-4～6・SK-7出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

もなっている西端部は、さらに西側を攪乱で切られ、SD-6との切り合い関係も含めて不明。SD-4は、SK-7に切られ、SD-5を切る。

SD-4は、埋土に砂粒を多く含み、出土遺物は細片が多く、しかも強固に砂粒の付着したものが多い。したがって図化できた遺物自体少ない。1は弥生土器の甕口頸部片。頸部に突帯を貼り付け、押圧を施す。中期後葉。2～6は須恵器。2は器種不明、脚裾部付近か。3は坏蓋口縁部。8世紀代。4は高坏の口縁部片。5は高坏脚部片。6は壺の頸部片。外面にカキメを施す。7は土師器椀の底部片で高台を貼り付ける。10世紀前後。図化できなかった遺物に、底部回転糸切りの土師器等があり、12世紀代まで溝の埋没は下がることになる。なお、SD-4・5合流部の断割で出土した遺物に、12の弥生土器壺の底部がある。SD-4がSD-5を切ることから、12は本来SD-4に伴った可能性が高い。　［吉田・山田］

⑧　**SD-5**（図87・88）

SD-5は、SD-4の北東側に位置する溝で、SD-4とは約60度の角度で交差している。建物基礎による東西方向の攪乱により、断続的にしか残存していないが、SD-4との合流部から、北に9m弱を辿ることができる。南側は、SD-4の南にも一部落ち込みが続くが、SD-1との切り合い関係は確定できていない。状況からして、SD-1が切ると推定される。底のレベルと旧地形から、北から南へと南流していた溝で、北端は削平により途切れている。埋土はSD-4同様、5㎜大までの砂礫層が上部にあり、下層には炭化物をまばらに含む砂質シルト層が堆積する。

SD-5も埋土に砂粒を多く含み、出土遺物は細片で強固に砂粒の付着したものが多い。図化できた遺物は8～11の4点である。8は弥生土器器台の脚部片と思われる。外面は縦方向のミガキ、内面はナデ・指頭圧痕を確認できる。後期。9・10は須恵器、9は坏蓋の稜部。6世紀前葉。10は坏蓋の口縁部片、内面端部に面をもつ。11は結晶片岩の剝片。図化できた遺物はいずれも古墳時代以前のものに限られるが、中世に降る土師器細片も含む。また、SD-4との切り合い関係や埋土の類似から、SD-5の埋没も、SD-4とほぼ時を同じくしていたと考える。　［吉田・山田］

⑨　**SD-6**（図87・88、図版28-7）

SD-6も、SD-4の北側に存在する南北方向の溝。SD-4との交差部付近では、軸を北で東に約6度振るが、北端部では軸を北で東に約15度振り、途中でくの字状に屈曲している。断続的にしか残存していないが、SD-4との合流部から北に約9mを辿ることができる。南側は、一部SD-4の南にも、これに伴うとみられる落ち込みがあるが、SD-1・4との具体的切り合い関係は不明。SD-5同様、SD-1に切られると推定される。埋土もSD-4同様、5㎜大までの砂礫層が上部にあり、下層には炭化物をまばらに含む砂質シルト層が堆積する。

13～17の5点を図化した。13～16は弥生土器である。13は壺の胴部片で、肩部に「ノ」字状押圧文を施す。中期後葉。14は壺の底部付近の体部片。内面に若干の指頭圧痕が残る。15は壺底部片。16は高坏の脚部片。外面は脚柱部に縦方向のミガキが見られる。残存範囲に透かしは確認できない。後期。17は瓦器小皿口縁部片。

焼成は良くなく、むしろ土師質に近い。図化できなかった遺物には、須恵器や中世土師器の細片を含み、砂粒の付着で断定し得ないが、縄文土器や弥生後期の複合口縁壺の可能性の高い細片もある。ただし、17の瓦器から、溝の埋没は12世紀以降に降ることになり、SD-4・5とも対応する。　［吉田・山田］

（3）土壙

① SK-7（図87・88）

SK-7は、SD-4とSD-5の合流部の東側、CT12-13区に位置し、SD-4の北岸を切る土壙。東西長約70cm・南北長約50cmの不整形。深さも5cm程度と浅い。埋土は、SD-1上層に等しく、黄褐色砂質土。しまりがある。出土遺物で図化できたのは18のみ。須恵器坏蓋の口縁部片である。端部内面に段を有し、6世紀前葉。しかし、遺構自体の時期としては、SD-4を切り、埋土の特徴をSD-1上層と同じくすることから、SD-1と同じく、14世紀にまで降ると考えられる。

［吉田・山田］

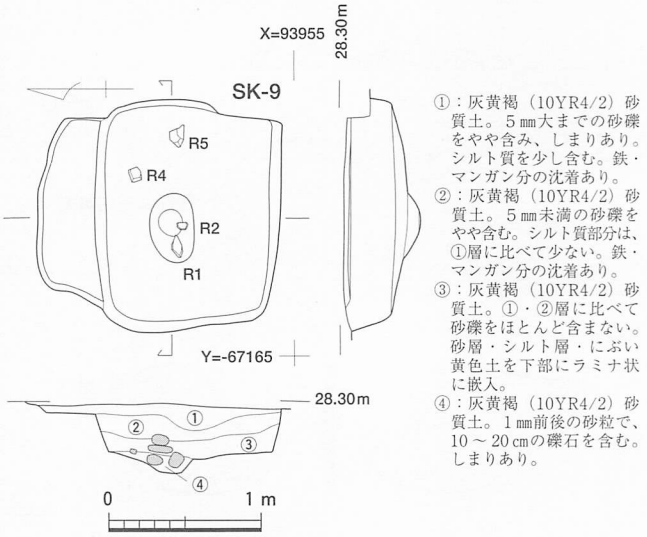


図89　SK-9遺構実測図（縮尺1/50）

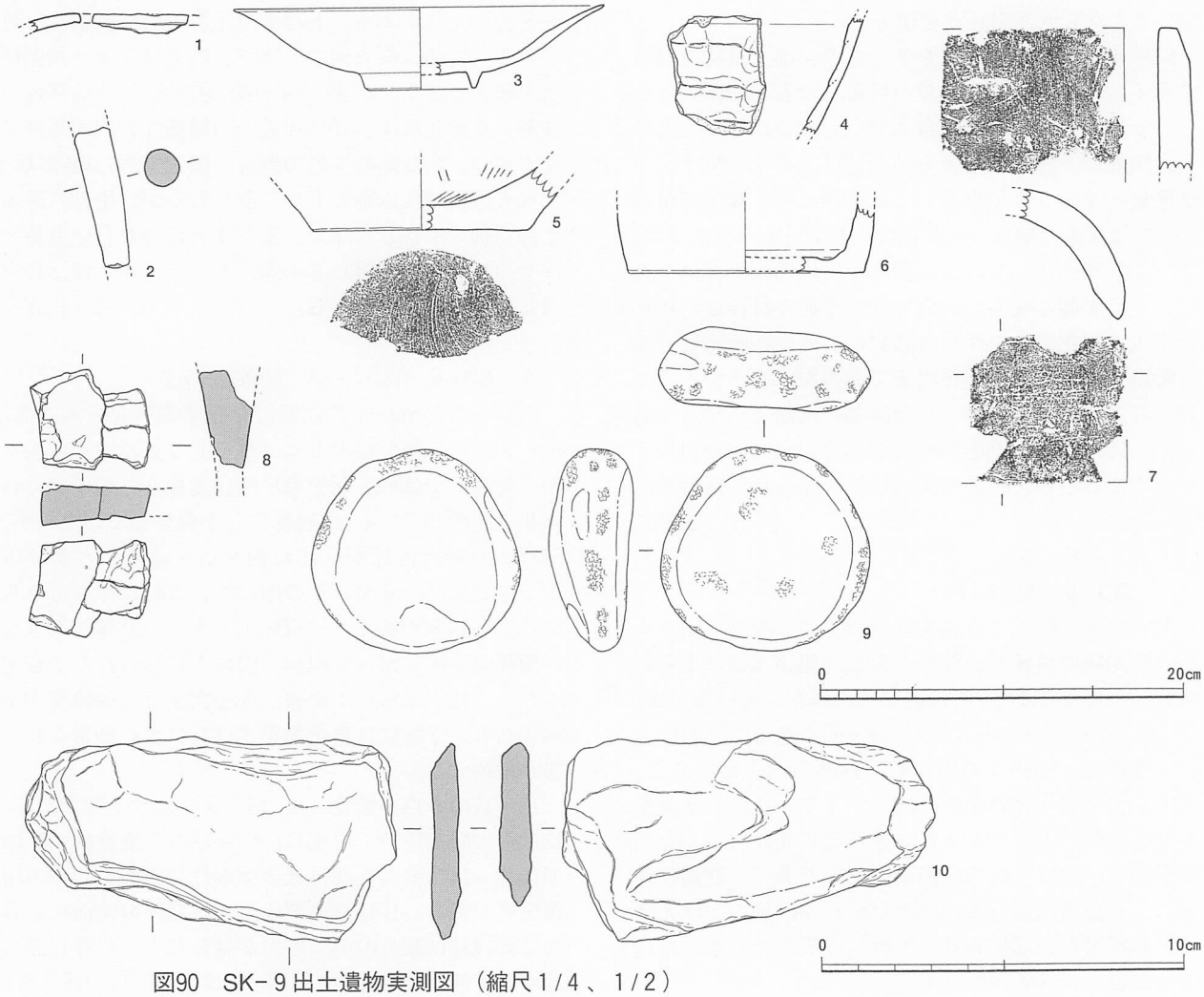


図90　SK-9出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

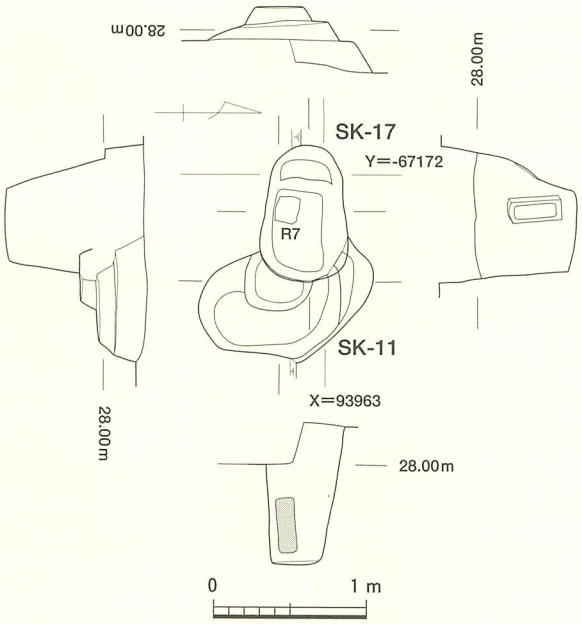


図91　SK-11・17遺構実測図（縮尺１/50）

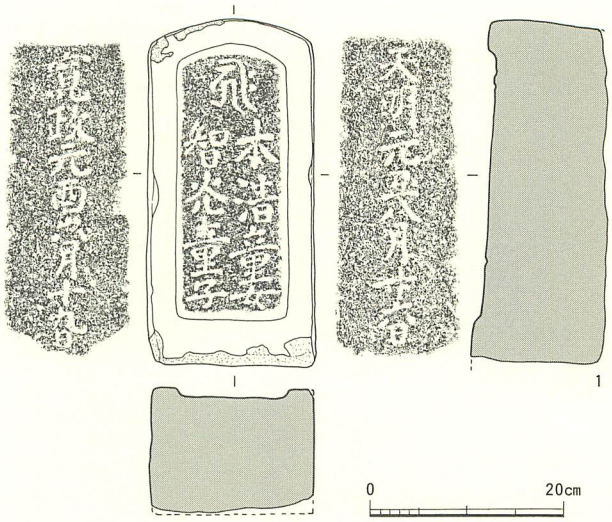


図92　SK-17出土遺物実測図（縮尺１/８）

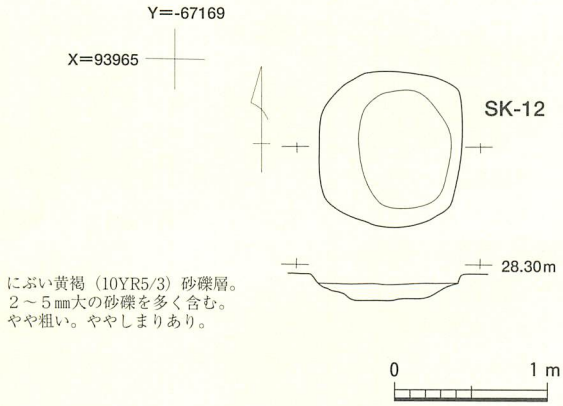


図93　SK-12遺構実測図（縮尺１/50）

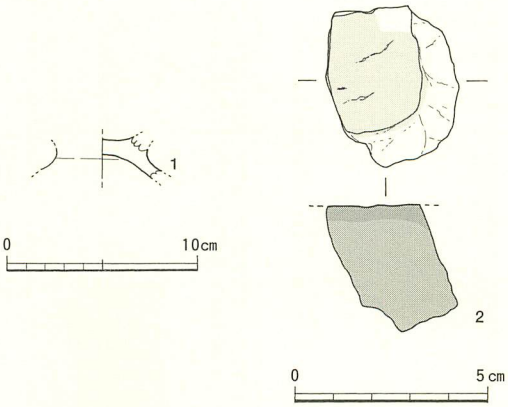


図94　SK-12出土遺物実測図（縮尺１/４、１/２）

② **SK-９**（図89・90、図版14-１・28-８～11）

SK-９は、CU12区に位置する土壙。東西約1.4ｍ・南北約1.2ｍの長方形を呈し、東側上部に一部攪乱を受けるものの、約30㎝の深さをもつ。また、北側には浅い掘り込みのテラス状部が約30㎝幅である。埋土は、最上層に灰黄褐色の砂質土があり、北側テラス状部は、この埋土のみ。南側の深い部分には、砂粒が細かくなった灰黄褐色砂質土が続き、最下層では10～20㎝大の礫石を含む。

遺物は、図示するように、底付近でやや大型の遺物が出土している。１は土師器甕の口縁部片。頸部から若干外反しながら口縁部へ開く。口縁端部に横ナデを確認できる。２は土師質土器羽釜の脚部片。３～６は陶器。３（Ｒ５）は端反りの皿。口径20.6㎝と大型ながら、輪高台径は６㎝と小さい。胎土は精良で、内外面とも紫がかった灰褐色の釉が薄くかかる。４（Ｒ２）は鉢状の器の下半部か。内面に粘土帯接合痕と指頭圧痕を顕著に残す。５（Ｒ１）はやや軟質の擂鉢底部。よく使用され、内面の擂目はかなり浅く断続的となっている。外底面には回転糸切り痕が残る。６は須恵質に近い壺底部。底面は不定方向のケズリ風のナデで、外面は横方向の仕上げナデ。７（Ｒ４）は丸瓦。側面・端面とも面取りを行う。全面黒燻し処理がなされている。８～10は石器。８は砂岩製砥石。目はかなり細かく、仕上げ砥と見られる。丁寧な成形の施されていない１側面が残り、中央部を研ぎ減らした幅広の方柱状に復元できる。９は砂岩製の磨石。片面と側面に敲打痕を多く確認できるが、表裏面ともに研磨が及び、比較的平滑な面をなす。10は結晶片岩片。遺存状態は良くないが、粗割して外形を整えた痕跡があり、石庖丁の成

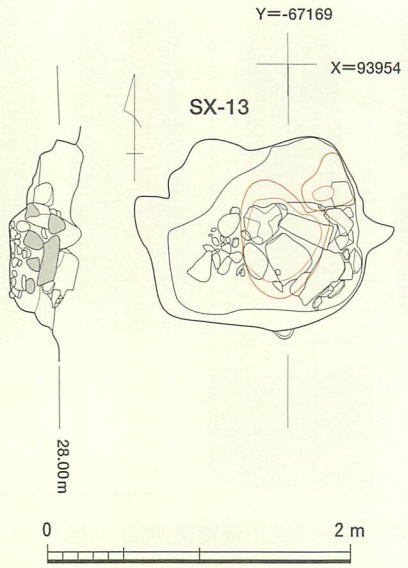


図95　SX-13遺構実測図（縮尺１/50）

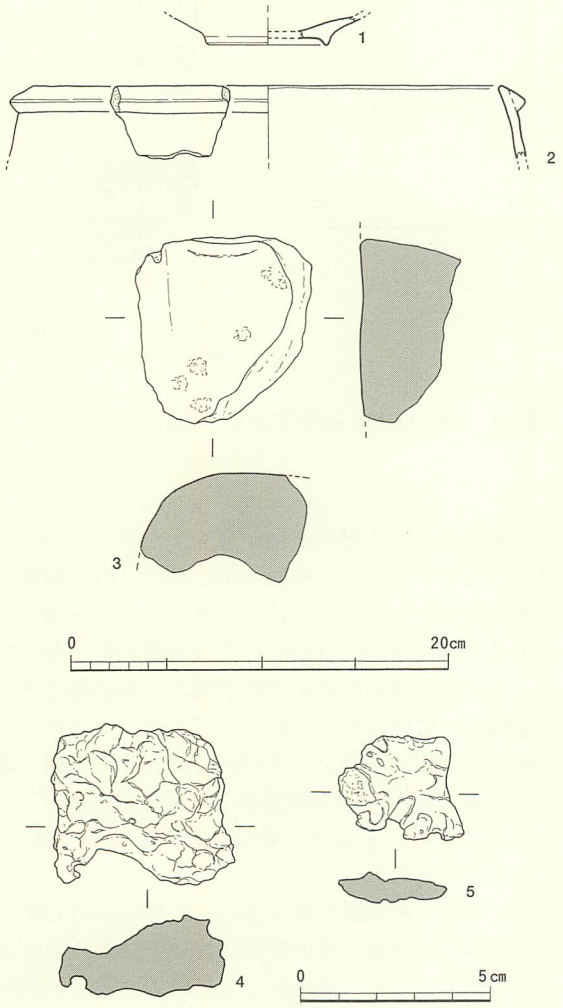


図96　SX-13出土遺物実測図（縮尺１/４、１/２）

形段階の未製品と見られる。

以上の出土遺物から、SK-９は近世段階の遺構と判断することができ、後述する南側のSX-16等とほぼ時期を同じくすると推測する。　［吉田・山田］

③　**SK-11**（図91）

SK-11は、CW13区に位置する土壙。西側をSK-17に切られる。南北長約110cm・東西幅約70cm・残存深約35cmで、少し西側に偏って、径約40cmの範囲が柱穴状に約10cm深くなっている。埋土は１枚で、にぶい黄褐色砂質土。２～５㎜程度の砂礫が多く混じり、炭化物の小片を含む。

SK-11出土遺物で図化できるものはなかったが、古墳時代に遡る須恵器坏や土師器甕の細片があるとともに、中世土師器の細片や土師質土器羽釜胴部片、近世段階の陶器片が含まれる。したがって、SK-11は近世の遺構とみられる。　［吉田・山田］

④　**SK-17**（図91・92、図版14-４・29-１）

SK-17は、CW13区に位置する。人頭大の川原石を栗石として敷設したコンクリート布基礎の下で検出された長楕円形の土壙で、SK-11を切る。埋土は、攪乱として重機で取り除いたものに近似する。東西長約90cm・南北幅40～60cmで、深さ90cm弱に達する。その中に、１基の墓石が埋置されていた（１・Ｒ７）。花崗岩製で、表面と両側面は仕上げ加工が施されているが、底部・裏面は粗整形に留まり、凹凸を残す。表面には梵字と２人の戒名、両側面にはその年号が記されている。それぞれ「本清童女」「天明元丑八月十六日」、「智光童子」「寛政元酉六月十九日」と判読できる。天明元年は1781年、寛政元年は1789年である。いずれも幼年で夭折し、没年が異なることから、没後ある程度時を経て作られたことが窺える。このような墓石が、おそらくコンクリート基礎建物建設に伴って、埋設されたと推察される。　［吉田・山田］

⑤　**SK-12**（図93・94）

SK-12は、CV13-10区に位置する、１m前後の不整円形の土壙。深さは30cm前後が残る。埋土は、２～５㎜大の砂礫層が上部にあり、下部には礫の混入がほとんどなく、きめの細かい砂質土がある。埋土出土遺物には、弥生土器や古墳時代須恵器、中世土師器の細片が含まれ、その中から２点を図化した。１は須恵器高坏の接合部である。２は砂岩製の台石破片。残存する面に被熱黒変が認められる。SK-12は中世の遺構と判断される。　［吉田・山田］

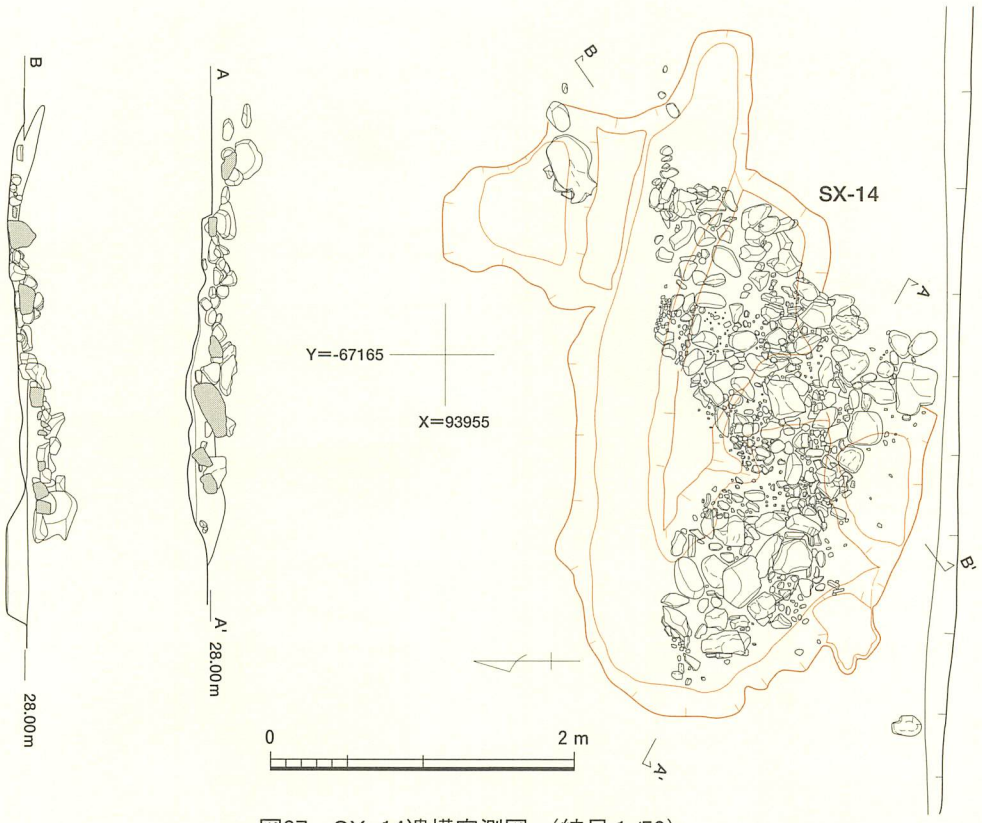


図97　SX-14遺構実測図（縮尺1/50）

⑥　**SK-21**（図87）

SK-21は、CT14区に位置する小型不整形土壙。東西長軸約1m、幅40～60cm、深さ約15cm。西寄りには小穴が3基伴う。西側をSD-6に切られる。埋土の詳細不明。出土遺物はない。　［吉田］

（4）その他の遺構

①　**SX-13**（図95・96、図版14-3・29-2・3）

SD-2と埋土が類似することから当初は認識できなかったが、CV・CW11区のSD-2底面で検出した。掘り込みを伴う集石群である。検出時の掘り込み平面プランは約1.2×1.4m。深さは約30cmを測る。中央部には約60×80cmの楕円形状の掘り込みが見られる。径約30cmの円礫、長辺30cm前後の割石が中心にあり、それらの間に径10cm前後の円礫が入り込む。特に底面近くには、小円礫が多数見られる。出土遺物は石器・土器があるが、多くは本来SD-2に伴う可能性が高い。

1は土師器椀底部片。角の取れた断面三角形状の高台を貼り付ける。2は土師質土器羽釜。端部に接して突帯を貼り付け、14世紀代。3は砂岩製の台石。欠損部が大きいが、本来断面扁円形とみられ、残存する使用面には若干の敲打痕を確認できる。4・5は鉄滓。4は、表面の凹凸が顕著。5は、一部に細かい砂が面的に付着する。なお、図化・同定できなかったが、獣歯細片も出土している。

SD-2底面での検出であるが、後述する他のSX遺構同様に、本来SD-2を掘り込んでいた、近世の遺構と考えられる。　［三吉・山田］

②　**SX-14**（図97～101、図版29-4～31-4）

SD-2の埋土下層部を掘り下げ途中、CU11・12区からCV11区で検出した。掘り込みを伴う集石群で、SD-1～3を切っている。礫群と礫群下に見られる掘り方の状況から、集石の単位は少なくとも2つある。1つは南東から北西にかけての単位（A群）。もう1つは北東部の一群である（B群）。A群は、南東部が調査区外へと続き、長さ3m以上、幅約1.5m。B群は、長さ約2.5m、幅約1.3mの掘り方をもつ。A群がB群に先行する。礫群には、1辺10～30cmの円礫・割石が多数見られる。埋土は砂利層で、底部近くには灰色砂質土が見られる。

砂礫群や砂利層に混じって、遺物が多く出土している。ただし、集中地点は見られず、砂礫群中から散漫な出土状況で、大半はSD-1～3からの混入とみられる。52点を図化した。

1は弥生土器壺底部。2～4は須恵器。2は坏身で

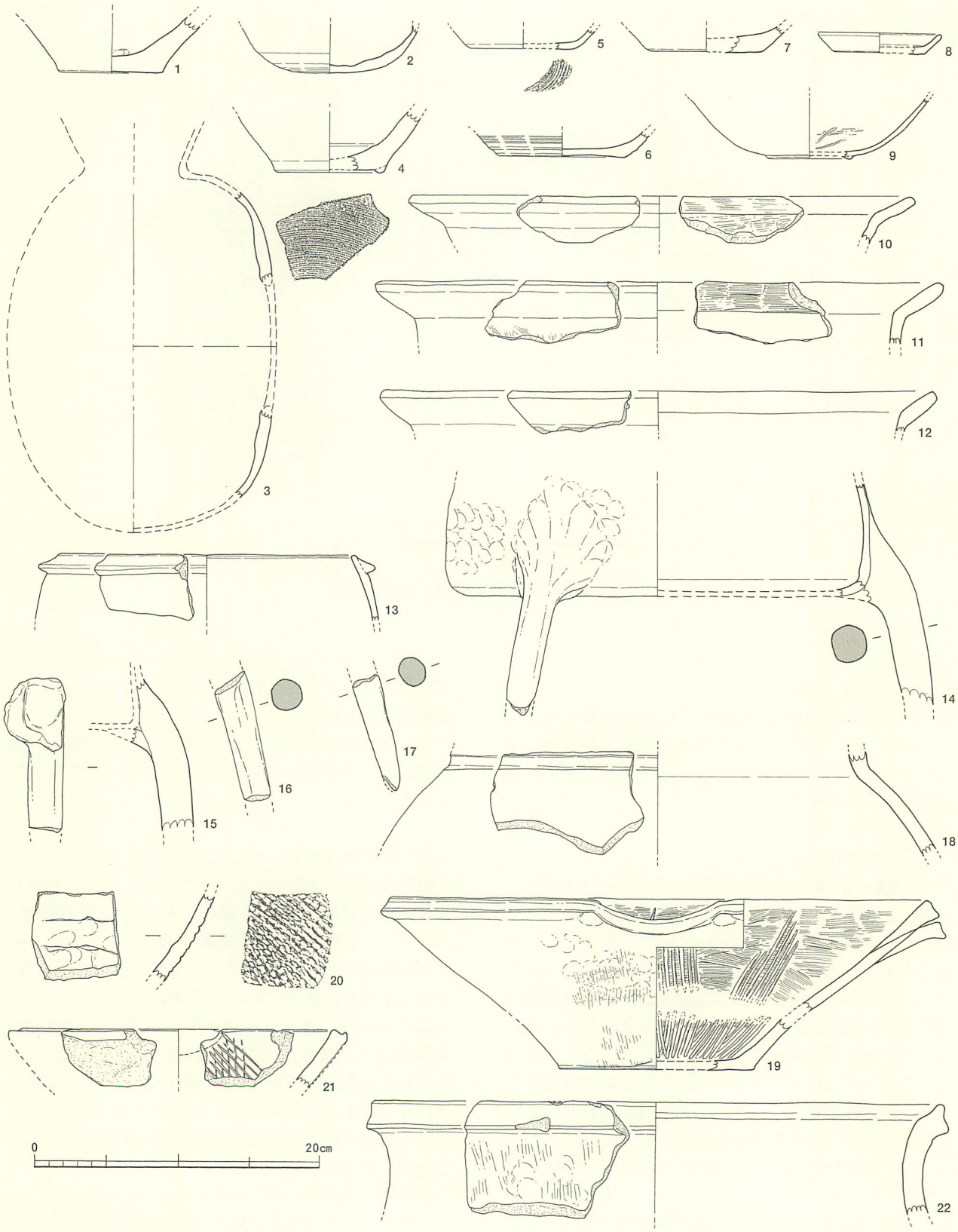


図98　SX-14出土遺物実測図(1)（縮尺 1 / 4 ）

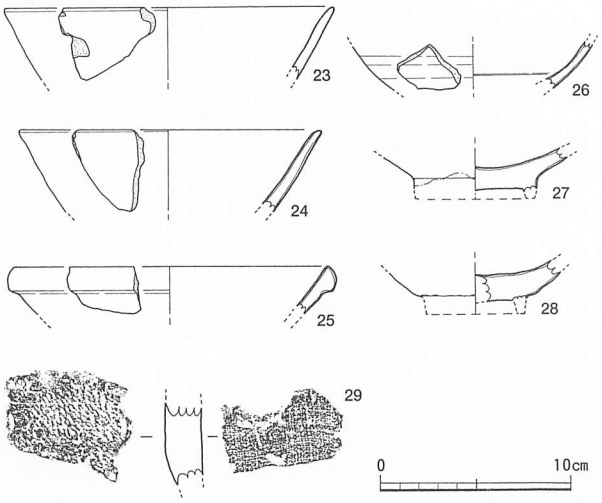


図99　SX-14出土遺物実測図(2)（縮尺１/４）

底部から体部までが残る。６世紀代。３は提瓶体部の粘土板閉塞部。外面にはカキメを施す。４は壺の底部片で、低い高台を貼り付ける。10世紀前後か。５～７は土師器坏底部。５は底面に回転糸切り痕が残る。12世紀以降。８は土師器小皿で、口縁部から底部の一部までが残存する。９は瓦器椀の体部片で、底部に低い貼り付け高台。内面にヘラミガキが見られる。12世紀後葉。

10～17は土師質土器。10～12は鍋口縁部。10は、やや内湾しながら外方へ開く。11は口縁部内面に横方向のハケ目を残す。12は11と似るが、口縁部がやや短い。13～17は羽釜。13は端部に接して断面三角形の突帯を貼り付ける口縁部。14は胴部以下で、外面は顕著に指頭圧痕を残す。15～17は脚部片。15は接合部で剥離し、16は縦方向のミガキが見られる。

18～22は中世陶器。18は備前焼。直立する頸部をもつ甕の胴部片。19は、焼成のややあまい在地系の片口擂鉢。外面は縦方向のハケ目、内面は横方向の細かいハケ目を施し、６条１単位の擂目を加える。ほとんど使用されていない。20は甕の胴部片。外面に縄目タタキが見られ、内面には粘土接合痕が見られる。21は復元口径21.6cmの擂鉢。外面は大半が剥離している。内面はナデ調整した後、擂目を施す。擂目の単位は欠損のため不明。11世紀末～12世紀前半。22は甕の口縁部片。口縁部内外面は横ナデを施し、外面胴部に縦方向のハケ目調整が見られる。

23・24は青磁碗口縁部。23はわずかに口縁が外反する。表面の荒れが著しい。24は釉が厚い。25～27は白磁碗。25は玉縁状口縁部片。12世紀。26は体部片。内面の見込みに圏線がある。27は底部片で、高台が欠損する。高台から高台内側は露胎。磁胎はやや黄色みがかる。28は陶器椀の底部片。高台が欠損する。胎土はにぶい橙色。29は平瓦。凸面縄目タタキ、凹面布目痕が残り、須恵質。

30～42は石器。30は閃緑岩製の磨石で、表裏面が残る。１面は平滑ながら緩やかな凹凸が若干残り、点的に赤色顔料が付着する。もう１面は平滑な磨面となっている。31・32は敲石。31は両面に敲打痕を確認できるが、周縁の風化が著しい。粗い砂岩製。32も砂岩製で、片面中央部と先端に敲打痕が顕著に残る。33～36は台石。33は使用面を１面確認できる。敲打痕が残るが、研磨も及び、緩やかな凹面をなす。礫岩製であるが、嵌入した礫の脱落した砂岩質部分を用いている。34は上面と側面が残る。上面には研磨が及ぶとともに、２箇所の窪みを確認できる。粗い砂岩製。35は大型の台石で、半身を欠損。表裏両面と側面に研磨・敲打が及ぶ。砂岩製。36は表裏両面がよく研磨され、特に片面は大きく凹状を呈する。また、敲打痕も若干残る。先端部を中心に被熱黒変する。砂岩製。37は硯の破片。大半を欠損するが、欠損部の観察から、砥石に転用したとも考えられる。38は杏仁形の磨製石庖丁未製品。片面側から穿孔を行っているが未貫通。もう片面側には、刃部の研ぎ出しが一部認められ、鎬が立つ。完成直前段階の未製品である。結晶片岩製。39～42は結晶片岩の剥片。

43～52は金属器ないし金属関連品。43は小型の袋状鉄斧。袋部の折り返しの一部が残る。44～51は鉄滓。52は寛永通宝。

獣歯の小片も若干出土しており、一部は同定分析を依頼し、ウマ臼歯との結果を得ている（詳細はⅡ-５-Ｄ参照）。

出土した土器や陶磁器は14世紀以前のものであるが、SD-１～３を切り、寛永通宝が出土していることから、17世紀以降に位置づけられる。［三吉・山田］

③　**SX-15**（図102・103、図版14-１・31-５）

SX-13から西へ約2.5m地点、CW11区のSD-２底面で検出。長辺約1.1m、短辺約0.6mの長楕円形の範囲に、１辺10～20cm前後の円礫・割石が集中する。礫群中には炭化物が少量ながら見られる。礫群は、大きな礫の周りに小さな礫が入り込んでいる。このような礫のあり方や明確な掘り方をもたない点は、他の集石遺構と異なり、流路内の溜まりの可能性も残る。

古墳時代後期の須恵器片、土師器皿や土師質土器鍋の小片などが少量出土しており、２点を示す。１は白磁碗の底部片である。高台畳付けおよび高台内側は露胎。２は鉄滓。砂を巻き込み、全体的に赤みが強く、脆い。［三吉・山田］

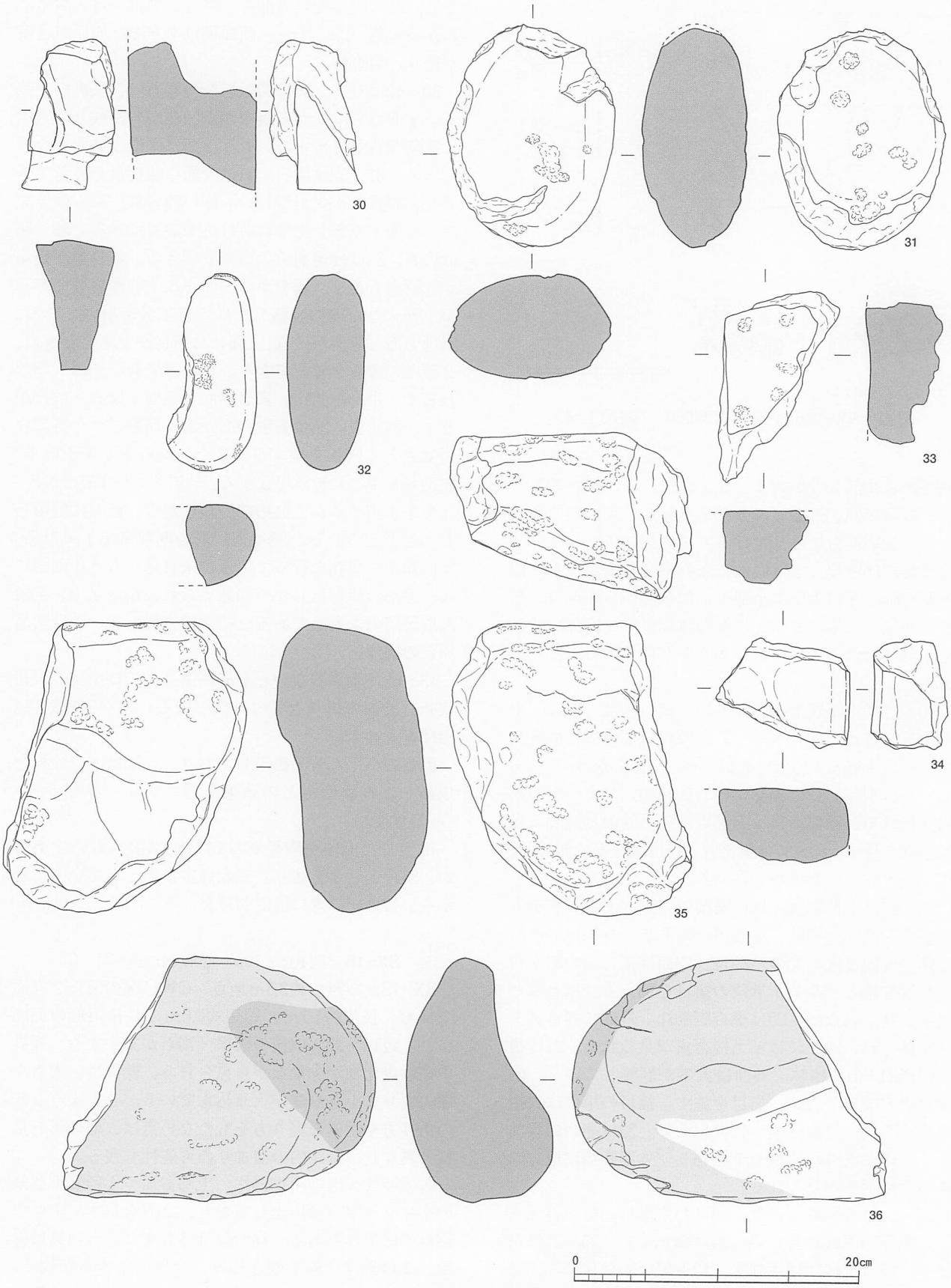


図100　SX-14出土遺物実測図(3)（縮尺1/4）

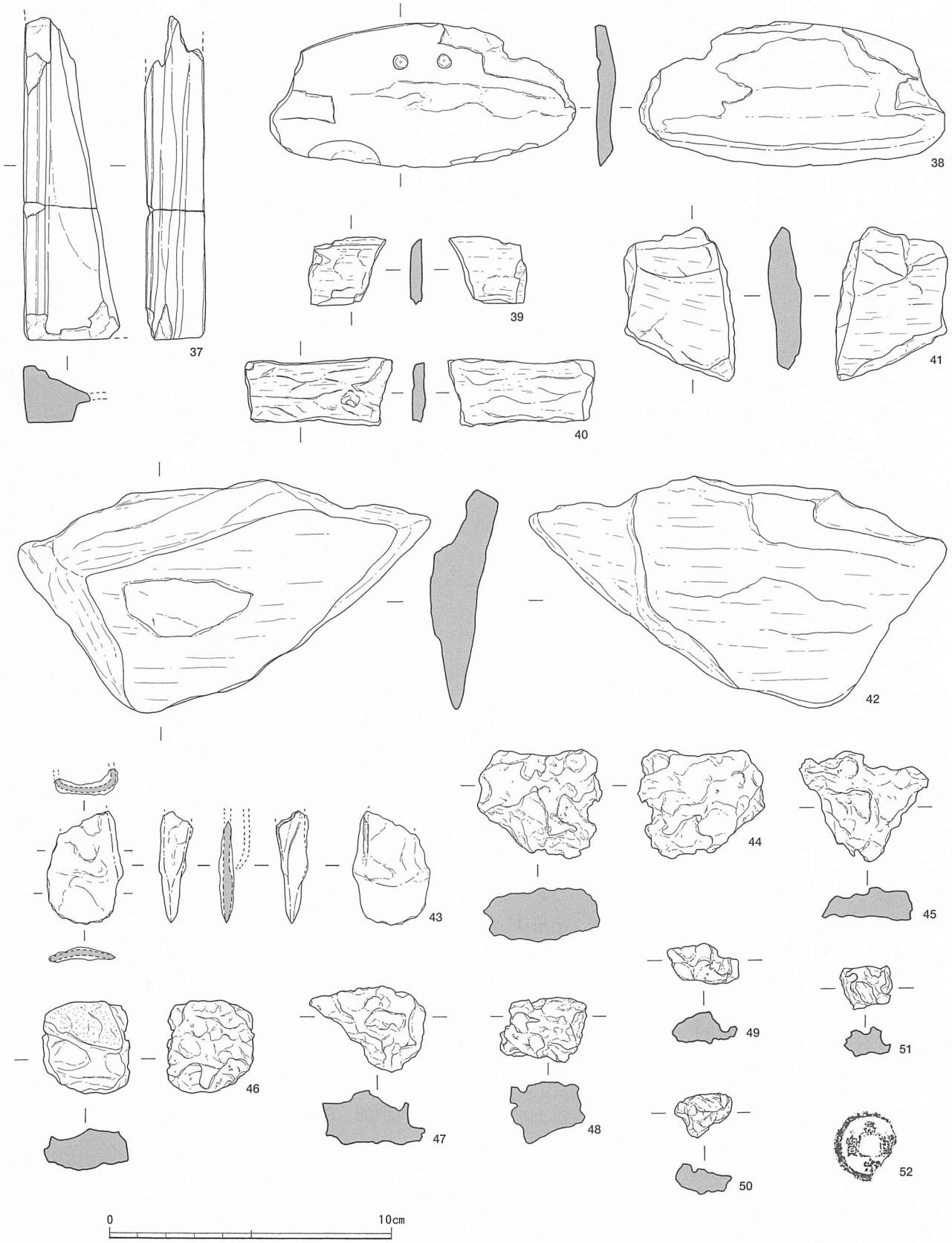


図101　SX-14出土遺物実測図(4)（縮尺１/２）

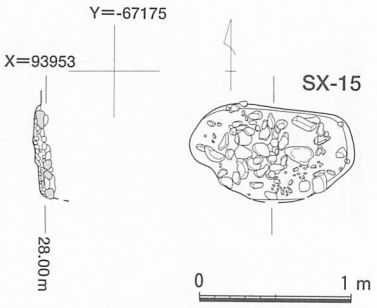


図102　SX-15遺構実測図（縮尺1/50）

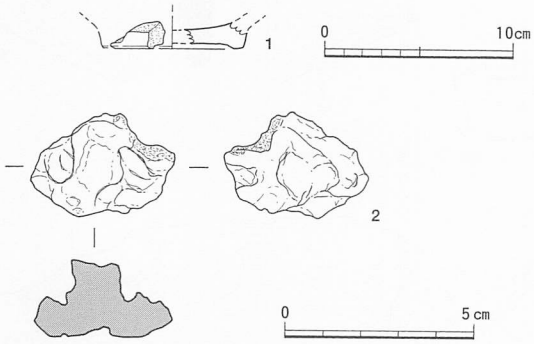


図103　SX-15出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

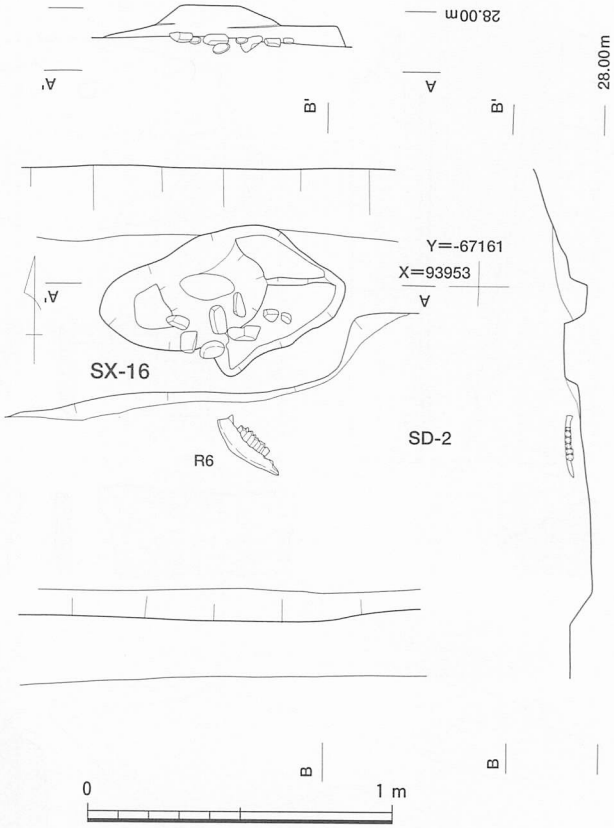


図104　SX-16遺構実測図（縮尺1/25）

④　**SX-16**（図104）

CU11区のSD-2底面で検出。平面は、長辺約80cm×幅40～50cmの不整形である。掘り方中央部のみ、一段深くなる。埋土は1～20mm大の円礫を多量に含み、明灰色を呈する。特に埋土上部を中心として、10～20cm大の割石が見られる。

須恵器甕片、土師質土器鍋片や瓦器椀片などが出土しているが、いずれもSD-2埋土に含まれていたものと考えられる。SD-2底面での検出であるが、本来はSD-2を掘り込む遺構と考えられる。［三吉・山田］

⑤　**SX-19**（図105・106、図版14-5・31-6～8）

CU11区のSD-2底面で検出した、掘り込みを伴う集石群。東西幅約1.6mで、南端の一部は調査区外へと続く。埋土は1～20mm大の砂礫からなり、粘質土は認められない。また、20～30cm前後の割石が底面より少し浮いた状態で大量に出土している。

遺物は、弥生時代～中世にかけての土器片が多く出土しており、14点を図化した。

1は弥生土器壺の口縁部片。口縁端部に凹線文を3条巡らせる。中期後葉。2～6は土師器。2～4は坏、5は椀の口縁部。6は椀の口縁部と底部片。底部は断面三角形の低い高台を貼り付ける。7～10は瓦器椀。

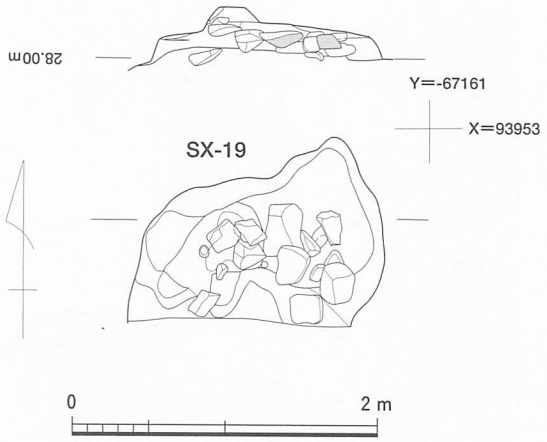


図105　SX-19遺構実測図（縮尺1/50）

7～9は口縁部片、10は底部片。11は土師質土器鍋の口縁部。12は龍泉窯系青磁碗の底部片。底部内面には花文を施す。高台部畳付から高台内側は露胎。13は、表面のみが薄く剥離した砂岩製の台石。残存面に敲打痕を確認でき、被熱赤変。14は鉄滓。この他に、白磁

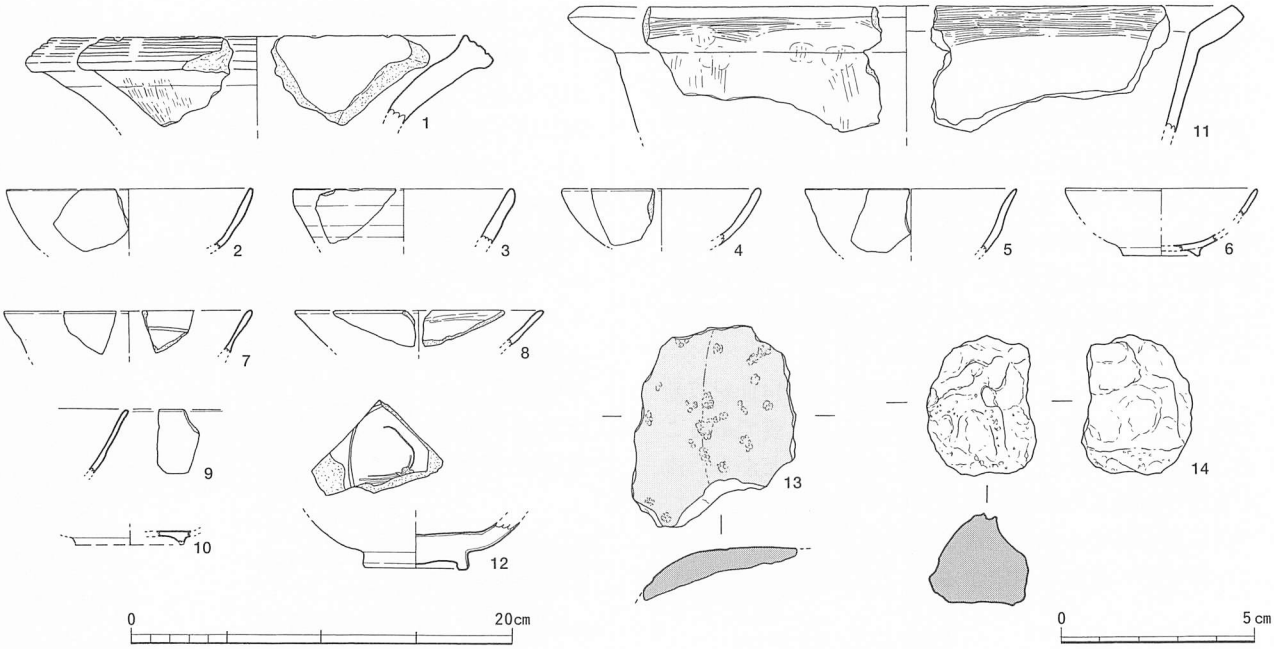
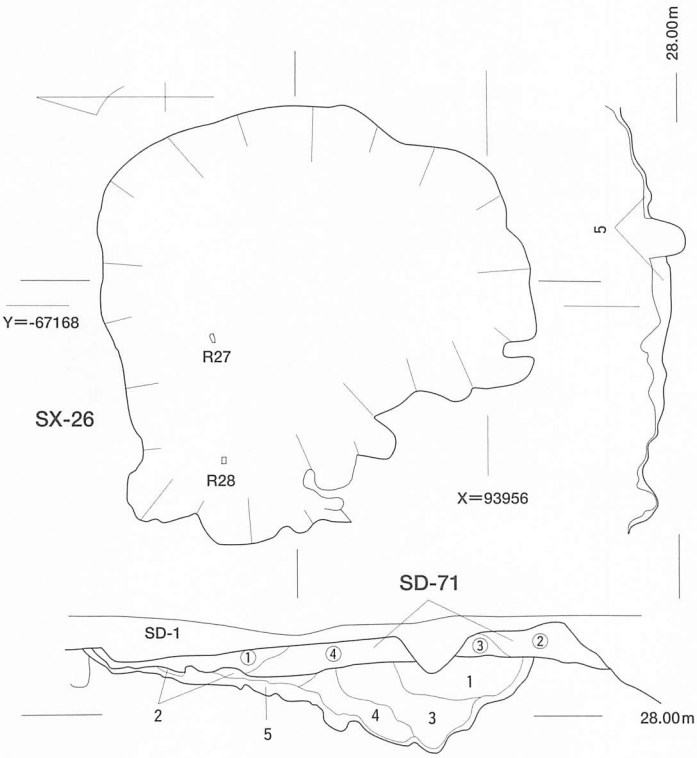


図106　SX-19出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）



SD-71
①：にぶい黄褐（10YR4/3）砂質土。明黄褐色土をベースに、暗褐色土と1㎜未満の砂粒がラミナ状に混在。
②：暗褐（10YR3/3）砂質土。3㎜大のにぶい黄色土が斑状に混じる。
③：にぶい黄褐（10YR4/3）砂質土。1㎝大の暗褐色土が、斑状に少し混じる。
④：褐（10YR4/4）砂質土。にぶい黄色土と暗褐色土が、3～5㎜大のブロック状に混じる。

SX-26
1：浅黄（2.5Y7/4）砂質シルトが主体。褐灰（10YR5/1）砂質シルトの不定形ブロックが少量混じる。1㎝大の鉄分塊が少量混じる。
2：褐灰（10YR5/1）砂質シルトの不定形ブロックが主体。浅黄（2.5YR7/4）砂質シルトの1㎝大のブロックが少量混じる。
3：浅黄（5 Y8/4）砂質シルトが主体。褐灰（10YR5/1）砂質シルトの1㎝大のブロックがごく少量混じる。鉄分の塊が少量混じる。Ⅳ層と比べてやや粘性あり。
4：浅黄（5 Y8/4）砂質シルトが主体。褐灰（10YR5/1）砂質シルトの不定形ブロックが混じる。鉄分の塊が少量混じる。
5：黄橙（7.5YR8/8）～橙（5 YR7/8）土が主体。非常にしまりがある。部分的に砂質ブロックを含む。

0　1 m

図107　SX-26遺構実測図（縮尺1/20）

壺底部片や須恵器大甕片、土師器皿底部片、瓦器椀体部片などもある。

SD-2底面での検出であるが、本来他のSX遺構同様に、SD-2を掘り込む遺構と考えられ、14世紀以降に位置づけられる。　［三吉・山田］

⑥　**SX-26**（図107・巻頭図版3）

CV12区のSD-1・71の下部で検出。本来は約1.1m四方の隅丸方形であると想定される。底面は、鉄・マンガン分の沈着が全面に及び、黄橙～橙色を呈する。また、細かな凹凸が多数見られる。凹凸中には、径10

cm前後の小穴もあるが、柱痕などはみられない。

鉄分層を取り除く過程で、下部の砂質土層との間に粘性をもつ黒褐色土が見られたが、ほとんどは鉄分層に付着して剥離し、断面では観察できていない。

弥生土器壺・甕の小指先～親指先大の小片が、⑥層を中心に約20点、少量は鉄分層に混じって出土した。弥生時代中期後葉の甕片が見られ、古墳時代に下る遺物はない。微細遺物には、炭化物・骨小片・赤色顔料があり、炭化物は細片ながら、埋土中と鉄分沈着層下部から、比較的多く出土している。

時期は、SD-１・71下部での検出から、14世紀以前に遡る。SX-26埋土（⑤～⑧層）がシルト質であること、鉄・マンガン分の沈着層があることなどから、流水を伴った溝との関連が考えられる。調査区周辺では、古代に遡る流水を伴った溝は確認されてなく、SX-26は中世段階の遺構と想定する。［三吉］

（５）柱穴・小穴

Ⅲ層の上面検出、あるいはＡ類型の埋土かSD-４等と同様の砂礫を埋土とし、古代以降と判断した柱穴は31基。詳細は遺構一覧表に拠るが、遺物の出土した２例について、説明を加えておく。［吉田］

［SP-130］（図108・109、図版14-６・31-９）

径約40cm、深さ約15cm。中央に、口縁を下にして土師質土器羽釜（２・R24）が据えられていた。埋土はにぶい黄褐色砂質土。出土遺物から２点を図化した。１は土師器坏底部。底面に回転糸切り痕と板目状圧痕が見える。２は土師質土器羽釜の上半部。外面は広範囲に煤が付着している。他に、中世土師器皿片、瓦器皿片、土師質土器羽釜片が出土している。［吉田］

［SP-134］（図108・109、図版31-10）

径約30cmの不整円形で、深さ約35cm。中央に径約10cmで深さ約５cmの小穴があり、柱本体部分と推定される。埋土最上部から土師器小皿（４・R29）が立ったような状態で出土した。これも含めて図化できた遺物は土師器２点。３は坏底部。４は小皿、底面に回転糸切り痕を確認できる。口縁端部の一部に煤が付着し、灯明皿として使用されていたことが窺える。［吉田］

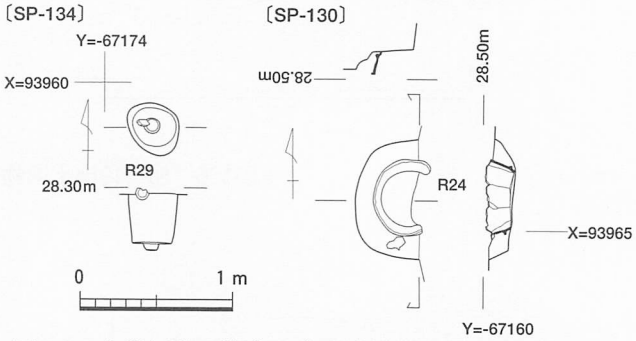


図108　古代以降の柱穴・小穴遺構実測図（縮尺１/50）

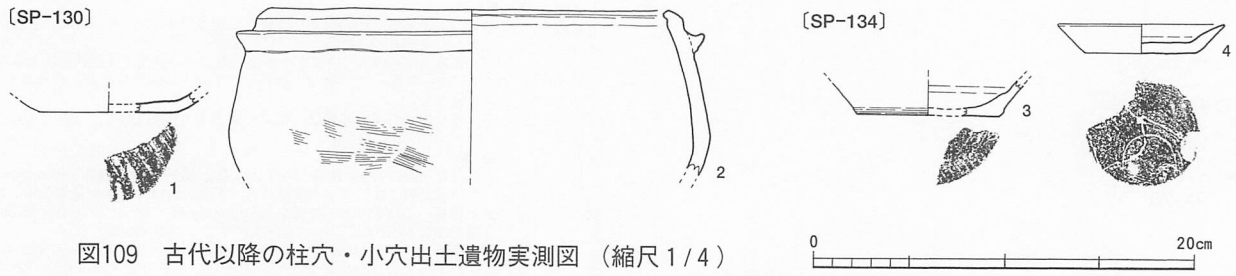


図109　古代以降の柱穴・小穴出土遺物実測図（縮尺１/４）

（６）灰黄褐色砂質土出土の遺物（図110、図版31-11）

調査区北東部の、CS13･14区、CT13･14区とCU13･14区では、Ⅰ・Ⅱ層除去後、灰黄褐色砂質土が薄く広がり、灰黄褐色砂質土下で、Ⅲ層あるいはⅣ層が検出された。流水性の堆積土である。

遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・中世土師器の細片で、５点を図化した。１・２は弥生土器。１は壺の肩部で、板状工具の小口を用いた短斜線状の押圧を巡らす。２は高坏坏部で、口縁端部を内外に拡張し、端部外面に１条の凹線を施す。３・４は土師器坏の底部。４の底部には回転糸切り痕が見られる。５は結晶片岩製の磨製石鏃未製品と見られ、一部研磨痕が認められる。［吉田・濱田］

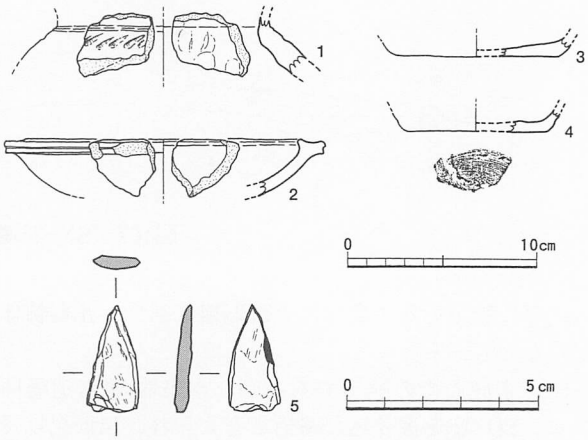


図110　灰黄褐色砂質土出土遺物実測図（縮尺１/４、１/２）

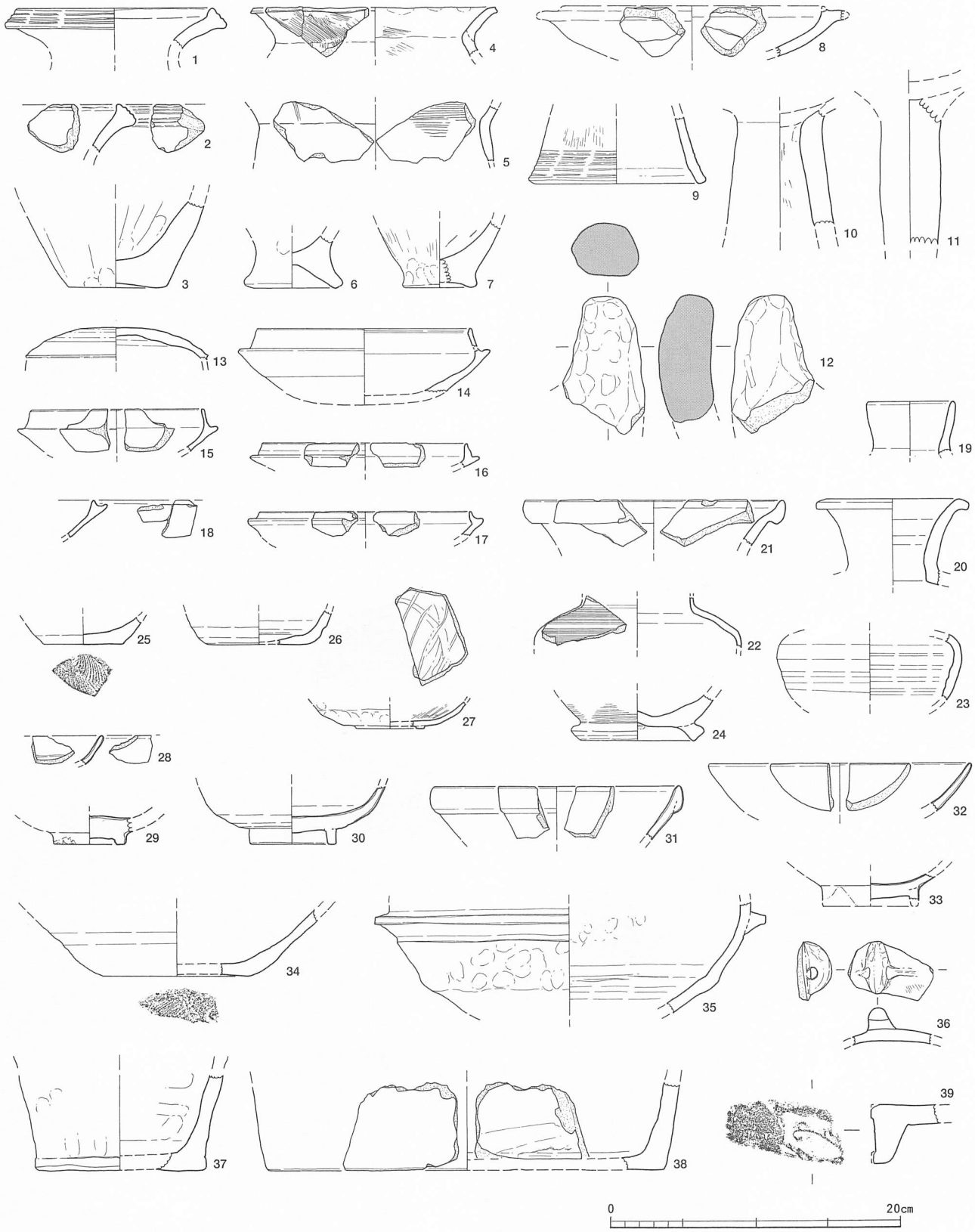


図111　攪乱層出土遺物実測図(1)（縮尺１/４）

E　攪乱層出土の遺物（図111～113、図版32）

調査開始時には、城北団地基本層序のⅠ層とⅡ層を攪乱層として除去した。その重機掘削の際、あるいは重機の入らない狭い範囲の攪乱層掘削時に出土した遺物も少なくない。測量杭設置前のため、およそ本体調査区を北東・北西・南東・南西に４分した取り上げである。また、当初SK-10と認識した遺構も、その後埋土からガラスが出土するなどしたため、SK-10出土遺物も攪乱層出土として取り扱っている。なお、北１区と北３区の攪乱層出土遺物は、既にそれぞれの地区で報告した通りである。攪乱層出土遺物は、コンテナ約３箱分である。この中から、下層の状況を補完するような、図化可能な遺物57点を掲載した。

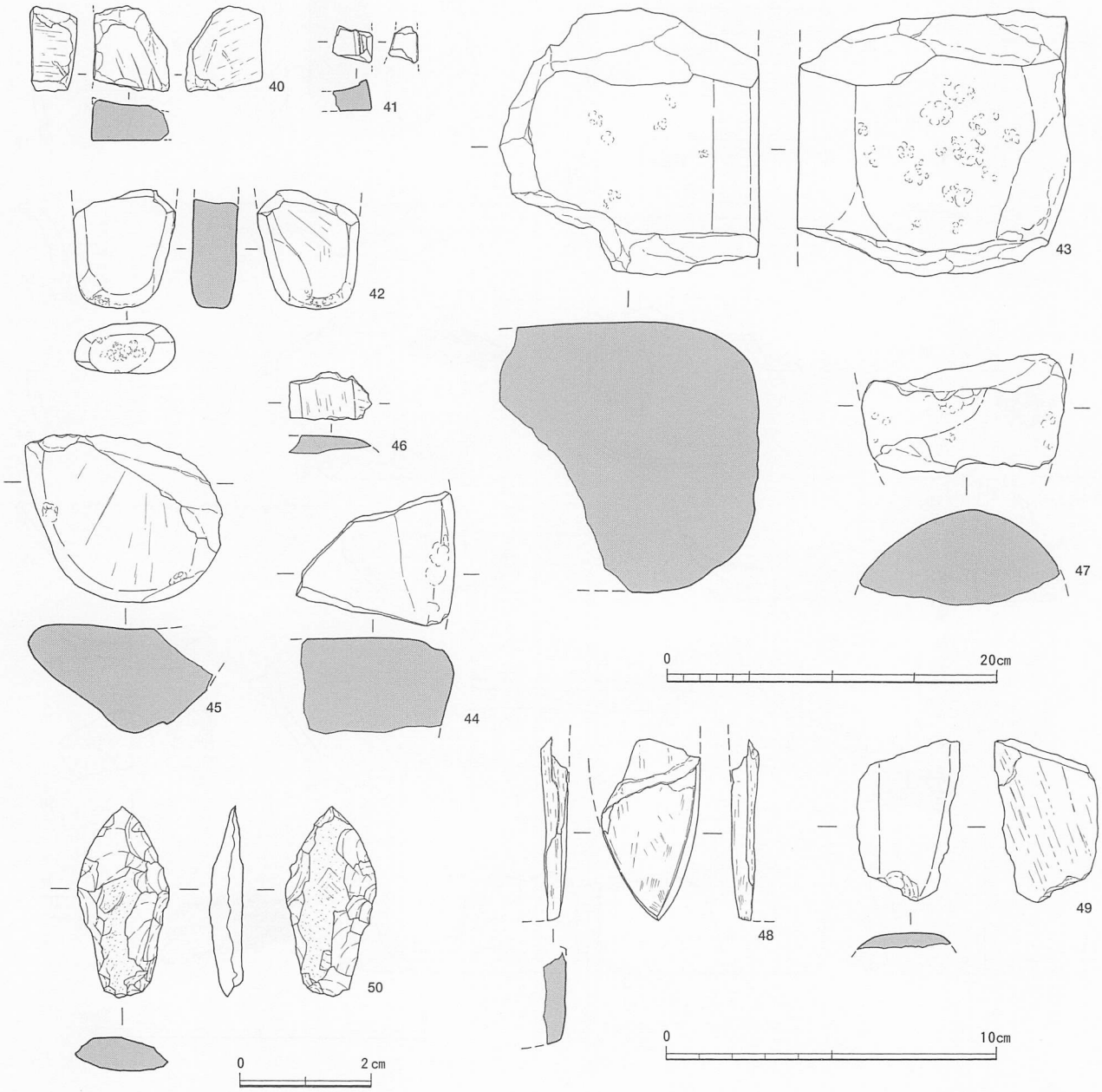


図112　攪乱層出土遺物実測図(2)（縮尺１/４、１/２、１/１）

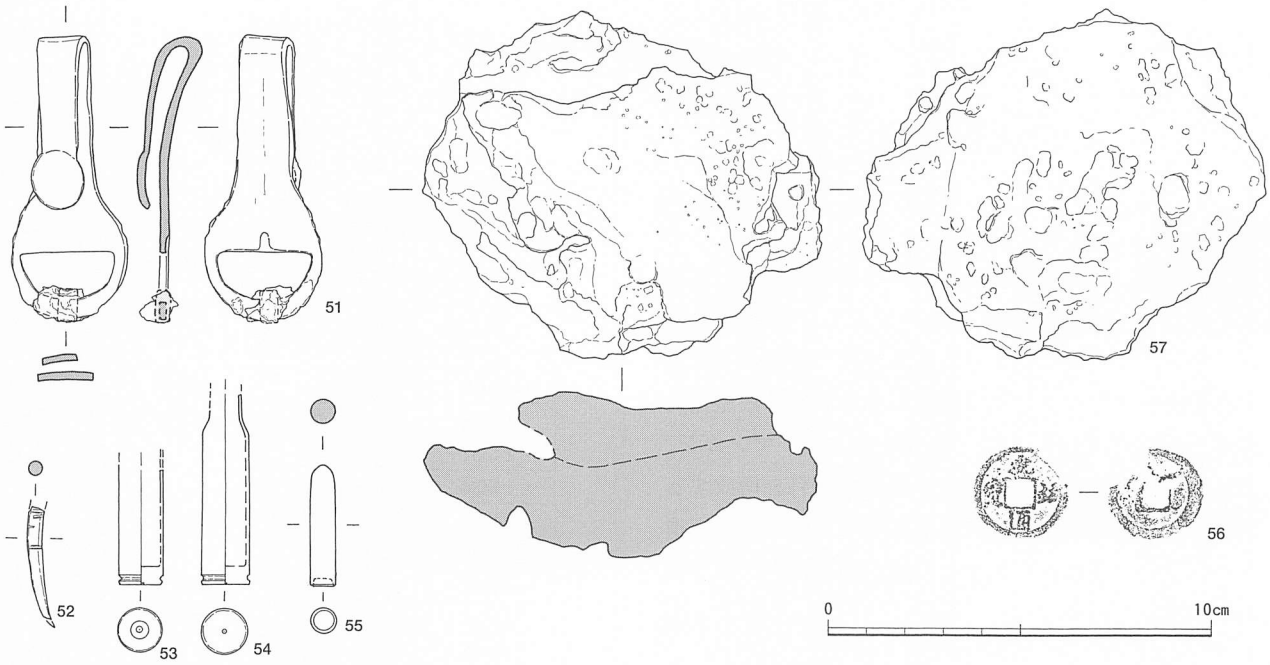


図113　攪乱層出土遺物実測図(3)（縮尺１/２）

１～12は弥生土器。１・２は凹線文を有する壺口縁部。中期後葉。３は壺底部で、かすかに上げ底状。４・５は甕の口縁部から頸部。いずれも後期。６・７は甕底部。８～11は高坏。８は口縁が水平に伸びるタイプ。中期中葉。９は脚裾部に凹線文を有する。中期後葉。10・11は脚部で、11は中実。12は大型の支脚把手部。

13～24は須恵器。13は坏蓋天井部で、わずかに稜部が残り、回転ヘラケズリの範囲も広い。６世紀前葉。14～18は坏身。14は口縁内端面に凹線が残り、６世紀前葉。15は比較的高い立ち上がりを残すが、端部は単純で、６世紀前葉から中葉。16・17は立ち上がりが低くなり、６世紀後葉。18はほとんど立ち上がりがなくなり、７世紀初頭まで降る。19～24は壺・瓶類。19は平瓶の口縁部か。20は提瓶口縁部。21は壺口縁部。22は短頸壺の肩部。23は壺の体部。下端部にわずかに回転ヘラケズリの痕跡が残る。24は壺の底部。

25・26は土師器坏。25は底部に回転糸切り痕をもつ。27は瓦器椀底部。断面長方形の低平な高台を貼り付け、内面に暗文風のミガキが認められる。

28～30は青磁。28は見込みに圏線が巡る。29は厚い碗底部で、釉調は濃い。29の磁胎は須恵質に近く、釉もやや薄い。31～33は白磁碗。

34は、須恵質陶器鉢の底部。底部に回転糸切り痕が見られる。35は土師質土器鍋の体部。最大径部分に鍔状の突帯が巡る。外面は煤の付着が著しい。36は半環状の耳を有する破片。一応土師質土器としたが、詳細不明。37・38は瓦質土器壺の底部。39は平瓦瓦当部。唐草文の端部が見える。近世段階。

40～49は石器。40・41は砥石。ともに、方柱状の４面を使い込んだ破片。砂岩製。42は砂岩製の敲石。端部に敲打痕が残る。43～47は台石ないし磨石。43は上面が特に平滑に使い込まれ、側面もよく研磨されている。砂岩製。44は花崗岩製の台石で、１面が平滑に使い込まれている。45は断面三角形状で、図示した面がやや凹状を呈し、最も使い込まれている。46は研磨された面の一部が残るのみ。47は断面楕円形の一部。表面には敲打痕がわずかに残る。48は柱状片刃石斧の側面の破片。わずかに刃部が残る。結晶片岩製。49は結晶片岩片で、研磨痕をもつ。柱状片刃石斧等の未製品か。50はサヌカイト製打製石鏃。凸基式で、重量1.8ｇを測る。

51～57は金属関連遺物。51～55は青銅器で、いずれも戦前の練兵場時代の遺物。51は、栓抜きを折り曲げたような形状で、柄状部の端部はボタン状。孔部に幅５㎜程の鉄輪が付着する。柄状部を折り曲げた間にベルトを通し、鉄輪を介して軍刀を吊り下げる金具らしい。52は細い角状の青銅製品。用途不明。53・54は薬莢、55は銃弾で、これらがセットになる。56は銭貨。「元祐通寶」とあり、宋代の貨幣である。57は鉄滓。大きな椀状滓で、平坦な上側の面は気泡も少なく、平滑な範囲が広い。なお、全体に２層状を呈し、下層部分からは、湯口状の突部が伸びている。　［吉田］

5　自然科学的分析

A　文京遺跡出土赤色顔料の分析

南　武志（近畿大学）

概要

愛媛県松山市文京遺跡は古代より近代までのおびただしい数の遺跡が認められるめずらしい遺跡群である。今回、20次調査によって弥生時代の遺構から赤色顔料が出土したので、その構成成分を波長分散型蛍光X線分析装置で分析した。その結果、鉄、マンガン、チタンが含まれていた。この中で赤色顔料を構成するのは酸化第二鉄（ベンガラ）であることから、文京遺跡弥生時代の遺構から出土した赤色顔料はベンガラであると推定した。

（1）はじめに

古代に用いられた金属を含む赤色顔料として、朱（硫化水銀）、ベンガラ（酸化第二鉄）、鉛丹（四三酸化鉛）、鶏冠石（二硫化二ヒ素）の４種類が知られている。この中で、朱とベンガラは土器の装飾に用いられていたことが確認されている。また弥生時代から古墳時代において、墳墓の埋葬儀式として、朱だけ、ベンガラだけ、あるいは両者を併用して壁面や柱、床を赤く塗装したり、遺体や衣服に塗布したり、と様々な用い方をしている。細かく粉末状に精製された朱は血紅色を呈し、ベンガラは時間がたつと茶褐色に近い色を呈することから、両者を区別することは比較的楽である。しかしながら、精製が不十分でしかも粒子の径が大きい朱は、くすんだ赤色を呈している。また、いわゆる赤色を呈しているベンガラも遺跡から採取されている。それ故、両者を正確に肉眼で見分けることは難しく、化学分析を行う必要がある。

（2）分析試料と分析方法

①　分析試料

分析には、文京遺跡20次調査SC-35より出土した赤色顔料を用いた。その部位は、ｒ4066、ｒ4312（炭化物）、ｒ4315（炭化物）、ｒ4331、ｒ4334、ｒ4353、ｒ4356、ｒ4363、ｒ4376、ｒ4383の10箇所であった。赤色顔料は実体顕微鏡下で、できるだけ土壌部と赤色顔料部分に分け、分析に供した。

表３　文京遺跡20次調査赤色顔料分析試料一覧

遺物番号	出土部位	
（取上）	遺構	土層等
r4066	SC35	焼土・炭層②
r4312	SC35SK48	北東部
r4315	SC35SK48	南北畔清掃中
r4331	SC35SP518	
r4334	SC35SP523	
r4353	SC35SK48	東西畔上層
r4356	SC35SK48	南北畔北側上層
r4363	SC35SK48	北東部
r4376	SC35SK48	東西断割
r4383	SC35	床清掃

②　方法

波長分散型蛍光X線分析装置による存在元素分析。

赤色顔料を濾紙に広げ、プレス機で成形したのち、波長分散型蛍光X線分析装置（RIX2000：理学電気工業株式会社）で軽元素分析と重元素分析を行った。測定条件は以下の通りである。管電圧：50kV、管電流：50mA、試料ホルダーマスク径：30㎜φ、測定雰囲気：真空、重元素系分光結晶：LiF、重元素系検出器：SC、軽元素系分光結晶：Ge、軽元素系検出器：PC。

（3）結果

赤色顔料部分を蛍光X線分析装置で測定したところ、ｒ4066、ｒ4331、ｒ4356、ｒ4363の４部位は鉄とマンガンのみが検出された。ｒ4383は、鉄のみが検出された。またｒ4383以外の部位でも鉄とマンガンは検出された。ｒ4312、ｒ4334、ｒ4353、ｒ4376ではジルコニウムが検出され、ｒ4312、ｒ4334、ｒ4353の３部位ではルビジウムも検出された。さらに、ｒ4312、ｒ4353、ｒ4376の３部位ではストロンチウムも検出された。他にｒ4312とｒ4334で亜鉛が検出された。またｒ4315でイットリウムが検出された。いずれの部位からも水銀は検出されなかった。

〔r4066〕

〔r4312〕

〔r4315〕

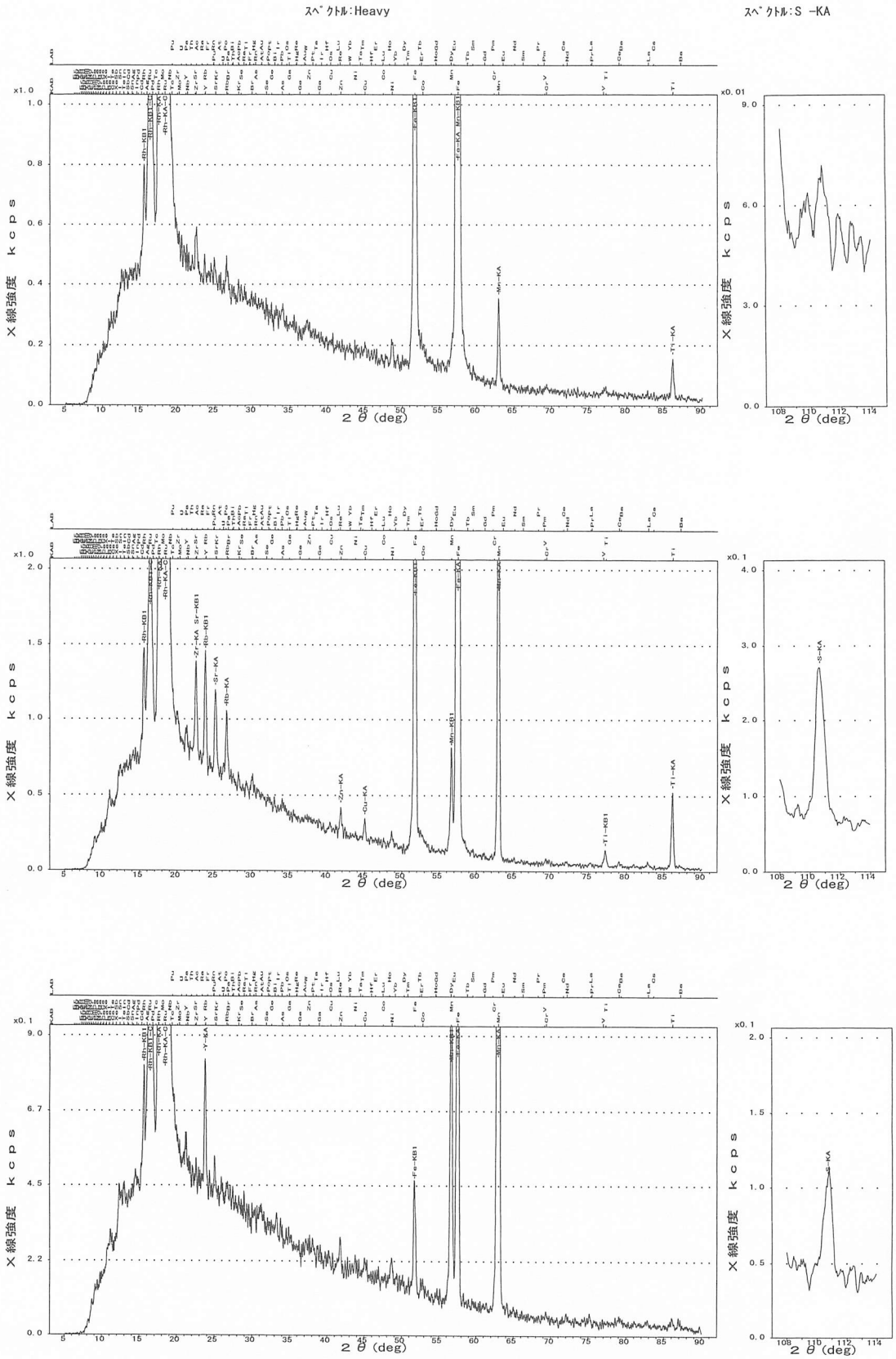
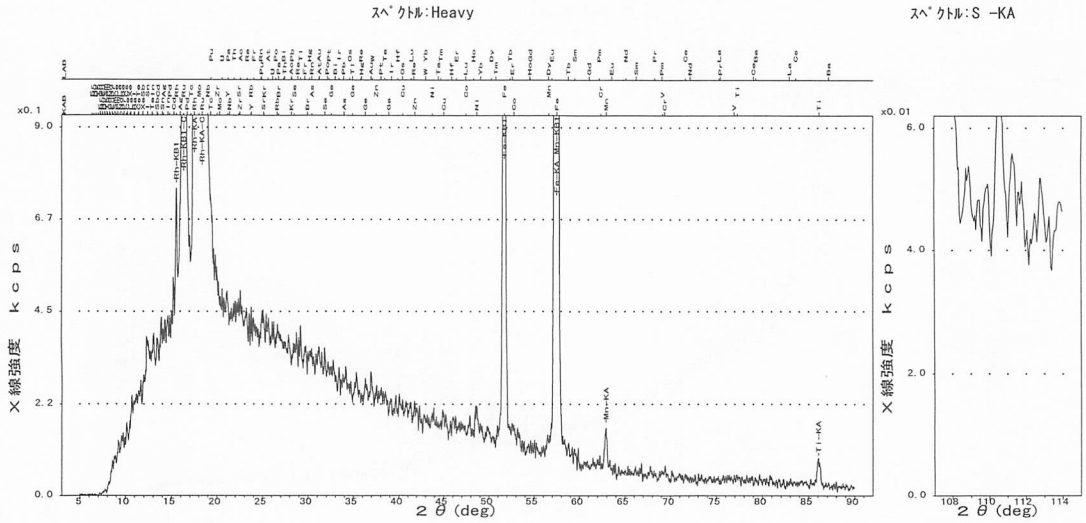
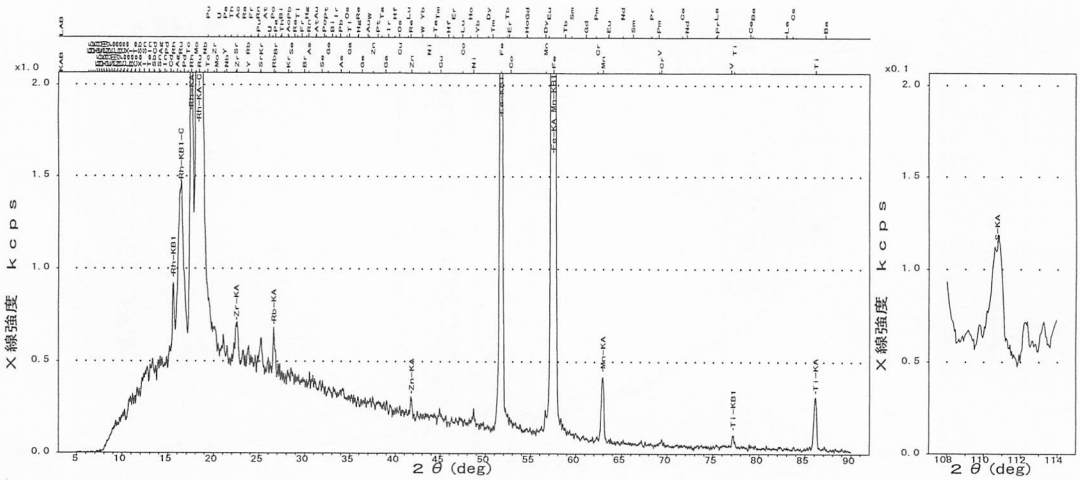


図114　文京遺跡20次調査出土赤色顔料の蛍光Ｘ線分析(1)

〔r4331〕



〔r4334〕



〔r4353〕

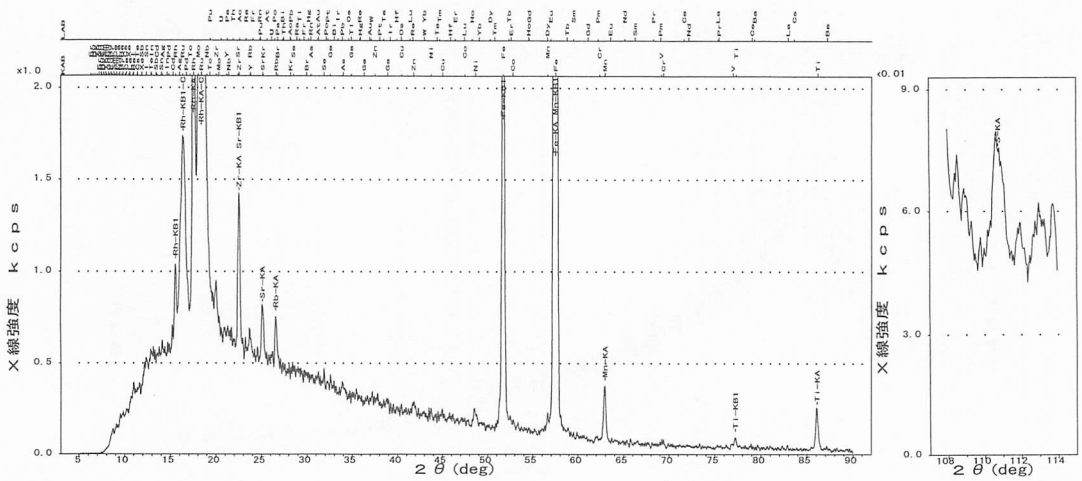


図115　文京遺跡20次調査出土赤色顔料の蛍光Ｘ線分析(2)

〔r4356〕

〔r4363〕

〔r4376〕

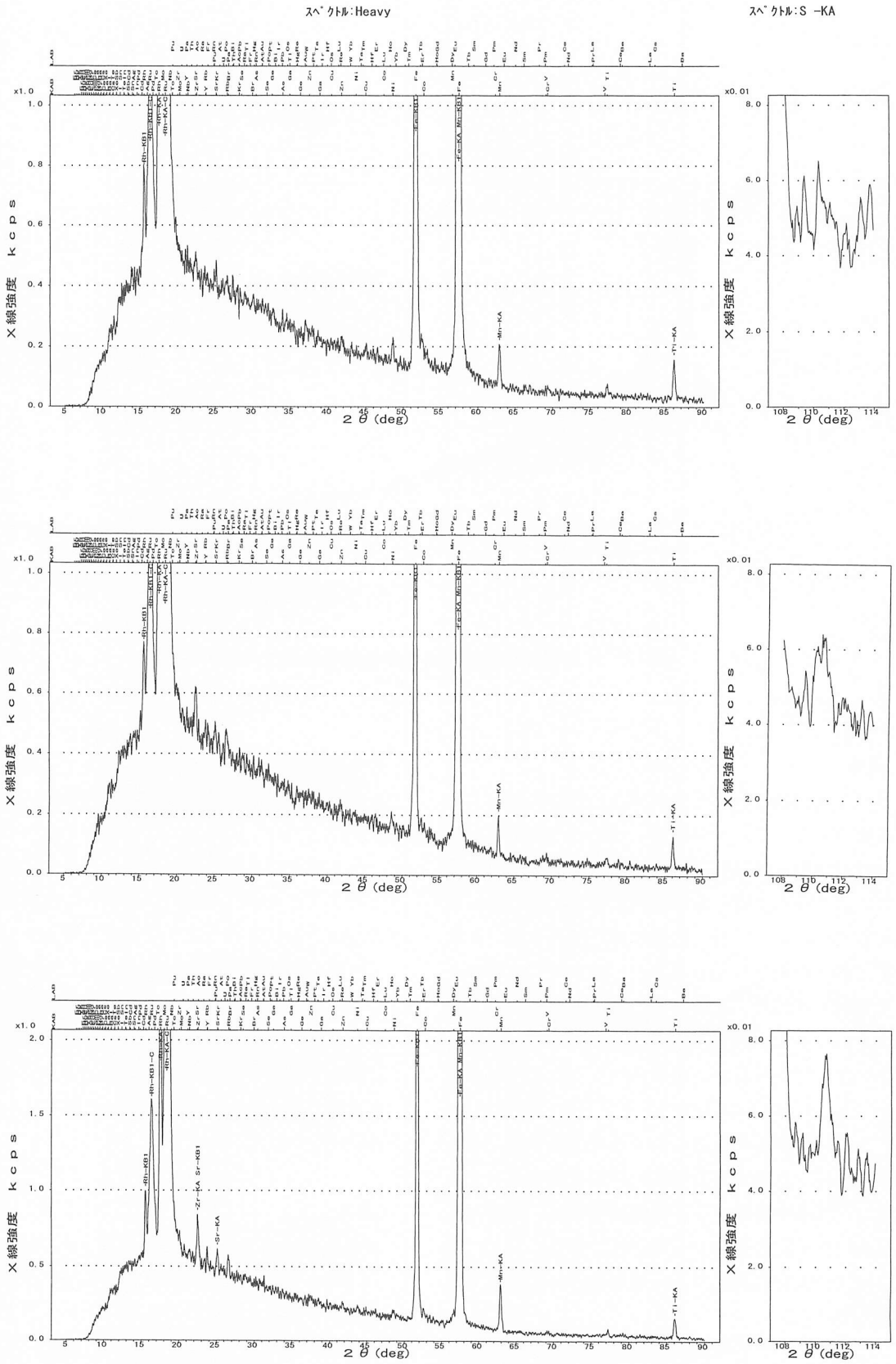


図116　文京遺跡20次調査出土赤色顔料の蛍光Ｘ線分析(3)

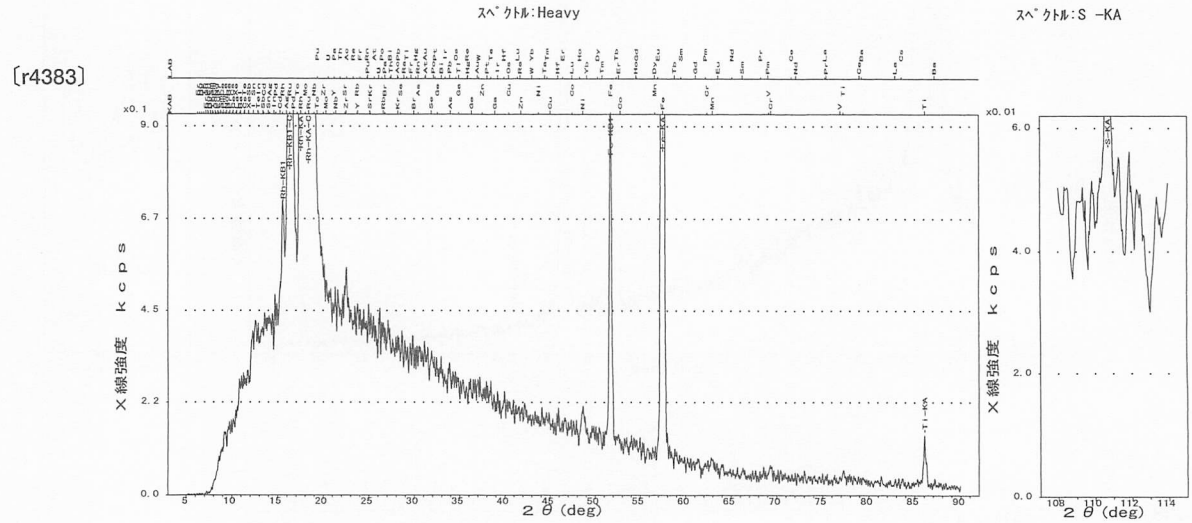


図117　文京遺跡20次調査出土赤色顔料の蛍光X線分析(4)

（4）考察

朱とベンガラはどちらも日本国内に豊富に存在する赤色顔料である。ベンガラは先土器時代から用いられていたのに対し、朱は縄文時代中頃以降から用いられていた。どちらも土器に赤彩を施す手段として用いられたと考えられる。一方、墳墓に赤色顔料を用いる風習は紀元前の中国でも見られるが、弥生時代中期の吉野ヶ里遺跡をはじめ、古墳時代にかけて数多くの王墓に観察されている。北部九州では、弥生時代後期中頃まで朱が主流であったが、その後ベンガラを使用するようになり、一つの墓で朱とベンガラを使い分けたり、ベンガラだけの使用が認められる墓も出現する。それに対し、中国・近畿地方では弥生時代後期より朱を多量に用いた墳墓が出現する。四国地方では、鮎喰川流域の縄文時代後期の遺跡から朱が見つかっており、また弥生時代終末期の遺跡である徳島県若杉山遺跡で朱を生産していた。

文京遺跡弥生時代の遺構から出土した赤色顔料が朱であるか、あるいはベンガラであるか明らかにすることは、北部九州や徳島あるいは畿内地方の影響を考察する一つの手段になると思われる。そこで蛍光X線分析を行ったところ、本遺跡から出土した赤色顔料はベンガラであり、朱は使用されていなかったと推察する。

ベンガラは日本全国いたるところで採取されていたと考えられるが、土器の彩色以外に遺構で観察されたことは、先に述べたように北部九州地方の影響を受けていた可能性が示唆される。一方、古くから朱を採掘していたと考えられる辰砂鉱山として、三重県丹生鉱山と奈良県大和水銀鉱山以外に、四国には若杉山遺跡に隣接する徳島県水井鉱山と愛媛県日吉鉱山があり、本遺構と日吉鉱山の関係については明らかにすることはできなかった。

〔参考文献〕

本田光子，赤色顔料の資料化，考古学ジャーナル，No. 438，2－3，1998.
成瀬正和，縄文時代の赤色顔料Ⅰ－赤彩土器－，考古学ジャーナル，No. 438，10-14，1998.
岡山真知子，弥生時代の水銀朱の生産と流通－若杉山遺跡を中心として－，考古学ジャーナル，No. 438，19-23，1998.

B　樹種同定

㈱古環境研究所

（1）はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

（2）試料

試料は、文京遺跡20次調査において出土した炭化材10点である。

（3）方法

試料を割折して炭化材の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1,000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

（4）結果

結果を表４に、主要な分類群の顕微鏡写真を図版33に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

ツブラジイ Castanopsis cuspidata Schottky ブナ科

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は、単列のものと集合放射組織が存在する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり、同性放射組織型である。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

以上の形質よりツブラジイに同定される。ツブラジイは関東以南の本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽性、保存性ともに低く、建築材などに用いられる。

コナラ属アカガシ亜属

Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科

横断面：中型から大型の道管が、１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。材は堅硬で強靭、弾力性が強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

シャシャンボ

Vaccinium bracteatum Thunb　ツツジ科

表４　文京遺跡20次調査樹種同定結果

遺物番号（取上番号）	出土遺構	結果（学名／和名）	
木材W	SC-35	*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ
木材X	SC-35	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
木材Y	SC-35	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
木材Z	SC-35	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
	SC35SP517	unknown	不明
	SC35SP518	unknown	不明
r4039	SC-28　３区埋土	conifer	針葉樹
r4066	SC-35 焼土・炭層②	*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
r4313	SC35SK48　東西畔上層	*Vaccinium bracteatum* Thunb.	シャシャンボ
r4368	SC35SK48　東南部下層	*Vaccinium bracteatum* Thunb.	シャシャンボ

横断面：小型で角張った道管が、単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく10本前後のものが多いが、まれに単穿孔も認められる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと、６～８細胞幅で長い紡錘形を示す多列のものからなる。多列のものはほとんどが平伏細胞からなるが、上下縁辺部と側面部に直立細胞が見られる。

以上の形質よりシャシャンボに同定される。シャシャンボは関東南部以西の本州、四国、九州に分布する。常緑の低木で、通常高さ１～５m、径10cmぐらいであるが、大きいものは高さ10m、径70cmに達する。

針葉樹 conifer

横断面：仮道管と放射組織が存在する。

放射断面：仮道管と放射組織が存在する。

接線断面：仮道管と単列の放射組織が存在する。

以上の形質より針葉樹に同定される。なお本試料は小片のうえ保存状態が悪く、広範囲の観察が困難であった為、針葉樹の同定にとどまる。

不明 unknown

本試料は、土壌中に炭化物が存在するが、極めて微量であり、また木材の形質を呈していない為、不明とした。

（５）所見

同定の結果、文京遺跡20次調査出土の炭化材は、ツブラジイ１点、コナラ属アカガシ亜属４点、シャシャンボ２点、針葉樹１点、不明２点であった。このうち、一番多く出土したコナラ属アカガシ亜属は、一般にカシと総称されるが、イチイガシやアカガシなど多くの種がある。温帯下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木であり、イチイガシなどは自然度が高いが、アラカシは二次林性でもある。ツブラジイとシャシャンボも、温帯下部の暖温帯の照葉樹林の構成要素である。またツブラジイは二次林要素でもある。

以上のことから、これらの樹種は本遺跡の周辺に普通に生育し、供給のできる木材であったと考えられる。

〔参考文献〕

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第１号，植生史研究会，p. 242.

C　種実同定

㈱古環境研究所

（１）はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

（２）試料

試料は、水洗選別済みの炭化物で、遺物番号ｒ4016の２点、ｒ4035の１点、ｒ4038の１点、ｒ4056の１点、ｒ4056の１点、ｒ4063の１点、ｒ4065の１点、ｒ4066の２点、ｒ4173の１点、ｒ4316の１点、ｒ4318の１点、ｒ4360の１点、ｒ4374の１点、ｒ4380の１点、ｒ4389の１点の、計17点である。

（３）方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

（４）結果

①　分類群

樹木１、草本３の計４分類群が同定された。学名、和名および粒数を表６に示し、主要な分類群を図版34に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

[樹木]

ヤマモモ　Myrica rubra Sieb. et Zucc.

炭化核片　ヤマモモ科

茶褐色で楕円形を呈し、両端がややとがる。一端にへそがあり、表面は粗い。断面は扁平である。

[草本]

イネ　Oryza sativa L.　炭化果実　イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。

アワ　Setaria italica Beauv.　炭化果実　イネ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。

イネ科　Gramineae　炭化果実

炭化した果実で、楕円形を呈す。胚の部分はとれていてくぼんでいる。

②　種実群集の特徴

1）r 4016：同定されなかった。

2）r 4016：イネ科１が同定された。

3）r 4035：ヤマモモ片２が同定された。

表５　文京遺跡20次調査種実同定試料一覧

遺物番号	出土部位	
（取上）	遺構	土層等
r4016	SC-27	１－４区間畔
r4035	SC-28	２区埋土
r4038	SC-28	２区焼土混土
r4056	SC-35	
r4061	SC-35	東半埋土
r4063	SC-35	西半埋土
r4065	SC-35	西半埋土
r4066	SC-35	焼土・炭層②
r4173	SP-172	
r4316	SC35SK48	南東部焼土層
r4318	SC35SP520	
r4360	SC35SK48	東西畔下層
r4374	SC35SK48	焼土下埋土南西部
r4380	SC-35	焼土①東半
r4389	SC-23	焼土５

表６　文京遺跡20次調査種実同定結果

分類群		部位	遺物番号（取上番号）								
			r4016	r4016	r4035	r4038	r4056	r4061	r4063	r4065	r4066
学名	和名		1	2	3	4	5	6	7	8	9
Arbor	樹木										
Myrica rubra Sieb. et Zucc.	ヤマモモ	炭化核片			2	1					
Herb	草本										
Oryza sativa L.	イネ	炭化果実					1	4	3	1	13
		炭化果実片									
Setaria italica Beauv.	アワ	炭化果実									
Gramineae	イネ科	炭化果実		1							
Total	合計		0	1	2	1	1	4	3	1	13

分類群		部位	遺物番号（取上番号）							
			r4066	r4173	r4316	r4318	r4360	r4374	r4380	r4389
学名	和名		10	11	12	13	14	15	16	17
Arbor	樹木									
Myrica rubra Sieb. et Zucc.	ヤマモモ	炭化核片								
Herb	草本									
Oryza sativa L.	イネ	炭化果実		1	3	1	1	2	4	
		炭化果実片								1
Setaria italica Beauv.	アワ	炭化果実	4							
Gramineae	イネ科	炭化果実								
Total	合計		4	1	3	1	1	2	4	1

4） r 4038：ヤマモモ片１が同定された。
5） r 4056：イネ１が同定された。
6） r 4056：イネ４が同定された。
7） r 4063：イネ３が同定された。
8） r 4065：イネ１が同定された。
9） r 4066：イネ13が同定された。
10） r 4066：アワ４が同定された。
11） r 4173：イネ１が同定された。
12） r 4316：イネ３が同定された。
13） r 4318：イネ１が同定された。
14） r 4360：イネ１が同定された。
15） r 4374：イネ２が同定された。
16） r 4380：イネ４が同定された。
17） r 4389：イネ片１が同定された。

（５）考察

文京遺跡20次調査で出土した種実について同定を行った。試料はいずれも炭化していたが、食用となる有用植物ではヤマモモが、栽培植物ではイネ（炭化米）、アワがそれぞれ同定された。ヤマモモは野生に生育した樹木から採集されたと考えられる。イネは弥生時代以降比較的よく検出され、出土例が多い。アワは弥生時代以降においてイネとともに栽培されていた作物であるが、検出はまれである。

〔参考文献〕

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.
笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣出版，p. 131-139.
南木睦彦（1991）栽培植物．古墳時代の研究第４巻生産と流通Ⅰ，雄山閣出版株式会社，p. 165-174.
南木睦彦（1992）低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナルNo. 355，ニューサイエンス社，p. 18-22.
南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p. 276-283.
吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナルNo. 355，ニューサイエンス社，p. 2 -14.
渡辺誠（1975）縄文時代の植物食．雄山閣，187p.
金原正明（1996）古代モモの形態と品種．月刊考古学ジャーナルNo. 409，ニューサイエンス社，p. 15-19.

D　動物遺存体同定

㈱古環境研究所

（１）はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、遺跡で動物遺存体が出土するのは、貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されつつある。しかし乾燥した沖積平野遺跡ではほとんどの動物遺存体が、長い年月の間に腐食して土に還ってしまっている。しかし、その中でも動物の歯、特にエナメル質は、動物骨格の中でも腐食に強く、特に大きく堅固なウシやウマの臼歯のエナメル質が、乾燥環境から出土する例は珍しくない。また微細な魚骨の歯のエナメル質は、発掘中に肉眼で採集することは不可能で、遺構の埋土を１ミリ以上のフルイ面上で洗うことが必要である。こうした哺乳類の歯のエナメル質、灰化して無機質化した微細な魚骨からそれぞれの種類を同定し、その生態的情報を援用して当時の環境を復元したり、過去の人々の生業や食生活を知ることが可能である。

（２）試料

試料は、文京遺跡20次調査において出土したもので、動物の歯など10点である。

（３）方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。

（４）所見

①　分類群

分析の結果、哺乳類２分類群が同定された。

学名、和名および部位を表７に示し、各試料の写真を図版35・36に示す。

[哺乳類]

ウシ　Bos Taurus

ウマ　Equus cabalus

②　動物遺存体の特徴

1）Ｒ６：ウシ　右下顎骨（Ｍ１～Ｍ３）及び右下顎前臼歯（Ｐ３）

右下顎骨（Ｍ１～Ｍ３）の後臼歯列長は90.8㎜で、成獣のものと考えられる。また、右下顎前臼歯（Ｐ３）は巨大であるので、若獣で近年のものである可能性がある。

2）R17：ウマ　右上顎臼歯

3）R22：ウシ　臼歯破片

4）r 2070：ウマ　下顎臼歯

5）r 2111：ウシ　上顎臼歯
（Ｐ２、Ｐ３または４、Ｍ１～Ｍ３）
ウマ　右上顎臼歯

6）r 2132：ウマ　下顎臼歯（Ｍ３）
ウマ　下顎臼歯破片

破片は、摩耗の進行の度合いから10歳以上の老齢に相当すると考えられる。

7）r 2175：ウマ　左上顎臼歯

摩耗の進行の度合いから10歳以上の老齢に相当すると考えられる。

8）r 2198：破片が小さいため同定には至らなかった。

9）r 4010：破片が小さいため同定には至らなかった。

10）r 4035：破片が小さいため同定には至らなかった。

〔参考文献〕

西中川駿編（1991）古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究．平成２年度文部省科学研究費補助金（一般研究Ｂ）研究成果報告書，197p.

表７　文京遺跡20次調査動物遺存体同定結果

遺物番号	出土遺構	小分類	学　名	種　類	部　位		部　分	備　考
R6	SD-2 下層	ウシ	*Bos taurus*	哺乳類	右 下顎骨		M1 ～ M3	後臼歯列長 90.8 ㎜、成獣
		ウシ	*Bos taurus*	哺乳類	右 下顎 前	臼歯	P3	若い、巨大（近年のものか？）
R17	SD-1 上層	ウマ	*Equus cabalus*	哺乳類	右 上顎	臼歯		
R22	SC-23	ウシ	*Bos taurus*	哺乳類		臼歯	破片	
r2070	SD-1 東断割下層	ウマ	*Equus cabalus*	哺乳類	下顎	臼歯		
r2111	SD-2 中層	ウシ	*Bos taurus*	哺乳類	上顎	臼歯	P2、P3or4、M1 ～ M3	
		ウマ	*Equus cabalus*	哺乳類	右 上顎	臼歯		
r2132	SD-3 下層	ウマ	*Equus cabalus*	哺乳類	下顎	臼歯	M3	
		ウマ	*Equus cabalus*	哺乳類	下顎	臼歯	破片	老齢
r2175	SX-14	ウマ	*Equus cabalus*	哺乳類	左 上顎	臼歯		老齢
r2198	SX-26 清掃中	不明						
r4010	SC-27 1 区埋土	不明						
r4035	SC-28 2 区埋土	不明						

6 まとめ

（1）遺構の変遷（図118）

時代毎に調査成果を記述してきたが、20次調査地点における遺構の変遷を、まとめておく。

[縄文時代]

縄文時代に遡る遺構は確認できていない。ただし、わずかながらも、縄文土器数点と、縄文時代に遡る可能性のある打製石鏃などの石器が出土している。

[弥生時代]

弥生時代においては、調査区の中央部と西部に遺構が存在する。中期中葉から後葉の遺構である。中央部の遺構は、溜まり状の窪地といった状況に近く、遺物も少ない。一方、西部の溝群も、Ⅲ層下部のSX-32が溝群以西に重なり、Ⅲ層の堆積は厚いものの、溝群に水流を伴った痕跡はなく、遺物も多くない。西側の13次調査区では弥生時代の遺構が多く展開し、20次調査区西辺の溝群は、弥生時代遺構の広がりの東辺を区画するような可能性も考えられる。そして、その溝の東側に接するように、中期後葉から後期前葉の小型竪穴式住居SC-35が１棟のみ存在し、打製石器製作が行われていたのである。

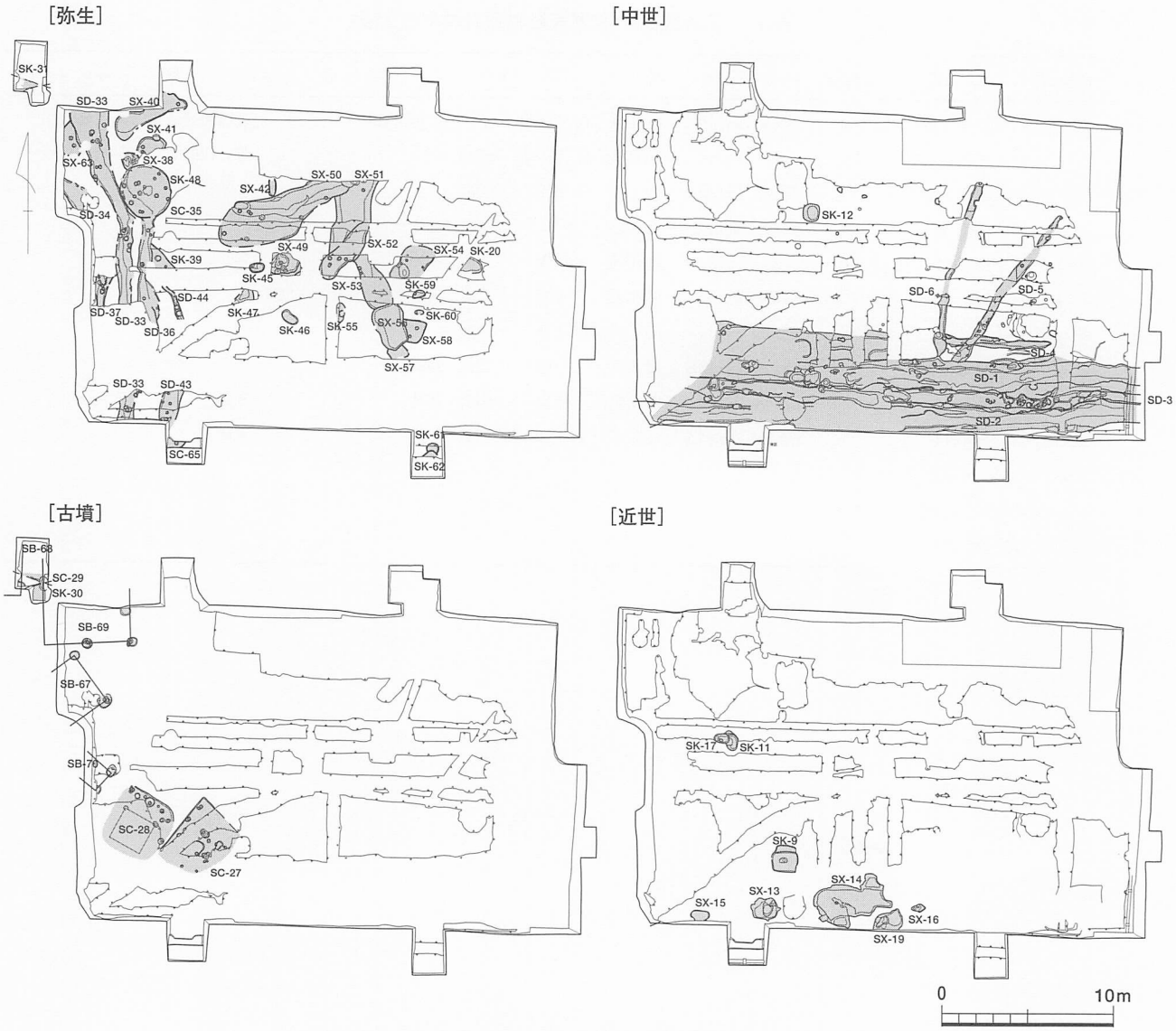


図118　文京遺跡20次調査遺構の変遷（縮尺１/400）

[古墳時代]

古墳時代は、ほぼ後期の遺構のみが確認されている。ただし、中期に遡る甕と鞴羽口が、CX14区のⅢ層から出土しており、20次調査区周辺での遺構の存在が予測される。あるいは、北１区で確認されたSC-29に、その時期まで遡る可能性がある。

確認された遺構は、弥生時代同様、北西部に偏る。竪穴式住居SC-27～29であり、掘立柱建物SB-67～70である。また、埋土類型Ｂとした古墳時代の柱穴も同様である。掘立柱建物の変遷は明確にできないが、竪穴式住居はSC-29→SC-28→SC-27と、およそ北から南へと変遷したことが窺える。

なお、北３区でも、竪穴式住居SC-23・24と土壙SK-25を確認しているが、遺構の平面的な広がりは不明である。

[古代～中世]

古代以降には、土地利用状況が大きく変わり、明確な生活遺構は見い出せなくなる。代わって、水路とみられる溝群が、調査区の南部あるいは東部に掘削されている。

まず、最も遡るのが、砂礫を多く含んだ埋土の、溝SD-４～６であり、12世紀代に埋没すると考えられる。また、出土遺物から、SD-３も同時期の可能性があり、SD-３を主水路として、SD-５・６がそれに合流する枝水路との想定もできる。

これらの後に掘削され、14世紀頃に埋没するのが、SD-１・２・71である。溝SD-５・６のような枝水路は調査区内で認められず、調査区南部を東西に基幹水路が西流している格好である。

[近世]

近世においては、南区で流水性堆積SD-64が認められ、なお一部では水路が存在している。しかし基本的には、埋没した溝の上に、SX-14他の掘り込みを伴う集石群が、調査区南西部に数基認められる。遺構の特徴とともに、付近で柄鏡が出土していること、北側に位置するSK-17には18世紀後半の没年を示す墓石が埋め込まれていることなどから、SX-14等は墓に関連する遺構である可能性が高い。同様な遺構は、西側の13次調査区でも、中世の水路の埋没後に掘削された、SK-19を見いだすことができる。

[近代以降ー練兵場時代]

調査においては、攪乱層として一括したが、その中には、戦前の練兵場時代の遺構・遺物が存在した。塹壕などの遺構の特定は難しいが、青銅製の銃弾や薬莢、軍刀吊り金具などが出土している。

金属供出の時代、これらの出土遺物損失を必死に探した様子を、この練兵場で鍛えられた世代から、伝え聞いている。

[まとめ]

20次調査区は、弥生時代以降、本格的に土地利用が開始される。まず、弥生時代から古墳時代においては、生活領域の縁辺的な位置にあたるらしい。それが古代以降、とりわけ中世には、農業用と位置づけられる水路が掘削され、生活領域から農地領域へと転換する。そして、近世には、水路が埋没して墓域への転換が窺える。以上のような土地利用の変遷を、20次調査地点において、描くことができる。　　[吉田]

（２） 竪穴式住居SC-35

SC-35は、弥生時代中期後葉から後期前葉に位置づけられる、直径約2.9～3.1ｍの円形竪穴式住居である。焼失住居であり、埋土の堆積状況、楔形石器や剥片・微細剥片・台石の存在、さらには顕微鏡を用いた微細剥片・台石の詳細な分析から、打製石器製作址であることが明らかになっている。また、サヌカイト製打製石鏃片が出土していることから、打製石鏃の製作が想定されている。

これまでも石核の存在などから、遺跡内における打製石器製作は想定されていたが、SC-35の検出によって、打製石器製作の事実確定と同時に、生産域という空間的なレベルから、生産場所というより具体的な資料に基づいて、遺跡内の構造を議論することが可能となった。

[文京遺跡における位置づけ]

文京遺跡では、弥生時代中期後葉～後期初頭において、東西約300ｍ・南北約200ｍの範囲に大規模密集型の集落が営まれ、遺跡内部には、大型掘立柱建物群からなる中枢域、ガラスや土器などを製作していた生産域、掘立柱建物群からなる貯蔵域、竪穴式住居を繰り返し建て替えた居住域などが想定されている（愛大埋文調査室編1998・下條1999）。

そのような中で、SC-35は、まず住居の大きさが特徴的である。文京遺跡における同時期の一般的な円形の竪穴式住居は、直径４～５ｍを測り、SC-35は一回り規模が小さいことになる。一方、SC-35から出土した屋根材と考えられる木材は、農耕具や建築部材に用

いられる、ツブラジイやコナラ属アカガシ亜属、シャシャンボであると同定され、一般的な竪穴式住居に共通している。このような状況は、打製石器製作などの特殊な目的を意図して、SC-35を建設したことを示唆する。

ところで、文京遺跡では、弥生時代中期後葉に位置づけられる、27次調査SC-９の埋土中においても、大量の弥生土器片に混じりながら、石器微細剥片が出土している。埋土床面や上部からも出土しており、出土遺物の多くは、SC-９廃絶後に流入した可能性が高い。しかし、微細剥片が遠距離を移動したとは考え難いことから、打製石器の製作あるいは再加工が、27次調査SC-９周辺で行われていたと考えられる。27次調査SC-９は、20次調査SC-35から東約110ｍの地点にあり、少し離れる。加えて、両住居跡間の20次調査区東部や26次調査Ｖ区、27次調査区西部では、当該期の竪穴式住居は、１棟確認されているのみで、密集していない。したがって、文京遺跡内では、打製石器製作用の竪穴式住居を複数地点に配置していた可能性も指摘できる。

[打製石器製作における位置づけ]

打製石器製作址である点を考慮し、SC-35の埋土全てに水洗選別を実施し、出土した剥片・微細剥片に関しても詳細な分析を行った。

顕微鏡を用いた観察により、サヌカイトの微細剥片は厚みをもち、縁辺部には潰れを確認できた。さらに微細剥片中には、１辺１㎜前後の砕片が含まれることから、楔形石器の使用あるいは両極打法を用いた石器製作が復元できた。一方、赤色頁岩の微細剥片には、平坦剥離が見られ、潰れもなく、砕片も出土していない点が指摘された。

加えて、微細剥片の分布にも、サヌカイトと赤色頁岩とでは違いが見られる。サヌカイトは埋土西側でも少量出土しているのに対して、赤色頁岩では、９割以上が東側埋土からの出土である（表２）。

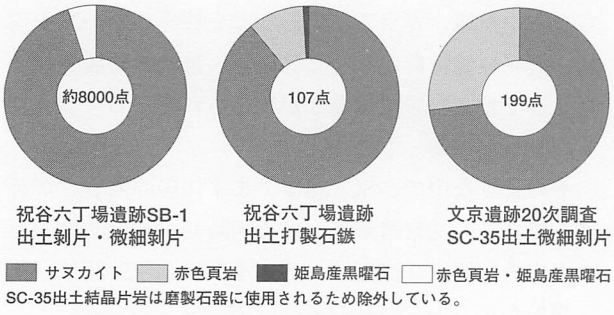


図119　打製石器石材組成

以上のような微細剥片の観察結果や住居内における分布の状況は、サヌカイトと赤色頁岩とでは、製作あるいは使用に関わる取り扱い方に違いのあったことを示している。

ところで、SC-35出土微細剥片を石材別に見てみると、SC-35出土総数202点中、サヌカイト146点（72％）、赤色頁岩53点（26％）、結晶片岩３点（２％）である（表２）。結晶片岩は、打製石器に用いられないことから、打製石器用石材としては、サヌカイトが73％を占めることになる。

道後平野では、SC-35と同時期の良好な打製石器石材組成を示す事例がないことから、一段階遡る中期中葉段階の、文京遺跡と同じ道後城北遺跡群に属する祝谷六丁場遺跡との比較を試みよう（図119）。打製石鏃工房と考えられている竪穴住式居SB-１からは、サヌカイト、赤色頁岩、姫島産黒曜石の剥片・微細剥片が約8,000点出土し、その内95％がサヌカイトであると報告されている（宮崎編1991）。また、加島（2001）によれば、祝谷六丁場遺跡出土の打製石鏃の石材比率は、107点中、サヌカイト製92点、赤色頁岩製14点、姫島産黒曜石製１点と、サヌカイトが86％を占める。比較する資料の性格に違いがあるが、文京遺跡SC-35ではサヌカイトの比率が低く、逆に赤色頁岩の比率が高い点を指摘できる。組成比の違いが、時期差によるのか、遺跡間の差異なのか、あるいは製作品の違いによるのか、石器製作址以外の製品資料を含めた検討が今後必要であろう。

なお、台石に関しても、顕微鏡を使用して、打製石器製作時に生じたと考えられる「キズ」が検出され、台石の用途を検討する際に、有効なモデルとなるものである。

以上述べたように、SC-35は石器製作址という遺構の性格から、発掘調査・整理を通じて、文京遺跡内の構造や打製石器製作に関わる様々な成果を得ることができた。しかし、今回の報告では、微細剥片に関しては大きな見通しを示すにとどまっている。また、石材の入手経路や打製石器製作工程の復元など、様々な課題も残る。製品資料を含めた検討を通じて、弥生時代中期後葉から後期前葉における打製石器生産と流通の実態解明に努める必要があろう。　　[三吉]

（3）中世の溝群（図120）

先に遺構の変遷でも述べたように、中世において20次調査地点には、水路としての溝群が掘削されていた。12世紀に埋没するSD－3・SD－4～6であり、14世紀に埋没するSD－1・2・71である。さらに近世にまで南側にはSD-64が残ってもいた。このうち、東西方向のSD－1～3・71については、東西の延長がそれぞれ別調査区で確認されている。

まず西側は、既報告の13次調査区である。調査段階では、SD－3と一括して掘削されているが、土層断面観察により、その中に4単位を見い出している。DB・DC区境界部SD－2・3土層断面（田崎編2004－Fig.135-③）に拠れば、①～⑥層、⑦・⑧層、⑨・⑩層、⑫～⑭層の4単位である。また、SD－3の北側一部には、SD－2と認識する浅い溝もあり、あるいは北から合流していた枝水路である溝の可能性も示唆されている。位置と切り合い関係からして、以下のように整理できる可能性が高い。すなわち、13次調査SD－3の①～⑥層、あるいは⑦・⑧層も加えたのが、20次調査のSD－1。13次調査SD－3⑦・⑧層ないし13次調査SD－2が、20次調査SD-71。13次調査SD－3⑨・⑩層が20次調査SD－2、13次調査SD－3⑫～⑭層が20次調査SD－3である。

ところが、13次調査でSD－3として一括取り上げた遺物は、底部に糸切り痕を残す土師器供膳具類や瓦器椀、玉縁口縁の白磁碗、土師質土器土鍋などと、およ

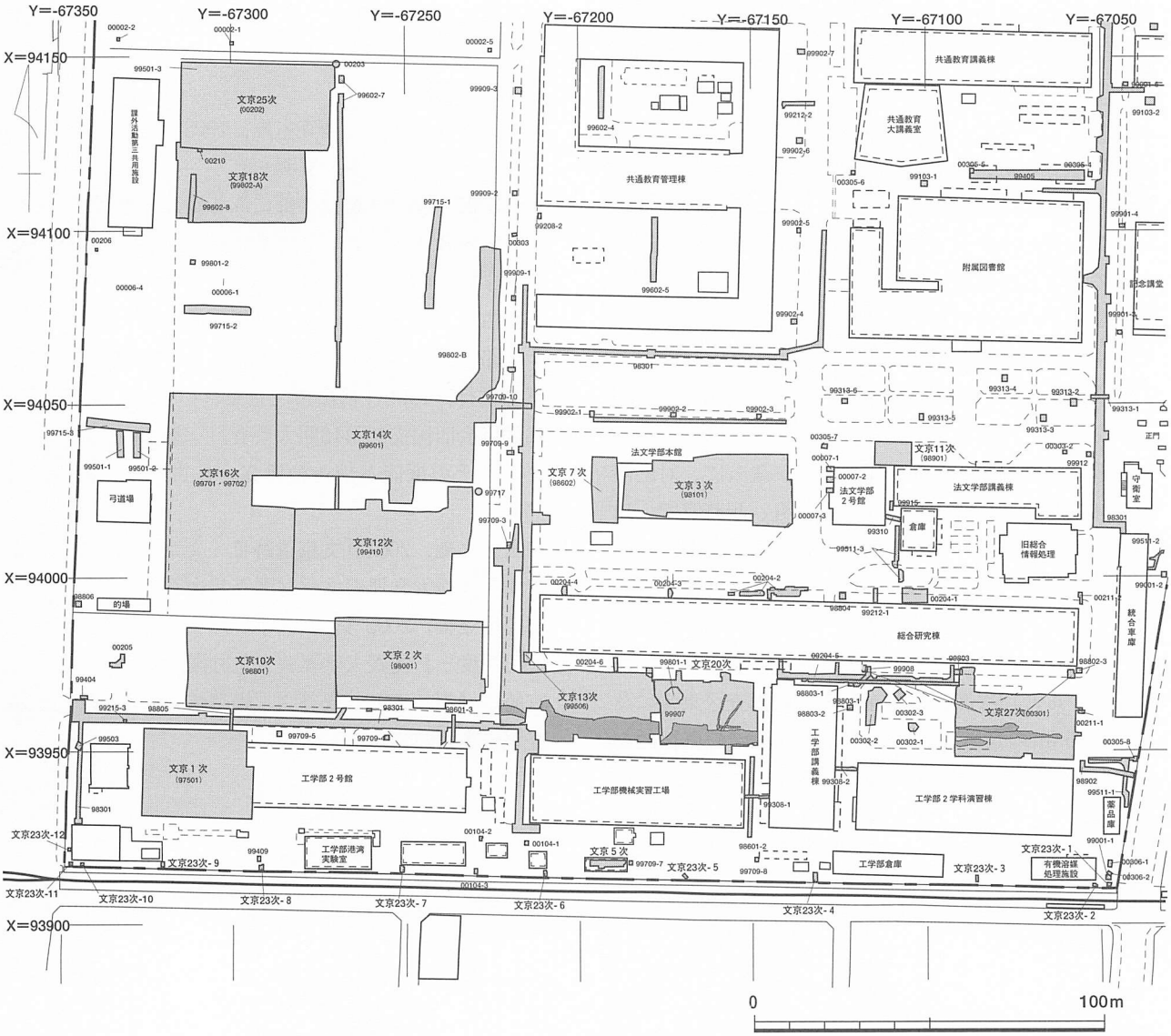


図120　文京遺跡南部の中世の溝（縮尺1/2,000）

そ12世紀頃を主体とし、新しい時期の遺物としては、擂目の密な備前焼擂鉢が１点示されている程度である。少なくとも、20次調査SD-１・２において認められた、土師質土器三足付羽釜類などは、認められない。地点毎の埋没時期に差があるのか、それとも想定される溝の対応関係に齟齬があるのか、断定することはできない。それでも、13次調査区と20次調査区において、12世紀までの遺物で埋没する溝が東西に連なることはほぼ確実である。しかも、一部には近世段階の流れの存在も確認されており、14世紀前後においても、東西方向の水路が継続して存在したことは、十分推察されるところである。

他方、東側の27次調査でも、同様に東西方向の溝が確認されている。27次調査SD-３であり、調査直後の所見では、14世紀に埋没するとしており、位置的に20次調査SD-１に対応すると予測した。またその南側では、上流の東部を削平され、西側の狭い範囲に浅くしか残らないものの、SD-４も確認されている。時期の特定は難しいが、20次調査のSD-２ないしはSD-３に連なる可能性を考えている。さらに27次調査では、SD-３・４の上を覆う洪水砂層としてSD-１があり、大量の瓦など、18世紀以降の遺物を包含している。近世段階までの水流の存在とともに、20次調査SD-64に対応する可能性が指摘できよう（田崎編2005）。

27次調査区は、20次調査区との間に約55mの未調査範囲を挟み、直接的な連続関係は特定できない。また、出土遺物の詳細な検討も未了である。よって、対応関係の詳細は後日に期したい。それでも、現時点で、14世紀から近世段階に及ぶ東西方向の水路が存在したことは確実であり、その方向は、西側の13次調査区のSD-２・３、20次調査区のSD-１～３・71に一致する。

以上から、13次調査区西端から27次調査区東端に及ぶ、約165mの長さにわたって、中世段階の直線的な溝が存在することを明らかにできた。当然、さらに東西に延びることが予想できる。

このような溝は、水路としての機能がまず想定される。文京遺跡内では、18次調査・25次調査区で12世紀前後の水田層を確認しているが、間に弥生集落の密集居住域でもあった微高地を挟み、ここで指摘した溝からの直接的取排水は想定し難い。むしろ、これらの水田層への基幹水路としては、15次調査７トレンチ検出のSR-27が想定されている。いずれの地区を対象に給水、あるいは排水を意図したのか、旧地形の復元も行いながら、今後検討せねばなるまい。

また、これだけの直線的かつ方位に一致した溝となると、単に水路としての機能だけに留まるかは、一考を要す。周辺の土地区画とも連関して、より広い範囲で考察していくべきであろう。27次調査報告作成時の課題としておきたい。　［吉田］

〔参考文献〕

愛媛大学埋蔵文化財調査室編，1998『文京遺跡シンポジウム－弥生大集落の解明－』.

加島次郎，2001「松山平野にみる姫島産黒耀石と赤色珪質岩～東九州と南予から伝わった石器素材～」『愛媛大学考古学研究室第１回公開シンポジウム資料　宇和の古代文化を解剖する～九州・瀬戸内・南海文化の十字路に立って～』愛媛大学考古学研究室.

下條信行，1999「松山市文京集落の性格と機能」『古代学協会四国支部第13回大会資料　瀬戸内の弥生中期集落－その機能と構造の研究－』古代学協会四国支部.

田崎博之編，2004『文京遺跡Ⅲ－文京遺跡13次調査報告－』愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅻ.

田崎博之編，2005『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2003年度－』愛媛大学埋蔵文化財調査報告ⅩⅢ.

宮崎泰好編，1991『祝谷六丁場遺跡』松山市文化財調査報告書第24集.

表８　文京遺跡20次調査出土遺構一覧

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SD	1	CR11・12～CW11・12	幅約1.5m・長約25m・断面逆台形。SK-9・SX-14に切られ、SD-3・71を切る。	図66・67	－	図68～71	中世
SD	2	CR11～CW11	幅約1.5m・長約27.5m・断面逆台形。SX-13～16・19に切られ、SD-3を切る。	図66・67	－	図72～79	中世
SD	3	CR11～CX11	幅約1m・長約26m・断面逆台形。SD-1・2・SX-14に切られる。	図66・67	－	図80～84	中世
SD	4	CS12～CU12	幅約70cm・長約6m・深約10cm。SK-7に切られ、SD-5を切る。	図87	－	図88、古代以降の土器細片	中世
SD	5	CT12・13・CS13	幅約50cm・長約9m・深約20cm。SD-4に切られ、SK-20を切る。	図87	－	図88、中世土師器細片	中世
SD	6	CU12・CT12・13・14	幅約40cm・長約9m・深約20cm。	図87	－	図88、須恵器・中世土師器細片	中世
SK	7	CT12	東西約70cm・南北約50cmの不整楕円形。SD-4を切る。	図87	A	図88	中世
欠番	8						
SK	9	CV12	東西約1.4m・南北約1.2mの長方形。SX-26を切る。	図89	A	図90	近世
欠番	10						
SK	11	CW13	南北約1.1m・東西0.7mの長方形。SK-17に切られる。	図91	A	古墳須恵器坏・土師器甕・中世土師器・土師質土器羽釜胴部、近世陶器	近世
SK	12	CV13	径約1mの不整円形。	図93	A	図94、弥生土器・古墳須恵器・中世土師器細片	中世
SX	13	CV11・CW11	約1.2×1.4m・深約30cm。SD-2を切る。	図95	－	図96、獣歯細片	近世
SX	14	CU・CW11・CU12	約3×4mの不整形。SD-1～3を切る。	図97	－	図98～101、獣歯細片	近世
SX	15	CW11	約0.6×1.1mの長楕円形。SD-2を切る。	図102	－	図103、古墳後期須恵器・土師器皿・土師質土器鍋細片	近世
SX	16	CU11	約1.6×0.4～0.8mの不整形。SD-2を切る。	図104	－	須恵器甕・土師質土器鍋・瓦器椀	近世
SK	17	CW13	東西約90cm・南北40～60cm・深約90cmの長楕円形。SK-11を切る。	図91	A	図92	近世
欠番	18						
SX	19	CU11	東西約1.6m・南北1.2m以上の不整形。SD-2を切る。	図105	－	図106、弥生～中世の土器片大量・白磁壺底部・須恵器大甕・土師器皿底部・瓦器椀体部	近世
SK	20	CS・CT13	約0.8×1.2m・深約10cm。SP-120に切られる。	図19	C	弥生土器（外面縦ミガキの壺胴部片等）	弥生
SK	21	CT14	約1m×40～60cm・深約15cm。SD-6に切られる。	図87	A	なし	中世
SX	22	CT12	扁平な鉄分塊。	図60	－	なし	中世
SC	23	DA・DB16（北3区）	平面形不明。SC-24・SP-131～133を切る。	図57	B	図58	古墳後期
SC	24	DA・DB16（北3区）	平面形不明。SC-23・SP-131～133に切られる。	図57	B	土師器甕胴部細片	古墳後期
SK	25	DA・DB16（北3区）	平面形不明。SC-24・SP-131～133に切られる。	図57	B	図58、須恵器甕胴部・骨or貝小片・炭化物小片	古墳後期
SX	26	CV12	約2.2m四方。底面鉄・マンガン分の付着と凹凸顕著。	図107	－	弥生土器甕細片・炭化物細片・骨細片	中世
SC	27	CV・CW12	1辺約4m弱の方形・4本主柱穴。SD-1・SX-26に切られ、SD-44・SP-444・445・447・448・466・472～481を切る。	図41	B	図42	古墳後期
SC	28	CW12	1辺約4.2mの方形・4本主柱穴。SP-203・204に切られ、SD-33・36を切る。	図43	B	図44	古墳後期
SC	29	CX・CY15（北1区）	平面形不明。SP-224に切られ、SK-31・SP-238～241を切る。	図45	B	図46	古墳後期
SK	30	CX・CY15（北1区）	平面形不明。SC-29・SK-31・SP-223・224を切る。	図45	B	弥生土器・土師器片10点強、須恵器坏蓋口縁端部片1点	古墳後期
SK	31	CX・CY15（北1区）	平面形不明。SC-29・30・SP-223・224・237に切られる。	図45	C	なし	弥生
SX	32	CW・CX12・13	Ⅲ層下部	－	－	図63	弥生
SD	33	CW11～13・CX11～15	幅約1～2.3m・長約18m。SC-35・SP-146・196・249・273・282・287・328・329・402・403・404に切られ、SP-138・176～179・253～256・258・277・281・312・313・398・399・400を切り、SP-258・284・285・286・343と切り合い関係。	図13・14	C	図16、弥生土器50点以下	弥生
SD	34	CX13・14	幅約0.4～1m・長約2m、深約30cm。SP-172に切られ、SP-291～296と切り合い関係。	図13	C	細片少量（弥生土器甕の体部片含）	弥生
SC	35	CW・CX13・14	径2.9～3.1mの円形。SP-140・148・161・165に切られ、SD-33・36・SP-440を切る。	図7・8	C	図9～11	弥生
SD	36	CW12・13	幅約70cm・長約8.5m・深約10cm。SC-35・SP-315・316・319・330・331に切られ、SK-39・SP-317・318・320・321・325～327を切る。	図14	C	図17、弥生土器細片約10点	弥生
SD	37	CX12・13	幅約0.4m・長約1.5m・深約10cm。SP-279を切る。	図13	C	弥生土器甕体部片2点	弥生
SX	38	CW・CX14	1辺約1mの隅丸三角形状。SP-145・161・261・262に切られる。	図26	C	なし	弥生
SK	39	CW13	約1.5×1.5mの直角三角形状。SD-36・SP-141・183・319に切られ、SP-323・324を切る。	図14	C	弥生土器壺片1点	弥生
SX	40	CW・CX14・CW15	長辺約9m・最大幅約80cm・深約9cm。SP-114・347に切られ、SP-441を切る。	図27	C	図28、弥生土器・土師器・須恵器小片少量	弥生
SX	41	CW14	1辺約1.5m・深約9cm。SP-201・261・262に切られ、SP-442を切る。	図29	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SX	42	CV14	長辺約1m・幅約40cm・深約5cm。SP-439と切り合い関係。	図30	C	弥生土器甕（SX-50出土土器と接合）	弥生
SD	43	CW11	幅約1.1m・長約1.8m・深約10cm。SP-410・416に切られ、SP-412～414・417を切る。	図15	C	弥生土器細片1点	弥生
SD	44	CW12	幅20～30cm・長約2.6mの不整形。SC-27に切られる。	図14	C	図18、弥生土器細片3点	弥生
SK	45	CV13	約50×90cmの隅丸方形。	図20	C	なし	弥生
SK	46	CU・CV12	約55cm×1mの隅丸長方形。SP-511・512を切る。	図21	C	弥生土器甕片1点	弥生
SK	47	CV12	平面形不明。SP-235・491に切られる。	図22	C	弥生土器・土師器小片2点	弥生
SK	48	CW14	SC-35中央土壙。約40×50cmの不整長楕円形、断面すり鉢状、深約10cm。	図7・8	C	赤色顔料、炭化物、石器チップ、弥生土器壺・甕細片	弥生
SX	49	CU・CV13	平面形不明。	図20	C	縄文土器1点、弥生土器・土師器片1点	弥生
SX	50	CU・CV13・14	長辺約3m・最大幅約1.3m。SK-12・SP-443・543に切られ、SX-51・52と切り合い関係。	図31	C	図32、弥生土器片等約10点	弥生
SX	51	CU13・14	長4m以上・最大幅約2.6m。SP-443に切られ、SX-50・52と切り合い関係。	図31	C	なし	弥生
SX	52	CU13	長辺約4m・幅約1.2m。SX-51～53と切り合い関係。	図33	C	弥生土器片1点	弥生
SX	53	CT・CU12・13	長辺約3.3m・幅約1.3m。SX-52・56と切り合い関係。	図34	C	なし	弥生
SX	54	CT13	最大幅約2m。SP-574に切られる。	図35	C	なし	弥生
SK	55	CU12	南北約1.2m・幅不明。SP-615・616に切られる。	図23	C	なし	弥生
SX	56	CT・CU12	長辺約2.5m・幅約1.5m・深約15cm。SP-579に切られ、SX-53・57・58と切り合い関係。	図36	C	なし	弥生
SX	57	CT12	約0.8×1mの長方形状。SP-608に切られ、SX-56と切り合い関係。	図36	C	図37	弥生
SX	58	CT12	短辺約0.8m・長辺約1.4m・幅約1mの台形状。SX-56と切り合い関係。	図36	C	なし	弥生
SK	59	CT12	約30×70cm・深約4cm。SP-619に切られる。	図24	C	弥生土器小片1点	弥生
SK	60	CT12	約25×50cmの長楕円形。SP-620に切られる。	図36	C	なし	弥生
SK	61	CT11	径約70cmの円形。SK-62に切られる。	図25	C	弥生土器片2点	弥生
SK	62	CT11	1辺70cm強の方形か。SP-634に切られ、SK-61を切る。	図25	C	弥生土器片1点	弥生
SX	63	CX15	幅約1.7m・深約10cm。SP-149・151・152・197に切られる。	図13	C		弥生
SD	64	CW11（南区）	平面形不明。SC-65を切る。	図12	－	図86、19世紀後半前後の大量の陶磁器・瓦	近世
SC	65	CW11（南区）	平面形不明。SD-64に切られ、SP-636を切る。	図12	C	なし	弥生
SX	66	CX・CY15（北1区）	壁面でのみ検出。SK-30・SP-223・224に切られる。	図45	C	なし	弥生
SB	67	CX12・13	SP-135・137・13次SP-458・467からなる。梁間1間（1.48m）×桁行1間（3.46m）。13次SB-44に対応。	図47	B	図48	古墳後期
SB	68	CX・CY15（北1区）	SP-237・238・13次SP-432・446からなる。梁間1間（1.7m）×桁行2間以上（3.4m以上）。13次SB-42に対応。	図49	B	なし	古墳後期
SB	69	CX・CY15（北1区）	SP-144・151・157・224、13次SP-428・430からなる。梁間2間（5.1m）×桁行2間以上（3.6m以上）。13次SB-49に対応。	図50	B	図51	古墳後期
SB	70	CX13・14	SP-147・152・13次SP-423・455からなる。梁間1間（2.1m）×桁行1間（3.32m）。13次SB-54に対応。	図52	B	図53	古墳後期
SD	71	CV12	土層断面のみで確認。SD-1に切られる。	図107	－	なし	中世
SP	101	CU11・12	径約20cm・深約5cm。SD-1を切る。	にぶい黄橙色砂質土。砂粒はSD-1上・中層と同じだが、3mm大以下の炭化物を含む。	A	なし	中世
SP	102	CS12	東側攪乱、東西に溝状の可能性、深約5cm。	1～3mm大の砂礫を多く含む、しまりのない黒褐色砂礫土。	－	なし	中世
SP	103	CS12	径約15cm・深約10cm。	詳細不明。	－	なし	中世
SP	104	CS12	径約25cm・深約15cm。SP-105を切る。	黄灰色砂質土に黄褐色粘質土が2×3cmの楕円形ブロック状に混じる。1～2mm大の白色砂粒を少量混じる。きめ細かく。しまりがある。2×3mm大の炭化物をわずかに含む。	A	土師器甕胴部片1点	中世
SP	105	CS12	径約15cm・深約15cm。SP-104に切られ、SP-106を切る。	黄灰色砂質土に、にぶい黄褐色砂質土が3～4mm大の粒状に混じる。1～3mm大の砂礫を少量含む。下層にいくほど砂礫の混入が少なく、きめが細かくなる。	A	最下部より土師質土器片1点	中世
SP	106	CS12	径約15cm・深約5cm。SP-105・攪乱に切られ、半分のみ。	褐灰色砂礫。1～5mm大の砂礫を少量含む。	－	土師器細片	中世
SP	107	CT12	径約15cm・深10cm弱。	にぶい黄褐色砂礫。2～4mm大の砂礫を含む。	－	なし	中世
SP	108	CT12	径約20cm・深25cm超。	にぶい黄褐色砂礫で、2～5mm大の砂礫を含む。粘性がほとんどない。砂礫の入り具合は均質。炭化物は含まない。	－	なし	中世
SP	109	CT12	径約15cm・深5cm弱。SP-110に切られる。	褐色砂質土。SP-110よりも砂礫を多く含む。砂粒は0.5～2mm大。粘性はほとんどない。	A	なし	中世
SP	110	CT12	径約15cmの不整円形・深5cm弱。SP-109を切る。	にぶい黄褐色砂質土。2～4mm大の砂礫を含む。粘性はない。	A	なし	中世
SP	111	CT12	径10cm強・深約8cm。	にぶい黄橙色砂礫。2～5mm大の砂礫を含む。粘性はない。3cm大の礫を少量含む。	－	なし	中世
SP	112	CU14	径約10cm・深10cm弱。SP-113に切られる。	灰黄褐色砂質土。2～5mm大の小礫を多く含み、粗い。明黄褐色砂質土を3mm大のブロック状にわずかに含む。	A	なし	中世
SP	113	CU14	径約10cm・深10cm弱。SP-112を切る。	灰黄褐色砂質土。1～2mm大の砂粒を多く含む。明黄褐色砂質土を1～2mm大のブロック状に少量含む。しまりあり。	A	なし	中世

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	114	CU13	径約15cm・深約10cm。	褐色砂質土。1～2mm大の砂粒をわずかに含む。きめは細かい。しまりあり。	A	なし	中世
SP	115	CV13	径20cm弱・深約10cm。	にぶい黄褐色砂質土。1～5mm大の砂礫を少量含むが、きめは細かい。	A	なし	中世
SP	116	CV14	径約15cm・深5cm強。SP-117と切り合い関係。	褐灰色砂礫。1～3mm大の砂礫を多く含む。しまりは弱い。1mm大の炭化物をわずかに含む。	－	なし	中世
SP	117	CV14	径約10cm・深5cm弱。SP-116と切り合い関係。	砂礫。	－	なし	中世
SP	118	CV13	径約30cm・深約3cm。	暗褐色砂質土に、にぶい黄褐色砂質土が均質に混在する。1～2mm大の砂粒を少量含む。しまりはない。3mm大の炭化物をわずかに含む。	A	なし	中世
SP	119	CS13	径推定約20cm・深8cm以上。撹乱に切られる。	にぶい黄褐色砂礫。粘性はほとんどなく、1～4mm大の礫を多く含む。	－	なし	中世
SP	120	CS・CT13	径50cm以上の狭い皿状・深約20cm。西側に径約15cmの小穴。SK-20を切る。	図19	A	なし	中世
SP	121	CS13	径20cm弱・深約15cm。	黄褐色砂質シルト。1～5mm大の小礫を含む。粘性なし。炭化物も含まない。	A	なし	中世
SP	122	CS13	約20×30cmの長円形・深40cm超。SD-5を切る。	詳細不明。	－	なし	中世
SP	123	CS13	約10×15cmの楕円形・深約5cm。SD-5を切ると推定。	にぶい黄褐色砂質シルト。	A	なし	中世
SP	124	CT13	径約15cm・深約30cm。SD-5底面検出。	詳細不明。	－	なし	中世
SP	125	CT14	径20cm弱・深約15cm。	詳細不明。	－	なし	中世
SP	126	CT14	径20cm弱・深約15cm。	詳細不明。	－	なし	中世
SP	127	CU12	径10cm強・深約2cm。SD-1北岸付近に所在。	SD-1上層にほぼ同じ、灰黄褐色砂質土。ややしまりあり。2mm未満の砂粒を含む。	A	なし	中世
SP	128	CU12	径10cm強・深約2cm。SD-1北岸付近に所在。	SD-1上層にほぼ同じ、灰黄褐色砂質土。ややしまりあり。2mm未満の砂粒を含む。	A	なし	中世
SP	129	CW12	径25cm前後・深約15cm。SD-1北岸付近に所在。	にぶい黄褐色砂質土。2mm大の砂粒が少し混じる。粘性あり。	A	土師器細片のみ	中世
SP	130	CU13・14	径約40cm・深約15cm。撹乱に切られる。口縁を下に土師質土器羽釜を据える。	図108	A	図109、瓦器皿	中世
SP	131	DB16（北3区）	復元径約35cm・深約50cm。SC-23床面からの掘り込み、SC-24を切る。	図57	B	土師器細片・炭化物小片	古墳後期
SP	132	DB16（北3区）	復元径約15cm・深約5cm。SC-24床面からの掘り込み。	図57	B	なし	古墳後期
SP	133	DB16（北3区）	復元径約15cm・深約25cm。SC-23床面からの掘り込み、SC-24を切る。	図57	B	なし	古墳後期
SP	134	CW11	径約30cmの不整円形・深約35cm、中央に径約10cm・深約5cmの小穴。	図108	－	図109、土師器片	中世
SP	135	CX12	SB-67を構成。径約50cm・深約40cm。	図47	B	図48、弥生土器・土師器細片～小片約10点	古墳後期
SP	136	CX12	約24×28cmの楕円形・深約14cm。SD-37・SP-173を切る。	図54	B	土師器甕片1点	古墳後期
SP	137	CX13	SB-67を構成。約50×70cmの長楕円形・深約25cm。SD-37を切る。	図47	B	弥生土器・土師器片15点・須恵器蓋坏・甕片各1点	古墳後期
SP	138	CW13	1辺50～60cmの扇形状・深約8cm。SD-36を切る。	図54	B	弥生土器・土師器片9点、須恵器片1点	古墳後期
SP	139	CW13	1辺約30cmの隅丸方形状・深約14cm。SD-36・SP-178を切る。	図54	B	弥生土器・土師器細片3点	古墳後期
SP	140	CW13	径約25cm・深約30cm。SD-36を切る。	暗褐色砂質土。2～3mm大の砂礫を多く混じる。5mm前後の炭化物粒・焼土塊を多く含む。しまりあり。	B	弥生土器・土師器細片4点、須恵器甕・坏片各1点	古墳後期
SP	141	CW13	径約35cm・深約10cm。SK-39・SP-183を切る。	図54	B	弥生土器・土師器細片6点	古墳後期
SP	142	CW13	径約35cm・深約22cm。	図54	B	図56、土師器細片2点、須恵器片2点	古墳後期
SP	143	CW13	復元径約60cm・深約30cm。	図54	B	図56、弥生土器・土師器細片約20点、須恵器片1点	古墳後期
SP	144	CW・CX14・15	SB-69を構成。1辺約60cmの隅丸方形・深約30cm。SX-40を切る。	図50	B	図51、弥生土器・土師器・須恵器の小片約40点	古墳後期
SP	145	CW・CX14	約35×40cmの楕円形・深約14cm。柱痕径約18cm。SX-38を切る。	図54	B	弥生土器甕片1点、土師器細片2点	古墳後期
SP	146	CX14	径約50cm・深さ約24cm。柱痕径約18cm。SD-33を切る。	図54	B	図56、弥生土器・土師器・須恵器片20点弱	古墳後期
SP	147	CX13	SB-70を構成。約70×80cmの長楕円形・深約30cm。柱抜き取り痕2、内1は径約20cm。SP-348に切られる。	図52	B	図53、須恵器蓋杯片3点、甕胴部片3点、弥生土器・土師器細片約30点	古墳後期
SP	148	CW14	長辺70cm以上・幅約70cmの隅丸方形状・深約13cm。SC-35を切り、SP-161と切り合い関係。	図54	B	図56、弥生土器・土師器・須恵器片約30点	古墳後期
SP	149	CX14	径約40cm・深約20cm。柱痕径約15cm。SX-63を切る。	図54	B	①・②層から弥生土器・土師器・須恵器片10点弱	古墳後期
SP	150	CX14	径約60cm・深約18cm。柱痕径約23cm。SP-164・195を切る。	図54	B	図56、弥生土器・土師器・須恵器片約50点	古墳後期
SP	151	CX14	SB-69を構成。径60～64cmの円形・深約20cm。柱痕径約25cm。SD-33・SX-63・SP-197・198を切る。	図50	B	図51、①・②層から弥生土器・土師器・須恵器片約50点、炭化物・骨？細片	古墳後期
SP	152	CX14	SB-70を構成。径55～60cm・深約38cm。柱痕径約20cm。SX-63・SP-199・303を切る。	図52	B	図53、②・⑤層から弥生土器・土師器・須恵器片約20点	古墳後期
SP	153	CX14	径25～28cm・深約14cm。柱痕径約13cm。	図54	B	土師器甕片1点	古墳後期
SP	154	CX14	径約30cm・深約20cm。柱痕径約13cm。SP-155・639を切る。	図54	B	図56、弥生土器片2点、土師器片1点、須恵器片1点	古墳後期
SP	155	CX14	径65～70cm・深約17cm。柱痕径約15cm。SP-154・156に切られ、SP-297・306・639を切る。	図54	B	図56、弥生土器・土師器・須恵器片約30点	古墳後期
SP	156	CX14	径約30cm・深約5cm。SP-155を切る。	灰褐砂質シルト。1～2mm大の砂粒混じる。	B	弥生土器甕片1点	古墳後期
SP	157	CW14	SB-69を構成。径50～55cmの円形・深約7cm、柱痕径約15cm。SP-243を切る。	図50	B	図51、弥生土器・土師器・須恵器細片20点弱	古墳後期

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	158	CX14	約15×18cmの長楕円形・深約6cm。SP-159を切る。	にぶい黄褐砂質シルト。1～2mm大の砂粒混じる。	B	弥生土器・土師器細片1点	古墳後期
SP	159	CX14	径約12cm・深約3cm。SP-158・160に切られる。	にぶい黄褐砂質シルト。1～2mm大の砂粒混じる。	B	なし	古墳後期
SP	160	CX14	径10～17cmの不定円形・深約7cm。SP-159を切る。	にぶい黄褐砂質シルト。1～2mm大の砂粒混じる。	B	なし	古墳後期
SP	161	CW14	径約50cm・深約25cm。SC-35を切り、SP-148と切り合い関係。	図54	B	図56、①･②層から弥生土器･土師器・須恵器片約20点	古墳後期
SP	162	CW15	径30cm前後の不整円形･深約10cm。柱痕径約12cm。SP-389を切る。	図54	B	なし	古墳後期
SP	163	CW15	径約45cm・深約35cm。SP-391を切る。	図54	B	弥生土器・土師器細片10点弱	古墳後期
SP	164	CX14・15	1辺約70cmの隅丸方形状・深約35cm。SP-150に切られ、SP-195を切る。	図55	B	図56、①･②層から弥生土器･土師器・須恵器片約50点	古墳後期
SP	165	CX14・15	1辺45×65cmの隅丸長方形・深約10cm。SC-35に切られる。	にぶい黄褐砂質土。明黄褐砂質土の丸いブロック・1～2mm大の砂粒含む。	B	図56、弥生土器・土師器約10点	古墳後期
SP	166	CW14	1辺40cm前後・深約17cm。	にぶい黄褐砂質土。明黄褐砂質土のレンズ状ブロック含む。1mm前後の砂粒含む。	B	弥生土器・土師器3点	古墳後期
SP	167	CW14	1辺約20cmの隅丸方形・深約19cm。SP-380を切る。	にぶい黄褐色砂質シルト。1mm前後の砂粒・浅黄色砂質シルトの丸いブロック混じる。	B	図56	古墳後期
SP	168	CW14・15	約23×25cmの楕円形・深約10cm。	にぶい黄褐シルト。1mm前後の砂粒・小指先大の不定形炭化物含む。	B	土師器細片1点	古墳後期
SP	169	CW14・15	約27×30cmの楕円形・深約8cm。	にぶい黄褐シルト。1mm前後の砂粒含む。	B	なし	古墳後期
SP	170	CW14	約15×20cmの楕円形・深約8cm。SP-200を切る。	にぶい黄褐色シルト。1mm前後の白色砂粒少量含む。	B	図56	古墳後期
SP	171	CW14	径20×23cmの円形・深約15cm。	にぶい黄褐色シルト。1mm前後の白色砂粒少量含む。	B	なし	古墳後期
SP	172	CX14	幅約43cm、深約6cm。SD-34を切る。	にぶい黄褐色砂質シルト。焼土・2～3mm前後の砂礫含む。	B	図56、弥生土器壺･甕片3点、炭化物片・サヌカイト微細剥片、イネ炭化果実1点	古墳後期
SP	173	CX12	復元径約20cm・深約10cm。SP-136に切られ、SD-37を切る。	暗褐色砂質土。2mm前後の砂礫少し混じる。やや粘性をおびた暗褐色土・にぶい黄色土が薄くレンズ状に水平堆積。	C	なし	弥生
SP	174	CW12	約20×23cmの楕円形・深約8cm。SP-310を切り、SP-175と切り合い関係。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の1cm大ブロックが斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	175	CW12	径約15cm・深約12cm。SP-174と切り合い関係。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の1cm大ブロックが斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	176	CW13	径約25cm・深約30cm。	暗褐色砂質土。上層は均質で、にぶい黄色土の小ブロックがわずかに混じる。下層は、にぶい黄色土のブロックが斑状に混じる。	C	弥生土器片5点	弥生
SP	177	CW13	約20×25cmの楕円形・深約27cm。SD-33を切る。	図38	C	なし	弥生
SP	178	CW13	径約17cm･深40cm。SP-139に切られ､SD-33を切る。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土がラミナ状に混じる。粘性あり。	C	弥生土器片	弥生
SP	179	CW13	径約20cm・深約20cm。SD-36を切る。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土が1cm大のブロック状に混在。	C	なし	弥生
SP	180	CW13	約50×65cmの楕円形・深約25cm。SK-39・SP-319を切る。	図38	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	181	CW13	径約12cm・深約4cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土をブロック状に含む。	C	なし	弥生
SP	182	CW13	1辺約35cmの隅丸三角形状・深約17cm。SP-141に切られ、SK-39を切る。	図38	C	図39	弥生
SP	183	CW13	径25～30cm・深約10cm。SP-141に切られ、SK-39を切る。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	184	CW13	径約15cm・深約9cm。	にぶい黄褐色砂質土。にぶい黄色土の2cm大ブロックをかなり含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	185	CW13	復元径約15cm・深約25cm。	褐色砂質土。2mm前後の砂礫をわずかに含む。暗褐色土･にぶい黄色土が3mm前後のレンズ状に混じる。	C	なし	弥生
SP	186	CW13	復元径約25cm･深約10cm。SP-187と切り合い関係。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の1cm大ブロックが斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	187	CW13	復元径約30cm･深約10cm。SP-186と切り合い関係。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の1cm大ブロックが斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	188	CW13	約15×20cmの楕円形・深約7cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の1cm大ブロックが斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	189	CW13	約20×25cmの楕円形・深約13cm。SP-190を切る。	図55	B	図56、弥生土器細片3点	古墳後期
SP	190	CW13	復元約20×30cmの楕円形・深約15cm。SP-189に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の2mm未満の小ブロック多く含む。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	191	CV13	約35×50cmの楕円形・深約17cm。	暗褐色砂質土。上層は均質。下層はにぶい黄色土の2cm大ブロックが斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	192	CW13	径約15cm・深約15cm、さらに径約5cm・深約10cmの小穴あり。	にぶい黄褐色砂質土。上層はやや暗褐色土が多いが､下半はにぶい黄色土とともにブロック状に混在。	C	弥生土器細片2点	弥生
欠番	193						
SP	194	CW13	径30～40cmの不整円形・深約13cm。	にぶい黄褐色砂質土。にぶい黄色土がかなり混じる。全体的に色調薄く、しまり弱い。	C	なし	弥生
SP	195	CX14	径約30cm・深約23cm。SP-150・164に切られる。	灰黄褐色砂質シルト。明黄褐色砂質シルトのブロック・1～2mm大の砂粒・小指先大の炭化物が混じる。	B	図56、弥生土器・土師器片約10点	古墳後期
SP	196	CX14	復元約50×70cmの長楕円形・深約15cm。SD-33を切る。	図55	B	①～③層から弥生土器・土師器細片約10点	古墳後期
SP	197	CX14	復元約25×30cmの長楕円形・深約10cm。SX-63・SP-151に切られる。	灰褐色砂質シルト。2mm前後の砂礫多く含む。	B	弥生土器細片2点	古墳後期
SP	198	CX14	約40×50cmの長楕円形･深約30cm。柱痕径約20cm。SP-151に切られる。	図55	B	図56、弥生土器・土師器片約20点	古墳後期
SP	199	CX14	径約60cm・深約25cm。SP-152に切られる。		B	なし	古墳後期
SP	200	CW14	径約25cm・深約7cm。SP-170に切られる。	にぶい黄褐色シルト。1mm前後の白色砂粒少量含む。	B	土師器細片1点	古墳後期
SP	201	CW14	約40×50cmの楕円形・深約9cm。SX-41・SP-347を切る。	暗褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の丸いブロックが混じる。	B	なし	古墳後期
SP	202	CW14	径38～48cm・深約33cm。	図55	B	なし	古墳後期

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	203	CX12	復元60～70cmの不整円形・深約40cm。SD-33・SC-28・SP-204を切る。	図55	B	弥生土器・土師器片約30点	古墳後期
SP	204	CX12	復元約40×70cmの不整楕円形・深約35cm。SP-203に切られ、SD-33・SC-28を切る。	図55	B	図56、弥生土器・土師器片約10点	古墳後期
SP	205	CW12	復元径約35cm・深約6cm。SD-36を切る。	暗褐色砂質土。2mm前後の砂礫わずかに含み、ラミナ状ににぶい黄色土が混じる。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	206	CW12・13	径約25cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色砂質土がブロック状に混じる。	C	なし	弥生
SP	207	CW12・13	径約17cm・深約18cm。	にぶい黄褐色砂質土。暗褐色土・にぶい黄色土が斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	208	CW12	径約30cm・深約14cm、さらに径約20cm・深約10cmの小穴あり。SD-44を切る。	図38	C	弥生土器細片5点	弥生
SP	209	CW12	径約25cm・深約23cm。	暗褐色砂質土。上部ににぶい黄色土のブロックをやや含むが、以下は均質な砂質土。	C	なし	弥生
SP	210	CW14	径22～27cm・深約15cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	211	CW14	径約20cm・深約9cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	212	CW14	約20×26cmの長楕円形・深約12cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	213	CW14	1辺約25cmの隅丸方形状・深約18cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	214	CW14	1辺約25cmの方形・深約8cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	215	CW14	径約24cm・深約13cm。SP-216と切り合い関係。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	216	CW14	径約27cm・深約18cm。SP-215と切り合い関係。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	217	CW14	径約24cm・深約10cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	218	CW14	1辺約25cmの隅丸方形の掘り方。深さ約26cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	219	CW14	約28×38cmの楕円形・深約24cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	220	CW14	径約30cm・深約15cm。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	221	CW14	約17×20cmの楕円形・深約24cm。SP-372を切る。	にぶい黄褐色シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	222	CV・CW14	1辺約50cmの隅丸方形状・深約9cm。北半分は調査区外。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロックが少量混じる。	C	なし	弥生
SP	223	CY15	平面形不明・深約20cm。SK-30に切られ、SK-31・SP-237を切る。	図45	C	なし	弥生
SP	224	CX15（北1区）	SB-69を構成。深約30cm。柱痕径約15cm。SK-30に切られ、SC-29・SK-31を切る。	図50	B	弥生土器・土師器細片約10点	古墳後期
SP	225	CW12・13	径約22cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。3mm大のにぶい黄色土のブロック含む。	C	なし	弥生
SP	226	CW12	径約15cm・深約20cm。	暗褐色砂質土。5mm以下のにぶい黄色砂質土の微細ブロック少量混じる。	C	なし	弥生
SP	227	CV13	径約25cm・深約12cm。	図38	C	なし	弥生
SP	228	CV13	約10×15cmの楕円形・深約18cm。	にぶい黄褐色砂質土。にぶい黄色土・暗褐色土が混じる。	C	なし	弥生
SP	229	CV12	径約20cm・深約18cm。	暗褐色砂質土。3cm大のにぶい黄色土のブロックが多く混じる。	C	なし	弥生
SP	230	CW12	径約35cm・深約25cm。SD-44を切る。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	231	CW12	径約30cm・深約20cm。SD-44を切る。	暗褐色砂質土。にぶい黄色砂質土の1mm大ブロック少量含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	232	CW12	径20cm前後・深約30cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色砂質土の1mm前後のブロック少量含む。粘性ややあり。	C	なし	弥生
SP	233	CV12	約20×30cmの長方形・深約13cm。	暗褐色砂質土。1cm大のⅣ層ブロックが斑状に混じる。1cm前後の砂粒少量含む。	C	なし	弥生
SP	234	CV12	径約20cm・深約15cm。	暗褐色砂質土。2cm大のⅣ層ブロックを斑状に含み、しまりあり。	C	弥生土器細片約10点	弥生
SP	235	CV12	径約20cm・深約13cm、さらに径約8cm・深約4cmの小穴あり。SK-47を切る。	暗褐色砂質土。3mm大のⅣ層ブロックが斑状に混じる。2mm前後の砂礫やや含み、しまりあり。	C	なし	弥生
SP	236	CV12・13	径約25cm・深約30cm、さらに径約15cm・深約10cmの小穴あり。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックがラミナ状に混じる。しまりややあり。	C	なし	弥生
SP	237	CY15（北1区）	SB-68を構成。深約20cm。SP-223に切られ、SK-31を切る。SC-29床面検出。	図49	B	なし	古墳後期
SP	238	CY15（北1区）	SB-68を構成。深約35cm。SC-29切られる。SC-29床面検出。	図49	B	縄文土器片1点、弥生土器小片2点	古墳後期
SP	239	CY15（北1区）	復元径約35cm・深約18cm。SC-29に切られる。	図45	C	なし	弥生
SP	240	CX15（北1区）	復元径約30cm・深約20cm。SC-29に切られ、SP-241を切る。	図45	C	弥生土器・土師器片少量	弥生
SP	241	CX15（北1区）	深約15cm。SC-29・SP-240に切られる。	図45	C	図46、弥生土器・土師器片少量	弥生
SP	242	CW14	約28×30cmの楕円形・深約6cm。SP-442に切られる。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	243	CW13	約15×20cm以上の楕円形・深約15cm。SP-157に切られる。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	244	CX14	約20×24cmの楕円形・深約14cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	245	CX14	径15×17cmの円形・深約10cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	246	CX14	約20×23cmの楕円形・深約26cm。	にぶい黄褐色砂質土・明黄褐色砂質土に1mm前後の砂粒含む。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	247	CX14	約17×19cmの楕円形・深約28cm。	にぶい黄褐色砂質シルト・明黄褐色砂質土のレンズ状ブロックに1mm前後の砂粒含む。	C	なし	弥生
SP	248	CX14	径約15cm・深約4cm。SP-249を切る。	にぶい黄褐色砂質土に、1mm前後の砂粒含む。	C	なし	弥生
SP	249	CX14	径約25cm・深約6cm。SP-248に切られ、SD-33を切る。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	250	CX14	径約17cm・深約6cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	251	CW・CX14	径約17cm・深約7cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	252	CW・CX14	径約20cm・深約5cm。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	253	CX14	径約15cm・深約21cm。SD-33底面検出。SP-254を切る。	灰黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック・2mm大の砂粒・不定形炭化物含む。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	254	CX14	径約15cm・深約6cm。SP-253に切られる。SD-33底面検出。	灰黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロックをSP-253より多く、1～2mm大の砂粒と不定形炭化物含む。	C	なし	弥生
SP	255	CX14	径約20cm・深約10cm。SD-33底面検出。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土のレンズ状ブロック含む。	C	図39、弥生土器細片1点	弥生
SP	256	CX14	径約25cmの不定円形・深約30cm。SD-33底面検出。	黒褐色砂質シルト。	C	弥生土器か土師器	弥生
SP	257	CX14	径15cm強・深約6cm。SD-33底面検出。	灰黄褐色砂質シルトに、明黄褐色砂質土のレンズ状ブロック・1mm前後の砂粒混じる。	C	なし	弥生
SP	258	CX14	径約15cm・深約14cm。SD-33底面検出。	灰褐色砂質土。浅黄色砂質土のレンズ状ブロック・小指先大の炭化物含む。	C	図39	弥生
SP	259	CW14	径約18cm・深約35cm。SX-41・SP-260に切られる。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	260	CW14	約15×23cmの楕円形・深約8cm。SX-41に切られ、SP-259を切る。	灰黄褐色砂質土。1mm前後の砂粒・明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	縄文土器1点、弥生土器3点	弥生
SP	261	CW14	約20×28cmの楕円形・深約8cm。SP-262に切られる。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	262	CW14	径約20cm・深約7cm。SP-261を切る。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	263	CW14	約20×25cmの楕円形・深約24cm。	灰褐色砂質シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	264	CX13	径約25cm・深約45cm。	暗褐色砂質土。5mm大のにぶい黄色土のブロックが比較的多く混じる。2mm前後の炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器細片10点	弥生
SP	265	CX13	径約15cm・深約12cm。SP-266を切る。	暗褐色砂質土。2cm大のにぶい黄色土のブロックが少し混じる。しまりあり。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	266	CX13	径25～30cm・深約38cm、さらに径15cm・深約5cmの小穴あり。SP-265に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の1cm大のブロックやや多く含む。5mm大の炭化物粒含む。やや粘性あり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	267	CX13	径約23cm・深約12cm	暗褐色砂質土。5mm大のⅣ層ブロック多く含む。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	268	CX13	復元径約40cm・深約7cm。	暗褐色砂質土。2mm大の炭化物粒含む。しまりあり。	C	弥生土器細片5点	弥生
SP	269	CX13	径約20cm・深約6cm。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックやや多く含み、炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器甕片1点	弥生
SP	270	CX13	径約20cm・深約22cm。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックやや多く含み、炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器細片4点	弥生
SP	271	CW13	径約18cm・深約10cm。	にぶい黄褐色砂質土。5cm大のⅣ層ブロックと、Ⅲ層わずかに含む。炭化物含む。	C	なし	弥生
SP	272	CX13	復元径約40cm・深約32cm、さらに径約18cm・深約9cmの小穴あり。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックやや多く含み、炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	273	CW13	径30cm弱・深約20cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。1cm大のⅣ層ブロック多く含み、粘性ややあり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	274	CX13	径約16cm・深約30cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックやや多く含み、炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	275	CX13	径約20cm・深約30cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックやや多く含み、炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	276	CX13	径約23cm・深約35cm。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックやや多く含み、炭化物粒含む。粘性あり。	C	弥生土器片約10点	弥生
SP	277	CW13	径約23cm・深約10cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。1cm大のⅣ層ブロック多く含み、斑状。	C	なし	弥生
SP	278	CX13	径約20cm・深約20cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層の微細ブロック少量・炭化物粒含む。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	279	CX12・13	径約20cm・深約11cm。SD-37内検出。	にぶい黄褐色砂質土。1～2cm大のブロック状にⅢ・Ⅳ層が斑状をなす。	C	なし	弥生
SP	280	CX14	径35～37cm・深約12cm。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	281	CX14	1辺約22cm・深約14cm。SD-33底面検出。	暗褐色砂質土に浅黄色砂質土混じる。	C	なし	弥生
SP	282	CX14	径約30cm・深約6cm。SP-283に切られる。	暗褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	283	CX14	約23×28cmの楕円形・深約6cm。SP-282を切る。	黒褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	284	CX14	径約18cm・深約23cm。SP-285を切る。SD-33底面検出。	灰褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック少量含む。木の根か。	C	図39	弥生
SP	285	CX14	径約15cm・深約10cm。SP-284に切られる。	灰褐色砂質土。木の根か。	C	花崗岩塊1点	弥生
SP	286	CX14	径約20cm・深約5cm。SD-33底面検出。	にぶい黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の不定形ブロック含む。木の根か。	C	なし	弥生
SP	287	CX14	径約20cm・深約5cm。SD-33を切る。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。1mm大の白色粒含む。	C	なし	弥生
SP	288	CX14	径約20cm・深約11cm。SP-289を切る。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の不定形ブロック含む。	C	なし	弥生
SP	289	CX14	径約20cm・深約28cm。SP-288に切られる。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	290	CX14	径約30cmの不定円形・深約13cm。	灰褐色砂質土。浅黄色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	291	CX14	約20×25cmの楕円形・深約10cm。SD-34を切る。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	292	CX14	径約15cm・深約20cm。SD-34底面検出。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	293	CX14	径約15cm・深約21cm。SD-34を切る。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	294	CX14	径約30cm・深約7cm。SP-295に切られ、SD-34を切る。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	295	CX14	径25～30cm・深約15cm。SP-294・296を切る。SD-34底面検出。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	弥生土器片3点	弥生
SP	296	CX14	径約15cm・深約28cm。SP-295に切られる。SD-34底面検出。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	297	CX14	径25cm前後・深約37cm。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	298	CX14	径18～20cm・深約20cm。	灰褐色砂質土。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	299	CX14	径17～20cm・深約18cm。SP-300を切る。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	300	CX14	径約25cm・深約11cm。SP-299に切られる。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土のブロック含む。	C	なし	弥生
SP	301	CX14	径20～23cm・深約14cm。SP-302に切られる。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	302	CX14	径約15cm・深約18cm。SP-301を切る。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	303	CX14	径約30cm・深約13cm。SP-152に切られる。	灰褐色砂質土。浅黄色砂質土のブロック混じる。	C	弥生土器甕片1点	弥生
SP	304	CX14	径約10cm・深約5cm。SP-303に切られる。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土のブロック混じる。	C	なし	弥生
SP	305	CX14	径約25cmの不定円形・深約13cm。SP-306に切られる。	詳細不明。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	306	CX14	径約15cm・深約23cm。SP-305を切る。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	307	CX13	径約15cm・深約25cm。	暗色砂質土。1cm前後のⅣ層ブロックが混じり、粘性あり。	C	弥生土器・土師器甕片1点	弥生
SP	308	CX13	径約30cm・深約10cm。	図47	C	弥生土器甕片2点	弥生
SP	309	CW13	復元径20cm前後・深約30cm。SD-33を切る。SP-310・311と切り合い関係。	暗褐色砂質土。Ⅳ層の微細ブロック少量含み、粘性あり。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	310	CW13	復元約20×30cmの楕円形・深約35cm。SP-174に切られ、SD-33を切り、SP-309・311と切り合い関係。	暗褐色砂質土。5cm大のⅣ層ブロックを含み、しまりあり。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	311	CW13	径20cm前後・深約35cm。SP-310と切り合い関係。	暗褐色砂質土。5mm前後のⅣ層ブロックを斑状に含み、砂質強。	C	弥生土器甕片1点	弥生
SP	312	CW12	径約12cm・深約10cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。3cm大のⅣ層ブロックを斑状に含み、しまりあり。	C	なし	弥生
SP	313	CW12	径約20cm・深約12cm、さらに径約12cm・深約12cmの小穴あり。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。3cm大のⅣ層ブロックを斑状に含み、しまりあり。	C	なし	弥生
SP	314	CW12	径約23cm・深7cm。	暗褐色砂質土。3cm大のⅣ層ブロックを斑状に含み、しまりあり。	C	なし	弥生
SP	315	CW12	径約30cm・深約24cm、さらに径約10cm・深約10cmの小穴あり。SD-36を切る。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細ブロック・炭化物粒含み、粘性あり。	C	弥生土器壺片1点	弥生
SP	316	CW12	径約23cm・深約2cm、さらに径約15cm・深約18cmの小穴あり。SD-36を切る。	上段：暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロック含む。粘性あり。下段：にぶい黄色土中に点々と暗褐色土混在。	C	なし	弥生
SP	317	CW12	径約11cm・深約17cm。SD-36内検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロック含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	318	CW12	径約60cm・深約30cm、さらに径約18cm・深約25cmの小穴あり。SD-36内検出。	図38	C	なし	弥生
SP	319	CW13	復元約50×60cmの楕円形・深約43cm、さらに径約18cm・深約8cmの小穴あり。SP-180に切られ、SD-36・SK-39を切る。	図38	C	弥生土器甕片1点	弥生
SP	320	CW13	径約32cm・深約9cm、さらに径約12cm・深約17cmの小穴あり。SD-36内検出。	暗褐色砂質土。1cm大のⅣ層ブロック含み、しまりあり。炭化物含む。	C	なし	弥生
SP	321	CW13	径約12cm・深約17cm。SD-36内検出。	暗褐色砂質土。2mm大のにぶい黄色土含む。	C	なし	弥生
SP	322	CW13	径約13cm・深約25cm。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや含む。	C	なし	弥生
SP	323	CW13	復元径約35cm・深約22cm。SK-39内検出。	暗褐色砂質土。2mm前後のブロック状に、にぶい黄色土含む。しまりあり。	C	弥生土器壺・甕各1点	弥生
SP	324	CW13	復元径約12cm・深約35cm。SK-39内検出。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細ブロックを含み、しまりあり。	C	なし	弥生
SP	325	CW13	径約25cm・深約30cm、さらに径約15cm・深約10cmの小穴あり。SD-36内検出。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや多く、Ⅳ層の微細ブロック多く含む。粘性ややあり。	C	弥生土器細片4点	弥生
SP	326	CW13	約12×15cmの楕円形・深約18cm。SD-36内検出。	暗褐色砂質土。2mm大のにぶい黄色土ブロック少量含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	327	CW13	径約20cm・深約14cm。SD-36内検出。	暗褐色砂質土。5mm大のにぶい黄色土ブロック・炭化物粒含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	328	CW13	径約23cm・深約33cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。1mm以下の砂粒多く、にぶい黄色土の微細ブロック多く含む。粘性あり。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	329	CW13	径約23cm・深約4cm。SD-33を切る。	暗褐色砂質土。1cm前後のにぶい黄色土ブロック含み、2mm前後の砂礫混じる。	C	なし	弥生
SP	330	CW13	約35×60cmの長楕円形・深約3cm、さらに径約25cm・深約12cmの小穴あり。SD-36を切る。	暗褐色砂質土。2mm前後の砂礫わずかに、にぶい黄色土の微細ブロック少量含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	331	CW13	径約18cm・深約18cm。SD-36を切る。	暗褐色砂質土。2～3mm大のにぶい黄色土ブロック含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	332	CX15	径20cm強の半円形。北側が調査区外へ続く。深約30cm。	黒褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の丸いブロック多く含む。	C	弥生土器甕片1点、他細片2点	弥生
SP	333	CX14	径約20cm・深約4cm。	灰褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	334	CX14	径約20cm・深約27cm。SX-63に切られる。SX-61底面検出。	灰褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	335	CX14	径約20cm・深約38cm。SX-63に切られる。SX-61底面検出。	灰褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック少量含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	336	CX14	径約20cm・深約22cm。SX-63に切られる。SX-61底面検出。	暗褐砂質土。1mm前後のきめ細かい砂粒含む。	C	なし	弥生
SP	337	CX14	径15cm強・深約37cm。SX-61・SP-338を切る。	灰黄褐色砂質土。木の根か。	C	なし	弥生
SP	338	CX14	径20cm強の不定円形・深約8cm。SP-337・338に切られる。	灰黄褐色砂質土。木の根か。	C	なし	弥生
SP	339	CX14	径約15cmの長円形・深約19cm。SP-338を切る。	灰褐色砂質土。浅黄砂質土の丸いブロック少量含む。木の根か。	C	弥生土器細片3点	弥生
SP	340	CX14	径40cm強の不定円形・深約13cm。	灰褐色砂質土。	C	弥生土器・土師器細片2点	弥生
SP	341	CX14	復元径約15cm。SP-342に切られる。	灰褐色砂質土。	C	弥生土器・土師器細片1点	弥生
SP	342	CX14	径約20cm・深約40cm。SP-341・343・344を切る。	灰褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	343	CX14	約25×50cmの長楕円形・深約4cm。SP-342に切られ、SD-33・SP-341を切る。	灰褐色砂質土。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	344	CX14	約15×20cmの長楕円形・深約6cm。SP-342・343に切られる。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	345	CX14	径約15cm・深約10cm。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	346	CX14	約20×25cmの楕円形・深約29cm。	詳細不明。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	347	CW14	復元径約20cm・深約35cm。SP-200に切られ、SX-40と切り合い関係。	灰褐色砂質シルトに、明黄褐色砂質土のレンズ状ブロックが混じり、1～2mm大の砂粒少量含む。	C	なし	弥生
SP	348	CX13	径約20cm・深約22cm。SP-147に切られる。	暗褐色砂質土。2mm前後のⅣ層を斑状に含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	349	CX13	径約10cm・深約4cm。	詳細不明。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	350	CX13	径約6cm・深約10cm。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	351	CX13	径約13cm・深約10cm。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	352	CX13	径約13cm・深約6cm。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや含み、1cm大のⅣ層が斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	353	CX13	径約15cm・深約9cm。	暗褐色砂質土。1cm前後のⅣ層が斑状に多く混じり、粘性あり。	C	なし	弥生
SP	354	CX13	径約35cm・深約11cm。	暗褐色砂質土。2mm前後のにぶい黄色土を斑状に含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	355	CV・CW13・14	径約35cm・深約18cm。	にぶい黄褐色砂質土。木の根か。	C	なし	弥生
SP	356	CW14	径約15cm・深約22cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	357	CW14	径約40cm・深約23cm。SP-358に切られる。	にぶい黄褐色砂質シルト。	C	弥生土器片約10点	弥生
SP	358	CW14	径約25cm・深約16cm。SP-357を切る。	にぶい黄褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の丸いブロック少量含む。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	359	CV14	径約15cm・深約25cm。	灰黄褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の不定形ブロック含む。	C	なし	弥生
SP	360	CV・CW14	径約22cm・深約22cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	361	CW14	径約25cm・深約25cm。SP-363に切られる。	にぶい黄褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土・明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	362	CW14	径約10cm・深約8cm。	にぶい黄褐色砂質シルト。2mm前後の砂礫含む。	C	なし	弥生
SP	363	CW14	約20×25cmの楕円形・深約23cm。SP-361を切る。	にぶい黄褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土・明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	364	CW14	径32～35cmの円形・深約24cm。	にぶい黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	365	CW14	径17～20cmの円形・深約10cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	366	CW14	径約20cm・深約15cm。	にぶい黄褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の不定形ブロック含む。	C	なし	弥生
SP	367	CW14	径20～30cmの不定円形・深約20cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	368	CW14	径約25cmの不定円形・深約28cm。SP-369を切る。	暗褐色シルト。明黄褐色砂質土の丸いブロック少量含む。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	369	CW14	径約23cm・深約17cm。SP-368に切られ、SP-370を切る。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	370	CW14	径約20cmの円形・深約9cm。SP-369に切られ、SP-371を切る。	にぶい黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	371	CW14	約45×50cmの楕円形・深約18cm。SP-370に切られ、SP-372を切る。	にぶい黄橙色砂質土。	C	なし	弥生
SP	372	CW14	約65×80cmの長楕円形・深約13cm。SP-221・371に切られる。	にぶい褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。木の根か。	C	なし	弥生
SP	373	CW14	約20×25cmの楕円形・深約19cm。	灰褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	374	CW14	約20×26cmの楕円形・深約4cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	375	CW14	径約20cm・深約24cm。	灰黄褐色砂質シルト。木の根か。	C	なし	弥生
SP	376	CW14	径約20cm・深約6cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	377	CW14	約23×30cmの長楕円形・深約25cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	図39、弥生土器細片1点	弥生
SP	378	CW14	約20×25cmの長楕円形・深約36cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	379	CW14	径約25cm・2段の掘り込み・最深約37cm。	にぶい黄褐色砂質シルト。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	380	CW14	径約25cm・深約14cm。SP-167に切られる。	にぶい黄褐色シルト。1mm前後の砂粒・浅黄色砂質シルトの丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	381	CW13	長約90cm・幅約35cmの溝状・深約6cm、東端に径約25cm・深約15cmの小穴あり。	暗褐色砂質土。1～3cm大のにぶい黄色土ブロック斑状に含む。粘性あり。	C	図39	弥生
SP	382	CV13	径約15cm・深約20cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層・炭化物多く含む。	C	なし	弥生
SP	383	CV・CW13	径約25cm・深約23cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層を斑状に、炭化物粒少量含む。	C	なし	弥生
SP	384	CV13	復元約45×55cmの楕円形・深約40cm。SP-385・386と切り合い関係。	暗褐色砂質土。3～5mm大のにぶい黄色土ブロックを斑状に多く含む。	C	なし	弥生
SP	385	CV13	復元径約18cm・深約15cm。SP-384と切り合い関係。	暗褐色砂質土。1cm前後のにぶい黄色土ブロックを斑状に含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	386	CV13	復元径約18cm・深約10cm。SP-384と切り合い関係。	暗褐色砂質土。1cm前後のにぶい黄色土ブロックを斑状に含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	387	CW15	径約25cm・深約22cm。SX-40と切り合い関係。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	388	CW15	径約20cm・深約22cm。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	389	CW15	径約20cm・深約15cm。SP-162に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土・にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	390	CW15	東半分調査区外。深約21cm。	灰褐色砂質土。	C	図39、弥生土器細片1点	弥生
SP	391	CW15	1辺25～35cmの不整形・深約17cm。SP-163に切られる。	暗褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	392	CX14	径20cm前後・深約32cm。SX-63底面検出。	詳細不明。	C	弥生土器片5点	弥生
SP	393	CX11	約35×45cmの楕円形・深約10cm。	暗褐色砂質土。上部に2mm前後の砂礫多く含む。しまりあり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	394	CX11	径約23cm・深約15cm。	暗褐色砂質土。ラミナ状にⅢ・Ⅳ層が混在。やや砂質強。	C	なし	弥生
SP	395	CX11	径約13cm・深約25cm。	にぶい黄褐色シルト。暗褐色土・にぶい黄色土が3～5mm大のブロック状に混じる。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	396	CX11	径約20cm・深約17cm。	暗褐色砂質土。2cm前後のⅢ・Ⅳ層ブロックを斑状に含み、粘性あり。1mm前後の砂粒含む。	C	なし	弥生
SP	397	CX11	径約15cm・深約26cm。	暗褐色シルト。1～3mm大のにぶい黄色土ブロック混じる。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	398	CW11	径20～25cm・深約8cm。SP-399・400と切り合い関係。SD-33底面検出。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	399	CW11	径約20cm・深約30cm。SP-398・400と切り合い関係。SD-33底面検出。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	400	CW11	約20×30cmの楕円形・深約18cm。SP-398・399と切り合い関係。SD-33底面検出。	詳細不明。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	401	CW11	径約15cm・深約20cm。	褐色シルト。3mm大のにぶい黄色土ブロック多く混じる。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	402	CW11	径約12cm・深約16cm。SD-33を切る。	褐色シルト。3mm大のにぶい黄色土ブロック多く混じる。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	403	CW11	径約20cm・深約20cm。SD-33内検出。	暗褐色砂質土。2mm前後の砂礫多く混じる。下部はにぶい黄色土がブロック状に混じる。しまり・粘性あり。	C	なし	弥生
SP	404	CW11	径約25cm・深約16cm。SD-33を切る。	暗褐色砂質土。2mm前後の砂礫含む。しまりあり。粘性あり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	405	CW11	径約22cm・深約15cm。SP-406を切る。	黒褐色シルト。炭化物粒含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	406	CW11	約40×95cmの長楕円形・深約12cm、さらに約15×20cm・深約4cmの小穴あり。SP-405に切られ、SP-407・408を切る。	黄褐色シルト。にぶい黄色土中に、1cm大の黒褐色土シルトブロック含む。粘性あり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	407	CW11	径約20cm・深約20cm。SP-406に切られる。	暗褐色シルト。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	408	CW11	復元約15×25cmの楕円形・深約16cm。SP-406・409に切られる。	暗褐色シルト。	C	なし	弥生
SP	409	CW11	復元約25×40cmの楕円形・深約20cm。SP-408を切る。	暗褐色砂質土。2mm前後の砂礫多く含む。	C	なし	弥生
SP	410	CW11	径約23cm・深約24cm。SD-43を切る。	黒褐色シルト。3cm大のにぶい黄色土ブロック少量混じる。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	411	CW11	約10×15cmの楕円形・深約14cm。	黒褐色シルト。	C	なし	弥生
SP	412	CW11	径約13cm・深約6cm。SD-43底面検出。	暗褐色シルト。1cm大のにぶい黄色土ブロック少量混じる。	C	なし	弥生
SP	413	CW11	径約15cm・深約10cm。SD-43底面検出。	暗褐色シルト。にぶい黄色土の微細ブロックわずかに含む。	C	なし	弥生
SP	414	CW11	約15×18cmの楕円形・深約18cm。SD-43底面検出。	暗褐色シルト。1cm大のにぶい黄色土ブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	415	CW11	径約15cm・深約15cm。	暗褐色シルト。	C	なし	弥生
SP	416	CW11	径約15cm・深約18cm。SD-43を切る。	図18	C	なし	弥生
SP	417	CW11	約20×30cmの楕円形・深約30cm。SD-43底面検出。	暗褐色シルト。1cm大のにぶい黄色土ブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	418	CW11	径約18cm・深約30cm。	暗褐色シルト。にぶい黄色土の微細ブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	419	CW11	約18×23cmの楕円形・深約20cm。	暗褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	420	CW11	径約20cm・深約20cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックわずかに混じる。	C	なし	弥生
SP	421	CW11	径20cm前後・深約25cm。	黒褐色シルト。3mm前後のにぶい黄色土ブロックが斑状に多く混じる。	C	弥生土器細片1点、陶磁器片1点（紛れ込みか）	弥生
SP	422	CW11	長50cm以上・幅20cm前後の溝状・深約15cm。	黒褐色シルト。2～3mm大のにぶい黄色土ブロック斑状に多く混じる。	C	図39	弥生
SP	423	CV11	径約15cm・深約15cm。	暗褐色シルト。	C	なし	弥生
SP	424	CV11	径約15cm・深約25cm。SP-425と切り合い関係。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土のブロックわずかに混じる。	C	なし	弥生
SP	425	CV11	径約15cm・深約22cm。SP-424と切り合い関係。	暗褐色シルト。	C	なし	弥生
SP	426	CW12	径約15cm・深約17cm。	鉄・マンガン分の沈着で赤み帯びる。シルト質強い。	C	なし	弥生
SP	427	CW11	径約15cm・深約15cm。	鉄・マンガン分の沈着で赤み帯びる。シルト質強い。	C	なし	弥生
SP	428	CW12	径約15cm・深約18cm。	鉄・マンガン分の沈着で赤み帯びる。シルト質強い。	C	なし	弥生
SP	429	CW12	径約12cm・深約17cm。	鉄・マンガン分の沈着で赤み帯びる。シルト質強い。	C	なし	弥生
SP	430	CV11	径約20cm・深約30cm。	鉄・マンガン分の沈着で赤み帯びる。シルト質強い。	C	なし	弥生
SP	431	CV12	約30×35cmの楕円形・深約18cm。	鉄・マンガン分の沈着で赤み帯びる。シルト質強い。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	432	CV14	径約20cm・深約20cm。	にぶい黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	433	CV14	1辺30cm前後の不定形・底面凹凸あり・最深部深約34cm。	にぶい黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック・1mm前後の砂粒含む。	C	なし	弥生
SP	434	CV14	約20×23cmの楕円形・深約15cm。	にぶい黄褐色砂質土。1mm前後の砂粒含む。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	435	CV14	径約20cm・深約22cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	436	CV14	径約20cm・深約36cm。	にぶい黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	437	CV14	径約20cm・深約19cm。	灰黄褐色砂質土。1mm前後の白色砂粒少量含む。	C	図39	弥生
SP	438	CV14	径12～14cmの円形・深約20cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	439	CV14	20～30cmの歪な形・深約8cm。SX-42と切り合い関係。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	440	CW・CX14	径約20cm・深約26cm。SC-35に切られる。	暗褐色砂質土。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	441	CW15	径約20cm・深約31cm。SX-40底面検出。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	442	CW14	復元径約50cm・深約6cm。SX-41に切られ、SP-242を切る。	灰褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	443	CU13	径約50cmのやや隅丸方形・深約36cm。径約12cmの柱抜き取り痕。SX-50・51を切る。	図55	B	円礫1点	古墳後期
SP	444	CV12	約55×65cmの楕円形・深約50cm。SC-27に切られる。	図38	C	なし	弥生
SP	445	CV・CW12	約35×50cmの楕円形・深約50cm、さらに径約15cm・深約7cmの小穴あり。SC-27に切られる。	詳細不明。	B	土師器片1点、須恵器坏片1点	古墳後期
SP	446	CW12	径約35cm・深約10cm、さらに径約20cm・深約10cmの小穴あり。SD-36に切られる。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロック混じる。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	447	CW12	径約25cm・深約45cm。SC-27に切られる。	暗褐色砂質土。1～3cm大のにぶい黄色土ブロックやや多く混じる。炭化物粒含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	448	CW12	径約20cm・深約8cm。SC-27に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを斑状に多く含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	449	CW12	径25cm前後の不整円形・深約12cm、さらに径12cm・深約17cmの小穴あり。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを斑状に多く含む。しまりあり。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	450	CW12	約20×25cmの楕円形・深約22cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを斑状に多く含む。しまりあり。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	451	CW12	径約25cm・深約20cm、さらに径20cm弱・深約14cmの小穴あり。	暗褐色砂質土。5mm大のにぶい黄色土ブロックが点々と混じる。粘性ややあり。	C	なし	弥生
SP	452	CW11	径約12cm・深約13cm。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	453	CV11	径約25cm・深約38cm。	灰オリーブ色シルト。にぶい黄色土中に点々と暗褐色土が斑状に混じる。	C	なし	弥生
SP	454	CV11	径約12cm・深約14cm。	暗灰黄色シルト。	C	なし	弥生
SP	455	CV11	径約12cm・深約17cm。	黒褐色シルト。	C	なし	弥生
SP	456	CV11	径約16cm・深約10cm。	暗オリーブ褐色シルト。1cm大のにぶい黄色土ブロックが斑状に多く混じる。	C	なし	弥生
SP	457	CU・CV11	径約20cm・深約28cm。	黒褐色シルト。1cm大のにぶい黄色土ブロックやや多く含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	458	CV11	径約15cm・深約20cm。	黒褐色シルト。にぶい黄色土ブロック多く含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	459	CV12	径約15cm・深約20cm。	暗褐色シルト。1cm前後のにぶい黄色土ブロック含む。粘性ややあり。	C	なし	弥生
SP	460	CV12	径約35cm・深約22cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロック少し含む。しまりあり。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	461	CV13	径約25cm・深約25cm。	灰黄褐色砂質土に明黄褐色砂質土ブロック混じる。	C	なし	弥生
SP	462	CV13	1辺約25cmの不定形・深約11cm。	灰黄褐色砂質土に明黄褐色砂質土ブロック混じる。	C	なし	弥生
SP	463	CW13	径約18cm・深約6cm。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	464	CW13	径約15cm・深約29cm。SP-465を切る。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	465	CW13	径約15cm・深約17cm。SP-464に切られる。	黒褐色砂質土に明黄褐色砂質土の不定形ブロック混じる。	C	なし	弥生
SP	466	CW12	径約23cm・深約20cm。SC-27に切られる。	暗褐色砂質土。1～3cm大のⅣ層ブロック混じる。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	467	CW13	径約15cm・深約7cm。SP-468を切る。	にぶい黄褐色砂質土。2～3mm大の砂礫多く含む。	C	なし	弥生
SP	468	CW13	径10cm強・深約6cm。SP-467に切られる。	にぶい黄褐色砂質土。2～3mm大の砂礫多く含む。	C	なし	弥生
SP	469	CW13・14	径約20cm・深約5cm、さらに径約10cm・深約15cmの小穴あり。SC-35床面検出。	灰黄褐色砂質土。1～2mm大の砂粒含む。	C	なし	弥生
SP	470	CW13・14	径約25cm・深約10cm。SC-35床面検出。	灰黄褐色砂質土。1～2mm大の砂粒・小指先大の不定形炭化物少量含む。	C	弥生土器細片4点、炭化物	弥生
SP	471	CW14	約18×22cmの楕円形・深約3cm。SC-35・SK48を切る。	灰黄褐色砂質土。1～2mm大の砂粒含む。	C	炭化物	弥生
SP	472	CW12	径25～35cmの不整円形・深約8cm、さらに径約20cm・深約23cmの小穴あり。SC-27に切られる。	暗褐色砂質土。2mm前後のにぶい黄色土を斑状に多く含む。粘性ややあり。	C	なし	弥生
SP	473	CW12	復元径約30cm・深約19cm。SC-27に切られ、SP-474と切り合い関係。	暗褐色砂質土。1～2mm大のにぶい黄色土ブロック多数混じる。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	474	CW12	復元径約30cm・深約17cm。SC-27に切られ、SP-473と切り合い関係。	暗褐色砂質土。1～2mm大のにぶい黄色土ブロックが多数混じる。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	475	CV・CW12	約18×22cmの楕円形・深約22cm。SC-27に切られる。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	476	CV・CW12	復元径約25cm・深約14cm。SC-27・SP-478に切られ、SP-477と切り合い関係。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	477	CW12	復元径約30cm・深約13cm。SC-27・SP-478に切られ、SC-476と切り合い関係。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	478	CW12	径25cm前後・深約20cm。SC-27に切られ、SP-476・477を切る。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	479	CV12	復元径約25cm・深約8cm。SC-27に切られる。	暗褐色砂質土。1～3mm大のⅣ層ブロックが混じる。しまりない。	C	なし	弥生
SP	480	CW12	径約12cm・深約11cm。SC-27に切られる。	暗褐色砂質土。1～3mm大のⅣ層ブロックが混じる。しまりない。	C	なし	弥生
SP	481	CW12	径約20cm・深約20cm。SC－27に切られる。	詳細不明。	C	なし	弥生
欠番	482						
SP	483	CV13	径約25cm・深約16cm。SX-50底面検出。	暗褐色砂質土。1～3mm大のにぶい黄色土ブロックを斑状に含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	484	CV13	復元径約20cm・深約12cm。	暗褐色砂質土。3cm大のにぶい黄色土ブロックが混じる。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	485	CV13	径約30cm・深約32cm。	暗褐色砂質土。1～3mm大のにぶい黄色土ブロック・1mm前後の砂粒やや含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	486	CV13	径約20cm・深約24cm。	暗褐色砂質土。5mm前後のにぶい黄色土ブロックを斑状に含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	487	CV13	径約12cm・深約4cm。SP-488を切る。	暗褐色砂質土。1mm未満の砂粒やや含む。	C	なし	弥生
SP	488	CV13	径約20cm・深約20cm。SP-487に切られる。	暗褐色砂質土。3mm前後のにぶい黄色土ブロック・1mm前後の暗褐色土ブロックが混在。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	489	CV13	径約15cm・深約11cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土のブロック含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	490	CV13	径約15cm・深約24cm。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	491	CV12	径約30cm・深約7cm、さらに径15cm前後・深約3cmの小穴あり。SK-47を切る。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや含み、3cm前後のⅣ層ブロック含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	492	CV12	復元径約30cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。3cm大のⅣ層ブロック多く含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	493	CV12	径約25cm・深約18cm。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや含み、1cm前後のⅣ層ブロック含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	494	CV12	径約23cm・深約14cm。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや含み、Ⅳ層微細ブロック含む。	C	なし	弥生
SP	495	CV12	復元径約20cm・深約5cm。SP-496に切られる。	暗褐色砂質土。やや砂質強い。	C	なし	弥生
SP	496	CV12	径約20cm・深約35cm。SP-495を切る。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒・にぶい黄色土の微細ブロック含む。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	497	CV12	径約16cm・深約40cm。	暗褐色土砂質土。2cm大のにぶい黄色土ブロック斑状に含む。粘性ややあり。	C	なし	弥生
SP	498	CV12	約35×45cmの不整楕円形・深約38cm、さらに径25cm前後・深約6cmの小穴あり。SP-499を切る。	暗褐色砂質土。1cm前後のにぶい黄色土ブロックが混じる。粘性ややあり。	C	弥生土器細片1点	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	499	CV12	復元径約25cm・深約30cm。SP-498に切られる。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや、1cm前後のにぶい黄色土ブロック含む。粘性ややあり。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	500	CV12	径約20cm・深約15cm。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロックを含む。	C	なし	弥生
SP	501	CV12	径約25cm・深約14cm。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	502	CV12	径約20cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。2cm大のにぶい黄色土ブロック斑状に含む。	C	なし	弥生
SP	503	CU12	径約12cm・深約11cm。	暗褐色砂質土。2cm大のにぶい黄色土ブロック斑状に含む。	C	なし	弥生
SP	504	CU12	径約15cm・深約9cm。	暗褐色砂質土。2cm大のにぶい黄色土ブロック斑状に含む。	C	なし	弥生
SP	505	CU12	約17×25cmの楕円形・深約20cm。	暗褐色砂質土。5mm以下のにぶい黄色土ブロック斑状に多く含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	506	CU・CV12	約14×30cmの長楕円形・深約8cm。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロック斑状に含む。	C	なし	弥生
SP	507	CU12	径約22cm・深約7cm。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒わずかに含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	508	CU12	径約12cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	509	CU12	径約12cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	510	CV12	径約20cm・深約33cm。SP-511を切る。	暗褐色砂質土か。	C	なし	弥生
SP	511	CV12	復元1辺約35cmの隅丸方形・深約7cm。SK-46・SP-510に切られる。	暗褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	512	CU12	復元径約40cm・深約12cm。SK-46に切られる。	暗褐色砂質土。2mm大のにぶい黄色土ブロック含む。	C	なし	弥生
SP	513	CV12	径約20cm・深約18cm。SP-514に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土のブロック多数含む。	C	なし	弥生
SP	514	CV12	径約24cm・深約18cm。SP-513を切る。	暗褐色砂質土。1mm前後の砂粒やや、にぶい黄色土を若干含む。	C	なし	弥生
SP	515	CU12	径約20cm・深約20cm。SP-516に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを斑状に多く含む。	C	なし	弥生
SP	516	CU12	径約22cm・深約10cm、さらに径約12cm・深約20cmの小穴あり。SP-515を切る。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを斑状に多く含む。	C	なし	弥生
欠番	517						
SP	518	CW14	径約25cm・深約28cm。SC－35床面検出。	図7	C	炭化物、赤色顔料	弥生
SP	519	CW14	径約5cm。SC-35床面検出。	灰黄褐色砂質土。0.1mm大の粒状に赤色顔料を少量含む。落ち込みか。	C	なし	弥生
SP	520	CW14	径30～40cmの不整形・深約5cm。SC-35床面検出。SP-528に切られる。	木の根。	C	石器微細剥片、弥生土器壺・甕の小片	弥生
SP	521	CW13	径約15cm・深約4cm。SC-35床面検出。	灰黄褐色砂質土。	C	炭化物	弥生
SP	522	CW13	径約15cm・深約2cm。SC-35床面検出。	詳細不明。	C	炭化物	弥生
SP	523	CW13	径25cm前後の不整円形・深約13cm。SC-35台石下検出。	図38	C	図10、炭化物、赤色顔料、弥生土器壺・甕の小片	弥生
SP	524	CW14	径約17cm・深約21cm。SC-35床面検出。	灰黄褐色砂質土。不定形ブロック・小指先大の炭化物少量含む。木の根。	C	炭化物	弥生
SP	525	CW14	約18×25cmの楕円形・深約17cm。SC-35床面検出。	にぶい黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック・小指先大の炭化物少量含む。	C	炭化物、石器微細剥片	弥生
SP	526	CW14	径15～18cm・深約27cm。SC-35床面検出。	図7	C	炭化物、弥生土器壺・甕の小片	弥生
SP	527	CW14	径約15cm・深約17cm。SC-35床面検出。	灰黄褐色砂質土。明黄褐砂質土の丸いブロック、小指先大の炭化物少量含む。	C	炭化物	弥生
SP	528	CW14	径約18cm・深約12cm。SC-35床面検出。SP-520を切る。	灰黄褐色砂質土。明黄褐砂質土の丸いブロック含む。	C	図9、炭化物、赤色顔料、石器微細剥片、弥生土器壺・甕の小片	弥生
SP	529	CW14	径約20cm・深約24cm。SC-35床面検出。SP-530を切る。	図7	C	炭化物、石器微細剥片、弥生土器壺・甕の小片	弥生
SP	530	CW14	径約23cm・深約23cm。SC-35床面検出。SP-529に切られる。	黒褐色砂質土。明黄褐砂質土のレンズ状ブロック多く含む。	C	炭化物、赤色顔料、弥生土器壺・甕の小片	弥生
SP	531	CW13	径約25cm・深約7cm。SC－35床面検出。	灰黄褐色砂質土。	C	炭化物、石器微細剥片	弥生
SP	532	CV13	径30cm前後の不整円形・深約45cm。SX-50内検出。	詳細不明。	C	弥生土器甕片1点	弥生
SP	533	CU13	径約25cm・深約23cm、さらに径約15cm・深約9cmの小穴あり。SX-50内検出。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	534	CV13	径約22cm・深約25cm。SX-50内検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックが少量混じる。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	535	CV13	径約20cm・深約14cm。SP-536と切り合い関係。SX-50内検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを含む。鉄・マンガン分の沈着あり。暗褐色粘質土の微細粒多く混じる。	C	なし	弥生
SP	536	CV13	径約20cm・深約4cm。SP-535と切り合い関係。SX-50内検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロックを含む。鉄・マンガン分の沈着あり。暗褐色粘質土の微細粒多く混じる。	C	なし	弥生
SP	537	CU13	径約8cm・深約8cm。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	538	CU13	径約15cm・深約7cm。SP-539に切られる。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	539	CU13	径約20cm・深約9cm。SP-538・540を切る。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	540	CU13	径約12cm・深約8cm。SP-539に切られる。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	541	CU13	径約17cm・深約9cm。SP-542を切る。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	542	CU13	径約22cm・深約6cm。SP-541に切られる。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	543	CU13	径約17cm・深約15cm。SX-50を切る。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	544	CU13	径約15cm・深約13cm。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	545	CU13	径約30cm・深約10cm。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	546	CU13	1辺約20cmの隅丸三角形状・深約16cm。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	547	CU13	径約20cm・深約13cm。	暗褐色砂質土。3cm前後のにぶい黄色土ブロック混じる。砂質強い。漸移層的。	C	なし	弥生
SP	548	CU14	約15×22cmの不整楕円形・深約20cm。SX-50内検出。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	549	CU14	径約18cm・深約19cm。SX-51底面検出。	暗褐色砂質土。Ⅳ層の微細ブロック少量混じる。砂質強。	C	なし	弥生
SP	550	CU14	約10×12cmの楕円形・深約9cm。SP-551を切る。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	551	CU14	径約15cm・深約10cm。SP-550に切られる。	詳細不明。	C	なし	弥生
SP	552	CT13	径約20cm・深約16cm。	暗褐色砂質土。2cm大のにぶい黄色土ブロック少量混じる。砂質強。	C	なし	弥生
SP	553	CT13	径約17cm・深約4cm。	暗褐色砂質土。2cm大のにぶい黄色土ブロック少量混じる。1mm前後の砂粒少し含む。砂質強。	C	なし	弥生
SP	554	CW14	SC-35・SK-48を切る。	灰黄褐色砂質土。小指先大の焼土片多く含む。	C	炭化物、赤色顔料	弥生
SP	555	CT14	径約22cm・深約3cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	556	CT13	約15×20cmの楕円形・深約8cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層をかなり含み、砂質強。	C	なし	弥生
SP	557	CT13	約15×20cmの楕円形・深約18cm。	暗褐色砂質土。1cm大のⅣ層ブロック含み、しまり・粘性あり。	C	なし	弥生
SP	558	CT13	径約25cm・深約6cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層を1cm前後の斑状に多く含み、やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	559	CT13	径約13cm・深約10cm。SP-560に切られる。	暗褐色砂質土。砂質強。Ⅳ層ほとんど含まない。	C	なし	弥生
SP	560	CT13	径約18cm・深約19cm。SP-559を切る。	暗褐色砂質土。砂質強。Ⅳ層ほとんど含まない。	C	なし	弥生
SP	561	CT13	径約15cm・深約10cm。SP-562と切り合い関係。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細粒を多く含み、やや粘性あり。	C	弥生土器細片2点	弥生
SP	562	CT13	径約8cm・深約10cm。SP-561と切り合い関係。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細粒を多く含み、やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	563	CT13	径約10cm・深約11cm。	暗褐色砂質土。砂質やや強。	C	なし	弥生
SP	564	CT13	径約20cm・深約13cm。SP-565と切り合い関係。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細粒を多く含み、粘性あり。	C	なし	弥生
SP	565	CT13	径約25cm・深約14cm。SP-564と切り合い関係。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細粒を多く含み、粘性あり。	C	なし	弥生
SP	566	CT13	径約23cm・深約7cm。	暗褐色砂質土。5mm大のⅢ・Ⅳ層の粘性粒含む。粘性ややあり。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	567	CT13	径約25cm・深約10cm。SP-568を切る。	砂質土。5mm大のⅣ層を斑状に多く含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	568	CT13	復元径約15cm・深約6cm。SP-567に切られる。	暗褐色砂質土。5mm大のⅣ層を斑状に多く含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	569	CT13	径約18cm・深約8cm、さらに径約6cm・深約4cmの小穴あり。	暗褐色砂質土。1cm大のⅣ層を斑状に含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	570	CT13	径約13cm・深約6cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層を少し斑状に混じえ、1mm前後の砂粒含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	571	CT13	径約15cm・深約13cm。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細粒を多く混じえ、粘性あり。	C	なし	弥生
SP	572	CT13	径約15cm・深約10cm。SP-573に切られる。	暗褐色砂質土。Ⅳ層を斑状に混じえ。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	573	CT13	径約12cm・深約15cm。SP-572を切る。	暗褐色砂質土。Ⅳ層微細粒を少し含み、粘性あり。	C	なし	弥生
SP	574	CT13	復元径約65cm・深約8cm。SX-54を切る。	にぶい黄褐色砂質土。1cm前後のブロック状に、暗褐色土・にぶい黄色土混在。1mm前後の砂粒含み、しまりあり。	C	なし	弥生
SP	575	CT13	径約12cm・深約6cm。SX-54底面検出。	暗褐色砂質土。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	576	CT14	復元径約50cm・深約4cm。SP-577を切る。	にぶい黄褐色砂質土。5mm大の粒状ににぶい黄色土を多く含む。砂質強い。1mm前後の砂粒やや含む。	C	なし	弥生
SP	577	CT14	復元径約35cm・深約5cm。SP-576に切られる。	にぶい黄褐色砂質土。5mm大の粒状ににぶい黄色土を多く含む。砂質強い。1mm前後の砂粒やや含む。	C	なし	弥生
SP	578	CU11	径約25cm・深約11cm。	暗灰黄色シルト。1～2mm大の砂粒少量混じる。	C	なし	弥生
SP	579	CU12	約20×23cmの楕円形・深約20cm。SX-57を切る。	灰黄褐色砂質土。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	580	CU12	径約18cm・深約9cm。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	581	CU12	約30×45cmの楕円形・深約15cm。SP-582に切られる。	黒褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック少し含む。	C	弥生土器・土師器細片1点	弥生
SP	582	CU12	径約38cm・深約27cm。SP-581・583を切る。	黒褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	583	CU12	径約27cm・深約13cm。SP-582に切られ、SP-584を切る。	黒褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック・1cm大の炭化物含む。	C	弥生土器片1点	弥生
SP	584	CT・CU12	径約30cm・深約15cm。SP-583に切られる。	黒褐色砂質シルト。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	585	CU12	約15×18cmの楕円形・深約7cm。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	586	CU12	径約30cm・深約10cm。	黒褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	587	CU13	径約22cm・深約17cm。SX-52底面検出。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロック多く含む。しまりあり。	C	なし	弥生
欠番	588						
SP	589	CU13	約20×25cmの楕円形・深約14cm。SX-52底面検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土がラミナ状に混じる。砂質強。	C	なし	弥生
SP	590	CU13	径約17cm・深約15cm。SX-52底面検出。	暗褐色砂質土。2mm前後のにぶい黄色土ブロック含む。しまりあり。粘性ややあり。	C	なし	弥生
SP	591	CU13	径約15cm・深約12cm。SP-592と切り合い関係。SX-52底面検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細粒多く含む。粘性あり。	C	なし	弥生
SP	592	CU13	径約15cm・深約10cm。SP-591と切り合い関係。SX-52底面検出。	にぶい黄褐色砂質土。3mm大のにぶい黄色土ブロック含む。しまりあり。	C	なし	弥生

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土		出土遺物	時期
種別	番号			特徴	類型		
SP	593	CU13	径約20cm・深約10cm。	暗褐色砂質土。5～10mm大のにぶい黄色土ブロック・1mm前後の砂粒をむ。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	594	CU13	径約16cm・深約16cm。SX-53内検出。	にぶい黄褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土が斑状に多く混じる。砂質強。	C	なし	弥生
SP	595	CU13	径約15cm・深約13cm。SX-53内検出。	にぶい黄褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土が斑状に多く混じる。砂質強。	C	なし	弥生
SP	596	CT13	径約40cm・深約5cm。SX-54に切られる。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	597	CT13	径約15cm・深約15cm。SX-54底面検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄色土の微細ブロック少量・1～3mmの砂礫含む。粘性あり。	C	なし	弥生
欠番	598						
SP	599	CT12	径約20cm・深約11cm。	黒褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	600	CT12	径約15cm・深約7cm。	黒褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	601	CT12	径約12cm・深約6cm。SP-602を切る。	黒褐色砂質土。	C	弥生土器細片1点	弥生
SP	602	CT12	約15×20cmの楕円形・深約6cm。SP-601に切られる。	黒褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	603	CT12	径約13cm・深約19cm。SP-605に切られる。	灰黄褐色砂質土。	C	図39	弥生
SP	604	CT12	径約15cm・深約18cm。SP－605に切られる。	黒褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	605	CT12	1辺30～35cmの方形・深約14cm。SP-603・604・606を切る。	黒褐色砂質土。明黄褐砂質土・にぶい黄橙砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	606	CT12	径約20cm・深約8cm。SP-605に切られる。	黒褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	607	CT12	径約22cm・深約24cm。	黒褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	608	CT12	径約50cmの半円形・深約18cm。SX-57を切る。	黒褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
欠番	609						
SP	610	CT11	径約20cmの半円形・深約12cm。	暗灰黄色砂質土。	C	なし	弥生
SP	611	CS11	径約18cmの半円径・深約11cm。	暗灰黄色砂質土。	C	なし	弥生
SP	612	CS11	径約25cmの半円形・深約1cm。	暗灰黄色砂質土。	C	なし	弥生
SP	613	CS11	約17×30cmの楕円形・深約37cm。	灰黄褐色砂質シルト。明黄褐色砂質土の丸いブロック少量含む。	C	なし	弥生
SP	614	CU12	径約18cm・深約16cm。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロック含む。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	615	CU12	径約22cm・深約9cm。SK-55と切り合い関係。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロック少量混じる。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	616	CU12	約30×40cmの楕円形・深約12cm。SK-55と切り合い関係。	暗褐色砂質土。1cm大のにぶい黄色土ブロック少量混じる。しまりあり。	C	なし	弥生
SP	617	CU12	復元径約40cm・深約10cm。SX-56に切られる。	にぶい黄褐色砂質土を主体として、暗褐色土混じる。砂質強。	C	なし	弥生
欠番	618						
SP	619	CT12	径約15cm・深約8cm。SK-59内検出。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	620	CT12	径約17cm・深約8cm。SK-60底面検出。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	621	CT12	径約20cm・深約7cm。SP-622に切られる。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	622	CT12	径約20cm・深約6cm。SP-621を切る。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	623	CT12	径約25cm・深約5cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	624	CT12	径約20cm・深約6cm。	にぶい黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	625	CT12	径約20cm・深約40cm。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック少量含む。	C	図39、弥生土器片1点	弥生
SP	626	CT12	径20～23cm・深約7cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	627	CT12	約15×20cmの長楕円形・深約8cm。SX-58底面検出。	灰褐色砂質土。	C	弥生土器・土師器細片1点	弥生
SP	628	CT12	径約18cm・深約10cm。SX-58底面検出。	灰褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	629	CT12	径22～26cm・深約12cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	630	CT12	径約16cm・深約20cm。	灰黄褐色砂質シルト。	C	なし	弥生
SP	631	CT11	深約14cm。	灰黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	632	CT11	径約25cm・深約17cm。SP-631・633を切る。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生
SP	633	CT11	1辺約35cmの隅丸方形・深約12cm。SP-632に切られる。	灰黄褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロック含む。	C	なし	弥生
SP	634	CT11	径約38cmの半円形・深約15cm。SK-62を切る。	灰黄褐色砂質土。にぶい黄橙色砂質土の丸いブロック含む。	C	弥生土器・土師器細片1点	弥生
欠番	635						
SP	636	CW11（南区）	約20×25cmの楕円形・深約17cm。SC-65に切られる。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロックを少量含む。砂礫は含まない。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	637	CW11（南区）	復元径約70cm・深約6cm。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロックを少量含む。砂礫は含まない。やや粘性あり。	C	なし	弥生
SP	638	CW11（南区）	径約25cm・深約40cm。	黒褐色砂質土。明黄褐色砂質土の丸いブロックを少量含む。砂礫は含まない。やや粘性あり。	C	なし	弥生
欠番	639						
SP	640	CU13	SX-51を切る。断面のみ確認。	図31	C	なし	弥生
SP	641	CU13	SX－51を切る。断面のみ確認。	図31	C	なし	弥生
SP	642	CW14	復元径約25cm・深約14cm。SK－48に接する。	灰黄褐色砂質土。	C	なし	弥生

表９　文京遺跡20次調査出土遺物観察表

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
図９～11　SC-35出土遺物実測図								
1	R40119	r4323	SC-35SP-530北半分	弥生土器	壺	口縁部	外面凹線文。内外面磨滅。外面にぶい黄橙色。	1
2	R40113	r4056	SC-35埋土	弥生土器	甕	口縁部	内外面磨滅。外面橙色、内面灰褐色。石英・長石含む。	1
3	R40116	r4063	SC-35埋土（西半）	弥生土器	壺	上胴部	「ノ」字状押圧文。内外面磨滅。外面明赤褐色、内面橙色。石英・長石多く含む。	1
4	R40114	r4058	SC-35埋土	弥生土器	壺	上胴部	「ノ」字状押圧文。内外面磨滅。外面赤色、内面にぶい褐色。石英・長石含む。	1
5	R40115	r4059	SC-35埋土（東半）	弥生土器	壺	胴部	外面ミガキ、内面ハケ目。外面にぶい橙色、内面橙色、外面下半部黒斑。石英・長石・雲母含む。	1
6	R40117	r4070	SC-35SP-528南半	弥生土器	壺	胴部	外面ハケ目・ミガキ、内面ハケ目・ナデ。外面にぶい黄橙色、内面橙色。石英・長石・雲母含む。	1
7	R40044	r4059	SC-35埋土（東半）	弥生土器	甕	胴部	外面タタキ・ハケ目、内面指頭圧痕。外面にぶい褐色、内面にぶい黄褐色、外面黒斑。雲母・角閃石含む。搬入品の可能性あり。	1
8	R40042	R112・113	SC-35床直	弥生土器	甕	胴部	内外面磨滅。内外面橙色。石英・長石含む。	1
		r4060	SC-35埋土（東半）					
		r4066	SC-35焼土・炭②					
9	R40041	R100・101	SC-35	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。内外面橙色。石英・長石含む。	1
		r4060	SC-35埋土（東半）					
		r4068	SC-35掘り残し部分					
10	R40118	r4319	SC-35内SP-523東半分	弥生土器	壺	底部	外面指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石含む。	1
11	R40112	R102	SC-35	弥生土器	壺	底部	内外面ナデ。外面にぶい黄色～明灰黄色、黒斑、内面黄灰色。石英・長石含む。	1
12	R40137	r4066	SC-35焼土・炭②	石器	打製石鏃		鋒欠損。両面調整剥離。0.2g。サヌカイト。	1
13	R40135	r4061	SC-35（東半）	石器	楔形石器		片面に自然面が残る。折損面２面。下縁部に潰れあり。4.6g。サヌカイト。	1
14	R40134	r4060	SC-35（東半）	石器	剥片		両極打法の痕跡あり。5.1g。サヌカイト。	1
15	R40136	r4064	SC-35（西半）	石器	剥片		1.0g。サヌカイト。	1
16	R40040	R99	SC-35	石器	剥片		加工痕あり。31.9g。赤色頁岩。	1
17	R40039	R98	SC-35	石器	磨製石庖丁		抉り入り直背弧刃形。10.6g。結晶片岩。	1
18	R40110	r4060	SC-35（東半）	石器	敲石		先端・側面に敲打痕。磨石利用の可能性あり。172.8g。砂岩。	1
19	R40043	R103	SC-35	石器	台石		長34.9cm、幅29.7cm、厚13.5cm。23kg。花崗岩。	2
図14　SD-33出土遺物実測図								
1	R40034	R92	SD-33	弥生土器	壺	底部	外面横ミガキ、内面縦～斜ハケ目。内外面黄灰色。石英・長石やや多く含む。	3
		r3173	Ⅲ層（CW13-9）					
		r3195	Ⅲ層（CW13-20）					
2	R40037	r4076	SD-33（CW・CX13）	弥生土器	甕	頸部	内外面横ナデ。外面褐灰色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。外面煤付着。	3
3	R40036	r4076	SD-33（CW・CX13）	弥生土器	甕	頸部	内外面横ナデ。外面にぶい褐色、内面灰黄褐色。石英・長石・雲母含む。	3
4	R40035	r4072	SD-33（CX14-12・17）	石器	敲石		握部あり、反対側に敲打痕顕著。砂岩。	3
5	R40038	r4076	SD-33（CW・CX13）	石器	剥片		節理明瞭。結晶片岩。	3
6	R40033	R91	SD-33	石器	石庖丁未製品		敲打痕・研磨痕あり。結晶片岩。	3
図16　SD-36出土遺物実測図								
1	R40045	r4082	SD-36（CW13）	弥生土器	甕	頸部	内外面横ナデ。内外面橙色。石英・長石含む。	3
図17　SD-44出土遺物実測図								
1	R40048	R107	SD-44	弥生土器	高坏？	口縁部	外面丁寧な横ミガキ、口縁部横ナデ。内外面褐灰色。石英・長石含む。	3
図28　SX-40出土遺物実測図								
1	R40046	r4088	SX-40（北西部）	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内面指頭圧痕。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。	3
2	R40047	r4088	SX-40（北西部）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	3
図32　SX-50出土遺物実測図								
1	R40049	R109・110	SX-50	弥生土器	甕	下半部	外面縦ミガキ、内面ナデ。外面にぶい橙色、内面灰褐色。石英・長石やや多く含む。	3
		r3110	Ⅲ層（CV13-22）					
		r4089	SX-42					
2	R40050	R111	SX-50	石器	敲石		敲打痕あり。花崗岩。	3
図37　SX-57出土遺物実測図								
1	R40051	r4100	SX-57	石器	敲石		先端に敲打痕。砂岩。	3
図39　弥生時代の柱穴・小穴出土遺物実測図								
1	R40080	R81	SP-182	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面磨滅。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	4
2	R40086	r4211	SP-255	弥生土器	甕	口縁部	口縁部凹線文１条。内外面横ナデ。内外面橙色。	4
3	R40087	r4213	SP-258	弥生土器	壺	上胴部	外面横ナデ、内面指頭圧痕・工具痕。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。	4
4	R40088	r4213	SP-258	弥生土器	高坏？	脚端部	内外面横ナデ。外面灰黄褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・角閃石の微細粒多く含む。	4
5	R40090	r4232	SP-284	弥生土器	甕	口縁部	内外面磨滅、口縁部内面沈線状の横ナデ痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	4
6	R40089	r4232	SP-284	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面黄橙色、内面浅黄橙色。石英・長石含む。	4
7	R40092	r4261	SP-377（東半）	鉄器	鉈	刃部	刃部湾曲。	32
8	R40093	r4263	SP-381（西半）	弥生土器	甕	口縁部	如意形口縁、端部刻み目、外面沈線２条。内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石多く含む。	4
9	R40091	r4266	SP-390（南半）	弥生土器	甕	口縁部	口縁端部凹線文３条。内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒の細粒含む。	4
10	R40094	R106	SP-422	石器	磨石		片面凹状。砂岩。	4
11	R40132	r4275	SP-437	弥生土器	壺	頸部	内外面ナデ。外面にぶい黄橙色。内面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。	4
12	R40095	r4291	SP-603	弥生土器	高坏？	脚端部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色、外面赤彩残。石英・長石含む。	4
13	R40133	r4292	SP-625	土製品	円盤状		石英・長石を含む。	4
図42　SC-27出土遺物実測図								
1	R40013	r4014	SC-27埋土	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文２条。外面ナデ、内面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	5
		r4020	SC-27床造成土					
2	R40014	r4020	SC-27床造成土	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面磨滅。内外面にぶい橙色。石英・長石含む。内外面被熱。	5
3	R40017	r4028	SC-27P12③層	弥生土器	甕	口縁部	内外面磨滅。外面橙色、内面浅黄橙色。石英・長石含む。	5
4	R40018	r4031	SC-27P16	弥生土器	鉢	上半部	口縁部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面指頭圧痕。外面橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	5

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
5	R40019	r4031	SC-27P16	弥生土器	鉢	底部	外面横ナデ後ミガキ、内面ナデ・指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母含む。	5
6	R40004	r4009	SC-27埋土	須恵器	坏蓋	体部	内外面回転ナデ。外面黄灰色、内面灰白色。石英・長石の細粒含む。	5
7	R40006	r4009	SC-27埋土	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石の細粒含む。	5
8	R40008	r4009	SC-27埋土	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面黄灰色。石英・長石の細粒含む。	5
9	R40020	r4032	SC-27P17	須恵器	坏身	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	5
10	R40007	r4009	SC-27埋土	須恵器	坏身	受部	外面磨滅、内面回転ナデ。外面灰白色、内面浅黄橙色。石英・長石含む。軟質。	5
11	R40016	r4020	SC-27床造成土	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	5
12	R40012	r4011	SC-27埋土	須恵器	鉢？	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面黄灰色。石英・長石含む。内面自然釉。	5
13	R40011	r4011	SC-27埋土	須恵器	壺	上胴部	外面タタキ、内面回転ナデ。外面黄灰色、内面灰白色。石英･長石含む。外面自然釉。	5
14	R40005	r4009	SC-27埋土	須恵器	甕	上胴部	外面タタキ後回転ナデ、内面ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	5
15	R40015	r4020	SC-27床造成土	須恵器	壺	頸胴部	外面ナデ、内面青海波文。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。外面自然釉。	5
16	R40002	R62・64	SC-27	土師器	甕	口縁部	外面磨滅、内面横ハケ目・指頭圧痕。外面にぶい褐色、内面にぶい橙色。石英・長石多く含む。	5
17	R40009	r4009	SC-27埋土	石器	磨石		若干の窪みあり。砂岩。	5
18	R40010	r4009	SC-27埋土	鉄滓			7.1g。	32
19	R40021	r4032	SC-27P17	鉄滓			2.9g。	32
20	R40003	R84	SC-27	鉄滓			0.7g。	32
21	R40107	r4009	SC-27埋土	土製品	土玉		径5～7㎜・厚4～5㎜のいびつな円筒形。孔径約1.5㎜。	5
図44　SC-28出土遺物実測図								
1	R40026	R77	SC-28	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面浅黄橙色。石英・長石やや多く含む。	5
2	R40031	r4038	SC-28埋土（焼土混）	弥生土器	甕	口縁部	内外面横ナデ。内外面橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。	5
3	R40027	R79	SC-28	弥生土器	高坏？	脚部	外面縦ミガキ、内面板ナデ。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・雲母含む。	5
4	R40023	R34	SC-28	土師器	壺	底部	内外面ハケ目、内面指頭圧痕。外面にぶい褐色、内面にぶい橙色。石英・長石の細粒やや含む。外面煤付着、内面横方向の引っ掻き傷？	5
5	R40025	R68	SC-28	土師器	甕	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	5
6	R40028	r4034	SC-28埋土	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	5
7	R40029	r4035	SC-28埋土	須恵器	坏身	受部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	5
8	R40022	R32	SC-28	須恵器	坏身	全形	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	5
		r3299	Ⅲ層（CX14-3）					
		r1025	Ⅰ層					
9	R40024	R36	SC-28	須恵器	高坏	脚部	3方向方形透。外面カキメ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英･長石含む。	5
10	R40030	r4035	SC-28埋土	石器	敲石		先端から側面に敲打痕。砂岩。	5
11	R40032	r4039	SC-28埋土	石器	剥片		側面自然面。サヌカイト。	5
図46　北1区出土遺物実測図								
1	R40098	r4050	SC-29	弥生土器	壺	胴部	内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石多く含む。	6
		r4053	SC-29					
2	R40121	r4050	SC-29	弥生土器	鉢	胴部	外面横ミガキ、内面磨滅。石英・長石・角閃石の微細粒含む。外面赤色顔料付着。	6
3	R40099	r4053	SC-29	弥生土器	高坏	接合部	内外面磨滅。外面橙色、内面黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	6
4	R40100	r4053	SC-29	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	6
5	R40120	r4048	SC-29	土師器	坏	底部	内外面横ナデ。石英・長石・雲母の細粒含む。	6
6	R40105	R90	SC-29	土師器	甕	口縁部	外面横ナデ、内面磨滅。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。	6
7	R40106	R94	SC-29	土師器	甕	上半部	口縁部内外面横ナデ、胴部外面横ハケ目、内面指頭圧痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	6
8	R40101	r4053	SC-29	石器	剥片		サヌカイト。	6
9	R40085	r4207	SP-241	弥生土器	壺	頸部	突帯貼付･「ノ」字状押圧。内面磨滅。外面にぶい橙色、内面橙色。石英･長石含む。	6
10	R30070	r3397	北1区Ⅲ層（CY15-6）	弥生土器	壺	胴部	爪形文。内外面縦ミガキ。外面浅黄橙色、内面にぶい黄橙色。石英･長石やや含む。	6
11	R30080	r3395	北1区Ⅲ層（CX15-20）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	6
12	R30079	r3393	北1区Ⅲ層（CX15-15）	須恵器	坏身	受部	内外面回転ナデ。石英・長石含む。赤焼け。	6
13	R30069	r3396	北1区Ⅲ層（CY15-6）	須恵器	高坏	脚部	長脚2段、方形透、沈線2条。内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石含む。	6
14	R10087	r1065	北1区Ⅰ層	弥生土器	甕	底部	外面縦ミガキ、内面ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母多く含む。	6
15	R10093	r1065	北1区Ⅰ層	土師器	壺	底部	焼成前穿孔。内外面指頭圧痕。内外面にぶい橙色。石英･長石･雲母の微細粒多く含む。	6
16	R10089	r1065	北1区Ⅰ層	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。体部外面暗灰色、口縁部外面・内面赤灰色。石英・長石含む。	6
17	R10088	r1065	北1区Ⅰ層	須恵器	不明	脚端部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	6
18	R10090	r1066	北1区Ⅰ層	須恵器	短頸壺	上胴部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	6
図48　SB-67出土遺物実測図								
1	R40053	r4106	SP-135（南半）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7
2	R40052	r4106	SP-135（南半）	土師器	甕	口縁部	内外面横ナデ。外面橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	7
図51　SB-69出土遺物実測図								
1	R40128	r4122	SP-144（②層）	須恵器	壺蓋	口縁部	内外面磨滅。石英・長石含む。軟質。	7
2	R40058	r4121	SP-144（①層）	須恵器	坏身	体部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	7
3	R40059	r4121	SP-144（①層）	須恵器	鉢	胴部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7
		r4122	SP-144（②層）					
4	R40068	r4145	SP-151(下部の遺構混)	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	7
5	R40067	r4143	SP-151（②層）	須恵器	坏身	体部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	7
6	R40130	r4155	SP-157（①層）	土師器	壺	口縁部	内外面ナデ。外面黒褐色、内面橙色。石英・長石含む。	7
図53　SB-70出土遺物実測図								
1	R40062	r4130	SP-147（北半）	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7
2	R40061	r4129	SP-147（南半）	須恵器	坏身	体部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7
3	R40122	r4147	SP-152（⑤層）	弥生土器	高坏	脚端部	内外面ナデ、端部面取り。石英・長石多く含む。	7
4	R40069	r4146	SP-152（②層）	須恵器	坏身	受部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。外面灰黄色、内面灰白色。石英・長石含む。	7
5	R40123	r4147	SP-152（⑤層）	須恵器	高坏	脚部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	7
6	R40070	r4147	SP-152（⑤層）	鉄器	不明		鍛造の板状品。緩やかな曲面をなす。1.9g。	32
図56　古墳時代の柱穴・小穴出土遺物実測図								
1	R40055	r4118	SP-142（西半）	須恵器	坏身	底部	外面回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
2	R40054	r4118	SP-142（西半）	土師器	甕	頸部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	7
3	R40056	r4120	SP-143（北半）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7
4	R40057	r4120	SP-143（北半）	鉄滓			砂粒巻き込み多い。12.7g。	32
5	R40126	r4126	SP-146（②層）	弥生土器	壺	口縁部	凹線文2条以上、下端剝落。石英・長石・雲母含む。	7
6	R40060	r4127	SP-146（③層）	弥生土器	壺	底部	外面横ミガキ、内面ナデ・横ミガキ。外面灰黄褐色、内面にぶい黄橙色。石英・長石やや含む。	7
7	R40127	r4128	SP-146（東半）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。	7
8	R40064	r4134	SP-148（南半）	須恵器	坏身	底部	底部凸状。外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ、内面やや磨滅。内外面灰色。石英・長石含む。	7
9	R40129	r4134	SP-148（南半）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	7
10	R40063	r4133	SP-148（①・②層）	須恵器	短頸壺	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	7
11	R40065	r4139	SP-150（東半）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	7
12	R40066	r4140	SP-150（東半）	土製品	棒状土錘		断面円形。全面ナデ。にぶい橙色。石英・長石やや含む。	7
13	R40071	r4149	SP-154（東半）	須恵器	甕	胴部	外面タタキ後カキメ、内面青海波文。外面灰白色、内面灰黄色。石英・長石含む。やや軟質。	7
14	R40124	r4151	SP-155（東半）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。	7
15	R40072	r4151	SP-155（東半）	須恵器	壺蓋	口縁部	内外面回転ナデ。外面黄灰色、内面灰色。石英・長石含む。	7
16	R40125	r4153	SP-155（下部掘残）	須恵器	短頸壺	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	7
17	R40073	r4151	SP-155（東半）	石器	剝片		サヌカイト。	7
18	R40074	r4158	SP-161（①層）	須恵器	高坏	脚部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。やや軟質。	7
19	R40075	r4159	SP-161（②層）	石器	剝片		側面自然面。サヌカイト。	7
20	R40076	r4165	SP-164（東半）	須恵器	坏蓋	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	7
21	R40131	r4167	SP-165（東半）	土師器	壺	上胴部	内外面磨滅。内外面橙色。石英・長石・雲母含む。	7
22	R40077	r4170	SP-167	弥生土器	甕	底部	外面縦ミガキ。外面灰黄褐色、内面にぶい橙色。石英・長石多く含む。	7
23	R40078	r4172	SP-170	石器	台石		平滑な磨面に敲打痕残。砂岩。	7
24	R40079	r4173	SP-172	弥生土器	壺	口縁部	浅い凹線文。内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	7
25	R40081	R83	SP-189	石器	敲石		端部中心に敲打痕。砂岩。	7
26	R40082	r4182	SP-195	弥生土器	壺	上胴部	「ノ」字状押圧文2段。外面磨滅、内面指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石・雲母含む。	7
27	R40083	r4188	SP-198	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。	7
28	R40084	r4196	SP-204（西半）	土師器	甕	上胴部	外面頸部横ナデ、内面板ナデ。外面浅黄橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母やや含む。	7
図58　北3区出土遺物実測図								
1	R40108	r4001	SC-23焼土2	弥生土器	鉢	底部	内外面ナデ。外面にぶい赤褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母やや含む。	8
2	R40097	r4003	SC-23焼土1	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	8
3	R40096	r4002	SC-23焼土3	須恵器	?	脚部	内外面回転ナデ。外面黄灰色、内面暗灰黄色。内外面自然釉。	8
4	R40104	R25	SC-23	土師器	甕	上半部	外面縦ハケ目、内面磨滅。外面にぶい橙色 、内面橙色。石英・長石・雲母・赤色粒の細粒やや含む。	8
		r3436	北3区Ⅲ層					
		r3437	北3区Ⅲ層					
		r3438	北3区Ⅲ層					
5	R40102	R26	SC-23	土師器	甕	口縁部	内外面磨滅。外面にぶい黄橙色、内面橙色。石英・長石の砂礫多く含む。	8
		r3438	北3区Ⅲ層					
6	R40103	R23	SC-23	鉄器	鉄鏃		先端欠損。緩やかな関部。	32
7	R40109	r4008	SK-25	須恵器	坏身	受部	内外面回転ナデ。内面灰色、外面灰白色。石英・長石含む。	8
8	R30078	r3436	北3区Ⅲ層	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	8
9	R30072	r3434	北3区Ⅲ層	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	8
10	R30073	r3434	北3区Ⅲ層	須恵器	坏身	底部	内面青海波文後回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。内面灰白色、外面灰色。石英・長石含む。	8
11	R30074	r3435	北3区Ⅲ層	須恵器	高坏	脚部	長脚2段、方形透かし。内外面回転ナデ。内面灰白色、外面灰色。石英・長石含む。	8
12	R30076	r3435	北3区Ⅲ層	須恵器	高坏	脚端部	内外面回転ナデ。内外面黄灰色。石英・長石含む。	8
13	R30075	r3435	北3区Ⅲ層	須恵器	坏身	口縁部	内面摩滅、外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	8
14	R30077	r3435	北3区Ⅲ層	土師器	坏	底部	内外面摩滅、底部回転糸切り痕。内面にぶい黄橙色。石英・長石の微細粒やや含む。	8
15	R10091	r1068	北3区Ⅰ層	須恵器	高坏	脚端部	内外面回転ナデ。内面灰黄色、外面灰オリーブ色、断面暗灰黄色。石英・長石含む。内外面自然釉。	8
図61・62　Ⅲ層出土遺物実測図								
1	R30058	r3374	Ⅲ層（CX14-24）	縄文土器	浅鉢	口縁部	外面横ナデ後ミガキ、内面横ナデ・ミガキ。外面にぶい橙色、内面灰黄褐色。石英・長石・雲母・角閃石の微細粒含む。	9
2	R30029	r3266	Ⅲ層（CX13-16）	縄文土器	浅鉢	口縁部	内外面横ナデ。外面橙色で赤彩の可能性有、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母の微細粒含む。	9
3	R30039	r3307	Ⅲ層（CX14-7）	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文5条。内外面磨滅。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石含む。	9
4	R30065	r3387	Ⅲ層（CX15-4）	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文3条。外面横ナデ、内面磨滅。外面橙色、内面にぶい褐色。石英・長石・赤色粒含む。	9
5	R30060	r3359	Ⅲ層（CX14-21）	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文3条。内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。石英・長石・赤色粒含む。	9
6	R30014	r3109	Ⅲ層（CV13-22）	弥生土器	壺	口頸部	口縁部凹線文3条。外面横ナデ・内面横ナデ・指頭圧痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	9
7	R30041	r3308	Ⅲ層（CX14-7）	弥生土器	壺	口頸部	口縁部凹線文3条。外面横ナデ、内面横ナデ・シボリ痕。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	9
		r3386	Ⅲ層（CX14-4）					
8	R30038	r3305	Ⅲ層（CX14-6）	弥生土器	壺	口縁部	内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母やや含む。	9
9	R30034	r3298	Ⅲ層（CX14-3）	弥生土器	壺	口縁部	内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母やや含む。	9
10	R30018	r3145	Ⅲ層（CW12-18）	弥生土器	壺	口縁部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石多く含む。	9
11	R30011	r3088	Ⅲ層（CU14-2）	弥生土器	壺	頸部	貼付突帯2条。外面ナデ、内面磨滅。外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色。石英・長石含む。	9
12	R30054	r3361	Ⅲ層（CX14-22）	弥生土器	壺	頸胴部	外面横ナデ・ハケ目、内面ナデ・ハケ目。外面浅黄橙色、内面黄灰色。石英・長石含む。	9
13	R30048	r3341	Ⅲ層（CX14-16・17）	弥生土器	壺	頸胴部	頸部貼付突帯1条。内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	9
14	R30031	r3283	Ⅲ層（CX13-23）	弥生土器	壺	上胴部	外面クシ描文(波状文+直線文+波状文)。外面ハケ目、内面ナデ。外面にぶい黄橙色、内面灰黄色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	9
15	R30028	r3259	Ⅲ層（CX13-7・12、R86～88周辺）	弥生土器	壺	上胴部	「ノ」字状押圧文。外面ハケ目、内面ナデ・指頭圧痕。内外面にぶい橙色。石英・長石含む。	9

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
16	R30059	r3374	Ⅲ層（CX14-24）	弥生土器	壺	胴部	外面下半縦ミガキ・最大径部横ミガキ、内面ハケ目。外面にぶい黄橙色、内面灰白色。石英・長石・雲母の微細粒含む。	9
		r3386	Ⅲ層（CX15-4）					
17	R30007	R85	Ⅲ層（CX13-17）	弥生土器	壺	底部	外面ミガキ、内面ナデ。内外面橙色。石英・長石・雲母含む。	9
		R86	Ⅲ層（CX13-18）					
18	R30063	r3386	Ⅲ層（CX15-4）	弥生土器	壺	底部	外面底部付近横ミガキ・下胴部縦ミガキ、内面磨滅。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	9
19	R30046	r3337	Ⅲ層（CX14-14）	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面にぶい黄橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母やや含む。	9
20	R30026	r3240	Ⅲ層（CW14-25）	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面指頭圧痕・ナデ。外面褐灰色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	9
21	R30045	r3329	Ⅲ層（CX14-12）	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ・ナデ、内面磨滅。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母含む。	9
22	R30061	r3378	Ⅲ層（CX15-1）	弥生土器	壺	底部	外面斜ミガキ、内面磨滅。外面にぶい褐色、内面にぶい黄橙色。石英・長石含む。	9
23	R30043	r3322	Ⅲ層（CX14-11）	弥生土器	甕	口頸部	内外面横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石の微細粒含む。	9
24	R30027	r3259	Ⅲ層（CX13-7・12、R86～88周辺）	弥生土器	甕	口頸部	外面横ナデ、内面磨滅。内外面にぶい黄橙色。石英・長石やや含む。	9
25	R30020	r3176	Ⅲ層（CW13-10）	弥生土器	甕	上胴部	「ノ」字状押圧文。外面縦ハケ目後下半縦ミガキ・上半散発的な横ミガキ、内面ケズリ後ナデ、頸部内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面にぶい赤褐色。石英・長石含む。	9
26	R30009	r3046	Ⅲ層（CU12-13）	弥生土器	甕	底部	外面縦ハケ目、内面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面黄灰色。石英・長石・雲母含む。	9
		r3055	Ⅲ層（CU12-17）					
27	R30017	r3142	Ⅲ層（CW12-17）	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。内外面にぶい橙色。石英・長石の細粒やや含む。	9
28	R30032	r3283	Ⅲ層（CX13-23）	弥生土器	甕	底部	外面縦ミガキ、内面磨滅。外面にぶい赤橙色、内面灰黄褐色。石英・長石やや含む。	9
29	R30057	r3364	Ⅲ層（CX14-22）	弥生土器	甕	底部	外面ハケ目・指頭圧痕、内面指頭圧痕。外面褐灰色、内面にぶい黄橙色。石英・長石含む。	9
30	R30049	r3347	Ⅲ層（CX14-18）	弥生土器	甕	底部	外面指頭圧痕、内面磨滅。内外面橙色。石英・長石含む。	9
31	R30008	r3017	Ⅲ層（CT12-20）	弥生土器	甕	底部	内外面ナデ。外面にぶい橙色、内面灰黄褐色。石英・長石・赤色粒含む。	9
32	R30042	r3311	Ⅲ層（CX14-7）	弥生土器	壺蓋？	口縁部	円孔あり。外面ハケ目・ナデ、内面指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや含む。	9
33	R30019	r3173	Ⅲ層（CW13-9）	弥生土器	高坏	脚端部	脚部矢羽根透、脚裾部凹線文。外面磨滅、内面シボリ痕。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	9
34	R30035	r3299	Ⅲ層（CX14-3）	弥生土器	高坏	脚端部	脚柱部方形透２残。外面縦ミガキ、内面横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石含む。	9
35	R30047	r3341	Ⅲ層（CX14-16・17）	弥生土器	台付鉢？	脚端部	脚端部刻み目。外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面灰白色。石英・長石含む。	9
36	R30036	r3301	Ⅲ層（CX14-4）	弥生土器	支脚？	全形	中実。橙色。石英・長石やや含む。	9
		r3295	Ⅲ層（CX14-3）					
37	R30066	R38～42 R44～51	Ⅲ層（CX14-3）	土師器	甕	上半部	口縁部内外面横ハケ目・横ナデ、体部外面横～斜ハケ目、体部内面指頭圧痕。外面橙色、内外面にぶい橙色。石英・長石含む。外面煤付着。	10
38	R30006	R37	Ⅲ層（CX14-3）	土製品	鞴羽口	全形	外面指頭圧痕、内面裾部指頭圧痕。内外面にぶい赤褐色。石英・長石の砂礫多く含む。上半部被熱により変色。	10
39	R30050	r3347	Ⅲ層（CX14-18）	土師器	甕	口縁部	内外面横ハケ目、外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英・長石の砂礫多く含む。	10
40	R30082	r3034	Ⅲ層（CT13-18）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	10
41	R30030	r3273	Ⅲ層（CX13-21）	須恵器	坏蓋	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	10
42	R30052	r3350	Ⅲ層（CX14-18）	須恵器	坏蓋	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。外面黄灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	10
43	R30033	r3295	Ⅲ層（CX14-3）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	10
44	R30051	r3347	Ⅲ層（CX14-18）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	10
45	R30055	r3361	Ⅲ層（CX14-22）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	10
46	R30037	r3301	Ⅲ層（CX14-4）	須恵器	短頸壺	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	10
47	R30062	r3385	Ⅲ層（CX15-4）	須恵器	壺？	脚部？	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	10
48	R30056	r3361	Ⅲ層（CX14-22）	須恵器	横瓶	胴部	外面タタキ後ナデ、内面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	10
49	R30010	r3075	Ⅲ層（CU13-21）	土師器	椀	口縁部	外面横ナデ、内面磨滅。内外面灰白色。胎土精良。	10
50	R30040	r3307	Ⅲ層（CX14-7）	石器	伐採斧		大半欠失。横断面扁円形。砂岩。	11
51	R30053	r3359	Ⅲ層（CX14-21）	石器	伐採斧		大半欠失。横断面ほぼ円形。火成岩質。	11
52	R30025	r3232	Ⅲ層（CW14-23）	石器	磨石		横断面菱形。各面に若干の敲打痕も。砂岩。	11
53	R30015	r3124	Ⅲ層（CV14-10）	石器	磨石		使用面３面。先端に若干の敲打痕。砂岩。	11
54	R30044	r3325	Ⅲ層（CX14-12）	石器	磨石		使用面３面。先端に若干の敲打痕。砂岩。	11
55	R30012	r3091	Ⅲ層（CU14-4）	石器	磨石		使用面２面。砂岩。	11
56	R30013	r3108	Ⅲ層（CV13-21）	石器	磨石		円柱状。粗い砂岩。	11
57	R30023	r3217	Ⅲ層（CW14-6）	石器	剝片		結晶片岩。	11
58	R30021	r3202	Ⅲ層（CW13-23）	石器	剝片		側面に自然面残。サヌカイト。	11
59	R30064	r3386	Ⅲ層（CX15-4）	石器	剝片		1面に打瘤。サヌカイト。	11
60	R30067	R30	Ⅲ層（CU14-2）	石器	打製石鏃		凹基無茎式。0.8g。サヌカイト。	11
61	R30022	r3217	Ⅲ層（CW14-6）	石器	打製石鏃		凹基無茎式。0.5g。サヌカイト。	11
62	R30068	r3340	Ⅲ層（CX14-16）	石器？	残核		１面に自然面残。瑪瑙。	11
63	R30071	r3314	Ⅲ層（CX14-8）	鉄滓			4.7g。	32
図63　SX-32出土遺物実測図								
1	R30003	r3419	SX-32（CX13-16）	弥生土器	壺	頸部	断面三角形貼付突帯。外面横ナデ、内面横ミガキ。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母やや含む。	11
2	R30001	r3413	SX-32（CX13-2）	弥生土器	甕	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石含む。	11
3	R30002	r3415	SX-32（CX13-7）	弥生土器	甕	底部	外面ナデ、内面指頭圧痕。外面明灰黄色、内面にぶい橙色。石英・長石・赤色粒やや含む。	11
4	R30005	r3431	SX-32（CX14-22）	弥生土器	高坏	脚端部	方形透１残。外面縦ミガキ、内面横ナデ・指頭圧痕。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石含む。	11
5	R30004	r3424	SX-32（CX14-12）	石器	磨石		表裏面・２側面使用。側面敲打痕残。砂岩。	11
図68～71　SD-1出土遺物実測図								
1	R20111	r2043	SD-1中層（CT11）	弥生土器	壺	口縁部	内外面磨滅。口縁端部凹線文４条・山形文、頸部凹線文多条。外面橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒多く含む。	12
2	R20088	r2016	SD-1上層（CU12）	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文３条。内外面磨滅。内外面橙色。石英・長石多く含む。	12
3	R20070	r2002	SD-1上層（CS11）	弥生土器	壺	頸部	貼付押圧（指頭）突帯。内外面磨滅。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	12
4	R20086	r2016	SD-1上層（CU12）	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面にぶい黄橙色・黒斑、内面灰白色。石英・長石多く含む。	12
5	R20087	r2016	SD-1上層（CU12）	弥生土器	壺	底部	外面ナデ・指頭圧痕、内面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面灰黄褐色。石英・長石やや含む。	12

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
6	R20079	r2010	SD-1上層（CT12）	弥生土器	甕	胴部	多条沈線・連続刺突文2列。内外面磨滅。外面にぶい黄橙色・黒斑。石英・長石やや含む。	12
7	R20102	r2038	SD-1上層（CW12）	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。にぶい黄褐色。石英・長石やや含む。	12
8	R20071	r2004	SD-1上層（CS12）	弥生土器	高坏	脚部	内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面にぶい褐色。石英・長石に含む。	12
9	R20097	r2031	SD-1上層（CV12）	弥生土器	支脚？	脚端部	外面横ハケ目、内面指頭圧痕・ナデ。外面にぶい黄褐色、内面にぶい橙色。石英・長石含む。	12
10	R20163	r2090	SD-1下層(CV11・12畔)	弥生土器	器台	胴部	小円形透。外面ハケ目か、内面ナデ・指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石多く含む。	12
11	R20094	r2025	SD-1上層（CV12）	弥生土器？	？	把手	全面ナデ。にぶい橙色。石英・長石やや含む。	12
12	R20091	r2020	SD-1上層（CV11）	土師器	甕	口縁部	内外面横ナデ、外面指頭圧痕。にぶい褐色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	12
13	R20092	r2020	SD-1上層（CV11）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
14	R20115	r2047	SD-1中層(CT11・12杭)	須恵器	坏身	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰色、断面暗褐色。石英・長石含む。	12
15	R20104	r2040	SD-1中層（CS11）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
16	R20138	r2071	SD-1下層（CS11）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	12
17	R20112	r2044	SD-1中層（CT11）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	12
18	R20100	r2034	SD-1上層（CW11）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	12
19	R20164	r2193	SD-1上層（CU12）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
20	R20101	r2034	SD-1上層（CW11）	須恵器	坏蓋	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
21	R20074	r2008	SD-1上層（CT11畔）	須恵器	坏	底部	外面回転ナデ、内面磨滅。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
22	R20133	r2068	SD-1中層（CW12）	須恵器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
23	R20109	r2042	SD-1中層（CS12）	須恵器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。	12
24	R20132	r2068	SD-1中層（CW12）	須恵器	壺蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。	12
25	R20080	r2011	SD-1上層（CT12畔）	須恵器	高坏	接合部	内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石含む。軟質。	12
26	R20145	r2077	SD-1下層（CT11・12）	須恵器	高坏	接合部	内面回転ナデ。内外面灰白色、断面灰褐色。石英・長石含む。	12
27	R20096	r2025	SD-1上層（CV12）	須恵器	横瓶	胴部	外面横タタキ後・カキメ、内面指頭圧痕・ナデ。内外面灰色、断面にぶい赤褐色。石英・長石含む。	12
28	R20161	r2090	SD-1下層(CV11・12畔)	須恵器	壺	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	12
29	R20114	r2046	SD-1中層（CT11畔）	須恵器	甕	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	12
30	R20072	r2004	SD-1上層（CS12）	須恵器	甕	頸胴部	頸部内外面回転ナデ、肩部外面縦タタキ・内面青海波文。内外面灰白色、断面灰赤色。石英・長石含む。外面自然釉。	12
31	R20143	r2077	SD-1下層（CT11・12）	須恵器	甕	下胴部	外面不定方向タタキ、内面青海波文。外面灰白色、内面灰色。石英・長石含む。	12
32	R20103	r2038	SD-1上層（CW12）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
33	R20076	r2010	SD-1上層（CT12）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色。赤色微細粒わずかに含む。	13
34	R20081	r2012	SD-1上層（CT12）	土師器	坏	口縁部	口縁部内外面横ナデ、内外面ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
35	R20089	r2016	SD-1上層（CU12）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰白色。	13
36	R20131	r2068	SD-1中層（CW12）	土師器	坏	口縁部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
37	R20125	r2062	SD-1中層（CV12）	土師器	坏	口縁部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	13
38	R20075	r2010	SD-1上層（CT12）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色。赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
39	R20120	r2056	SD-1中層（CU12）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面淡黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
40	R20136	r2071	SD-1下層（CS11）	土師器	坏	底部	外面横ナデ、内面磨滅、底部回転糸切り痕。内外面灰色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
41	R20149	r2082	SD-1北下層（CT12）	土師器	坏	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
42	R20123	r2062	SD-1中層（CV12）	土師器	坏	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面浅黄橙色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
43	R20121	r2058	SD-1中層（CV11）	土師器	坏	底部	内面横ナデ、底部回転糸切り痕。外面灰白色、内面淡橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
44	R20124	r2062	SD-1中層（CV12）	土師器	坏	底部	内外面ナデ。底部回転糸切り痕・板目状圧痕。浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	13
45	R20142	r2076	SD-1下層（CS12）	土師器	椀	底部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
46	R20160	r2090	SD-1下層(CV11・12畔)	土師器	椀	底部	外面横ナデ、内面ミガキ。内外面淡黄色。石英・長石・黒色粒・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
47	R20134	r2069	SD-1中層（CW12）	土師器	椀	底部	内外面磨滅。内外面褐灰色。雲母含む。高台端部煤付着。	13
48	R20153	r2086	SD-1下層（CU11・12）	土師器	小皿	全形	内外面ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
49	R20152	r2086	SD-1下層（CU11・12）	土師器	小皿	全形	内外面ナデ、底部回転糸切り痕。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	13
50	R20130	r2065	SD-1中層（CW11）	土師器	小皿	全形	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
51	R20106	r2042	SD-1中層（CS12）	土師器	小皿	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	13
52	R20108	r2042	SD-1中層（CS12）	瓦器	椀	上半部	外面指頭圧痕、端部横ナデ。内面横方向ミガキ。内外面灰色。精製土。	13
53	R20119	r2053	SD-1中層（CU11）	瓦器	椀	上半部	内外面磨滅・砂付着。内外面指頭圧痕。外面灰黄色、内面黄色。精製土。	13
54	R20098	r2034	SD-1上層（CW11）	瓦器	椀	上半部	口縁部横ナデ、外面指頭圧痕、内面磨滅。内外面灰色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
55	R20137	r2071	SD-1下層（CS11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部横ナデ、外面指頭圧痕、内面横ミガキ。外面灰色、内面にぶい黄橙色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
56	R20073	r2006	SD-1上層（CT11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部横ナデ、体部指頭圧痕、内面磨滅。内外面灰色。精製土。	13
57	R20107	r2042	SD-1中層（CS12）	瓦器	椀	底部	外面指頭圧痕、内面ミガキ。内外面灰色。石英・長石・雲母の微細粒わずかに含む。	13
58	R20113	r2046	SD-1中層（CT11畔）	瓦器	椀	底部	外面横ナデ、内面磨滅。内外面灰色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
59	R20140	r2075	SD-1下層（CS12）	瓦器	椀	底部	外面磨滅、内面不定方向ミガキ。外面灰白色、内面灰色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
60	R20093	r2020	SD-1上層（CV11）	瓦器	椀	底部	内外面磨滅、外面指頭圧痕。内外面灰色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
61	R20135	r2069	SD-1中層（CW12）	瓦器	椀	底部	外面横ナデ、内面磨滅。内外面灰色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
62	R20126	r2062	SD-1中層（CV12）	瓦器	椀	底部	内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石の微細粒含む。焼成土師質。	13
63	R20083	r2013	SD-1上層（CU11）	瓦器	椀	底部	外面ナデ、内面ミガキ。外面橙色～灰黄褐色、内面暗灰色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	13
64	R20077	r2010	SD-1上層（CT12）	灰釉陶器	椀	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。	13
65	R20105	r2040	SD-1中層（CS11）	灰釉陶器	椀	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。	13
66	R20129	r2064	SD-1中層（CW11）	土師質土器	鍋	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部外面ハケ目後ナデ、頸部指頭圧痕、体部内面横ハケ後ナデ。内外面にぶい褐色。石英・長石・雲母多く含む。	13
		r2067	SD-1中層上面（CW12）					
		r2111	SD-2中層（CU11）					

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
67	R20082	r2013	SD-1上層（CU11）	土師質土器	羽釜	脚部	全面ナデ。にぶい黄橙色。石英・長石・チャート多く含む。	13
68	R20090	r2016	SD-1上層（CU12）	須恵質陶器	甕	口頸部	口縁部内外面ナデ、肩部横タタキ。口縁部外面灰色、他灰白色。石英・長石・チャート含む。	13
69	R20110	r2042	SD-1中層（CS12）	須恵質陶器	甕	口頸部	肩部横タタキ、内面指頭圧痕ナデ。内外面灰色。石英・長石・チャート含む。	13
70	R20144	r2077	SD-1下層（CT11・12）	須恵質陶器	こね鉢？	底部	内外面ナデ、外面指頭圧痕・ハケ目。内外面灰白色。石英・長石・チャート含む。	13
71	R20117	r2052	SD-1中層（CU11）	瓦質土器	鉢？	口縁部	内外面横ナデ、外面下半指頭圧痕。内外面灰色。石英・長石含む。	13
72	R20095	r2025	SD-1上層（CV12）	瓦質土器	羽釜	口縁部	外面指頭圧痕・ナデ、内面横ナデ・指頭圧痕。外面灰色、内面灰黄色。石英・長石含む。	13
73	R20084	r2013	SD-1上層（CU11）	青磁	水差 or 瓶	下胴部	釉調オリーブ色、全面施釉。外面型押し牡丹唐草文。磁胎精良。	13
74	R20156	r2087	SD-1北下層（CU12）	青磁	皿	体部	釉調灰オリーブ色、全面薄く施釉。磁胎精良。	13
75	R20154	r2086	SD-1下層（CU11・12）	青磁	碗	下半部	外面４～５本１単位の縦位クシ描文、内面ヘラ状工具による草花文。釉調灰オリーブ色。外面下半露胎。磁胎黒色粒わずかに含む。	13
76	R20085	r2013	SD-1上層（CU11）	白磁	碗	口縁部	磁胎空隙わずかにあり。	13
		r2132	SD-3下層（CT11）					
77	R20157	r2088	SD-1下層（CV11・12）	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎黒色粒・橙色粒わずかに含む。	13
78	R20146	r2077	SD-1下層（CT11・12）	白磁	皿	口縁部	釉調灰白色、外面下半露胎。磁胎空隙わずかにあり。	13
79	R20141	r2075	SD-1下層（CS12）	白磁	碗	体部	釉調灰白色、外面下半露胎。空隙わずかにあり。	13
80	R20099	r2034	SD-1上層（CW11）	石器	台石		表裏に平らな磨面、敲打痕若干。3474.6g。砂岩。	14
81	R20147	r2078	SD-1下層(CT11・12畔)	石器	台石		表裏に平らな磨面、敲打痕若干。砂岩。	14
82	R20158	r2088	SD-1下層（CV11・12）	石器	台石		断面五角形。２面滑らか、２面に敲打痕・擦痕が残る。灰色～灰赤色に被熱変色。安山岩質。	14
83	R20069	r2001	SD-1上層（CR12）	石器	磨石		125g。砂岩。	14
84	R20118	r2052	SD-1中層（CU11）	石器	磨石		断面楕円形・平面形棒状。砂岩。	14
85	R20128	r2062	SD-1中層（CV12）	石器	磨石		断面楕円形・平面形棒状。１面に比較的平滑部。砂岩。	14
86	R20139	r2071	SD-1下層（CS11）	石器	砥石		砥面１面残。26.3g。チャート質。	14
87	R20162	r2090	SD-1下層(CV11・12畔)	石器	石鏃未成品		刃部１辺・基部未剝離。1.8g。赤色頁岩。	14
88	R20127	r2062	SD-1中層（CV12）	石器	刃器？		刃部交互剝離。2.9g。サヌカイト。	14
89	R20078	r2010	SD-1上層（CT12）	石器	剝片		1.2g。サヌカイト。	14
90	R20148	r2082	SD-1下層（CT12）	石器	剝片		0.8g。サヌカイト。	14
91	R20122	r2058	SD-1中層（CV11）	石器	剝片		打瘤部の再剝離片か。1.5g。サヌカイト。	14
92	R20155	r2086	SD-1下層（CU11・12）	鉄器	長頸式鉄鏃		茎部断面方形、木質付着。	32
93	R20150	r2082	SD-1北下層（CT12）	鉄滓			椀形滓の一部か。3.8g。	32
94	R20159	r2088	SD-1下層（CV11・12）	鉄滓			9.4g。	32
95	R20116	r2049	SD-1中層（CT12）	鉄滓			6.5g。	32
図72～79　SD-2出土遺物実測図								
1	R20302	r2121	SD-2下層（CV11）	弥生土器	壺	口縁部	外面磨滅、内面ナデ。外面黒化層露出、内面灰白色。石英・長石多く含む。	15
		r2014	SD-1上層（CU11）					
2	R20303	r2102	SD-2中層（CR11）	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅、一部指頭圧痕。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母多く含む。	15
		r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）					
		r2117	SD-2下層（CS11）					
		r2121	SD-2下層（CV11）					
		r1027	Ⅰ層（南西部）					
		r2181	SX-19					
3	R20225	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	弥生土器	壺	底部	内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	15
		r2117	SD-2下層（CS11）					
4	R20264	r2121	SD-2下層（CV11）	弥生土器	壺	底部	内外面ナデ、外面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色・黒斑、内面橙色。石英・長石・チャート多く含む。	15
5	R20235	r2112	SD-2中層（CW11）	弥生土器	壺	底部	横ハケ目・指頭圧痕・ナデ、内面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面黒色。石英・長石・雲母多く含む。	15
6	R20322	r2122	SD-2下層（CV11畔）	弥生土器	甕	底部	内外面ナデ・指頭圧痕。内外面浅黄橙色。石英・長石多く含む。	15
7	R20249	r2120	SD-2下層（CU11）	弥生土器	高坏	脚部	浅い沈線４条以上、裾部付近小円孔。外面磨滅、内面指頭圧痕・ナデ。石英・長石多く含む。	15
8	R20270	r2121	SD-2下層（CV11）	弥生土器	高坏	脚部	内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石多く含む。	15
9	R20190	r2102	SD-2中層（CR11）	弥生土器	器台	体部	円形透孔。外面横ハケ目、内面指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石・雲母多く含む。	15
10	R20208	r2105	SD-2中層（CT11）	土師器	高坏	脚部	外面ナデ・指頭圧痕。内外面淡黄色。石英・長石・雲母含む。	15
11	R20271	r2121	SD-2下層（CV11）	土師器	高坏	脚部	接合時の心棒痕。内外面磨滅。内外面にぶい橙色～橙色。石英・長石・角閃石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	15
12	R20269	r2121	SD-2下層（CV11）	土師器	高坏	接合部	内外面磨滅。内外面石英淡黄色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	15
13	R20246	r2118	SD-2下層（CT11）	須恵器	坏蓋	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	15
14	R20283	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	15
15	R20243	r2117	SD-2下層（CS11）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	15
16	R20279	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵器	坏身	口縁部	外面回転ヘラケズリ、内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	15
17	R20331	r2125	SD-2下層（CX11）	須恵器	横瓶	頸部	口縁部内外面回転ナデ、肩部斜ハケ目、内面丁寧なナデ。内外面灰色、断面灰褐色。石英・長石含む。	15
18	R20282	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵器	横瓶	頸部	内外面回転ナデ、内面青海波文。内外面灰色、外面・頸部内面に暗オリーブ灰色自然釉。石英・長石含む。	15
19	R20277	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵器	短頸壺？	上胴部	回転ナデによる沈線。内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	15
20	R20332	r2125	SD-2下層（CX11）	須恵器	甕	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色、断面赤灰色。石英・長石わずかに含む。	15
21	R20280	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵器	坏	底部	内外面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色、断面赤灰色。石英・長石含む。	15
22	R20185	r2098	SD-2上層（CV11）	須恵器	高坏形器台	脚部	クシ描波状文。外面カキメ、内面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石・雲母含む。	15
23	R20221	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	須恵器	？	脚端部	クシ描波状文。内外面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色。	15
24	R20299	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵器	鉢	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色、断面灰褐色。石英・長石わずかに含む。	15
		r1027	Ⅰ層（南西部）					
25	R20167	r2094	SD-2上層（CS11）	土師器	坏	全形	内外面磨滅、底面ヘラ切りか。内外面灰白色。石英・長石の微細粒やや含む。やや軟質。	16

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
26	R20183	r2098	SD-2上層（CV11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ、内面ミガキか。内外面淡黄色。石英・長石の微細粒わずかに含む。5mm大の土器片含む。	16
27	R20335	r2126	SD-2下層（CX11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母の微細粒わずかに含む。	16
28	R20244	r2118	SD-2下層（CT11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	16
29	R20192	r2102	SD-2中層（CR11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面浅黄色。石英・長石・雲母の微細粒含む。	16
30	R20196	r2103	SD-2中層（CS11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・雲母の微細粒わずかに含む。	16
31	R20198	r2103	SD-2中層（CS11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・雲母の微細粒わずかに含む。	16
32	R20207	r2105	SD-2中層（CT11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石わずかに含む。	16
33	R20216	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	16
34	R20254	r2120	SD-2下層（CU11）	土師器	坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母の微細粒わずかに含む。	16
35	R20336	r2126	SD-2下層（CX11）	土師器	坏	口縁部	口縁部片口状か。内外面回転ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	16
36	R20253	r2120	SD-2下層（CU11）	土師器	坏	底部	外面指頭圧痕・ナデ、内面磨滅、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒含む。	16
37	R20334	r2126	SD-2下層（CX11）	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色。石英・長石の細粒含む。	16
38	R20217	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師器	坏	底部	外面磨滅、内面回転ナデ、底部回転糸切り痕。外面灰黄色、内面黄灰色。石英・長石わずかに含む。	16
39	R20203	r2105	SD-2中層（CT11）	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	16
40	R20205	r2105	SD-2中層（CT11）	土師器	坏	底部	内面回転ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	16
41	R20197	r2103	SD-2中層（CS11）	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	16
42	R20229	r2111	SD-2中層（CU11）	土師器	坏	底部	外面磨滅、内面ナデ、底部回転糸切りか。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	16
43	R20171	r2095	SD-2上層（CT11）	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石の微細粒やや含む。	16
44	R20218	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師器	坏	底部	外面磨滅、内面回転ナデ、底部回転糸切りか。内外面黄灰色。石英・長石の微細粒含む。	16
45	R20215	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底面回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色。石英・長石の微細粒わずかに含む。	16
46	R20191	r2102	SD-2中層（CR11）	土師器	坏	底部	内外面ナデか。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	16
47	R20242	r2117	SD-2下層（CS11）	土師器	坏	底部	内外面ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	16
48	R20213	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・雲母わずかに含む。	16
49	R20236	r2112	SD-2中層（CW11）	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色、底部内外面一部赤灰色～灰色。石英・長石わずかに含む。	16
50	R20232	r2111	SD-2中層（CU11）	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ、底部回転糸切りか。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	16
51	R20252	r2120	SD-2下層（CU11）	土師器	小皿	全形	内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石含む。	16
52	R20176	r2097	SD-2上層（CU11）	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石含む。	16
53	R20230	r2111	SD-2中層（CU11）	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石含む。	16
54	R20175	r2097	SD-2上層（CU11）	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	16
55	R20206	r2105	SD-2中層（CT11）	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面灰黄色。石英・長石・雲母わずかに含む。内黒黒色土器の可能性あり。	16
56	R20251	r2120	SD-2下層（CU11）	土師器	椀	底部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。	16
57	R20318	r2122	SD-2下層（CV11畔）	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。内黒黒色土器の可能性あり。	16
58	R20214	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面灰黄色。焼成やや軟質。内黒黒色土器の可能性あり。	16
59	R20275	r2121	SD-2下層（CV11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部外面指頭圧痕。内外面灰白色。精製土。	16
60	R20200	r2103	SD-2中層（CS11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部外面指頭圧痕、内面一部ミガキ。内外面灰色。精製土。	16
61	R20169	r2094	SD-2上層（CS11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部外面指頭圧痕、内面横ミガキ。内外面灰色。精製土。	16
62	R20245	r2118	SD-2下層（CT11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面横ナデ。内外面灰色。精製土。	16
63	R20324	r2122	SD-2下層（CV11畔）	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部外面指頭圧痕、体部内面磨滅。内外面灰色。精製土に石英・長石わずかに含む。	16
64	R20172	r2095	SD-2上層（CT11）	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部内面横ミガキ。内外面灰色。精製土。	16
65	R20219	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	瓦器	椀	底部	高台内外面横ナデ、底面指頭圧痕、内面斜格子状暗文ミガキ。内外面灰色。精製土。	16
66	R20233	r2111	SD-2中層（CU11）	瓦器	椀	底部	内面ミガキか。内外面灰色。精製土。	16
67	R20168	r2094	SD-2上層（CS11）	瓦器	椀	底部	外面指頭圧痕、内面磨滅。内外面灰色。精製土。	16
68	R20231	r2111	SD-2中層（CU11）	瓦器	椀	底部	内外面浅黄色。内外面にぶい黄色。精製土に石英・長石わずかに含む。焼成土師質。	16
69	R20255	r2120	SD-2下層（CU11）	瓦器	小皿	全形	口縁部内外面横ナデ、体部外面指頭圧痕、内面雷状暗文ミガキ。内外面灰色。精製土。	16
70	R20209	r2105	SD-2中層（CT11）	瓦器	小皿	全形	口縁部内外面横ナデ、底部外面指頭圧痕、内面ナデ。内外面灰色。精製土。	16
71	R20226	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師質土器	鍋	口縁部	口縁部内外面横ハケ目、体部外面縦ハケ目・頸部指頭圧痕、体部内面横ハケ目・ナデ。外面にぶい黄褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。外面煤付着。	17
		r2121	SD-2下層（CV11）					
		r2126	SD-2下層（CX11）					
		r1020	Ⅰ層（南東部）					
72	R20228	r2111	SD-2中層（CU11）	土師質土器	鍋	口縁部	口縁部内外面横ハケ目・横ナデ。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・雲母多く含み、草茎類の圧痕あり。	17
73	R20173	r2095	SD-2上層（CT11）	土師質土器	鍋	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部外面指頭圧痕。外面黒褐色、内面灰黄色。石英・長石多く含む。外面煤付着。	17
74	R20193	r2103	SD-2中層（CS11）	土師質土器	羽釜	口縁部	鍔状突帯。突帯横ナデ、体部外面指頭圧痕・横ハケ目、内面横ハケ目・ナデ。外面褐色、内面橙色。石英・長石・雲母・チャート多く含む。外面一部煤付着。	17
75	R20266	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	口縁部	口縁部内外面横ナデ、内面ナデ。外面にぶい褐色、内面にぶい赤褐色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	17
76	R20248	r2120	SD-2下層（CU11）	土師質土器	羽釜	口縁部	口縁部横ナデ、外面指頭圧痕。外面にぶい明褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母多く含む。外面一部煤付着。	17
77	R20265	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	口縁部	口縁部横ナデ、外面指頭圧痕、内面ナデ。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。外面煤付着。	17
78	R20267	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	口縁部	口縁部横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石・赤色粒多く含む。	17
79	R20227	r2111	SD-2中層（CU11）	土師質土器	羽釜	口縁部	口縁部横ナデ、外面指頭圧痕、内面ナデ。内外面にぶい黄色。石英・長石・雲母多く含む。	17

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
80	R20301	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	全形	口縁部内外面横ナデ、外面指頭圧痕、内面指頭圧痕・ナデ。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・赤色粒・雲母含む。体部外面ほぼ全面煤付着。	17
81	R20272	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	脚部	内外面磨滅。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・チャート・赤色粒多く含む。外面一部煤付着。	17
82	R20273	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい黄色。石英・長石・雲母多く含む。体部外面煤付着。	17
83	R20212	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい黄色。石英・長石・チャート・雲母多く含む。内側上部被熱赤変、外側一部煤付着。	17
84	R20250	r2120	SD-2下層（CU11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい黄褐色。外面灰オリーブ色、内面灰黄色、断面暗灰黄色。石英・長石・雲母多く含む。外面一部煤付着。	17
85	R20174	r2097	SD-2上層（CU11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい黄橙色。1㎜以下の石英・長石・チャート・雲母やや含む。	17
86	R20274	r2121	SD-2下層（CV11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい黄橙色。石英・長石含む。	17
87	R20194	r2103	SD-2中層（CS11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい橙色。石英・長石・雲母・チャート多く含む。一部煤付着。	17
88	R20195	r2103	SD-2中層（CS11）	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・チャート多く含む。一部煤付着。	17
89	R20323	r2122	SD-2下層（CV11畔）	土師質土器	不明	把手	ナデ・指頭圧痕。橙色。石英・長石・雲母多く含む。焼成堅緻。	17
90	R20179	r2097	SD-2上層（CU11）	瓦質土器	鍋	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰色。精製土。外面煤付着。	17
91	R20268	r2121	SD-2下層（CV11）	瓦質土器	鍋	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰黄色。石英・長石・雲母・チャート含む。	17
92	R20178	r2097	SD-2上層（CU11）	瓦質土器	羽釜	口縁部	口縁部横ナデ、外面指頭圧痕、内面ナデ。内外面灰色。石英･長石･チャート多く含む。	17
93	R20180	r2097	SD-2上層（CU11）	瓦質土器	羽釜	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰色。石英・長石・雲母の微細粒やや含む。突帯下部煤付着。	17
94	R20329	r2125	SD-2下層（CX11）	瓦質土器	坏	底部	外面磨滅、内面横ナデ。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	17
95	R20281	r2121	SD-2下層（CV11）	瓦質土器	鉢	口縁部	片口状。内外面横ナデ。内外面灰色～灰白色。石英・長石含む。96と同一個体の可能性あり。	17
96	R20284	r2121	SD-2下層（CV11）	瓦質土器	鉢	底部	内外面磨滅。内外面灰色～灰白色。石英・長石含む。95と同一個体の可能性あり。	17
97	R20325	r2122	SD-2下層（CV11畔）	須恵質陶器	こね鉢	口縁部	東播系。内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	18
98	R20210	r2105	SD-2中層（CT11）	須恵質陶器	こね鉢	口縁部	東播系。片口部残。内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石・チャート含む。	18
99	R20319	r2122	SD-2下層（CV11畔）	須恵質陶器	こね鉢	口縁部	東播系。内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	18
100	R20300	r2121	SD-2下層（CV11）	備前焼	擂鉢	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色、断面灰褐色。石英・長石含む。斑状の自然釉。	18
		r2123	SD-2下層（CW11）					
		r1027	Ⅰ層（南西部）					
		r1028	Ⅰ層（南西部）					
101	R20220	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	備前焼	擂鉢	口縁部	内外面回転ナデ、外面下半指頭圧痕。内外面灰色。石英・長石多く含む。	18
102	R20177	r2097	SD-2上層（CU11）	備前焼	擂鉢	口縁部	口縁部凹線２条。内外面回転ナデ。外面灰色、内面褐灰色。石英・長石・チャート・雲母やや含む。	18
103	R20288	r2121	SD-2下層（CV11）	備前焼	擂鉢	底部	外面ナデ･指頭圧痕、内面回転ナデ、８条１単位の擂目、底面指頭圧痕。内外面灰色。石英・長石・チャート多く含む。	18
104	R20287	r2121	SD-2下層（CV11）	備前焼	擂鉢	底部	外面ナデ･指頭圧痕、底面指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英･長石･チャート多く含む。使用により内面平滑・擂目浅い。	18
105	R20237	r2112	SD-2中層（CW11）	備前焼	甕	口縁部	内外面回転ナデ。内外面暗赤褐色～黒褐色。石英・長石・チャート含む。	18
106	R20286	r2121	SD-2下層（CV11）	備前焼	甕	底部	外面列点状のアタリ。外面回転ナデ、外面底部付近指頭圧痕。外面にぶい赤褐色、内面褐灰色。石英・長石多く含む。	18
107	R20285	r2121	SD-2下層（CV11）	備前焼	甕	底部	外面上部ナデ、底部付近・底面回転ナデ、内面板状工具によるオサエ・ナデ。内外面にぶい赤褐色。石英・長石多く含む。	18
108	R20259	r2120	SD-2下層（CU11）	備前焼	甕	底部	外面底部付近ケズリ・ナデ、体部外面ナデ、体部内面ケズリ・当て具によるオサエ、底部内外面ナデ。内外面灰色、断面灰褐色。石英・長石多く含む。	18
109	R20186	r2098	SD-2上層（CV11）	須恵質陶器	椀	底部	高台部3方向から三角形状に刳り込み。外面ケズリ、内面回転ナデ。内外面灰黄褐色。石英・長石わずかに含む。	18
110	R20258	r2120	SD-2下層（CU11）	須恵質陶器	甕	口縁部	内外面回転ナデ。内外面にぶい黄褐色、断面灰色。石英・長石含む。	18
111	R20290	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵質陶器	壺	底部	内外面ナデ。内外面灰白色。石英・長石多く含む。	18
112	R20330	r2125	SD-2下層（CX11）	須恵質陶器	壺	底部	体部内外面ナデ、底部内外面指頭圧痕。内外面灰色。石英・長石多く含む。	18
113	R20257	r2120	SD-2下層（CU11）	須恵質陶器	壺	底部	外面ナデ、内面指頭圧痕・ナデ、底面未調整。内外面灰白色。石英・長石含む。	18
114	R20278	r2121	SD-2下層（CV11）	須恵質陶器	甕	胴部	外面格子目タタキ、内面ナデ・一部横ナデ。内外面灰白色。石英・長石・赤色チャート多く含む。	18
115	R20256	r2120	SD-2下層（CU11）	須恵質陶器	甕	底部	外面格子目タタキ、底部付近ケズリ、内面横ハケ･ナデ。内外面灰色。石英･長石含む。	18
116	R20204	r2105	SD-2中層（CT11）	亀山焼	甕	底部	外面格子目タタキ、内面指頭圧痕、底面指頭圧痕。外面黒色、内面灰色。石英･長石･赤色粒多く含む。	18
117	R20289	r2121	SD-2下層（CV11）	施釉陶器	擂鉢	口縁部	口縁端部内外面鉄釉、体部内外面に薄く施釉。口縁部黒褐色、体部外面にぶい褐色、体部内面褐灰色。褐灰色の精良な胎土。	18
118	R20199	r2103	SD-2中層（CS11）	青磁	碗	口縁部	釉調わずかに緑がかった灰色。磁胎空隙若干。表面遺存状態不良。	19
119	R20292	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	碗	口縁部	外面蓮弁文。釉調オリーブ灰色。磁胎若干空隙あり、灰白色。	19
120	R20260	r2120	SD-2下層（CU11）	青磁	碗	口縁部	釉調灰オリーブ色、厚約１㎜。磁胎にぶい橙色。	19
121	R20291	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	碗	口縁部	体部下方に文様の窪みか。釉調オリーブ灰色・透明度の低い、厚約1.3㎜。磁胎黒色粒若干含む、灰白色。	19
122	R20298	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	碗	口縁部	釉調暗オリーブ色、厚１㎜弱。磁胎白色。	19
123	R20201	r2103	SD-2中層（CS11）	青磁	碗	体部	内面草花文。釉調オリーブ灰色。磁胎微細な黒色粒わずかに含む。	19
124	R20211	r2106	SD-2中層（CT11）	青磁	碗	体部	外面一部文様。釉調オリーブ灰色。磁胎土空隙が若干あり、灰色。	19
		r2125	SD-2下層（CX11）					
125	R20295	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	碗	底部	釉調灰オリーブ色、高台接地部以内露胎。高台部磁胎灰色の強い灰白色、体部磁胎白色の強い灰白色。	19
126	R20296	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	碗	底部	見込みに圏線。釉調灰オリーブ色、高台内側付着･無釉部あり。磁胎空隙がわずかにあり、黄色みがかった灰白色。	19
127	R20293	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	碗	底部	釉調明オリーブ灰色、高台内側露胎・明赤灰色。磁胎空隙あり、灰白色。	19
128	R20326	r2122	SD-2下層（CV11畔）	青磁	碗	底部	釉調灰オリーブ色、高台接地面以内露胎。磁胎若干の空隙あり、灰白色。	19
129	R20338	r2112	SD-2中層（CW11）	青磁	碗	底部	釉調オリーブ灰色、高台内側釉掻き取り・中央部付着あり。磁胎空隙少なく、灰白色。	19
130	R20297	r2121	SD-2下層（CV11）	青磁	小皿	全形	見込みに圏線･文様。釉調灰オリーブ色、体部外面露胎。磁胎わずかに空隙あり、灰白色。	19
131	R20224	r2094	SD-2上層（CS11）	青磁	小皿	口縁部	見込みに圏線。釉調灰オリーブ色。磁胎空隙ほとんどなく、灰白色。	19
132	R20187	r2098	SD-2上層（CV11）	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎微細な黒色粒多く含み、わずかに空隙あり、白色。	19
133	R20223	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎微細な黒色粒多く含み、空隙ごくわずか、灰白色。	19

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
134	R20234	r2111	SD-2中層（CU11）	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎微細な黒色粒わずかに含み、空隙も若干あり、灰白色。	19
135	R20222	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	白磁	碗	底部	見込みに圏線。釉調内面灰白色。内外面回転ナデ、底面回転ケズリ。磁胎空隙あり、灰白色。	19
136	R20238	r2112	SD-2中層（CW11）	白磁	碗	底部	釉調灰白色、高台外面以内露胎。高台外面ケズリ。磁胎微細な黒色粒含み、空隙若干あり、灰白色。	19
137	R20294	r2121	SD-2下層（CV11）	白磁	碗	底部	釉調灰白色、底部露胎。磁胎空隙やや多く、灰白色。	19
138	R20327	r2122	SD-2下層（CV11畔）	白磁	碗	底部	見込みに圏線。釉調灰白色、外面下半以下露胎、内面付着あり。磁胎わずかに空隙あり、灰白色。	19
139	R20276	r2121	SD-2下層（CV11）	瓦	丸瓦		凸面縦ミガキ・ナデ、凹面糸切り痕・ケズリ状ナデ。凹凸面灰白色。石英・長石含む。焼成須恵質。	19
140	R20188	r2098	SD-2上層（CV11）	石器	台石		敲打成形、1面のみ研磨痕。全面薄く被熱黒変。1070g。安山岩質。	19
141	R20182	r2097	SD-2上層（CU11）	石器	台石		敲打成形、上面・両側面研磨、他面若干研磨。下側破断面以外被熱黒変。860g。安山岩質。	19
142	R20317	r2121	SD-2下層（CV11）	石器	台石		敲打成形、上面研磨。1166g。安山岩質。	19
143	R20320	r2122	SD-2下層（CV11畔）	石器	砥石		方柱状。4面かなり使い込む。1面被熱黒変。99.3g。褐灰色の火山岩質。	19
144	R20239	r2113	SD-2中層上面(CW12)	石器	敲石		方柱状か。4面に敲打痕顕著、1面研磨。177.3g。砂岩質。	19
145	R20316	r2121	SD-2下層（CV11）	石器	磨石		断面扁円形。先端敲打痕、全面平滑。93.2g。火山岩質。	19
146	R20304	r2121	SD-2下層（CV11）	石器	素材		灰色。117.1g。結晶片岩。	19
147	R20261	r2120	SD-2下層（CU11）	石器	石庖丁未製品		側端抉り。15.0g。結晶片岩。	19
148	R20262	r2120	SD-2下層（CU11）	石器	素材		70.7g。結晶片岩。	19
149	R20306	r2121	SD-2下層（CV11）	石器	素材		黄灰色、全面赤変。11.9g。結晶片岩。	19
150	R20181	r2097	SD-2上層（CU11）	石器	打製石鏃未製品		1面中央に稜、もう1面剝離面のまま。2.3g。節理見られるサヌカイト。	19
151	R20202	r2103	SD-2中層（CS11）	石器	剝片		調整剝離認められない。2.6g。	19
152	R20311	r2121	SD-2下層（CV11）	鉄器	鉄鏃？		茎部断面方形、刃部土砂等付着・詳細不明。	32
153	R20240	r2113	SD-2中層上面(CW12)	鉄滓			片面に平滑な曲面あり。84.9g。	32
154	R20333	r2125	SD-2下層（CX11）	鉄滓			28.7g。	32
155	R20328	r2122	SD-2下層（CV11畔）	鉄滓			14.3g。	32
156	R20312	r2121	SD-2下層（CV11）	鉄滓			砂粒が一部滓状に熔融付着。25.3g。	32
157	R20263	r2120	SD-2下層（CU11）	鉄滓			17.0g。	32
158	R20314	r2121	SD-2下層（CV11）	鉄滓			14.0g。	32
159	R20315	r2121	SD-2下層（CV11）	鉄滓			7.8g。	32
160	R20313	r2121	SD-2下層（CV11）	鉄滓			5.5g。	32
161	R20166	R8	SD-2下層（CV11）	青銅器	柄鏡		面径10.6cm。雲文。18.6g。	32
162	R20189	r2098	SD-2上層（CV11）	青銅器	銭貨		開元通宝。径24mm、孔1辺7.2mm。1.7g。	32
163	R20309	r2121	SD-2下層（CV11）	青銅器	銭貨		径24.5mm、孔1辺5.5mm、3.0g。	32
164	R20310	r2121	SD-2下層（CV11）	銅滓			4.7g。	32
図80～84　SD-3出土遺物実測図								
1	R20426	r2194	SD-3上層（CV11）	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒多く含む。	20
2	R20391	r2134	SD-3下層（CU11）	土師器	壺	口縁部	口縁部内外面横ナデ、体部内面指頭圧痕。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	20
3	R20410	r2137	SD-3下層（CW11）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	20
4	R20409	r2137	SD-3下層（CW11）	須恵器	高坏	接合部	外面磨滅、内面ナデ。内外面灰白色。石英・長石・チャート含む。	20
5	R20400	r2136	SD-3下層（CV11）	須恵器	高坏	脚端部	内外面ナデ。内外面灰色。	20
6	R20353	r2129	SD-3上・下層（CW11）	須恵器	鉢？	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	20
7	R20346	r2128	SD-3上・下層（CV11）	須恵器	甕	頸部	クシ描波状文・凹線文2条。内外面ナデ。内外面灰白色、断面にぶい橙色。石英・長石わずかに含む。	20
8	R20381	r2132 r2134	SD-3下層（CT11） SD-3下層（CU11）	須恵器	甕	下胴部	外面格子目タタキ、内面ナデ。内外面灰白色。石英・長石・チャート含む。	20
9	R20378	r2132	SD-3下層（CT11）	須恵質陶器	甕	胴部	外面格子目タタキ、内面ナデ。内外面灰白色。石英・長石・チャート・赤色粒含む。	20
10	R20361	r2130 r2131	SD-3下層（CR11） SD-3下層（CS11）	土師器	坏	全形	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
11	R20366	r2131	SD-3下層（CS11）	土師器	坏	全形	内外面磨滅。外面灰白色、内面灰褐色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	20
12	R20406	r2137	SD-3下層（CW11）	土師器	坏	口縁部	内外面磨滅。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
13	R20347	r2129	SD-3上・下層（CW11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰白色。石英・長石・雲母わずかに含む。	20
14	R20394	r2134	SD-3下層（CU11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰黄褐色。石英・長石含む。	20
15	R20342	r2127	SD-3上層（CT11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・チャート・赤色粒わずかに含む。	20
16	R20350	r2129	SD-3上・下層（CW11）	土師器	坏	口縁部	外面横ナデ、内面磨滅。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
17	R20403	r2137	SD-3下層（CW11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。	20
18	R20359	r2130	SD-3下層（CR11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
19	R20358	r2130	SD-3下層（CR11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
20	R20344	r2128	SD-3上・下層（CV11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。外面灰白色、内面にぶい黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
21	R20349	r2129	SD-3上・下層（CW11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。外面灰白色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
22	R20373	r2132	SD-3下層（CT11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
23	R20372	r2132	SD-3下層（CT11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
24	R20348	r2129	SD-3上・下層（CW11）	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石わずかに含む。	20
25	R20369	r2131	SD-3下層（CS11）	土師器	坏	底部	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内面浅黄橙色、外面炭素吸着か灰色。石英・長石わずかに含む。	20
26	R20368	r2131	SD-3下層（CS11）	土師器	坏	底部	内面横ナデ、外面磨滅、底部回転糸切り痕。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
27	R20392	r2134	SD-3下層（CU11）	土師器	坏	底部	外面横ナデ、内面ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
28	R20395	r2134	SD-3下層（CU11）	土師器	坏	底部	外面横ナデ、内面ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
29	R20407	r2137	SD-3下層（CW11）	土師器	坏	底部	内外面磨滅、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石含む。	20
30	R20404	r2137	SD-3下層（CW11）	土師器	坏	底部	内面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面淡黄褐色。石英・長石・雲母含む。	20
31	R20367	r2131	SD-3下層（CS11）	土師器	坏	底部	内外面磨滅、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。赤色粒わずかに含む。	20

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
32	R20387	r2133	SD-3下層（CU11）	土師器	坏	底部	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・チャート含む。	20
		r2136	SD-3下層（CV11）					
33	R20374	r2132	SD-3下層（CT11）	土師器	坏	底部	内外面横ナデ、底部回転糸切りか。外面灰白色、内面淡黄色。石英・長石・赤色粒含む。	20
34	R20343	r2128	SD-3上・下層（CV11）	土師器	坏	底部	内外面磨滅。底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
35	R20393	r2134	SD-3下層（CU11）	土師器	椀	底部	外面ナデ、内面磨滅。外面灰白色、内面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
36	R20384	r2133	SD-3下層（CU11）	土師器	椀	底部	外面ナデ、内面散発的なミガキ。内外面浅黄橙色。石英・長石含む。	20
37	R20396	r2134	SD-3下層（CU11）	土師器	椀	底部	外面横ナデ、内面磨滅。外面灰白色、内面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
38	R20408	r2137	SD-3下層（CW11）	土師器	皿	全形	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	20
39	R20364	r2131	SD-3下層（CS11）	土師器	小皿	完形	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。口縁端部煤付着。	20
40	R20371	r2132	SD-3下層（CT11）	土師器	小皿	全形	内外面磨滅、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
41	R20357	r2130	SD-3下層（CR11）	土師器	小皿	全形	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母わずかに含む。	20
42	R20365	r2131	SD-3下層（CS11）	土師器	小皿	完形	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。	20
43	R20385	r2133	SD-3下層（CU11）	瓦器	椀	口縁部	外面横ナデ・下半指頭圧痕、内面磨滅。内外面暗灰色。石英・長石・雲母含む。	20
44	R20360	r2130	SD-3下層（CR11）	瓦器	椀	口縁部	外面横ナデ、内面丁寧なミガキ。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	20
45	R20375	r2132	SD-3下層（CT11）	瓦器	椀	口縁部	外面横ナデ、内面ミガキ。外面灰色、内面暗灰色。石英・長石わずかに含む。	20
46	R20397	r2134	SD-3下層（CU11）	瓦器	椀	底部	外面横ナデ、内面磨滅。外面灰色、内面灰白色。石英・長石わずかに含む。	20
47	R20345	r2128	SD-3上・下層（CV11）	瓦器	椀	底部	外面ナデ、内面散発的なミガキ。内外面灰色。石英・長石・チャートわずかに含む。	20
48	R20376	r2132	SD-3下層（CT11）	瓦器	椀	底部	内外面磨滅。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	20
49	R20351	r2129	SD-3上・下層（CW11）	瓦器	小皿	全形	内外面口縁部横ナデ、外面指頭圧痕、内面ナデ・丁寧なミガキ。内外面灰色。石英・長石・チャートわずかに含む。	20
50	R20405	r2137	SD-3下層（CW11）	瓦器	小皿	全形	体部外面指頭圧痕、他磨滅。内外面灰黄褐色、口縁部外面灰色。石英・長石・雲母わずかに含む。	20
51	R20352	r2129	SD-3上・下層（CW11）	瓦器	小皿	口縁部	内外面磨滅。外面体部指頭圧痕か。内外面灰色。	20
52	R20377	r2132	SD-3下層（CT11）	瓦器	小皿	下半部	外面指頭圧痕、内面磨滅。外面黒色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒わずかに含む。	20
53	R20389	r2134	SD-3下層（CU11）	土師質土器	鍋	上半部	口縁部内外面ナデ、胴部外面縦ハケ目・ナデ・指頭圧痕、内面横ハケ目・一部指頭圧痕。外面黒色、内面にぶい褐色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	21
54	R20390	r2134	SD-3下層（CU11）	土師質土器	鍋	上半部	口縁部外面ナデ、内面横ハケ目、体部外面縦ハケ目・指頭圧痕、内面剝落。外面にぶい橙色、内面にぶい褐色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	21
55	R20388	r2133	SD-3下層（CU11）	土師質土器	鍋	上半部	外面縦ハケ目・一部横ハケ目、口縁部ナデ・指頭圧痕。口頸部内面横ハケ目、胴部下半剝落。外面にぶい橙色、内面にぶい褐色。石英・長石・雲母多く含む。	21
		r2135	SD-3下層（CV11）					
56	R20472	r2109	SD-2中層上Ⅰ層混（CU11）	土師質土器	鍋	上半部	体部外面指頭圧痕・ナデ、下半平行タタキ、内面横ハケ目・ナデ。内外面にぶい黄褐色。石英・長石・雲母多く含む。外面全面・口縁部内面煤付着。	21
		r2133	SD-3下層（CU11）					
57	R20398	r2135	SD-3下層（CV11）	土師質土器	鍋	口縁部	内外面横ナデ。外面黒褐色、内面にぶい黄褐色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	21
58	R20402	r2137	SD-3下層（CW11）	土師質土器	鍋	口縁部	外面横ハケ目・ナデ・指頭圧痕。内面横ハケ目・ナデ。外面黒褐色、内面褐色。石英・長石多く含む。	21
59	R20354	r2129	SD-3上・下層（CW11）	須恵質陶器	こね鉢	口縁部	東播系。内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・チャートわずかに含む。	21
60	R20399	r2136	SD-3下層（CV11）	須恵質陶器	壺？	底部	外面回転ナデ、内面ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・チャートわずかに含む。	21
61	R20355	r2129	SD-3上・下層（CW11）	須恵質陶器	壺？	底部	外面ナデ、内面磨滅、底部回転糸切りか。内外面灰色。石英・長石・チャート含む。	21
62	R20379	r2132	SD-3下層（CT11）	灰釉陶器	椀	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。精良な胎土に、黒色の微細粒わずかに含む。	21
63	R20370	r2131	SD-3下層（CS11）	白磁	碗	口縁部	釉調薄い灰白色、外面下半一部露胎。磁胎黒色粒わずかに含み、灰白色。	21
64	R20386	r2133	SD-3下層（CU11）	白磁	碗	底部	釉調薄い灰白色、外面露胎。磁胎空隙若干あり、黒色粒わずかに含み、灰白色。	21
65	R20380	r2132	SD-3下層（CT11）	白磁	碗	底部	釉調薄い灰白色、外面露胎。磁胎空隙若干あり、黒色粒わずかに含み、灰白色。	21
66	R20340	R19	SD-3下層（CW11）	石器	台石		上面と側面3面が平滑。安山岩質。	22
67	R20382	r2132	SD-3下層（CT11）	石器	台石		上面に敲打による窪み2箇所、下面平滑。砂岩。	22
68	R20383	r2132	SD-3下層（CT11）	石器	台石		平らな1面に敲打痕。砂岩。	22
69	R20339	R18	SD-3下層（CW11）	石器	台石		平らな1面に敲打による窪み4箇所。端面平滑。花崗岩。	22
70	R20411	r2137	SD-3下層（CW11）	石器	磨製石庖丁		半身欠損。杏仁形、刃部偏両刃、両面穿孔。全面丁寧な研磨。穿孔中止の痕跡。29.1g。結晶片岩。	21
71	R20362	r2131	SD-3下層（CS11）	石器	石庖丁未成品		自然面残るが、剝離あり。荒割段階の未製品。53.8g。結晶片岩。	21
72	R20363	r2131	SD-3下層（CS11）	石器	剝片		7.1g。結晶片岩。	21
73	R20401	r2136	SD-3下層（CV11）	石器	剝片		11.2g。結晶片岩。	21
74	R20356	r2129	SD-3上・下層（CW11）	鉄器	鉄鏃	茎部	断面下方は方形・上方扁平長方形。	32
図85　SD-1～3断割出土遺物実測図								
1	R20418	r2139	SD-1～3西断割	縄文土器	深鉢	胴部	内外面磨滅、外面わずかに条痕。内外面黒色。石英・長石・雲母多く含む。	23
2	R20414	r2138	SD-1～3東断割	須恵器	壺蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	23
3	R20423	r2139	SD-1～3西断割	須恵器	甕	口縁部	外面縦ハケ目・回転ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。焼膨れあり。	23
4	R20425	r2140	SD-2・3西端断割	須恵器	甕	頸部	外面頸部回転ナデ・肩部カキメ、内面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	23
5	R20417	r2139	SD-1～3西断割	土師器	甕 or 甑	把手	全面ナデ。にぶい黄橙色。石英・長石・雲母多く含む。	23
6	R20412	r2138	SD-1～3東断割	土師器	坏	底部	内外面磨滅、底部糸切りか。内外面淡黄色。石英・長石含む。	23
7	R20413	r2138	SD-1～3東断割	瓦器	椀	口縁部	口縁部内外面回転ナデ、体部外面指頭圧痕。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	23
8	R20415	r2139	SD-1～3西断割	土師質土器	羽釜	口縁部	内外面ナデ。外面灰黄褐色、内面褐灰色。石英・長石・雲母多く含む。	23
9	R20416	r2139	SD-1～3西断割	土師質土器	羽釜	口縁部	外面ナデ、内面横ハケ目一部ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母多く含む。突帯下端の一部に煤付着。	23
10	R20419	r2139	SD-1～3西断割	瓦質土器	羽釜	口縁部	内外面ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	23
11	R20422	r2139	SD-1～3西断割	須恵質陶器	こね鉢	口縁部	東播系。内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・チャート含む。	23
12	R20421	r2139	SD-1～3西断割	須恵質陶器	こね鉢	口縁部	東播系。内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・チャート含む。	23
13	R20424	r2139	SD-1～3西断割	青磁	碗	底部	削り出し高台。釉調オリーブ灰色、高台内面露胎でにぶい赤褐色。磁胎灰白色、石英・長石の微細砂含む。	23
14	R20420	r2139	SD-1～3西断割	天目？	碗	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。外面灰色、内面褐灰色の薄い施釉。石英・長石わずかに含む。内面重ね焼き痕。	23
15	R20337	r2139	SD-1～3西断割	石器	砥石		平滑な砥面1面残る。砂岩。	23

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
図86　SD-64出土遺物実測図								
1	R20458	r2141	SD-64	須恵器	坏蓋	体部	外面回転ヘラケズリ・回転ナデ、内面回転ナデ。内外面灰色。	23
2	R20459	r2141	SD-64	青花	碗	口縁部	草花文。釉調オリーブ色、厚約0.7㎜。磁胎灰白色。	23
3	R20457	r2141	SD-64	備前焼	擂鉢	上半部	口縁部凹線２条。外面ケズリ後回転ナデ、内面回転ナデ、９条１単位の擂目。外面灰褐色、内面灰黄褐色。石英・長石含む。	23
4	R20456	r2141	SD-64	備前焼	擂鉢	上半部	口縁部凹線２条。外面ケズリ後回転ナデ、内面回転ナデ。８条１単位の擂目。外面にぶい赤褐色、内面にぶい橙色。長石・石英含む。	23
5	R20455	r2141	SD-64	備前焼	擂鉢	上半部	口縁部凹線２条。内外面回転ナデ。９条１単位の擂目。内外面灰赤色。石英･長石含む。	23
6	R20460	r2141	SD-64	石器	石庖丁？未製品		研磨痕と刃部あり。結晶片岩。	23
図88　SD-4～６・SK-7出土遺物実測図								
1	R20431	r2144	SD-4（CT12）	弥生土器	甕	口頸部	貼付押圧突帯。内外面摩滅・砂粒付着。内外面にぶい橙色。石英・長石含む。	23
2	R20427	r2142	SD-4（CS12）	須恵器	不明	脚部？	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石の微細粒含む。	23
3	R20430	r2142	SD-4（CS12）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	23
4	R20429	r2142	SD-4（CS12）	須恵器	高坏	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	23
5	R20433	r2144	SD-4（CT12）	須恵器	高坏	脚端部	内外面摩滅。内外面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	23
6	R20428	r2142	SD-4（CS12）	須恵器	壺	頸部	外面カキメ、内面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	23
7	R20432	r2144	SD-4（CT12）	土師器	椀	底部	内外面摩滅。外面灰白色、内面黄灰色。石英・長石の微細粒含む。	23
8	R20434	r2148	SD-5（CT12）	弥生土器	器台	脚端部	外面ミガキ、内面ナデ・指頭圧痕。外面浅黄橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母多く含む。	23
9	R20435	r2148	SD-5（CT12）	須恵器	坏蓋	体部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	23
10	R20436	r2148	SD-5（CT12）	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・雲母の微細粒わずかに含む。	23
11	R20437	r2148	SD-5（CT12）	石器	剝片		結晶片岩。	23
12	R20438	r2150	SD-4・5断割	弥生土器	壺	底部	内外面摩滅・砂粒付着。外面黄灰色、内面灰褐色。石英・長石含む。	23
13	R20439	r2152	SD-6（CT13）	弥生土器	壺	胴部	内外面摩滅。外面に「ノ」字状押圧文。外面橙色､内面にぶい橙色。焼成不良。石英･長石多く含む。	23
14	R20441	r2153	SD-6（CT13）	弥生土器	壺	下胴部	内外面摩滅・砂粒付着、内面指頭圧痕。外面浅黄橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母多く含む。	23
15	R20442	r2154	SD-6（CT14）	弥生土器	壺	底部	内外面摩滅・砂粒付着。外面にぶい橙色、内面黄灰色。石英・長石・雲母多く含む。	23
16	R20440	r2153	SD-6（CT13）	弥生土器	高坏	脚部	外面縦ミガキ・裾部横ナデ、内面シボリ痕。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石多く含む。	23
17	R20443	r2155	SD-6（CT14）	瓦器	小皿	口縁部	口縁部内外面横ナデ。内外面褐灰色。精製土。焼成土師質。	23
18	R20444	r2158	SK-7	須恵器	坏蓋	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色。石英・長石の微細粒含む。	23
図90　SK-9出土遺物実測図								
1	R20450	r2159	SK-9（西半）	土師器	甕	口縁部	外面横ナデ、内面摩滅。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	24
2	R20451	r2159	SK-9（西半）	土師質土器	羽釜	脚部	全面摩滅。にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	24
3	R20471	R5	SK-9	陶器	皿	全形	釉調灰褐色。内外面回転ナデ。胎土精良、灰白色。	24
4	R20449	R2	SK-9	陶器	鉢？	下半部	外面ナデ、内面ナデ・指頭圧痕。外面にぶい赤褐色、内面橙色。石英・長石含む。	24
5	R20448	R1	SK-9	陶器	擂鉢	底部	外面横ナデ､内面ハケ目。底部回転糸切り痕。外面にぶい橙色､内面にぶい褐色。石英･長石・雲母・黒色粒含む。内面擂目使用により断続的。	24
6	R20452	r2159	SK-9（西半）	陶器	壺	底部	外面･底面ナデ、内面回転ナデ。外面灰白色、内面淡黄色。石英･長石･赤色粒含む。	24
7	R20470	R4	SK-9	瓦	丸瓦		側面・端面面取り。黒燻し。石英・長石・雲母やや含む。	24
8	R20446	r2159	SK-9（西半）	石器	砥石		両面使用。砂岩。	24
9	R20447	r2159	SK-9（西半）	石器	磨石		側面敲打痕顕著、研磨あり。砂岩。	24
10	R20445	r2159	SK-9（西半）	石器	石庖丁未成品		裏面研磨か。結晶片岩。	24
図92　SK-17出土遺物実測図								
1	R10080	R7	SK-17	墓石			底部・裏面は欠損もしくは自然面を残す。花崗岩。	25
図94　SK-12出土遺物実測図								
1	R20453	r2166	SK-12（北半）	須恵器	高坏	接合部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石含む。	24
2	R20454	r2166	SK-12（北半）	石器	台石		大半欠損。一部被熱・黒変。砂岩。	24
図96　SX-13出土遺物実測図								
1	R20001	r2168	SX-13	土師器	椀	底部	内外面摩滅。内外面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	24
2	R20004	r2169	SX-13	土師質土器	羽釜	口縁部	内外面ナデ。外面にぶい黄橙色、内面にぶい褐色。石英・長石含む。	24
3	R20002	r2168	SX-13	石器	台石		全面に敲打痕。砂岩。	24
4	R20005	r2169	SX-13	鉄滓			58.1ｇ。他に３点あり（総重量117.5ｇ）。	33
5	R20003	r2168	SX-13	鉄滓			9.1ｇ。他に１点あり（総重量23.0g）。	33
図98～101　SX-14出土遺物実測図								
1	R20028	r2173	SX-14	弥生土器	壺	底部	外面ナデ、内面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面褐灰色。石英・長石含む。	26
2	R20043	r2175	SX-14	須恵器	坏身	下半部	内外面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	26
3	R20024	r2171	SX-14	須恵器	提瓶	胴部	外面カキメ、内面回転ナデ。石英・長石含む。	26
4	R20025	r2171	SX-14	須恵器	壺	底部	内外面摩滅。内外面灰白色。石英・長石多く含む。	26
5	R20039	r2174	SX-14	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母の微細粒含む。	26
6	R20013	R15	SX-14	土師器	坏	底部	内外面摩滅。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒含む。焼成やや軟質。	26
7	R20014	R16	SX-14	土師器	坏	底部	内外面摩滅。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	26
8	R20020	r2171	SX-14	土師器	小皿	全形	外面摩滅、内面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	26
9	R20031	r2173	SX-14	瓦器	椀	下半部	外面上端横ナデ、内面ヘラミガキ。内外面灰色。精製土。	26
10	R20042	r2175	SX-14	土師質土器	鍋	口縁部	外面ナデ、内面横ハケ目後ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。	26
11	R20023	r2171	SX-14	土師質土器	鍋	口縁部	外面縦ハケ目・横ナデ、内面横ハケ目。外面にぶい橙色、内面橙色。石英･長石含む。	26
12	R20029	r2173	SX-14	土師質土器	鍋	口縁部	内外面摩滅。石英・長石・赤色粒多く含む。	26
13	R20030	r2173	SX-14	土師質土器	羽釜	口縁部	外面横ナデ、内面摩滅。外面灰黄褐色、にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	26
14	R20027	r2173	SX-14	土師質土器	羽釜	下半部	外面指頭圧痕・ナデ、内面ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石含む。	26
15	R20041	r2175	SX-14	土師質土器	羽釜	脚部	ナデ。灰黄色。石英・長石・雲母含む。	26
16	R20010	R11	SX-14	土師質土器	羽釜	脚部	全面ミガキ。灰黄色。石英・長石・雲母含む。	26
17	R20008	R10	SX-14	土師質土器	羽釜	脚部	全体的摩滅。にぶい褐色。石英・長石含む。	26
18	R20006	R9	SX-14	備前焼	甕	上胴部	外面横ナデ・ナデ、内面回転ナデ・ナデ。外面灰黄褐色、内面灰色。石英･長石含む。	26

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
19	R20038	R14	SX-14	陶器	擂鉢	全形	外面縦ハケ目・指頭圧痕、内面横ハケ目。6条1単位の擂目。内外面灰黄色。石英・長石含む。未使用か。焼成土師質。	26
		r2174	SX-14					
		r2121	SD-2下層（CV11）					
20	R20040	r2174	SX-14	須恵質陶器	甕	胴部	外面格子目タタキ、内面指頭圧痕。内外面灰白色。石英・長石・赤色粒含む。	26
21	R20017	r2170	SX-14	須恵質陶器	擂鉢	口縁部	外面横ナデ、内面ナデ・擂目。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。	26
22	R20016	r2170	SX-14	陶器	甕	口縁部	外面横ナデ・指頭圧痕、内面横ナデ。外面灰黄褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・赤色粒やや含む。	26
23	R20047	r2175	SX-14	青磁	碗	口縁部	内外面磨滅により釉調灰色。磁胎灰色。	27
24	R20007	R9	SX-14	青磁	碗	口縁部	釉調灰オリーブ色。磁胎灰白色。	27
25	R20021	r2171	SX-14	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎白色に空隙ややあり。	27
26	R20046	r2175	SX-14	白磁	碗	体部	釉調灰白色。磁胎白色に空隙ややあり。	27
27	R20011	R12	SX-14	白磁	碗	底部	釉調灰白色。磁胎黄白色。	27
28	R20045	r2175	SX-14	陶器	椀	底部	釉調オリーブ色。胎土橙色。	27
29	R20044	r2175	SX-14	瓦	平瓦		凸面縄目タタキ、凹面布目痕。凹凸面灰白色。焼成須恵質。	27
30	R20035	r2173	SX-14	石器	磨石		表裏面が残存。下面は特に平滑。上面に赤色顔料の付着か。閃緑岩。	28
31	R20048	r2175	SX-14	石器	敲石		表裏面に若干の敲打痕。側面を中心に風化。礫岩。	28
32	R20032	r2173	SX-14	石器	敲石		片面中央部と先端に敲打痕顕著。砂岩。	28
33	R20033	r2173	SX-14	石器	台石		使用面1面残存、敲打痕・研磨顕著。礫岩の礫脱落塊を使用。	28
34	R20034	r2173	SX-14	石器	台石		上面・側面が残存。上面2箇所の窪み。粗い砂岩。	28
35	R20036	r2173	SX-14	石器	台石		表裏面・側面を研磨・敲打。砂岩。	28
36	R20049	r2175	SX-14	石器	台石		表裏面を研磨、一部敲打痕。先端部を中心に被熱黒変。砂岩。	28
37	R20050	r2175	SX-14	石器	硯		大半欠損。砥石への転用の可能性もあり。	27
38	R20051	r2175	SX-14	石器	磨製石庖丁未成品		杏仁形。穿孔貫通せず。片面に刃研ぎ。結晶片岩。	27
39	R20018	r2170	SX-14	石器	剝片		結晶片岩。	27
40	R20052	r2175	SX-14	石器	剝片		結晶片岩。	27
41	R20053	r2175	SX-14	石器	剝片		結晶片岩。	27
42	R20019	r2170	SX-14	石器	剝片		結晶片岩。	27
43	R20055	r2175	SX-14	鉄器	袋状鉄斧		袋部の折り返し一部残。小型。	33
44	R20057	r2175	SX-14	鉄滓			42.4g。他に20点弱あり（総重量183.3g）。	33
45	R20012	R14	SX-14	鉄滓			23.8g。他に1点あり（総重量25.7g）。	33
46	R20056	r2175	SX-14	鉄滓			33.0g。	33
47	R20022	r2171	SX-14	鉄滓			23.0g。他に1点あり（総重量27.3g）。	33
48	R20037	r2173	SX-14	鉄滓			22.3g。他に5点あり（総重量35.3g）。	33
49	R20026	r2171	SX-14	鉄滓			4.2g。	33
50	R20015	R16	SX-14	鉄滓			3.4g。	33
51	R20009	R10	SX-14	鉄滓			3.5g。	33
52	R20054	r2175	SX-14	青銅器	銭貨		寛永通宝。	33
図101　SX-15出土遺物実測図								
1	R20059	r2177	SX-15	白磁	碗	底部	内面薄い施釉、高台露胎。磁胎白色。	27
2	R20058	r2176	SX-15	鉄滓			砂粒を巻き込む。19.7g。	33
図106　SX-19出土遺物実測図								
1	R20065	r2182	SX-19	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文3条。外面縦ハケ目・横ナデ、内面ナデ。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	27
2	R20465	r2182	SX-19	土師器	坏	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石の微細粒含む。	27
3	R20066	r2182	SX-19	土師器	坏	口縁部	内外面摩滅。外面浅黄橙色、内面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	27
4	R20067	r2182	SX-19	土師器	坏	口縁部	外面摩滅、内面横ナデ。内外面灰白色。石英・長石の微細粒含む。	27
5	R20466	r2182	SX-19	土師器	椀	口縁部	内外面摩滅。内外面浅黄橙色。石英・長石含む。	27
6	R20061	r2181	SX-19	土師器	椀	全形	内外面摩滅。外面淡橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒含む。	27
		r2182	SX-19					
7	R20468	r2181	SX-19	瓦器	椀	口縁部	外面横ナデ、内面ミガキ。内外面黒灰色。精製土。	27
8	R20068	r2182	SX-19	瓦器	椀	口縁部	外面摩滅、内面ミガキ。外面灰色、内面灰白色。精製土にわずかに石英・長石含む。	27
9	R20467	r2181	SX-19	瓦器	椀	口縁部	内外面摩滅。外面灰色、内面にぶい橙色。精製土。	27
10	R20469	r2182	SX-19	瓦器	椀	底部	内外面磨滅。内外面灰黄色。精製土。焼成ややもろい。	27
11	R20060	r2181	SX-19	土師質土器	鍋	口縁部	口縁部内外面横ハケ目、体部外面縦ハケ目・ナデ・指頭圧痕、内面ナデ。外面褐灰色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・赤色粒含む。	27
12	R20062	r2181	SX-19	青磁	碗	底部	内面見込み草花文。釉調灰オリーブ色。磁胎灰白色。	27
13	R20063	r2181	SX-19	石器	台石		敲打痕あり。被熱赤変。砂岩。	27
14	R20064	r2181	SX-19	鉄滓			39.2g。	33
図109　古代以降の柱穴・小穴出土遺物実測図								
1	R20461	r2190	SP-130	土師器	坏	底部	外面摩滅、内面回転ナデ、底部回転糸切り痕・板目状圧痕。内外面灰白色。石英・長石・雲母の微細粒多く含む。	29
2	R20462	R24	SP-130	土師質土器	羽釜	上半部	口縁部内外面横ナデ、外面ナデ・横ハケ目、内面ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石やや含む。外面広範囲に煤付着。	29
		R110	SX-50					
		r3054	Ⅲ層（CU12-16）					
		r3073	Ⅲ層（CU13-21）					
		r3085	Ⅲ層（CU14-1）					
3	R20463	r2191	SP-134	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。外面灰黄褐色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒の微細粒含む。	29
4	R20464	R29	SP-134	土師器	小皿	全形	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒の微細粒含む。	29
		r2191	SP-134					
図110　灰黄褐色砂質土出土遺物実測図								
1	R10078	r1078	灰黄褐色土(CU13-24)	弥生土器	壺	上胴部	板状工具の小口による短斜線文。外面横ナデ、内面指頭圧痕。外面にぶい褐色、内面褐灰色。石英・長石・雲母多く含む。	29
2	R10075	r1071	灰黄褐色土（CT13）	弥生土器	高坏	坏部	口縁部凹線文1条か。内外面ナデ。内外面橙色。石英・長石・雲母の細粒多く含む。	29
3	R10076	r1073	灰黄褐色土(CT13-22)	土師器	坏	底部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・赤色粒の微細粒わずかに含む。	29

遺物番号			出土状況	遺物の内容			文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納番号
図	実測	取上	層位・遺構	種別	器種	部位		
4	R10077	r1076	灰黄褐色土（CT14）	土師器	坏	底部	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。内外面浅黄橙色。石英・長石含む。	29
5	R10094	r1071	灰黄褐色土（CT13）	石器	磨製石鏃未製品		両面・刃部研磨痕。1.8g。結晶片岩。	29
図111～113　攪乱層出土遺物実測図								
1	R10054	r1045	Ⅰ層（北西部）	弥生土器	壺	口縁部	口縁部凹線文3条。内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。	30
2	R10027	r1024	Ⅰ層（南東部）	弥生土器	壺	口縁部	凹線文4条。内外面横ナデ。外面橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母やや含む。	30
3	R10065	R3	Ⅰ層（旧SK-10）	弥生土器	壺	底部	内外面ナデ。外面灰白色、内面黒色。石英・長石・雲母やや含む。	30
4	R10001	r1001	Ⅰ層（北東部）	弥生土器	甕	口縁部	口縁端部指頭圧痕、外面斜ハケ目、内面横ハケ目。外面にぶい橙色、内面橙色。石英・長石・雲母含む。	30
5	R10079	r1081	出土地不明	弥生土器	甕	頸部	外面縦ハケ目・ナデ、内面横ハケ目。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	30
6	R10055	r1046	Ⅰ層（北西部）	弥生土器	甕	底部	外面ナデ、内面磨滅。内外面にぶい黄橙色。石英・長石多く含む。	30
7	R10032	r1026	Ⅰ層（南西部）	弥生土器	甕	底部	外面縦ハケ目・指頭圧痕、内面ナデ。内外面橙色。石英・長石の細粒含む。	30
8	R10006	r1014	Ⅰ層（南東部）	弥生土器	高坏	坏部	内外面磨滅。内外面橙色。石英・長石やや含む。	30
9	R10056	r1046	Ⅰ層（北西部）	弥生土器	高坏	脚端部	裾部凹線文5条。外面縦ミガキ、内面横ナデ。内外面にぶい赤褐色。石英・長石やや含む。	30
10	R10023	r1020	Ⅰ層（南東部）	弥生土器	高坏	脚部	外面磨滅、内面シボリ痕。外面浅黄橙色、内面灰白色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	30
11	R10043	r1028	Ⅰ層（南西部）	弥生土器	高坏	脚部	磨滅。橙色。石英・長石多く含む。	30
12	R10024	r1020	Ⅰ層（南東部）	弥生土器	支脚	把手部	ナデ。にぶい橙色。石英・長石の砂礫を多く含む。	30
13	R10028	r1025	Ⅰ層（南西部）	須恵器	坏蓋	天井部	外面回転ヘラケズリ・内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石わずかに含む。	30
14	R10063	r1056	Ⅰ層（北西部）	須恵器	坏身	上半部	外面回転ヘラケズリ・内外面回転ナデ。外面灰色、内面褐灰色。石英・長石・赤色粒含む。	30
15	R10060	r1050	Ⅰ層（北西部）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
16	R10062	r1052	Ⅰ層（北西部）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
17	R10057	r1046	Ⅰ層（北西部）	須恵器	坏身	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石の細粒含む。	30
18	R10074	r2161	Ⅰ層（旧SK-10東半）	須恵器	坏身	口縁部	内外面磨滅。内外面橙色、赤焼け。	30
19	R10034	r1027	Ⅰ層（南西部）	須恵器	平瓶	口縁部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
20	R10067	r2160	Ⅰ層（旧SK-10）	須恵器	提瓶	口縁部	内外面回転ナデ。内外面暗灰色。石英・長石わずかに含む。	30
21	R10059	r1048	Ⅰ層（北西部）	須恵器	壺	口縁部	内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
22	R10095	r1084	出土地不明	須恵器	短頸壺	上胴部	外面カキメ、内面回転ナデ。外面灰黄色、内面灰白色。石英・長石含む。	30
23	R10052	r1044	Ⅰ層（北西部）	須恵器	壺	体部	底部外面回転ヘラケズリ・内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石含む。	30
24	R10025	r1020	Ⅰ層（南東部）	須恵器	壺	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。石英・長石わずかに含む。	30
25	R10018	r1016	Ⅰ層（南東部）	土師器	坏	底部	内外面横ナデ、底部回転糸切り痕。外面にぶい黄橙色、内面橙色。石英・長石の微細粒含む。	30
26	R10007	r1014	Ⅰ層（南東部）	土師器	坏	底部	内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。	30
27	R10008	r1014	Ⅰ層（南東部）	瓦器	椀	底部	外面指頭圧痕、内面暗文風ミガキ。外面黄灰色、内面灰白色。精製土に石英・長石の微細粒わずかに含む。	30
28	R10009	r1015	Ⅰ層（南東部）	青磁	皿	口縁部	見込みに圏線。釉調灰オリーブ色。磁胎は灰白色。	30
29	R10072	r2160	Ⅰ層（旧SK-10）	青磁	碗	底部	釉調オリーブ灰色、高台内露胎。磁胎灰白色。	30
30	R10012	r1016	Ⅰ層（南東部）	青磁	碗	底部	釉調灰オリーブ色、やや斑ら、外面下部露胎。磁胎灰色、石英・長石の微細粒やや含む。	30
		r1042	Ⅰ層（南西部）					
		r1043	Ⅰ層（南西部）					
31	R10037	r1027	Ⅰ層（南西部）	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎白色。	30
32	R10015	r1016	Ⅰ層（南東部）	白磁	碗	口縁部	釉調灰白色。磁胎白色。	30
33	R10071	r2160	Ⅰ層（旧SK-10）	白磁	碗	底部	釉調灰白色、高台露胎。磁胎やや黄色がかった灰白色。	30
34	R10058	r1047	Ⅰ層（北西部）	須恵質陶器	鉢	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り痕。内外面灰白色。石英・長石・チャート含む。	30
35	R10031	r1026	Ⅰ層（南西部）	土師質土器	鍋	体部	突帯部横ナデ、外面指頭圧痕・ナデ、内面横ナデ・ミガキ。外面にぶい褐色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。外面煤付着。	30
36	R10033	r1027	Ⅰ層（南西部）	土師質土器	?	耳部	半環状の耳部。耳部指頭圧痕、外面ハケ目。内外面にぶい黄橙色。石英・長石の細粒含む。	30
37	R10017	r1016	Ⅰ層（南東部）	瓦質土器	壺	底部	内外面ナデ。外面灰色、内面灰白色。精製土に石英・長石の微細粒含む。やや軟質。	30
38	R10049	r1042	Ⅰ層（南西部）	瓦質土器	壺	底部	内外面ナデ。内外面灰色。石英・長石の細粒を多く含む。	30
39	R10036	r1027	Ⅰ層（南西部）	瓦	軒平瓦	瓦当部	唐草文。黒燻し。精製土に石英・長石の微細粒含む。	30
40	R10010	r1016	Ⅰ層（南東部）	石器	砥石		両面・側面使用。1面に線状の擦過痕あり。80.3g。砂岩。	31
41	R10085	r2161	Ⅰ層（旧SK-10東半）	石器	砥石		両面・1側面残。1面擦過痕溝状。8.1g。砂岩。	31
42	R10039	r1027	Ⅰ層（南西部）	石器	敲石		断面扁楕円形。端面に敲打痕顕著。199.8g。砂岩。	31
43	R10040	r1027	Ⅰ層（南西部）	石器	台石		上面研磨により平滑、側面研磨・敲打痕あり。砂岩。	31
44	R10084	r2160	Ⅰ層（旧SK-10）	石器	台石		平滑な1面あり。606.1g。花崗岩。	31
45	R10086	r2161	Ⅰ層（旧SK-10東半）	石器	台石		断面三角形状。1面凹状に研磨。845.4g。火山岩質。	31
46	R10045	r1028	Ⅰ層（南西部）	石器	台石		研磨面残。21.1g。閃緑岩か。	31
47	R10083	r2160	Ⅰ層（旧SK-10）	石器	台石		断面楕円形。敲打痕あり。580.4g。砂岩。	31
48	R10004	r1011	Ⅰ層（北東部）	石器	柱状片刃石斧		刃部・1側面残。16.5g。結晶片岩。	31
49	R10050	r1043	Ⅰ層（南西部）	石器	柱状片刃石斧未製品？		片面研磨痕あり。9.6g。結晶片岩。	31
50	R10061	r1050	Ⅰ層（北西部）	石器	打製石鏃		凸基式。1.8g。サヌカイト。	31
51	R10047	r1036	Ⅰ層（南西部）	青銅器	吊金具		栓抜きの柄部を折り曲げた形状。軍刀の吊り金具か。端部に鉄輪の一部付着。30.5g。	33
52	R10019	r1016	Ⅰ層（南東部）	青銅器	?		細い角状。2.6g。	33
53	R10064	r1061	Ⅰ層（北西部）	青銅器	薬莢		上部欠損。5.6g。	33
54	R10041	r1027	Ⅰ層（南西部）	青銅器	薬莢		上部欠損。7.0g。	33
55	R10046	r1036	Ⅰ層（南西部）	青銅器	銃弾		口径7mm。9.5g。	33
56	R10026	r1020	Ⅰ層（南東部）	青銅器	銭貨		元祐通宝。2.2g。	33
57	R10092	r1038	Ⅰ層（南西部）	鉄滓			椀状滓。一部湯道状部あり、2単位あり。455g。	33

Ⅲ　文京遺跡23次調査

1　調査・整理の体制と経過

（1）調査にいたる経緯

愛媛大学城北団地における相次ぐ新営建物の竣工に伴って、既設の電力供給施設では、大学への電力需要に十分対応しきれない状況となり、新たな電力引き込み線を確保することとなった。具体的には、城北団地南縁に沿って電柱を設置することになり、その工事に関しては、一般家庭等への電力供給と同様、電力需用者である愛媛大学ではなく、供給者である㈱四国電力負担の工事とすることが取り決められた。またこれによって、愛媛大学構内の電柱設置地点に関して、愛媛大学と㈱四国電力の間で、借地契約が取り交わされた。

一方、電柱設置地点の埋蔵文化財については、周辺の既往調査（調査番号：98401、99901、99709-７・８等）から、工事にあたって影響の及ぶことが予想でき、埋蔵文化財調査室では埋蔵文化財への十分な対応を求めた。しかし一方で、借地契約が結ばれたことによって、㈱四国電力を原因者とする発掘調査届の提出がなされたため、埋蔵文化財調査の具体的対応をめぐって、調整が難航した。そこで、㈱四国電力と愛媛大学（施設部・埋蔵文化財調査室）、そして松山市教育委員会による協議が行われた。その結果、松山市教育委員会立会のもと、実際の調査を愛媛大学埋蔵文化財調査室が行うこととし、調査終了後に概要報告書を松山市教育委員会へ提出することとした。　［吉田］

（2）調査の体制

文京遺跡23次調査に関わる2001年度の埋蔵文化財調査委員会および調査体制は、以下の通りである。

［埋蔵文化財調査委員会］

委員長　小松正幸（副学長）
委　員　藤川研策（法文学部長）
委　員　下條信行（法文学部教授）
委　員　松原弘宣（法文学部教授）
委　員　金藤泰伸（教育学部長）
委　員　川岡　勉（教育学部教授）
委　員　真鍋　敬（理学部長）
委　員　小西正光（医学部長）
委　員　清水　顕（工学部長）
委　員　白石雅也（農学部長）
委　員　塩谷幾雄（事務局長）
委　員　大和田和平（総務部長）
委　員　高橋伸一（経理部長）
委　員　土居昌弘（施設部長）

［埋蔵文化財調査室］

室　　長　下條信行
調 査 員　田崎博之（法文学部教授）
　　吉田　広（法文学部講師）
　　三吉秀充（法文学部助手）
専 門 員　松原弘宣
　　村上恭通（法文学部助教授）
　　川岡　勉
整理補助　宮崎直栄（施設部事務補佐員）

以上の体制のもと、施設部第二工営係監督により、実際の調査は吉田・三吉が担当した。また、発掘調査に関わる事務は、秦稔（施設部企画課長）、稲見俊光（施設部企画課総務係長）、横本順子（施設部事務補佐員）があたった。　［吉田］

（3）調査の経過

調査対象は、電柱および電柱支線埋設に伴う、各１㎡前後の12箇所である。６月26日に松山市教育委員会立会の下、文京遺跡23次調査として着手した。東側から順次重機により、城北団地の基本層序であるⅠ・Ⅱ層を除去し、Ⅲ層あるいは遺構埋土等を検出した以後、人力による調査・掘削に切り替えた。この遺跡存在の確認は松山市教育委員会とともに行い、以後の調査を埋蔵文化財調査室が行った。

12箇所の表土掘削をほぼ２日で終え、東から順次調査を行い、調査・記録の終了したトレンチから、工事用に明け渡しを行っていた。最終的に12箇所のトレンチ調査を終えたのは、７月９日である。　［吉田］

（4）整理作業の体制

文京遺跡23次調査の整理作業に関する、2002～2004年度の埋蔵文化財調査委員会・調査室の体制は、以下の通りである。

［埋蔵文化財調査委員会］

委員長　小松正幸（副学長・～2003. 2. 28）
　　小林展章（副学長・2003. 3. 16～2004. 3. 31）
　　（理事・2004. 4. 1～）
委　員　藤川研策（法文学部長・～2003. 3. 31）
　　今泉元司（法文学部長・2003. 4. 1～）
委　員　下條信行（法文学部教授）
委　員　松原弘宣（法文学部教授）
委　員　金藤泰伸（教育学部長・～2004. 3. 31）
　　渡邊弘純（教育学部長・2004. 4. 1～）
委　員　川岡　勉（教育学部教授）
委　員　柳澤康信（理学部長）
委　員　小西正光（医学部長）
委　員　鈴木幸一（工学部長）
委　員　白石雅也（農学部長）
委　員　塩谷幾雄（事務局長・～2003. 3. 31）
　　田村幸男（事務局長・2003. 4. 1～2004. 12. 31）
　　門山　勇（事務局長・2005. 1. 1～）
委　員　大和田和平（総務部長・～2004. 1. 31）
　　山田勝治（総務部長・2004. 2. 1～2004. 3. 31）
　　（経営企画部長・2004. 4. 1～）
委　員　高橋伸一（経理部長・～2003. 3. 31）
　　白石薫二（経理部長・2003. 4. 1～2004. 11. 15）
　　（財務部長・2004. 11. 16～）
委　員　土居昌弘（施設部長・～2004. 3. 31）
　　山地久司（施設部長・2004. 4. 1～2004. 11. 15）
　　（施設基盤部長・2004. 11. 16～）

［埋蔵文化財調査室］

室　　長　下條信行
調 査 員　田崎博之（法文学部教授）
　　吉田　広（法文学部講師・～2002. 9. 30）
　　（法文学部助教授・2002. 10. 1～）
　　三吉秀充（法文学部助手）
専 門 員　松原弘宣
　　村上恭通（法文学部助教授）
　　川岡　勉
整理補助　宮崎直栄（施設部教務補佐員）

以上の体制のもと、整理作業は吉田・三吉の指示により、接合・復元等の作業を、施設部技能補佐員の井出野文江・生鷹千代（～2002. 9. 30）・門田都・松本美和子・丸岡美智子・村上洋子（～2002. 11. 15）が行い、実測・製図等の作業を、施設部技術補佐員の山田誠司（2003年度・現四国中央市教育委員会）が行った。

整理作業に関わる事務は、秦稔（施設部企画課長・～2003. 3. 31）・堤達行（施設部企画課長・2003. 4. 1～）、稲見俊光（施設部企画課総務係長・～2003. 3. 31）・冨岡文夫（施設部企画課総務係長・2003. 4. 1～）、横本順子（施設部事務補佐員・～2004. 3. 30）・渡邉かおる（施設部事務補佐員・2004. 4. 1～）があたった。

［吉田］

（5）整理作業の経過

調査後の図面整理等は速やかに終え、10月16日付けで、発掘調査の概要報告を松山市教育委員会に提出した。出土遺物の整理作業は、2002年度に洗浄・注記・接合・復元を行い、2003年度には実測等の作業も終え、2003年度末刊行の『埋蔵文化財調査室年報－2001・2002年度－』では、出土遺物の詳細に触れないまま、概要の報告を行った。その後、2004年度に、遺物写真の撮影、報告書の執筆・編集を行った。　［吉田］

2　整理の方法

（1）遺構・遺物の登録

調査は東側から重機掘削を開始し、掘削順に東から1トレンチとし、12トレンチに及ぶ。検出した遺構は、調査の進行により、およそ東から番号を与え、1～17に及ぶ。この遺構番号に、その種別を表すSK：土壙、SR：流路、SP：柱穴・小穴、SX：土器溜・その他とする略号を冠した。

出土遺物については、調査時に原位置を記録したものについて、1～3までのRを冠した取上遺物番号を与えている。出土位置を記録していない遺物は、トレンチと土層単位、あるいは遺構単位での取り上げで、この単位である袋に対して、整理段階でｒを冠した、

10から61の２桁の取上遺物番号を与えている。

その上で接合・復元等の整理を行い、報告書に記載すべき実測可能な個体を選別する時点で、１個体（実測図単位）に対して、Ｆを冠した101から204にいたる３桁の実測遺物番号を与えた。　［吉田］

（２）遺物・記録類の保管

出土したすべての遺物については、文京遺跡23次調査を表すBNK-23と、トレンチ名、出土遺構、取上遺物番号（Ｒあるいはｒを冠した２桁までの番号）を注記して、遺物台帳に登録し、トレンチ・遺構等の単位毎に、コンテナに収納している。その中から、報告書に掲載すべき遺物を抽出し、先記した３桁の実測遺物番号を、別色で追加注記している。本報告の挿図番号との対応は、この実測遺物番号に拠っている。これらの遺物は１分の１の実測図を作図し、必要に応じて写真記録をとっている。また、報告書掲載遺物は、本報告挿図単位でコンテナに収納し、コンテナに番号を付して、遺物台帳に記録している。

発掘調査時の記録類には、トレンチ配置や遺構・土層の観察所見記録・実測図・写真がある。まず、トレンチ配置は、100分の１あるいは50分の１で平板測量により記録している。その上で、各トレンチ毎の詳細な遺構配置や土層を20分の１で作成している。これらの図面類については、１～21の通し番号を付し、遺構図台帳に登録している。

調査の際には、35㎜モノクロ・カラースライド、６×７モノクロ・カラースライドによる写真記録をとっている。こうした写真類については、カットごとに検索用のカードを作成し、写真登録番号を付して、台帳に記録している。カットは、00103-001～036に及ぶ。また各フィルムについてもそれぞれ番号を与え、35㎜モノクロに３桁＋２桁（001-01～）、35㎜カラースライドには３桁（001～）、６×７モノクロ・カラースライドには４桁（0001～）の通しの登録番号を付し、検索用カードと写真台帳に併記している。

以上の方法で記録類と遺物を整理・保管しているが、本書に掲載した遺物については、本文中の遺物観察表に実測遺物番号の項を設けて表記し、報告書から遺物の検索ができるようにしている。　［吉田］

3　調査の概要

調査地点　松山市文京町３番
　　愛媛大学城北団地（図３）
調査番号　00103
調査面積　7.25㎡
調査期間　2001年６月26日～７月９日
調査担当　吉田広・三吉秀充

表10　文京遺跡23次調査出土遺構一覧

トレンチ			遺構				備考
番号	面積(㎡)	所在区	種別	番号	切り合い関係	時期	
1	0.5	BX3					Ⅲ層は流水性の二次堆積か
2	0.2	BY3					Ⅲ層は流水性の二次堆積か
3	1	CF3	SR	1		古墳後期	
4	0.7	CO3	SX	3		弥生後期	流路内堆積か
			SX	4		弥生後期	流路内堆積か
5	0.6	CV・CW3	SP	2		弥生	
6	0.6	DE3・4	SK	6		古墳後期	
7	1.1	DM3・4	SR	5	Ⅲ層を切る	古墳後期	
			SP	7		弥生	
			SP	8	SP-11を切る	弥生後期	
			SP	9	SP-12を切る	弥生後期	
			SP	10	SP-11を切る	古墳後期	
			SP	11	SP-8・10に切られる	弥生中期	
			SP	12	SP-9に切られる	弥生後期	
8	0.4	DU4	SR	14		弥生後期	底面未掘
9	0.75	DZ・EA4	SX	16	SP-17を切る	弥生中期	土器焼成失敗品出土
			SP	17	SX-16に切られる	弥生中期	
10	0.4	EE4	SP	13		弥生	
11	0.6	EF4	SP	15		弥生	
12	0.4	EF5					攪乱層のみ

4　調査の記録

調査地点は、愛媛大学城北団地南側囲障に沿って設置される電柱９本分と、その東西両端の電柱支線埋設部３箇所の、都合12箇所に及ぶ。東側から着手し、順に１～12トレンチとした。　［吉田］

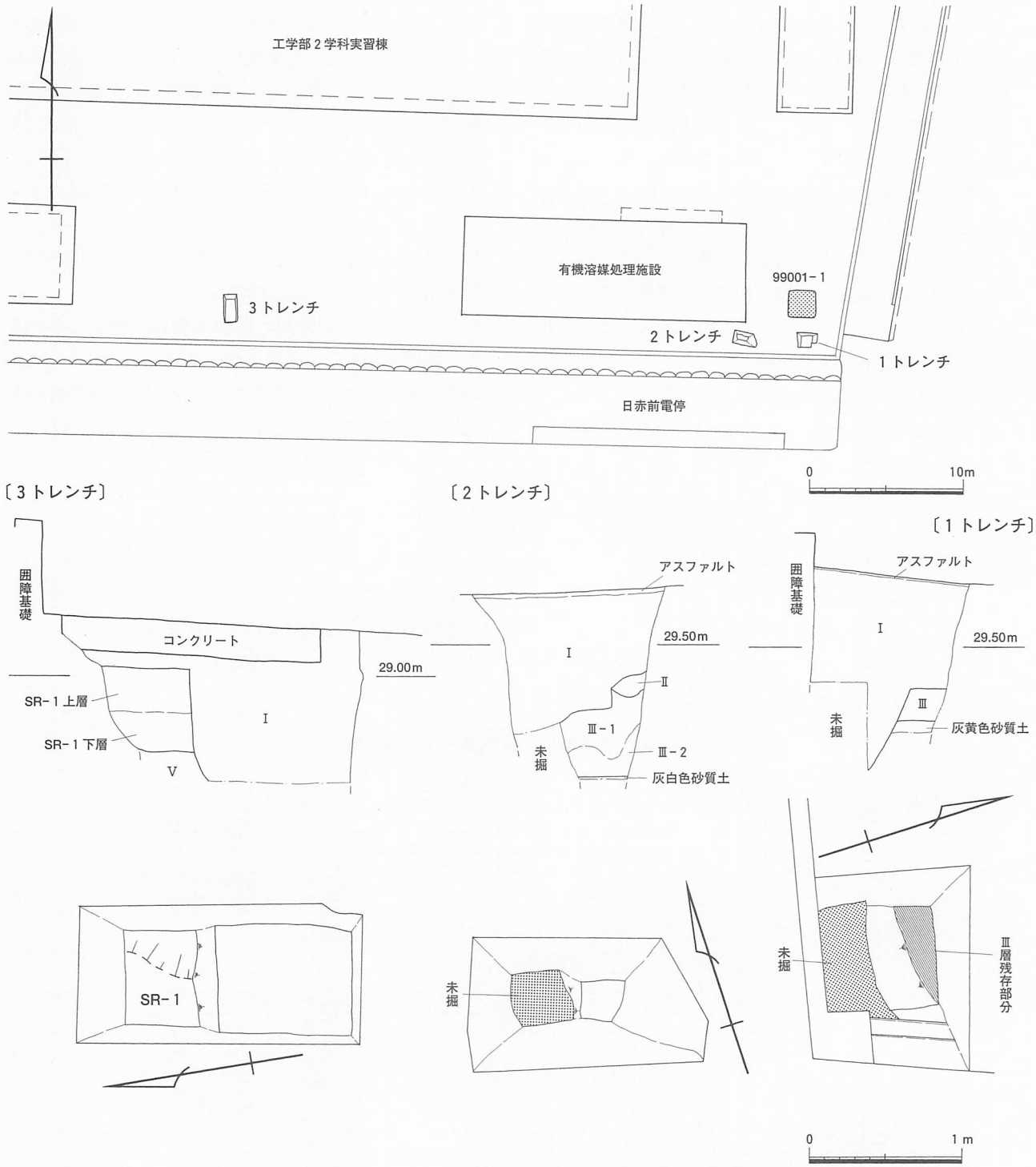


図121　１～３トレンチ位置図・実測図（縮尺１/400、１/40）

（1）1トレンチ（図121・122、図版37-1）

城北構内南東隅に接するように設置される電柱支線埋設に伴うトレンチで、電柱本体部分が2トレンチにあたる。トレンチは東西長約1.4m・南北幅約1m。北壁に沿った幅約20cmを除き、大半は攪乱を受けていた。

北壁際では、標高29.05～29.25mの間に城北団地基本層序Ⅲ層が存在する。このⅢ層は、にぶい黄褐色砂質土で、1mm前後の砂粒を含み、下部に鉄・マンガン分の沈着が認められる。弥生土器片が1点出土している。Ⅲ層の下は、拳大の円礫を多く含んだ灰黄色砂質土層が見られる。調査段階では城北団地基本層序Ⅴ層と理解したが、一帯のⅢ層自体が砂礫を多く含んだ流水性の二次堆積層とみられ、灰黄色砂質土も同様にⅣ層上に堆積する土層と考えられる。

出土土器は、Ⅲ層から弥生土器1点が出土したのみで、他にⅢ層出土の結晶片岩片が1点（1）ある。

［三吉・山田］

（2）2トレンチ（図121・122、図版37-2・40-1）

東端電柱設置に伴うトレンチで、1トレンチの西約3mに位置する。東西長約1.5m・南北幅約0.8mを測る。トレンチ西側は大型の瓦礫が存在するため、調査は東側部分のみとなった。地表下60～90cmまでバラス層および瓦礫層が続く。東側の一部で、にぶい黄色砂質土を主体とする城北団地基本層序のⅡ層を確認した。

その下、標高29.25mからⅢ層があらわれ、約60cm堆積する。ただし、北壁清掃時に辛うじて確認できたことから、調査区南側の大半は攪乱である。Ⅲ層は2分でき、Ⅲ-1層は、にぶい黄褐色砂質土で、1mm前後の白色砂粒を多量に含み、親指先大の円礫も認められる。一部鉄・マンガン分の沈着により、明黄褐色を呈する。Ⅲ-2層は、Ⅲ-1層とほぼ同様な色調ながら砂質が強く、親指先大の円礫を少量含むのみで、砂礫はほとんど含まない。流路内堆積の可能性が考えられる。Ⅲ-2層下には、灰白色砂質土が続くが、やはり流路内堆積層の可能性が考えられる。

出土遺物は、攪乱層から弥生土器2点と瓦、Ⅲ層から弥生土器片数点が出土したのみ。2はⅢ層出土の弥生土器の壺。外面に2条の突帯を貼り付け、刻みを施す。前期後葉。3は攪乱層出土の丸瓦。凸面ミガキ・銀白色の燻しで、凹面はコビキ痕と布目を明瞭に残す。近世瓦である。

［三吉・山田］

（3）3トレンチ（図121・122、図版37-3・40-2）

東から2本目の電柱に伴うトレンチで、工学部材料工学研究室の土砂置き場のコンクリート土間を切って設定した。北側に支線を同時に埋設するため、南北約1.9m・東西約0.9mの長方形を呈する。北側約1mは、地下タンクに伴うとみられる攪乱を被っている。

対して南側約50cmは、コンクリート土間下の砕石層下、標高29.55mで攪乱を被らない土層があらわれる。褐灰色砂質土で、にぶい黄褐色砂質土をラミナ状に含み、5mm大までの砂礫を多く含む。砂礫の多い土層とにぶい黄褐色砂質土の多い土層がラミナ状に互層をなす。わずかに拳大の石を含み、土器片を多く含む。下には黒色粘質土が続き、1mm大までの砂粒を多く混じえ、拳大の石も多く含む。また粘性が強く、遺物は少ない。一連の流路内堆積SR-1とし、砂質土を上層、粘質土を下層とした。SR-1底面はやや凹凸があり、以下に、にぶい黄褐色粘質土を混じえ、しまりの強い、拳大からやや大きめの塊石層が続く。城北団地基本層序のⅤ層にあたる。

3トレンチではSR-1から細片ながら、数10点程度の土器が出土した。ほとんどが弥生土器ないしは土師器の細片であるが、SR-1下層に内面に青海波文をもつ須恵器甕胴部片が見られ、SR-1の埋没は古墳時代以降に降る。図化できた遺物は2点。いずれもSR-1上層出土の弥生土器。4はやや凸気味の小さな底部で、後期の壺と見られる。5は5条の凹線文を施す高坏口縁部。中期後葉。

［吉田・山田］

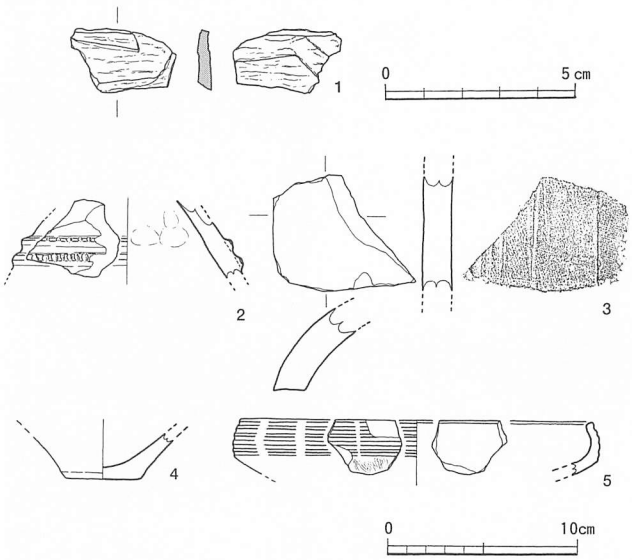


図122　1～3トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

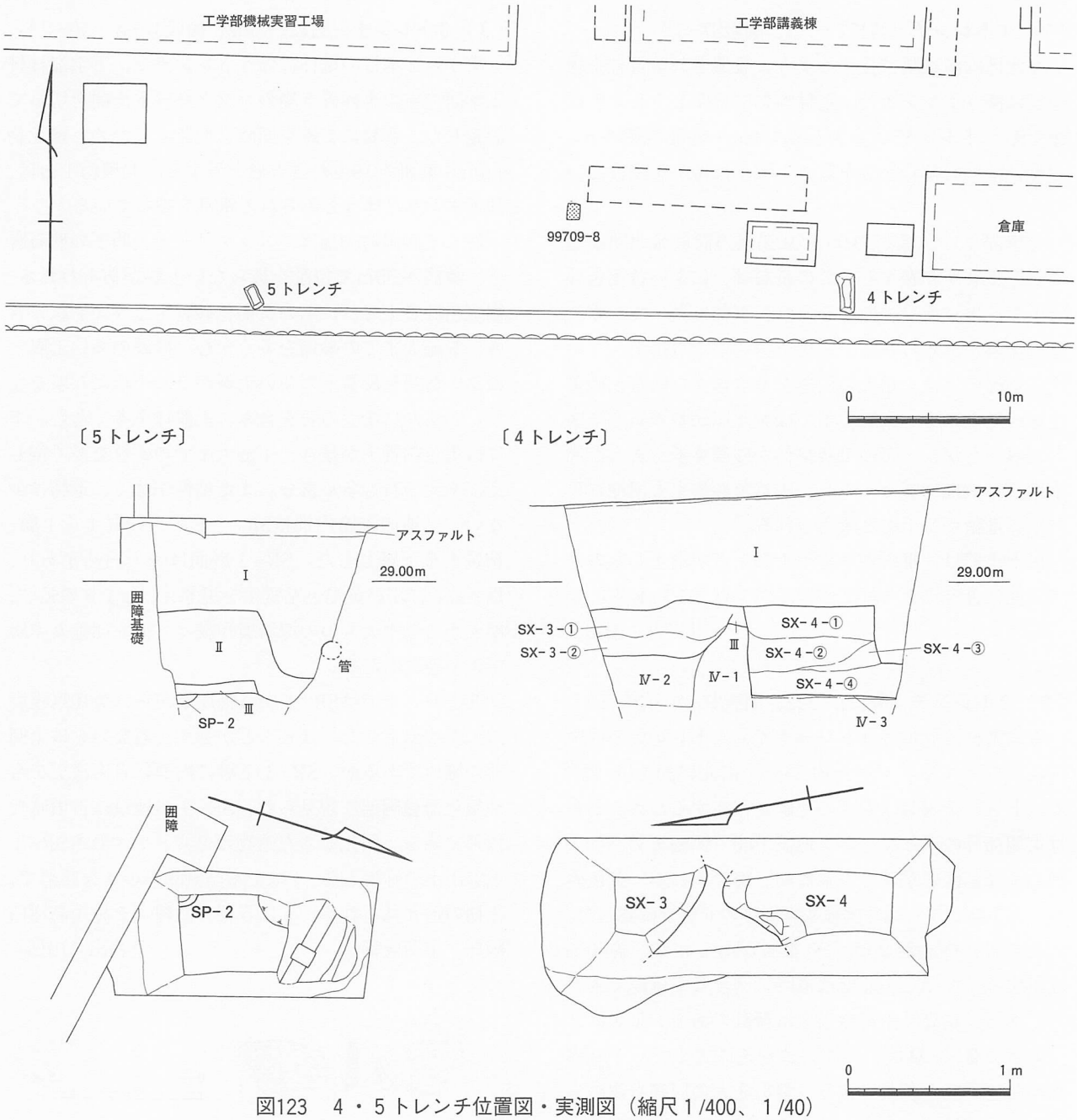


図123　4・5トレンチ位置図・実測図（縮尺1/400、1/40）

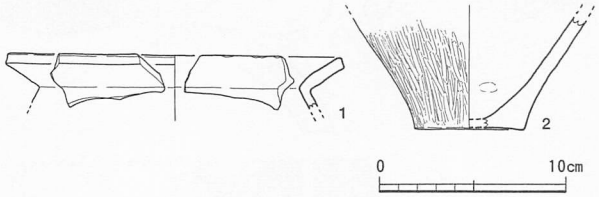


図124　4トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4）

（4）4トレンチ（図123・124、図版37-4・40-3）

東から3本目の電柱に伴うトレンチで工学部講義棟南に位置する。南北長約2.5m・東西幅約0.9mを測る。現地表下約60cmまでⅠ層が続く。

Ⅱ層は認められず、Ⅰ層直下の標高28.90m付近で、遺物包含層であるⅢ層となり、Ⅲ層を掘り下げる過程で、SX-3とSX-4を確認した。当初竪穴式住居を想定していたが、遺構埋土上層は黒褐色系砂質土を主体とし、下層については砂質が強く灰色系の砂質土を主体とし、少量ながら土器を包含する。竪穴式住居など

の埋土とするには不自然さが残り、流路の可能性を高く考えておきたい。なお、Ⅲ層およびSX-３・４から弥生土器片が、散発的な出土状況ではあるが、多数出土している。

SX-３埋土は２分できる。①層は、にぶい黄褐色砂質シルトを主体としながら、明黄褐色砂質土の不定形ブロックと、１㎜前後の白色砂粒を含む。②層は灰黄褐色砂質土で、にぶい黄褐色砂質シルトのブロックを少量含み、２～３㎜の砂礫を多く含む。

SX-４埋土は４層に分けることができる。①層は、にぶい黄褐色砂質シルトで、明黄褐色砂質土の不定形ブロックを少量含み、砂礫はあまり含まない。②層は、①層と同様の土質ながら、明黄褐色砂質土のブロックの割合が高く、さらに１㎜前後の砂粒を多く含む。③層は、にぶい黄褐色砂質土で、にぶい黄橙色砂質土の不定形ブロックを含む。④層は、にぶい黄橙色砂質土中ににぶい黄褐色砂質シルトのブロックを斑状に含む。

Ⅲ層および遺構直下はⅣ層となるが、検出地点でその特徴が大きく異なる。Ⅳ-１層は明黄褐色砂質土。Ⅳ-２層は灰白色砂礫土からなり、きめが粗い。Ⅳ-３層は、灰白色砂質土。ただし、Ⅳ-１層とⅣ-３層との層界はSX-４のたちあがりに続くことも考えられ、Ⅳ-３層がSX-４埋土の可能性も否定できない。さらには、この地点のⅣ層自体が、流路内の再堆積層である可能性もある。

４トレンチでは、50点程度の細片がⅢ層から出土しているが、SX-３・４からの出土は少なく、また細片がほとんどである。その中から２点が図化できた。１はSX-３出土の甕口縁部。「く」の字状に頸部は強く屈曲し、口縁はやや長い。内外面とも横ナデ調整。後期か。２はⅢ層出土の甕底部。外面に縦方向のミガキが残る。中期中葉から後葉。図化できなかったが、Ⅲ層出土遺物中に後期の複合口縁壺や甕の破片が認められ、１とともに、SX-３・４の時期を弥生後期に求められる可能性が高い。　［三吉・山田］

（５）５トレンチ（図123、図版37-５）

工学部機械実習工場南側に位置する電柱埋設用のトレンチである。重機掘削の都合上、南東－北西方向に斜交し、長さ約1.4ｍ・幅約0.8ｍを測る。北側は、ガス管埋設に伴う攪乱が標高28.40ｍまで及ぶ。ガス管をそのままに、トレンチ内の南半についてのみ掘り下げを行った。

結果、標高28.80ｍまで表土層が続き、以下Ⅱ層が約50㎝の厚さで堆積する。この下に厚さ10㎝弱のⅢ層が薄く存在し、28.28ｍ以下はⅣ層となる。この地点のⅢ層は暗褐色砂質土で、１㎝大までの明黄褐色土粒や黒褐色砂質土粒を斑状に混在させ、１㎜前後の砂粒をやや含む。安定した包含層とは言えず、漸移層あるいは遺構内埋土かと推測される。トレンチ底南隅のⅣ層上面では、柱穴SP-２の一端を確認している。深さ10㎝弱で、埋土は暗褐色砂質土。Ⅲ層に比べて砂粒の混じりが少なく、やや粘性に富む。遺物は、弥生土器細片が１点出土したのみ。また、これ以外に５トレンチ出土遺物はない。　［三吉］

（６）６トレンチ（図125・126、図版37-６・40-４～６）

工学部機械実習工場南西に設置したトレンチである。南北長約1.9ｍ・東西幅約0.9ｍ。トレンチ内南側には東西方向に延びる井水管に伴う掘削が現地表下約110㎝まで続く。調査は攪乱の及んでいない北側部分について行うこととした。

北側では、標高28.20ｍ以下をⅢ層として掘り下げたが、後の土層精査により、遺構埋土である可能性が高く、SK-６とした。埋土は３分できる。①層は暗褐色砂質土で、１㎜前後の白色砂粒を含み、しまりもある。②層は暗褐色砂質土で、土質は①層と同様ながら、１㎜前後の砂粒をごく少量しか含まない。③層は暗褐色砂質土で、親指～小指先大の円礫を含み、１㎜前後の砂粒は含むが、①層より圧倒的に少なく、しまりもない。

出土遺物には、比較的多くの弥生土器があり、後期や前期末の土器も見られる。また、一部攪乱も含んだ取り上げとなったため、古墳時代の須恵器もあり、当初から攪乱として取り上げた遺物中には、古墳時代の須恵器、練兵場時代の青銅製薬莢等がある。

１～５はSK-６に帰属する。１～３は弥生土器。１は壺胴部で、頸胴部文様帯最下段の刺突文１列と、胴部最大径付近文様帯の刺突文１列と２条のヘラ描沈線が確認できる。前期後葉。２は壺底部で、底径が小さい。３は甕口縁部。端部を横ナデにより下方につまみ出す。外面調整は口縁端部から頸部に横ナデ、胴部は縦方向のハケ目を、内面調整は頸部にハケ目、胴部に指頭圧痕が残っている。時期は後期中葉。４は須恵器甕胴部。５は最大厚４㎜の粘板岩剥片。

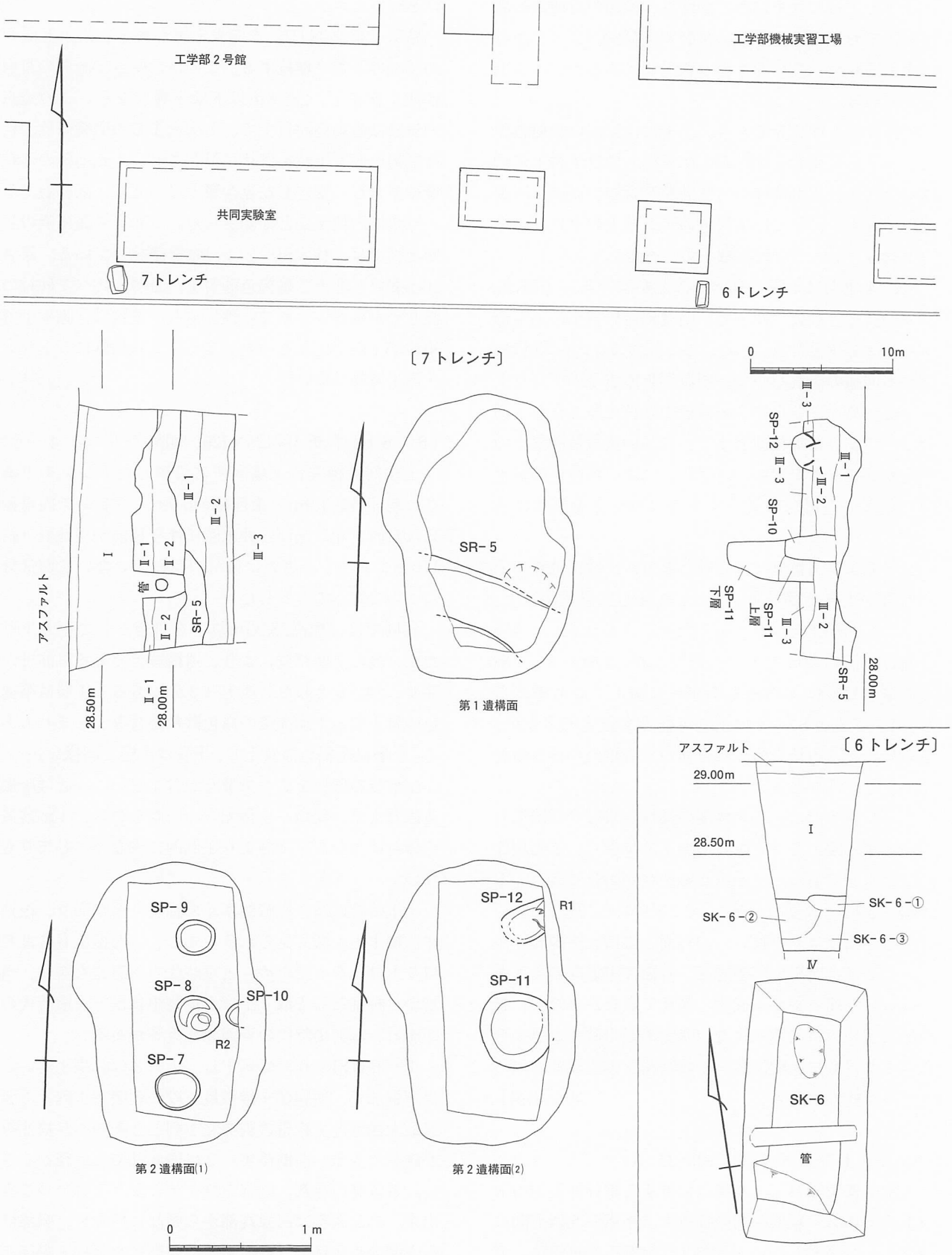


図125　６・７トレンチ位置図・実測図（縮尺１/400、１/40）

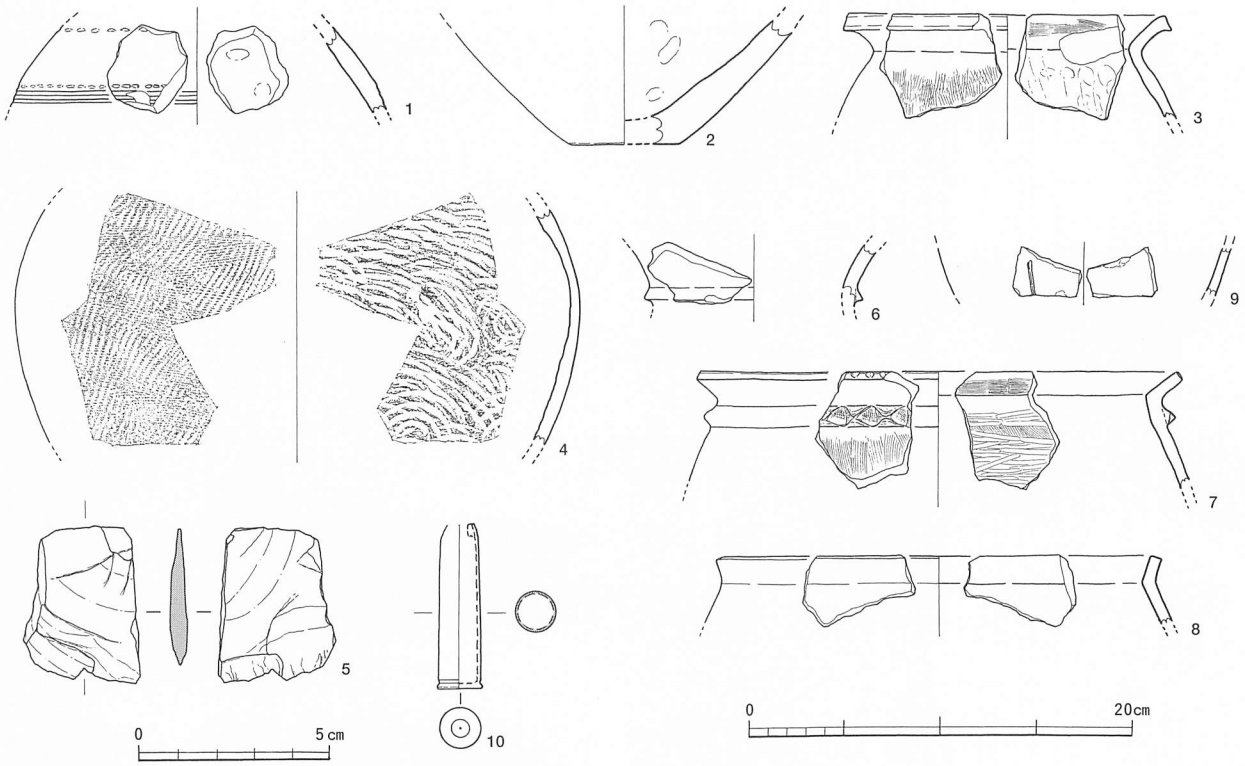


図126　6トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

6～10は攪乱層出土。6～8は弥生土器。6は壺頸部。断面三角形の突帯を貼り付け、外面は横ナデ等で丁寧に仕上げられている。前期後葉。7は甕の口縁部。端部を刻み、頸部直下に断面三角形の突帯を貼り付け、押圧を施す。凹部には布目痕が明瞭に残る。中期中葉。8は鉢の口縁部か、頸部の屈曲は弱い。後期前葉。9は須恵器壺胴部。外面にはヘラ記号が刻まれている。10は青銅製薬夾。内容物が残存か。　［三吉・山田］

（7）7トレンチ（図125・127、図版38-1～4・40-7～9）

工学部2号館の南、共同実験室の南西隅南に位置するトレンチである。やや不整形ながら南北約2m・東西約1.2mを測る。アスファルト下は、それに伴う砕石層に続いて、整然と並べられたように埋め戻されたコンクリートブロックが2段3段と重なる。おそらくかつての城北団地南側囲障であったコンクリートブロック塀を解体埋め戻したものと推定される。このコンクリートブロック埋設に先行して、井水管が標高約28.10mの位置に埋設されており、調査はこの管を活かしたまま行った。コンクリートブロック下はⅡ層であり、このⅡ層は2分できる。耕作土にあたるⅡ-1層とした暗灰黄色砂質土は、1～3㎜大の砂礫を混じえ、粘性がややある。対してⅡ-2層はオリーブ褐色砂質土で、1～3㎜大の砂礫をやや多く混じえ、鉄分の沈着が認められ、しまりがある。上層耕作土の床土部分にあたる。

標高27.95m前後からは遺物包含層があらわれ、Ⅲ層上面でSR-5を、Ⅲ層掘削後のⅣ層上面で、SP-7～12の遺構を検出した。Ⅲ層は断面精査により、およそ3層に分けることができる。Ⅲ-1層は暗褐色砂質土で、1～3㎜大の、ときには5㎜前後の砂礫を多く混じえ、炭化物粒も含み、しまりがある。古墳時代の包含層ないしは遺構埋土とみられる。この土層に類する遺構埋土をもつのがSP-10である。対してⅢ-2層は、同じ暗褐色砂質土ながら、砂粒をほとんど含まない均質な砂質土で、わずかにⅣ層の微細ブロックを含み、粘性がむしろある。弥生時代の包含層ないしは遺構埋土とみられ、SP-10以外の柱穴埋土がこれに類似する。Ⅲ-3層はにぶい黄褐色の、砂粒をほとんど含まない均質な砂質土で、Ⅳ層の1～2㎝大ブロックを多く斑状に含む。Ⅲ-Ⅳ層の漸移層とみられる。

SP-7は、径約30㎝で深さ7㎝弱の柱穴。埋土は暗褐色の均質な砂質土で、1㎝大のⅣ層ブロックを少量含む。出土遺物はない。

SP-8は、径約30㎝の2段掘の柱穴で、深さ50㎝を

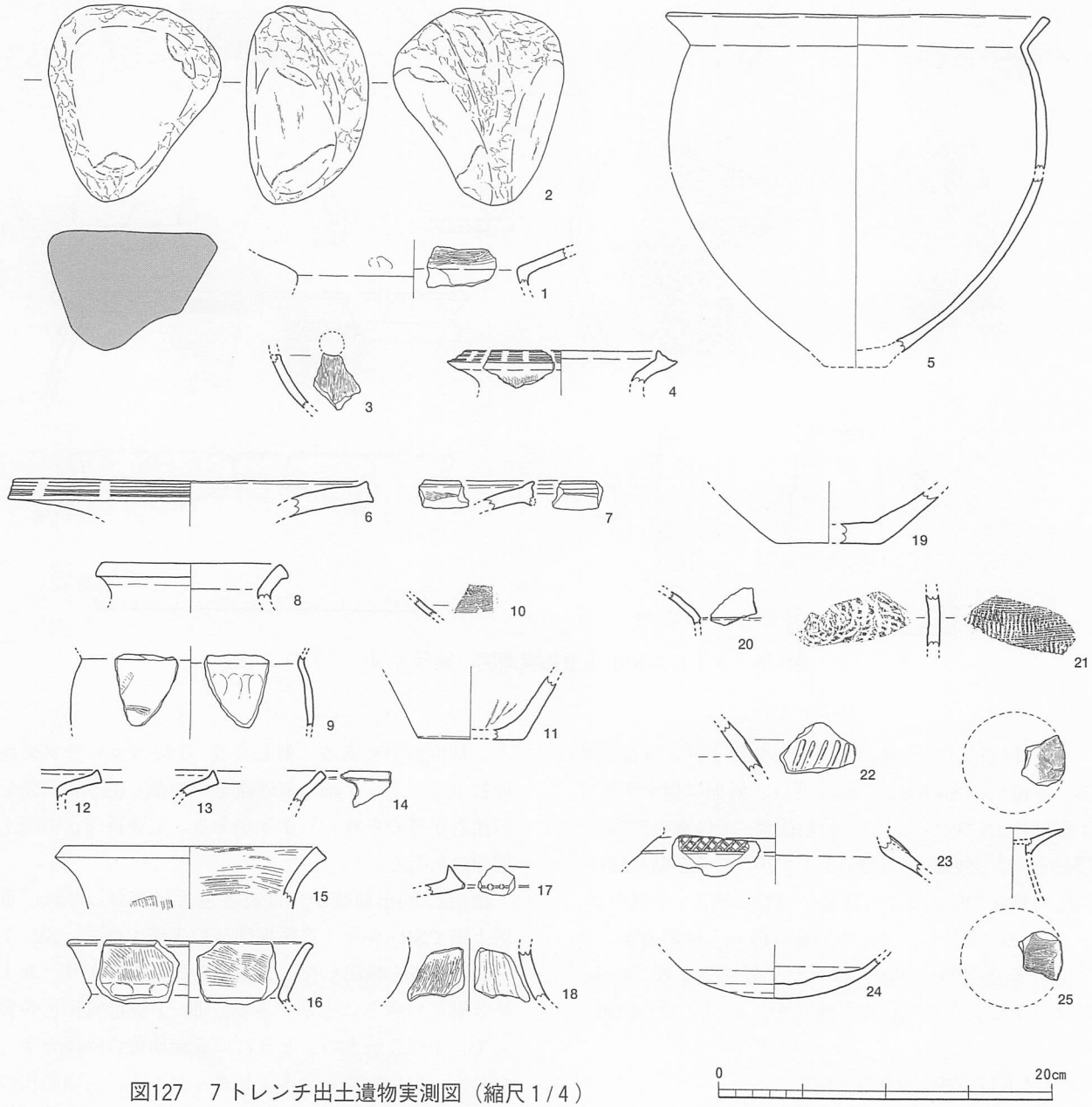


図127　7トレンチ出土遺物実測図（縮尺1/4）

超える。埋土は暗褐色の均質な砂質土で、ほとんど砂粒を含まない。微細な炭化物粒をわずかに含み、粘性がややある。2段掘りの下段から、磨石（2・R2）が出土している他は、弥生土器が2点出土している。1は弥生土器甕頸部。若干残存する胴部からの屈曲は強く、口縁部が大きく開く。後期後葉。2はいびつな三角形の磨石で、3面を用いている。花崗岩製。

SP-9は、暗褐色の均質な砂質土を埋土とし、わずかにⅣ層の微細ブロックをラミナ状に含み、部分的に1㎜前後の砂粒を混じえる。弥生土器ないしは土師器の細片1点が出土している。

SP-10は、調査区東壁際で半分のみ検出できた柱穴で、径20㎝弱・深さ約35㎝を測る。Ⅲ-1層下面からの掘り込みが確認でき、検出遺構の中では層序的に最も新しい。出土遺物からは1点を図化できた。3は、弥生土器高坏あるいは台付鉢の脚部。外面丁寧なミガキで、円孔の一端が残る。後期後葉。

SP-11は、SP-8に切られた柱穴で、径約50㎝、深さ約60㎝、底はⅣ層下のⅤ層上面に達する。埋土は2分でき、上層は暗褐色の均質な砂質土で、やや粘性の高いⅢ層ブロックを多く含み、2㎝大のⅣ層ブロックを少量混じえる。下層は褐色砂質土で、大半を占める